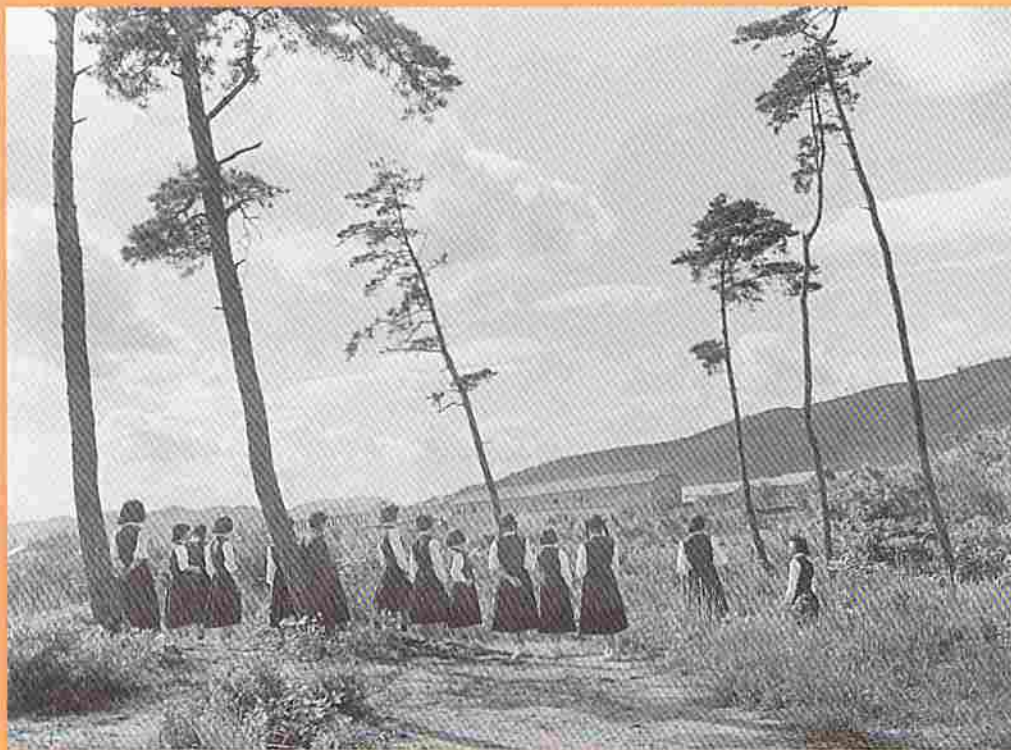


創立60周年記念誌



池田

大阪府立池田高等学校

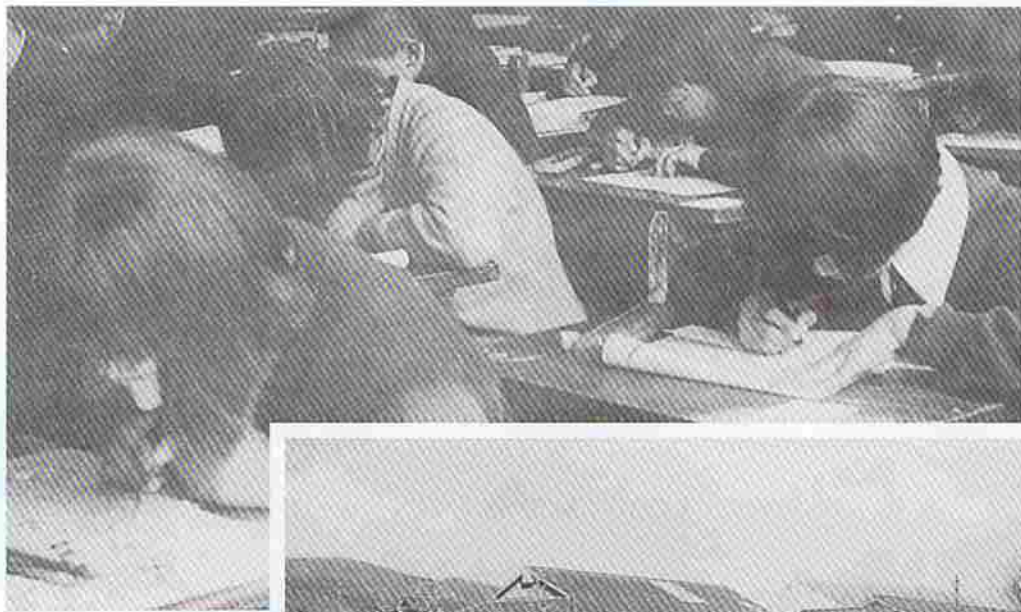


1958年卒業アルバムより  
当時の本校生に人気があった場所(瀬川神社付近)から本校を望む

1957年

思い出の受験風景と

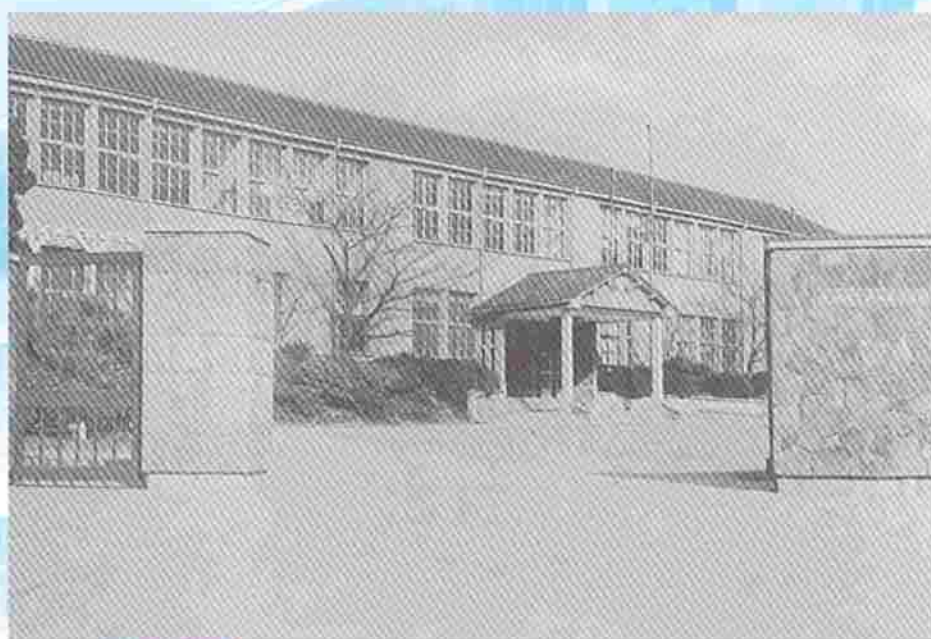
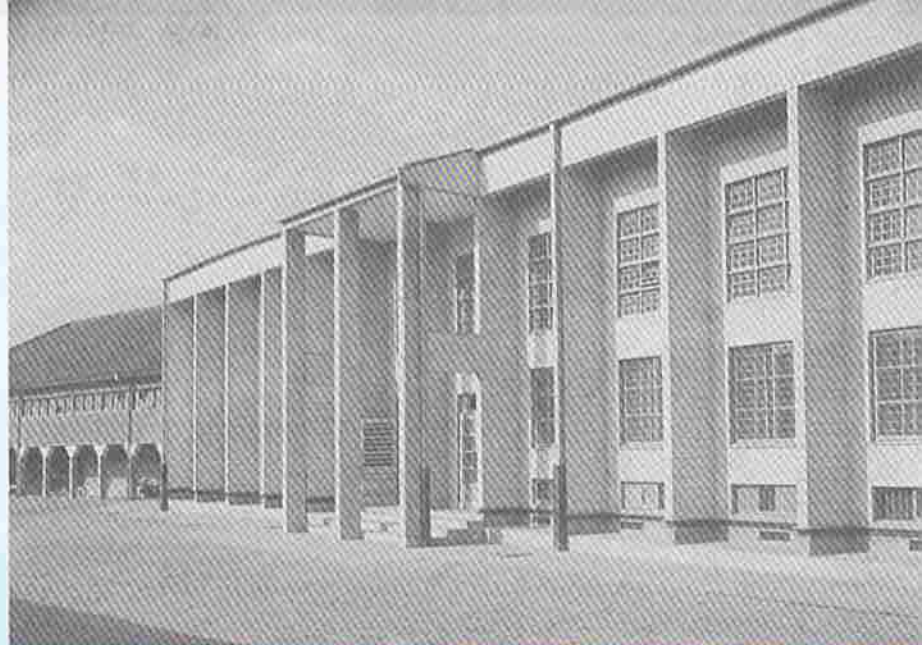
整備中の村山コート(もと田畑)



1957年 通学風景

(中央の写真は石橋駅前)

1961年 体育館



1963年 校門と校舎



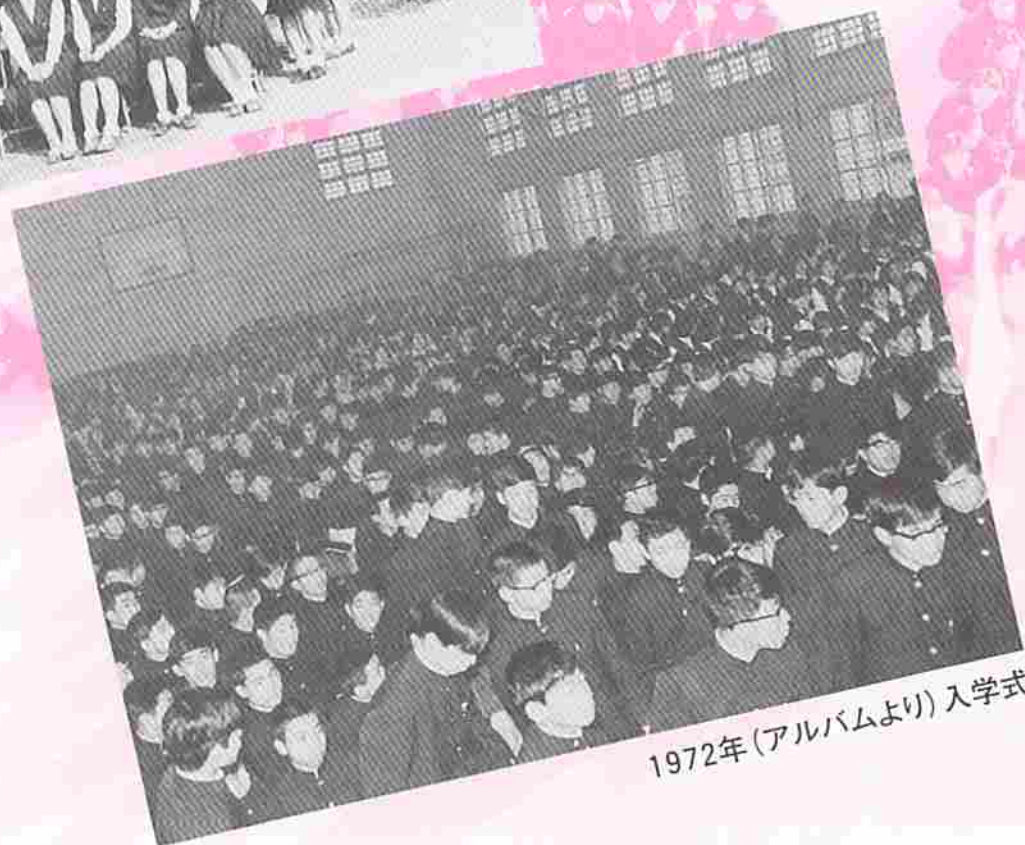
1966年 (左はテニスコート、承風会館)



1969年 思い出の校舎



1971年



1972年(アルバムより)入学式



食堂から体育館(上)

1975年 風景

玄関前桜(左)



1982年 文化祭

授業風景



1991年

この十年の  
卒業アルバムから  
(年は卒業年)



文化祭

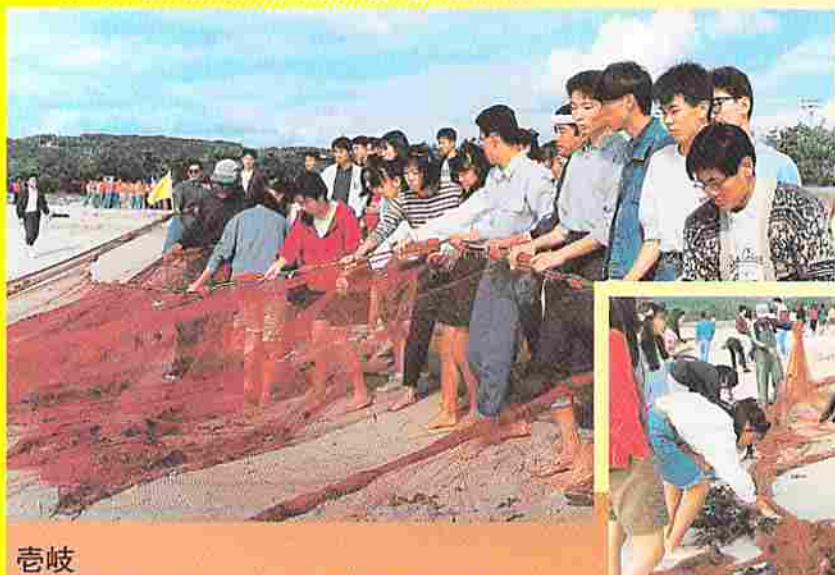


体育祭

大阪府立池田高等学校  
第三十七期生卒業記念



蔵王



壱岐

1992年

1993年



上 文化祭  
下 遠足(飛鳥)

1994年

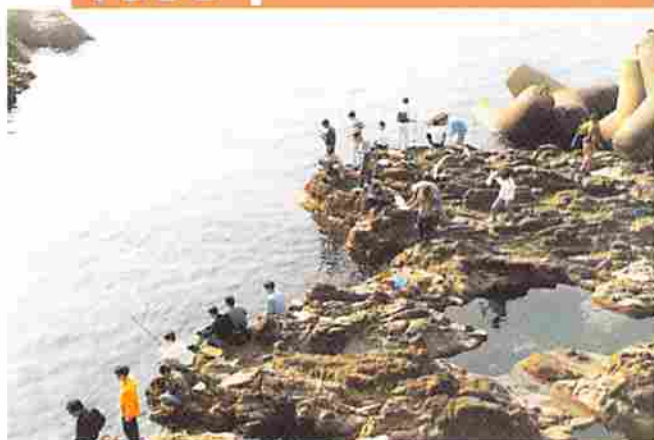


南九州  
—志布志港—



高知 上 桂浜  
左 足摺岬近辺

1995年





1997年

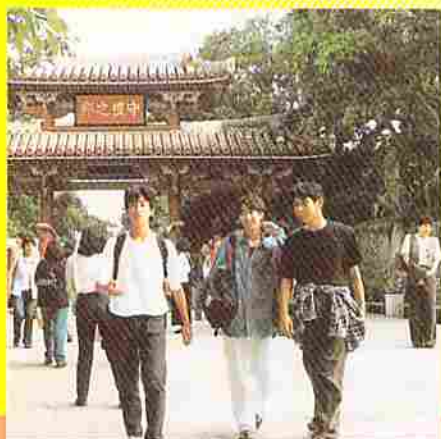


蔵王

1996年



南九州 上 高千穂牧場  
下 宮崎シーガイア



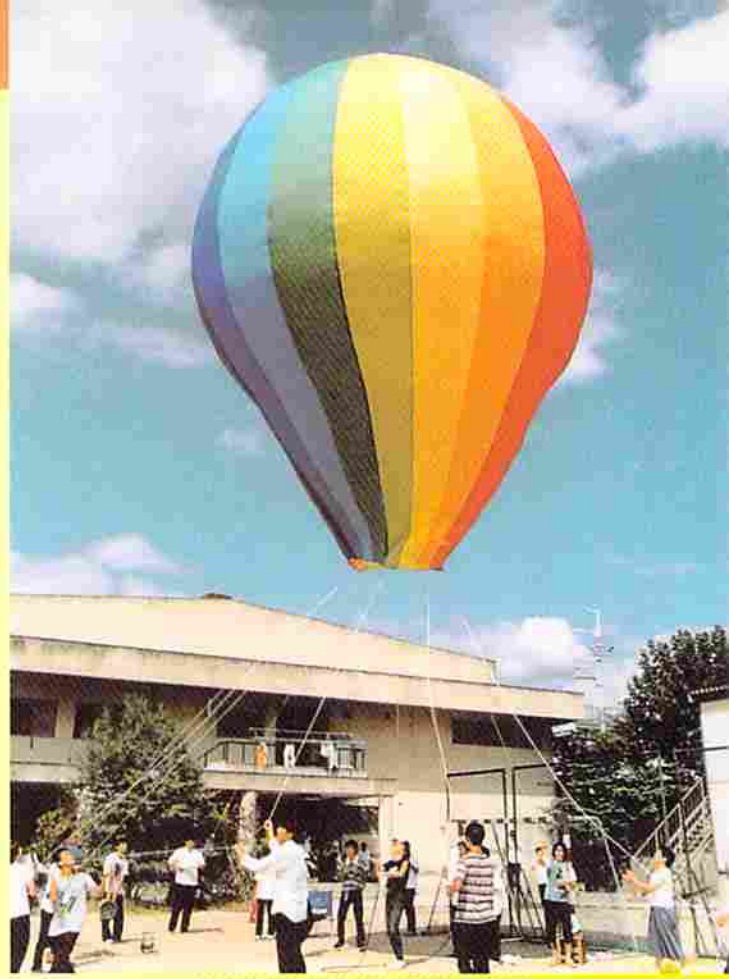
1998年



沖縄  
左上 首里城  
左下 みゆきビーチ  
シュノーケリング

1999年

文化祭



2000年



上 スキューバダイビング 沖縄  
中 文化祭(中夜祭)  
下 池高道



創立60周年記念品  
「2001年 こころ ふれあい Calendar」



校長  
清水秀司

## 創立60周年を迎えて

本校は、昭和15年に府立第16中学校として設立され、平成12年ここに創立60周年を迎えました。誠に喜ばしいことであります。

開校したときは戦時下であり、物資が窮乏していたにもかかわらず、学内には活気がみなぎっていたということでもあります。翌年に現在地に移転しますが、ただちにこの地を「承風台」と命名するとともに、石橋駅前から校門までの道を「池高通り」と名づけたのであります。「承風」という言葉は、先人の遺風を継承して時代に流されないという、孔子の言葉からとられたものであり本校同窓会の名称となっております。この気風は、現在も受け継がれ、本校の古き良き伝統として残っております。

また、昭和23年の学制改革により男女共学となり、府立池田高等学校となりますが、自主・自律の校風が新たに培われていきました。そして、2万5千人の卒業生は、社会に貢献し各界・各方面で活躍されるとともに、常に暖かく母校を支援してくださり、現在の池田高等学校を築いてきたのであります。

折りしも本年は西暦2000年にあたり、20世紀と21世紀を橋渡しする年であります。21世紀は、国際化・情報化が一層進展するとともに、地球規模での環境問題や国内における高齢化社会の問題などに対応するため、人間の基本的な資質として豊かな心や人権感覚を持つことが求められています。また、社会の変化に主体的に対応できる「生きる力」をはぐくむ教育が求められています。

この創立60周年を節目として、これまで培ってきたものを土台に、新たな池田高等学校の校風を創造するきっかけにしたいものであります。

この慶賀を、在校生・承風会・P T A・教職員の皆様のご協力・ご尽力によりましてお祝いできましたことに感謝申し上げます。また、大阪府教育委員会をはじめ、本校を60年の永きに亘ってご支援いただきました多くの皆様方に心より感謝し、御礼申し上げます。

## 「千載一遇」のこの年に記念行事への思い

池高創立60周年の記念すべき年が、西暦2000年に当たったことは、まさに「千載一遇」の幸運と言えましょう。

この記念すべき時だからこそ、変化する時代のニーズをしっかりと踏まえた意義ある企画を世に問いたい、そして関係の皆さんがごぞってこれに賛同・参画し、後世にまで池高に対する誇りと記念の思い出を持ってもらいたい——実行委員はじめ多くの皆様と企画検討を進めるにあたり、こんな思いからまず記念行事の意味を確認し、これを広く訴えることに力点を置きたいと考えました。

まず、我々が踏まえるべき時代のニーズとは一体何なのでしょう？ 記念行事の母体である学校の役割は教育であり、その基本は「コミュニケーション」ではないのでしょうか。我われも3年間の授業や、クラブ、自治会、交友など高校生活での先生や生徒同士の豊かなコミュニケーションを通して、社会人として必須の基礎資質を培ってきました。

近年、コミュニケーションの欠落やずれ違いが原因で、大きな社会問題が頻発しています。日進月歩が進むIT(情報通信技術)革命の中、若者のコミュニケーションは、“携帯”やEメールのように、心が見えにくく、断片的、表面的なものが普遍化していると言われます。ITによる社会システムがいくら進歩しても、心と五感をフルに使ってのコミュニケーションは、人間の社会性と、社会自体の熟成発達を図る基本ではないのでしょうか。

このような時代認識でコミュニケーションの重要性を考え、これを現在の池高内はもとより、池高社会の過去・将来、さらに周辺の社会にまで深め広げていく一助にしたい、そんな思いで「コミュニケーション」を記念行事の基本コンセプトにしたいと考えました。

生徒は先生と共に人生や世界を語り、保護者やOBも社会や承風精神を論じ合い、そうした横と縦のコミュニケーションの交わり合いが互いの成長に刺激を与え、21世紀の新しい池高創造への機運にもつながれば幸いです。

企画した記念式典、祝賀会、記念誌、支援人材バンク、タイムカプセルなど、一つ一つには、こんな強い思いが含まれているのです。

記念品の「2001年こころふれあいCalendar」は、障害者の方々や地域社会との「共生」を考える第一歩となるものです。壁に貼るだけでなく、作品を提供してくれた人に思いを致し、個々にコミュニケーションを図っていただくことも期待しています。これまで60年間社会に支えられて発展してきた池高が、今後は支え合う社会の一員としての役割も果たしていきたいという新しい考え方の試みです。

記念事業の一つ、食堂前テラスの整備は、自然の「環境」を生かし、その息吹の中で共に語らう事を通して、先に強調した、より豊かな学園生活のためのコミュニケーションプラザとなることを意図しています。

このような「コミュニケーション」「共生」「環境」という時代ニーズを踏まえた60周年の記念行事が、その意義を確かに果たしつつ、20世紀の池高から21世紀の社会に向けて、我われの意図を広げていくきっかけになってくれれば、まことに嬉しい事です。

最後に、池高60周年を祝い、本行事にご賛同・ご協力、またご尽力頂いた校内外の多くの皆様方に深く感謝申し上げます。



60周年記念行事委員会  
実行委員長

藤井敏男





承風会会長  
磯部 孝彦

## お祝いの言葉

我が母校、大阪府立池田高等学校が西暦2000年という節目に還暦に相当する60周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

50周年記念行事が盛大に執り行われてから、はや10年が経ちました。昨日のような思いがいたします。これもひとえに本校に関わってこられました教職員、PTA、同窓会、行政、地域の皆さんのご支援の賜物と厚く感謝しております。また、我が承風会も4千数百名の会員増となり、現在2万5千名を有する大きな組織になっております。このような時に承風会会長に任じられましたことは、私にとって実に光栄なことと存じます。

本校は、昭和15年に「大阪府立第十六中学校」として大阪市天王寺区に発足し、翌16年、池田市の市制発足と同時期に池田市に移転し「大阪府立池田中学校」としてこの地に根を降ろしたのでした。当時の先輩諸氏は新しい学校の創造に熱意をもたれましたが、戦時中の頃でもあり随分苦勞されたことと思います。

昭和20年6月には空襲を受け、教室や体育館を焼失しました。戦後、物資難、食料難の中、復興工事が進みましたが、当時の学制改革によって中学校は「大阪府立池田高等学校」になり、同時に男子校から男女共学へと進みました。女子学生を迎える男子学生、あるいは男子学生の中に入っていき女子学生、それぞれの不安な心の様子を私が在学当時、授業の中で何度かエピソードとして、先生からお聞きいたしました。

また、昭和24年には校舎が全焼にちかい火災にあったときには、この不幸な局面を乗り越えるため、教職員、生徒、一丸となって、復興のためにアルバイトなど……金策に奔走したことは有名な話です。すべての方が母校を愛するがゆえに自然に生みだされたものだと、今でも感銘を受けております。

戦後の社会がまだまだ苦しい中で、母校は勉学は申すまでもなく、クラブ活動においても、サッカーやアメリカンフットボールの全国制覇を一例として、体育系、文化系を問わず活発に活動し、数々の表彰を受けていました。長い年月には無くなったクラブ、新しく生まれたクラブなど、栄枯盛衰もあります。しかし、クラブ活動における熱気は連綿として形は異なるにせよ、母校を訪れる毎に現在に受け継がれているように感じております。

校風としての「自主・自律の教育方針」は素晴らしく、それぞれを自己の責任において一個の人間と看做す教育は、伸びやかでしかも自己管理ができる生徒を生みだしてきたのだと感じております。その結果、現在、日本、あるいは世界へと政治、経済、学問、芸術、芸能……等々各方面において、活躍されている承風会員諸氏に感服いたしますとともに、私を含め2万5千名の卒業生を教えていただいた先生方に改めてお礼を申し上げます。

20世紀は激動の時代でした。その時代の波に翻弄されることもときにはあったでしょうが、私達にとって青春の日々を池田高校で過ごせたことは無上の喜びだったと思います。21世紀は、高齢化、環境、科学技術など様々な問題がますます顕在化し、時代はめまぐるしく変化するに違いありません。そのような時代にあって社会の一翼を、我が後輩諸氏がしっかりと担っていかれるものと大いに期待をいたしております。

## 新しいマイルストーンの建設



PTA会長

木下 公夫

昭和15年、大阪市天王寺区に「大阪府立第16中学校」として創立開校し、翌年現在の池田市の小高い丘に移転、「大阪府立池田中学校」と校名を変更、昭和23年に「大阪府立池田高等学校」となって以来、本年創立60周年を迎えられましたこと、皆様とともに心よりお慶び申し上げます。

この慶事に当たり、PTAも、記念行事実行委員会のメンバーとして、周年行事の企画・運営に参画し、池田高等学校の未来への更なる飛躍を祈念するとともに、後輩たちへの活動の基盤をつくることを念頭に記念行事を考えてまいりました。コミュニティゾーンの造成・「2001年こころふれあいCalendar」の作製などは、まさにこれからの池田高等学校を創り出す事業であります。

PTA会員の皆様には、募金のご協力や昨年度・本年度の記念バザーのご協力など、この記念行事の遂行に際し、力強いご支援を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

さて、巡り合わせとは言え、今年在籍する生徒やその保護者にとって、本記念行事はどのような意味があるのでしょうか。

人の生涯は年月や時間で刻まれるものですが、その中で、様々なちょっとした出来事が人生の次の舞台への通過儀式となって、より深い刻みとして心に残ることがあります。

昔、あこがれていた野球選手は、今では自分よりも年下の人たちが活躍していることに気づく日、父親のようにテレビの前でうたた寝をするとは夢にも思っていなかったのに、今では自分が一番よくうたた寝することに気づく日、息子との言い合いの中で自分が自分の父親そっくりの口調になっていることに気づく日など、普段時の流れを意識してないときに人生のマイルストーンを強く感じるがあります。

創立60周年も、普段それほど意識していない時の流れを改めて意識させてくれ、池田高等学校の伝統を再認識させてくれます。

この伝統を認識した上で、その歴史に新しいマイルストーンを打ち立てる当事者として、今、池田高等学校にかかわりを持って居ることは幸せなことではないでしょうか。私たちも子どもたちも、池田高等学校の新しいマイルストーンである記念行事に参画したのです。

これまでに池田高等学校を巣立った先輩たちは、社会において広く活躍されており、その数は2万5千人にのほります。思いますに、様々な創立60周年記念事業は、水面に広がる波紋のように、同窓の輪として多くの人々に広がってゆくわけです。それは素晴らしいことではありませんか。そして、その輪が地域の皆さんにも広がっていくのです。

池田高等学校の素晴らしい校風と栄えある歴史を今日まで築き上げてこられた教職員、承風会、後援会、PTAの皆様そして生徒の皆さん、更なる発展のためともに歩もうではありませんか。





自治会執行委員長(前期)

齋藤 信行

## 創立60周年をお祝いして

池田高校60周年おめでとうございます。

「60周年」というと、私達現役生にとってはとても長く感じられ、その日々の中で先輩方の御努力によって積み上げられてきた伝統継承への責任感を痛感しながら、毎日を過ごしています。

友達の話で軽い気持ちで入った池田高校生徒自治会。始めのうちは、自治会の活動をただ先輩達の後ろについていだけでした。そんな私も二年生になり、責任のある立場を与えられるようになりました。そうして、ようやく自治会の活動が本当に大変なんだと実感しました。体育祭や文化祭も本当に生徒が運営しているんだと感心しました。だから、三年生の先輩達からいろいろなことを教えてもらい、先輩達に負けないように頑張りたいと思います。

まだまだ未熟な私達です。迷惑をかけるかもしれませんが今後ともよろしくお願いします。私達も先生や先輩方から学んできたことを少しでも多く後輩に伝えていけるように頑張ります。そして、池田高校が更なる飛躍を遂げられますことを現役生一同心から祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。60周年、誠におめでとうございます。

## 創立60周年をお祝いして

創立60周年を心からお祝い申し上げます。

池高の誕生から現在までの波乱に富んだ歩みは、我々の耳目を属さざるを得ないものがあります。府立高校が周年記念誌を作製するに当たって、多くの学校が手本にしていると言われる「池田五十年史」によりますと、昭和15年、大阪市天王寺区の現寺田町近くにあった盲学校跡に仮設置された府立第16中学校が、各市町村の激しい誘致合戦の結果、池田市に移転されることとなって、これが池高の前身府立池田中学校になったということでもあります。そして、新制池田高校の出発は昭和23年でした。

新制高校以降の52年間を含めて、池高の歴史を飾るたくさんの事象がありました。例えば、我が国初の「高校アメリカンフットボール部」の設立や、府内で最も長い歴史を持つ学校新聞「池高新聞」の発行、そして多くのクラブが全国レベルの活躍をしてきたこと等は、我が国の高校史に燦然と輝くものであります。また、新制池田高校の真新しい校舎が焼失したとき、全生徒がマッチを売り歩いて池高再建資金の一部にと提供したことは今もなお社会に誇れる池高生の真心、母校愛の証明であります。

さて、在職中、年一度開かれました同窓会・承風会の総会に出席させていただきました。同窓会総会にはたくさんの旧教職員の方々も出席され、幸せそうに遠い日々を語っておられました。そのお姿を拝見して、池高は生徒たちだけの青春広場ではなく、職員にとっても、毎日をいきいきと過ごすことのできたよき日々であったのではなかろうかと想像しておりました。池高は、生徒にとっても、職員にとっても第二の故郷なのであります。

ときは今21世紀を迎えようとしています。情報通信による社会経済革命が驚くほどの速さで進行しています。そのような新世紀にも、池田高校が若者たちの知性と感性を豊かに育む青春広場であり、生徒と職員との間に、教え教えられる温かい愛情の通い合う理想の学園であることを切に願っております。



前校長

井上博昭





## 創立60周年を祝して



前PTA会長  
野口 亮

3年前、何の考えもなくPTA実行委員の役員をお引き受けしましたときは、まさか創立60周年の前年度にPTA会長になることなど思いもよりませんでした。しかしながら、今となっては、創立60周年行事企画に参画し、充実した忙しい日々を過ごせたこと、前PTA会長として光栄に感じております。

平成11年度、PTA会員の皆様方には、文化祭において創立60周年支援バザー及びその後の寄附金など暖かいご協力を賜り、誠に有り難うございました。また、創立60周年行事企画に参画、お手伝い頂きましたPTA会員の方々に心よりお礼申し上げます。ほんとうにお疲れさまでした。

戦後、民主主義教育、自主性教育という時代の流れのなかで、池田高校も自主・自律を校風に掲げてきましたが、これらの言葉の裏には、どこか「甘酸っぱい、やさしい教育」のイメージがちらつきます。「リストラだ」「能力社会だ」と多様性に富んだ今の社会においては、今一度厳しい教育も多少必要ではないでしょうか。

変化の時代にあっては、過去にとらわれない柔軟な思考が大切です。新時代で成功するには「すばやく学び、すばやく変わること」が不可欠と論じる世界的経済学者もいます。ただ、変わってはならないことは、池田高校が過去60年の歴史に安閑とあくらをかくことなく、社会の変化に即応し、今後70年いや100年にむけて更に充実、発展して存在し続けることです。

卒業生にとって、池田高校そのものが宝物、記念碑なのです。忘却は人間の特質の一つでもあります。「燃え立つばかりの決意」をもって卒業していく子ども達も、その燃ゆる思いが月日と共に薄らぎ、日常生活に埋没してしまうことがあります。しかし、「生涯の決意」を思い出させてくれるのは、宝物、記念碑である池田高校です。

この節目の60年を池田高校関係者一同で祝い、「生涯の決意」を今一度思い起こして、次の記念日に向かっていきたいと思っております。

# この10年

1990(平成2)年度43・44・45期～  
2000(平成12)年度53・54・55期

43期～52期の歩み

自治会この十年

クラブ活動この十年

座談会

本校の思い出・寄せる思い

承風会この十年

「古木延命保存」について

「池田五十年史」略

「池田五十年史」の頃

## 43期生

赤坂克也・松村昌和  
山口 禎・伊原眞利子

### 学年団発足・入学

昭和63年2月中旬、加藤宏文（国）を学年主任として、国語科（藤井）、社会科（大今・長枝）、数学科（伊原・高雄・松村）、理科（赤坂・足立）、保体科（大角・山口）、英語科（桑高・原）の13人の担任団が決定した。なお、病氣から復帰してきたU君に対応するため、社会科（伊敷）が副担任として加わった。

さらに、定員576人（48人×12クラス）に対し、男子341人・女子305人（計646人）が志願し、3月16日（水）に入試が実施された。3日後の、19日に男子300人・女子276人の合格が発表された。倍率は1.12倍であった。

学年団で43期の基本方針が検討される一方、2度の合格者登校を経て4月8日（金）に入学式が行われた。ある担任は当時を振り返って次のように語っている。

『昭和63年—昭和の最後の年に学年がスタートし、最終学年の時に池高の創立50周年を迎えた。そういう意味では、43期生はこの時代の社会においても、また池田高校自体においても、おおきな転換期の中で歩んだ3カ年であったと言える。さて、学年団は、発足時から、歯に衣を着せない議論ができる雰囲気作りを第一目標とした。池高での教職経験の多寡にとらわれずに、学年の在り方や学級経営について、自由闊達な視点で、意見交換ができることを何よりも重んじようとしたのである。』

### 進路指導について

戦後第2次ベビーブームといわれ、3年後には全国で120万人ほどが進学志望者となり、そのうち44万人ほどは入学できないという大変な事態になる。そんな状況の中、池高生にとってどのような指導がよいのかが、学年団発足時より問題になった。そこで、3年間の計画を入学前に作り対策を練った。その内容は、難しいから絞らないと、と脅かすのではなく、難しいから1年の時から5教科とも捨てずに基礎をしっかりつけ、広い進路選択ができるようにしておくなかで、励ましていくというものだった。そのため、自らの将来を自らの力でしっかり考え行動すること、1年生で職

業観と良い学習習慣をつけること、2年生で進学観を充実させ、3年生での授業の選択を失敗しないことを目標とした。具体的には1年生から進路ノートというファイルを作って生徒の個人管理としたり、各教室に、カラーボックスを用意し進路の本棚としたりした。ファイルには進路関係の説明プリントや個人成績を綴じておき、また、本棚には進路関係の雑誌（以前は教卓の中に入れてあった）を保管した。また、LHRをできるだけ進路関係（グループ研究と発表、外部講師の講演、等）に活用した。グループ研究では、各教科の学習法、職業調べ、学部学科調べなどをしたため、1年生のときから進路指導室の利用をする生徒が例年より多かったと聞く。講演では、栄養専門学校の先生になられた33期生の橋本和弘氏の夢と仕事の話、教育実習に来ていた3人の卒業生の生々しい受験勉強と大学生活の話、YMC A教育研究所長の宇野義男氏の受験状況の厳しさと、乗り切るための意欲と、高校の授業の大切さの話などを伺った。そのほか、保護者にも協力を求めて外部模試を1、2年生では3学期に1度ずつ強く推薦をしたので、1年では200人近く、2年では300人近くの多くの生徒が参加した。実力考査との比較はもちろん、他校との比較をして、各教科に情報提供もできた。

### 体育祭6月実施・三たい運動等

平成元年1～2月、これまで9月に実施されていた体育祭が、文化祭と離れて6月に実施されることか議会と職会で決定した。これにより9月の超ハードスケジュールが解消され、両行事とも充実したという意見もある。平成元年4月からの前期執行委員長の中村（42期）は、バイクの3ない運動に対して『乗りたい』『取りたい』『買いたい』の3たい運動なるものをおかかげてスタートした。しかし、アンケートなどには、生徒からの批判の意見も多く出て、執行部のこの運動は停滞してしまった。

また、例年教師ともども協力して進めて来た体育祭だが、どうしても『自分達の手で』という求めに応じて教師側は全てを譲って静かに見守った。計画・準備等の段階では少し協力したが、予行・当日は生徒達に委ねた。若干のトラブルはあったものの、彼らは口先だけではなく立派に体育祭をやり遂げた。

10月に予定されていた自治会選挙は、執行委員長の立候補者が現れず、選管からの呼びかけやク

ラス討議の結果も空しく、前代未聞の「繰り越し」となってしまった。そして、年が変わった1月ついに1年生から男子生徒が立候補して、2月2日ようやく後期の執行部がスタートした。

#### 蔵王修学旅行 平成2年3月2日～6日

池高が開拓した沓岐の島への修学旅行が、隔年ごとに実施されていて、43期生もその番であった。しかし、入学直後に『秋の沓岐か、蔵王スキーか』で生徒にアンケートをとったところ、蔵王に決定した。信州ではなく蔵王を選んだのは、40期生が蔵王で実施した実績があること、また、修学旅行で混雑している（主なホテルは入学前に予約がいっぱいになる）信州を避けること、将来も蔵王へはあまり行かないだろうから思い出になること、などの理由であったろう。しかし、費用（特に交通費）がかかる大きな欠点もあった。往路は、東海道・東北の両新幹線（但し、当時は東北新幹線が上野発であったため、東京→上野の移動が大騒ぎでしたが）、そして帰路では、日本海側の鶴岡から夜行のチャーター列車（夕方のバスでの月山の峠越えができるか大いに心配でしたが）、蔵王から夜行バスで帰阪した高校もあると聞くなか、スキー旅行にしては超豪華？であった。そこで、旅行のしおりは当然のごとく生徒と教師の共同による手作り、「節約、節約」が旅行係の間の合言葉となった。そのかいあって、ホテルは蔵王の山腹（標高1346m）にとれて、下の凍結した道路でのホテルとゲレンデとの行き来から教師も生徒（特にU君）も解放され、まるで時間が止まってしまったような限りない静寂と真っ白な世界の中で、ほっとして過ごすことができた。夜にホテルのすぐ横のゲレンデに出て、幻想的なミーティングをして楽しんだクラスも現れた。もちろん担任同伴でしたが、下のゲレンデには雪が少なく、いまひとつのスキー学校もあるなか、蔵王グランドスキースクールは細かい所まで行き届いていて、旅行係は山腹作戦は成功したと自画自賛していた。

#### 第3学年スタート 平成2年3、4月～

3月末をもって、加藤・大今の両教諭が退職し、代わりに池高を知り尽くしている理科の井村教諭を主任とし、社会の清水教諭も加わって学年団は再スタートした。と同時に生徒も全員共通科目の履修だった1・2年に対して、3年では15時間の選択科目があり、興味や進路に応じて各自が自分に合った？カリキュラムを組んでのスタートをした。ちなみに理系（数学γ選択者）160人・文系

407人という内訳であった。

#### 創立50周年記念式典 4月15日

池田市民文化会館において、創立50周年記念式典が挙行された。2・3年生全員が式場に参列した。式典第2部では、在校生代表として3年12組田淵正樹が「池高の明日に向けて」と題して堂々と発表した。

#### 木島君の事故と復帰

4月17日、ラグビー部の練習中に木島英登が大ケガをした。入院中は、授業担当者が病室で授業するなどの対策をするなか、彼の復帰後のために車椅子で移動できるように校内に段差をなくし、玄関の横の長いスロープやカーポートが建設された。その後、彼はリハビリテーションセンターで厳しい訓練を受けた後、3学期になって愛車の黒いスカイラインに乗って元気に登校した。卒業は1年遅れとなったが、次年度の体育祭では、競技用の車椅子で1500m走に出場し、見事完走した。ここまでの彼のひたむきな努力に対して、見ている者全員が拍手のエールを送った。

#### 特筆できる部活動

夏休みにテニス部の安田恭子が、仙台で行われたインターハイに出場する活躍をした。また、その後、全日本ジュニアテニス選手権にも出場し、1回戦である杉山愛さん（現在世界ランキング30位内）と対戦し善戦した。

アメリカンフットボール部の辻一成と榮福圭が関西選抜チームに選ばれた。また、辻は8月末～9月初にオレゴン州アッシュランド高校との親善試合の為、渡米した。

#### 中夜祭中止か？

9月の文化祭で、クラス企画として15年間引き継がれて来た中夜祭を担当するクラスがなく、一度は中止と決まったが、8月に入って3年生の有志が担当したいと名乗りを上げ、実施したいと動き始めた。みるみる有志の数が増え100名以上となり、『夢芝居』と名付けたこのグループは、その熱意で厚い壁を乗り越え実現を果たした。

#### 平成3年2月卒業式 植村浩一君卒業

昭和60年8月ラグビー部の夏合宿中の重症事故による高度の後遺症を残して、43期生とともに1年生に復学した植村が、不屈の努力と周囲の励ましで3年遅れの卒業を果たした。復学後学校側は国語・英語・社会・美術・体育の方面から指導を行い『体力面の向上、既存の知識の回復、将来の進路』という3本柱の目標をたてて彼の回復を援

助した。植村は家族や様々な人々に支えられ、自力歩行や言葉のハンディを乗り越え、陶芸という新しい道を見つけて果立って行った。卒業式での彼の言葉に人々は深い感銘を受けた。

卒業生のことば

先生 1年 2年 3年生ありがとうございました。遠足はしんどかったけれども、おもしろかったです。3月に蔵王へ修学旅行にいきました。スキーをすべって、おもしろかったです。トランプをしてたのしかったです。スープ皿と灰皿をつくりました。ほくは、これから陶芸をしていきます。時々ほくを思い出してください。

3年3組 植村 浩一

## 44期生

伊敷 健二郎

### ◆1年生(1989年)

合格発表の午前10時は、われわれにも緊張の一瞬でした。歓喜の声をあげる合格者を見て、「いよいよ」と気分がぐっと引き締まりました。

入学式は4月8日で学年団は次のとおりです。学年主任は戎居士郎、以下担任が伊敷健二郎、長田廣明、吉川正幸、内藤憲雄、佐野節子、加納定昭、佐桑光治、松本 清、福島 元、二敷寛治、渡辺俊博、西山久代の各教諭でした。ベテランぞろいでこれほど安心できる学年団もないように思います。入学式が終わり、対面式、クラブ紹介とばたばたと行事が続きましたが、忙しい新入生に4月16日の創立記念日(ただしこの年は日曜日と重なっていました)は、いい休日になったことでしょう。安心も束の間、実力考査!これは宿題考査の意味合いが強いのですが、中学時代にあまりとったことのない席次を見て、ショックを感じる生徒も少なくなかったようです。

5月2日が春の遠足でした。1年生の遠足は能勢妙見山の登山と決まっていた、《歩く》ということが主題であったように思います。それと全クラスでどの程度規律ある行動がとれるのか、それも一つの課題でした。能勢電ときわ台駅に集合、コースを2つに分けて頂上駐車場で合流・昼食、そして初谷川を下って下山です。解散後慰労会があ



り、キャラバン・シューズの紐をほどいて担任がその日を楽しく語り合うことは、歩く以上に楽しいことでした。

6月10日が体育祭、新入生は色別縦割の形式に驚いたのではないのでしょうか。応援・アピールの集団演技では、上級生の指導が入りますが、3年生は最後の体育祭とあって一生懸命やりすぎるところがあり、練習が1年生には少々負担であったかもしれません。禁止していたにもかかわらず、放課後遅くまで、公園や河川敷で練習を重ねて本番を迎えました。すべてが終わり、たいへんな疲労といい知れない満足感をもってホームルームをしたことを忘れることはできません。

期末考査後は、特教活、終業式、そして待望の夏休みです。40日の長い夏期休業後、始業式でクラブ活動の合宿などを乗り越え日焼けした生徒と再会するのですが、担任としては休み中事故がなかったかなど、場合によっては生徒指導上の心配をしなければならないこともありました。文化祭は9月16日~17日の土日に行われましたが、1年生は野外造形、映像、劇方面でがんばりました。年年文化祭の活動が停滞して十分な発表ができないということも聞きますが、本校は地歴部・生物部・アマチュア無線部・プラスバンド部・演劇部・茶道部・華道部・E.S.S・美術部など文化ク

ラブがけっこう活発で、熱心に日頃の成果を発表していたことが印象的です。文化祭後は中間考査、防災訓練、秋の遠足、保護者懇談、期末考査となって2学期が終わりました。3学期成績不振者の進級について、心配しなければならないのが担任の憂鬱でした。中学校と高校の決定的な違いはここです。とにかく欠点を抱えた生徒を励まして進級にこぎ着けなければなりません。そして、3月15日に終業式を迎えほっと一息ですが、いいクラスであればあるほどクラスがバラバラになることが残念でなりません。しかし生徒の成長にとっては、必ずしも同じクラス友だち・担任でないほうがいい。いろいろな先生と出会い、たくさんの友人と知り合ったほうがいい。そう思います。1年生から2年生にかけて、何と生徒はたくましく変化していくことでしょうか。

#### ◆2年生(1990年)

初々しい新入生を迎えて、どのように鍛えてやろうかと、運動部の連中が手ぐすねを引いていたはずです。運動部はグラウンド・体育館狭しとたいへん活発に活動していました。合格発表後の午後の説明会のおりに、校門から事務所下階段付近まで入部勧誘の花道ができます。これは池高名物の一つであり、2年生われわれの学年が中心となり、荒々しく合格者を迎えます。最初は暖かく丁寧なのですが、自治会の先生方が注意しても注意しても、いつしか一生懸命になりすぎて「荒々しい歓迎」になってしまうのです。

クラス担任は国語科の西山久代教諭と英語科の井上誠一教諭が交替しました。今年もベテラン学年団です。4月15日(日)には池田市民文化会館アゼリアホールで創立50周年記念式典が盛大に行われました。式典は林昭校長の厳かな式辞で始まり、その後生徒の発表などもあって感動の中に終了しました。池高の校歌は作詞が竹中郁・作曲が団伊久磨ですが、実にすばらしい屈指の校歌ではないかと思えます。池田高校とか、母校とかいう言葉が一言もできません。メロディーは池高が立つ承風台を吹き抜ける風のように軽やかであり、格調の高い歌詞がそれに乗っていきます。この年に50周年を迎えた44期生は、たいへんラッキーな学年です。生徒は本校の歴史の重さを感じとり、伝統の意味を再認識したことでしょう。彼らはドライに見えて、やるべきこと、考えるべきことをちゃんとわきまえていた生徒たちでした。

春の遠足は昨年と同じ日で、《花の方博》が開催されていた鶴見緑地でした。2年生になるとクラブ活動にますます熱心になり、ややもすると学業をおろそかにする生徒も出始めました。池高4年制という言葉の後から知りましたが、現役で国立・公立大学あるいは有名私学に合格することは難しいという意味だそうです。確かにそれは当らずとも遠くないような気がします。しかし、ほどほど勉強もして、大いに高校生活をエンジョイする彼らの気質に触れた担任は、もっと勉強してほしいと一方で思いながら、他方でここにはほんとうに高校生らしい高校生がいることを感じて、ホッとしていたのです。『よく遊ばなければ、よく学べない』でも44期生の現役進学率は決して悪くなかったと思います。

2年生の最大行事、いや3年間通じての最大のイベントは修学旅行でしょう。10月24日～10月28日まで長崎県壱岐に行きました。池田高校での日々を振り返って、修学旅行ほど思い出深い行事もありません。修学旅行の大きな選択枝として①ベースキャンプ方式②スキー③離島体験の3つ。観光旅行だけはやめておこうということが、毎年の学年の確認でした。われわれの学年は僅差でしたが、スキーに優って離島体験が決定されました。壱岐は、池高が他校に先駆けて修学旅行先として開拓した地と聞いています。そのせいか島の人々の歓迎ぶりも、たいへん暖かいものがありました。島来荘を本部にして各民宿に分宿するというのも、離島ならではの体験でした。浜遊び、地引き網、絵付け、みかん狩、釣りなどの選択コースもありましたが、全員で行った辰ノ島が最高でした。辰ノ島は本島から船で十数分のところにある、風光明媚な自然のままの小島です。まったく観光化されておらず、絶壁の道などは岩を砕く荒波が直下に迫り、たいへんなスリルです。生徒はワーワーって強い海風が舞い上がる絶壁で記念写真を撮ろうとしますが、私は高い所がとくに苦手とあって、その度に命のちぢむ思いをしました。

楽しい思い出は、やはりキャンプファイアです。浜辺にセットされた舞台上でクラスの出し物が披露されましたが、各クラス甲乙つけがたい熱演で民謡の関係者も関心しきりでした。ファイアを囲んでのフォークダンスも終わり、最後の最後に《壱岐マッセ!》という修学旅行委員が考案した火文字が壱岐の夜空に浮かび上がったときは、全生徒が大歓声をあげて感動をわかち合うことができました。

した。そのとき、担任全員が「あーっ、旅行成功!!」と心の中で叫んだことだろうと思います。博多港からの船便で、玄界灘の荒波に船酔いする生徒や教員がたくさんでしたが、きっと一生の思い出に残る修学旅行になったことでしょう。ここでクラス・学年のまとまりが最高点に達しました。

### ◆3年生（1991年～1992年）

そして気がつけば最終学年です。学年主任とクラス担任は2年生のときとまったく同じでした。《愚直》という言葉が卒業アルバムに残した、戎居教諭とともに3年間を過ごしてきました。彼は全身全霊をもって生徒にぶつかっていく、古典的な国語教師の典型でした。しかしたいへんリベラルな心を持った教員で、たとえば学年会の進行役は週ごとに交代して順番に務めました。そのために誰かが突出して派手に振る舞うということもなく、かといって他人任せにならない学年団だったと思います。全員がまとまることは、決して簡単なことではありません。それがうまくいったのは、担任の生徒を思う気持ちが結集し、先頭を戎居教諭が走り、ベテランの佐桑教諭が後方をしっかりと守ってくれたおかげだと思います。生徒たちも池高生活のすべてを心得て、体育祭で下級生を上手に指導し、文化祭で最後の爆発をみせて、そして定期考査でほどほど勉強し、大学進学など進路実現に向けては必死の努力をしてくれました。しかし、元気あまる生徒が多かっただけに、体育の授業やクラブ活動での負傷者も少なくなく、保健室の養護教諭にたいへんお世話になりました。優しかった中山さん（物故）と池高の卒業生でもある菊池さんが養護教諭でした。事務室の方々はもちろんですが、技能員さんたちにも助けられました。いろいろなみなさまのお世話になりながら、われわれは2月28日の卒業式を迎えることができました。生徒が1年生のときから積み上げてきた結果が卒業式ですから、式が感動のうちに終わったことはいまでもありません。44期生のすべての生徒のみなさん、そして戎居教諭をはじめとする学年団のみなさん、ほんとうにありがとうございました。素晴らしい3年間でした。楽しかった思い出を胸にそっとしまっ、またいつの日か同窓会でお会いしたいと思います。

## 45期生

若林 勉

学年主任をしておられた藤本教諭のご都合でこの原稿の執筆という大任が急遽舞い込んできた。もっと適任の方がおられるとは思いますが、何故私ごときがという思いもかさなりますが、多くの45期担任が池田高等学校を去られておられる現状では、致し方ないと観念し執筆を引き受けた次第です。言い訳がましく恥じ入りますが、私の手元の資料も散逸しており、時間的余裕もない中でのこと、「あれが欠落している」「もっとこの点を強調すべきだ」といったみなさまの叱責も多々おありかとは思いますが、御容赦頂きたい。以下、私的な回顧が中心となりますが、学年進行の形で45期生の軌跡をたどってみたいと思います。

### 〈1年生〉

池田高等学校赴任2年目の私にとっては、まだまだ池高生（42、43期）が眩しく見える感じで心もとないまま、45期生の担任となったというのが正直な感想でした。しかも最初の大きな行事として「創立50周年記念式典」へ生徒を引率し参加するという経験をし、生徒諸君と共に「50年」の重みを重厚なスライド映写の中に見て、圧倒された思いが胸中をよぎります。この点では、私は45期生と同じ様なものであったのでしょうか。

さて、45期の1年担任団の構成は、学年主任が保健体育科の藤本、1組が田岡（国語）、2組が鹿志和（英語）、3組が中路（数学）、4組が若林（社会）、5組が麻野（保体）、6組が一谷（数学）、7組が西村（英語）、8組が山本恵（家庭）、9組が北川（社会）、10組が川田（英語）、11組が河原林（地学）、12組が広谷（国語）といった方々によるものとなった。このうち、3名が池高での担任が初めてということで、全体としては池高での経験者とのバランスも、旨い具合に良く取れていたといえるのではないのでしょうか。

春の遠足は、池高恒例の「妙見山登山」に行くことになり、山登りや釣りを良くなさる広谷教諭の先導で、実際に妙見山を下見登山し、見た目よりも厳しい行路であることを実感しました。ところが、遠足当日は午後から降雨確率が40%（この数字を高いと思うか微妙なところではあります

が)ということで責任教諭の判断により、初谷川の川原でとりあえず昼食をとり、クラス写真を撮影して、登山は断念することになりました。校外行事ですから、この決断はやむを得なかったとおもいますが、午後はすっきりと晴れてしまい複雑な思いでした。

中間考査が終了すると、間も無く体育祭準備へと突入しました。赤・黒・黄・柑・水色・紺・白・紫・黄緑・桃色・緑・灰色の各応援団に別れ、3年生の指導のもと連日練習が続き、中学時代とはまた異なる規模の大きさや華やかさ自主的な運営に、高校生としての自覚が高まった生徒も多かったと思われます。5月に実施された「生活実態調査」結果から、45期生の様子をうかがってみますと、彼等に限った数字ではありませんが、以下のようです。テレビを見る時間は、1～2時間の生徒が計65%。小遣いの額は3～5千円が52%。「悩みごと」の項では、授業が難しく(進度が速く)落ちこぼれないかという不安を抱えている生徒が53%。高校進学のための目的では、部活動・友人を多く作りたいという希望は、96%の生徒が抱いており、学習への意欲もこの入学当初の時点では、志の高いものが多く、池田高校への熱い期待が感じられるものでした。

夏休みの中で、部活動等に真っ黒になって取り組んだ45期生は、高校生活で初めての文化祭に取り組みました。

各クラスの出し物は以下のようでした。1-1は「ゲーム」、1-2は「ゲーム」、1-3は野外展示の「大仏」、1-4は野外展示の「自由の女神」、1-5は野外展示の「ピラミッド」、1-6は演劇で「白雪姫とゆかいな仲間たち」、1-7は模擬店で「どんぐりや」、1-8は演劇で「ピーターパン」1-9は映画で「文句あんのか!」、1-10は演劇で「Road of destiny～運命の道」、1-11は展示で「Do you like the earth?」、1-12は模擬店で「ブッチーニ」。

現在(1999年現在)の文化祭では姿を消してしまった野外展示もあり、校内のいたるところに活気がありました。しかし、野外展示は雨風にたたられたりして、天候に泣かされたもしました。また、中夜祭ではファイヤーストームの回りでのフォークダンスは、往時の文化祭の雰囲気も未だ濃いものでもありました。

また、1年の当初から生徒諸君に希望調査を実施した結果、43期生の「蔵王スキー」と44期生の

「巻岐体験学習」との比較の中で、僅差ではありましたが、「蔵王スキー」が多数になりました。3月には田岡・広谷・西村・若林により下見を行いました。

### 〈2年生〉

学習や将来の進路についても悩みも迷いも多くなるとともに、高校生活にも慣れて、生徒諸君のそれぞれの個性も際だってくるのが2年生です。2年担任団は英語の鹿志和教諭の転勤があり、替わって書道の氏田教諭が加わりました。

学年主任藤本教諭(保体)のもと、2-1が川田(英語)、2-2が一谷(数学)、2-3が若林(社会)、2-4が広谷(国語)、2-5が北川(社会)、2-6が田岡(国語)、2-7が中路(数学)、2-8が麻野(保体)、2-9が河原林(地学)、2-10が山本恵(家庭)、2-11が氏田(書道)、2-12が西村(英語)という構成でした。

5月の遠足では、生徒諸君の希望により2年全クラスが大阪港にある「海遊館」に行くことになりました。

6月の体育祭での色別では「紺」「黄緑」の2色が廃止され、「青」「茶」があらたに加わりました。「綱引き」「玉入れ」がなくなり、「3人4脚リレー」「キャタピラレース」といった変わった趣向のものが加わり、応援合戦も大いに盛り上がりました。

9月の文化祭での2年各クラスの取り組みは、以下の様でした。

2-1が演劇で「オズの魔法使い」、2-2が「バザー」、2-3が演劇で「Can't buy me love」、2-4が演劇で「蒲田行進曲」、2-5が模擬店で「お化け屋敷」、2-6が模擬店で「The 緑日」2-7が野外展示で「巨大ボーリング」、2-8がゲーム部門で「ディスクッション」、2-9が模擬店部門で「お化け屋敷」、2-10がゲーム部門で「イントロあてカラオケ」、2-11が中夜祭に向けた「野外ステージ」建設、2-12が模擬店部門で「もぐらたたき」といったものでした。

11月には3年次の教科・科目選択にむけて、教務部を中心とした指導があり、進路実現のために次第に切実感も募ってきたものと思います。年が明ければ、蔵王へのスキー修学旅行が迫って、担任としては進級への不安など抱えることなく、高校生活の大きな思い出を、有意義なものにして欲しいと強く感じたものです。暖冬傾向による積雪



の不安もありましたが、蔵王の頂上付近が舞台とあって、良質の雪にも恵まれました。平成4年2月29日（土）～3月4日（水）にかけて、新幹線と山手線、長距離バスを乗り継いで、蔵王温泉スキー場のエコーホテルとホテル蔵王に分宿し、修学旅行が実施されました。

### 〈3年生〉

いよいよ、卒業学年となりましたが、担任団からは西村（英語）教諭が故郷の福岡県に転出し、同じ英語科からベテランの原教諭が新たに担任団に加わり、さらに書道の氏田教諭が府立渋谷高校に転出し、代わりに英語科より桑高教諭が加わることになりました。

藤本主任（保体）のもと3-1は原（英語）、3-2は若林（社会）、3-3は田岡（国語）、3-4は川田（英語）、3-5は広谷（国語）、3-6は北川（社会）、3-7は中路（数学）、3-8は桑高（英語）、3-9は河原林（地学）、3-10は一谷（数学）、3-11は麻野（保体）、3-12には山本恵（家庭）という担任団構成となりました。

春の遠足は、5月抜けるような晴天のもと、奈良の飛鳥の旧跡を訪ねる事となりました。



6月に入り、いよいよ進路実現に向けてのゴールが目前に迫って、進路希望調査・生徒対象と保護者対象の進路説明会と、多忙な日々が始まりました。体育祭では、最高学年として応援合戦の指導に懸命となる生徒諸君の姿を目の当たりにして、3年間の成長を実感しました。さらに、体育祭では、騎馬戦・渦巻きリレー・棒引きといった新種目が導入され、盛り上がりを見せました。7月には講習、保護者懇談と進路実現に向けた行事が目白押しでした。

9月には最後の文化祭。3-1はバザーで「夢の国」、3-2は模擬店で焼鳥等の「南町奉行所」、3-3は野外展示で「門」、3-4は演劇で「ゴ



ールデンボーイ」、3-5は模擬店で「和風亭かかし」、3-6は演劇で「西遊記」、3-7は野外展示で「門」、3-8は演劇で「または、もう一つのガラスの靴」、3-9は模擬店で「お化け屋敷」、3-10は映画で「おちゃめなTV」、3-11は演劇で「一体とゆかいな仲間たち」、3-12は模擬店で「オブリアード」といった取組が成されました。

進路実績は別稿によることにしますが、2月の卒業式では、H.Oというグループの歌った「思い出が一杯」を斉唱しました。この曲が、全員合唱曲として適切であったかは疑問にする向きもありましたが、45期の生徒諸君の青春への思いは分かる気がしました。

## 46期生

芳澤 裕之

46期生の3年間の歩みを記す役割は、学年主任の上杉教諭が適任であることは言うまでもないが、種々の理由により私に役割がまわってきた。「うまい・へた」を考えなければ文章を書くことは苦にならないけれど、さすがにこの原稿を書くのには勇気がいる。なにせ46期生というと私が池田高校に着任してすぐに受け持った学年のことであり、かなり記憶があやふやになってしまっている。私の中で、池田高校での様々な思い出がどの学年の何年生のことであったのかが、いいかげんになっているのである。そこで、当時の学年団で現在も池高に在職の方に助けられながら、私の目を通しての3年間の歩みを書くこととさせていただきたい。かなり偏った内容になってしまうけれど、ご容赦いただきたいと思う。

46期生が池田高校に入学してきたのは、1991年のことである。12学級×45人という今よりずっと「マンモス規模」な学年である。学年団は上杉（主任）、武田、大竹、井関、大角、山口、岩井、

甲田、山下、味舌、平尾、長橋の各教諭と私でスタートした。私はこの年に前任校から異動し、母校である池田高校に着任してきた。私にとっては池田高校の校舎の様子は、昔とさほど変わったものには映らなかったけれど、着任早々担任をさせていただけるとは思っていなかったのも、本当に嬉しかった。入学式で他の教員と一緒に壇上で紹介された時には緊張していた。その後教室に入り、新しい生徒達とその保護者を前にして話したてからは、緊張感はどこへやら。すっかりマイペースになっていたような気がする。担任としての私と、生徒達の先輩として本当に池高生活を楽しんできた自分とが入り交じって、たくさんしゃべったように記憶している。

1年生の春の遠足は「妙見山」が恒例であるとのことで、この年もそうであった。いたって体力の無い私は、担当の平尾、甲田、上杉教諭と一緒に下見に行ったものの、途中でばててしまいご迷惑をおかけした。「こりゃキツイ！遠足というより訓練だ」と感想を持ちながら本番を迎えることとなる。生徒達にとってもきつときついだろうと思っていたのだけれど、けっこう平気である。足場の悪い道もどンドン歩いていく。そう、遠足がきついのではなくて、単に私の体力が無かっただけなのだ。この遠足を終えて、生徒達は池田高校の一員としての第一歩を歩みはじめるのだ。ちなみに、この学年の遠足はこれ以後もよく歩いたように思う。

1年生の1学期はあっという間に終わる。入学して、遠足に行って、その後すぐ中間考査。そして体育祭。私が高3だった時から、池高の体育祭は「3学年縦割りのチーム構成」となったのだけれど、この時に初めて「アピール」なるものに出会って驚くことになる。各チームがそれぞれ「ダンス」を披露するのである。つまり「応援合戦＝ダンス合戦」なのだ。しかもそれこそ「命懸け」である。「池高生の持っているエネルギーの凄まじさ」を目の当たりにした。そしてこの行事を経て、1年生達は真の池高生へと成長する。

1学期の終わりから2学期初めには、私事ながら病気と事故で2度入院を余儀なくされ、この年の文化祭に私は参加していない。クラスの生徒には電話で「自分達のことは自分達でやれ」と乱暴なことを言って、自分は病院のベッドの上にいる。生徒にも、また上杉教諭にも本当に申し訳なく思っている。

2学期になると生徒はもうすっかり池高生である。4月に初めて会った時のあの「初々しさ」は影を潜め、自分達の高校生活を楽しんでいる。多くの者がクラブ活動に精を出し、池高生活を謳歌していた。そして気づいたらもう学年末だった。2年生になって当然ながらクラス替えがある。よくわからないうちに終わってしまった1年目を反省して、もう少し教師らしくしようと思ってスタートした。この春に井関教諭が転出し、替わって佐藤教諭が学年団に加わった。

2年生のクラスはけっこう「賑やか」だった。よく家庭訪問にも出かけていった。“世話のやける”生徒が多かったのであるが、そういう雰囲気は私にはあっている。高校2年生といえば修学旅行が最大のイベントである。この学年の修学旅行は南九州であった。私は「制服を着ての旅行」というのは苦手だったが、「例年通り」で標準服を着て新幹線で九州へ向かった。博多駅で降り、バスで九州自動車道を走る。桜島を見た。噴火による灰がひどくてコンタクトをしている生徒は困っていた。考えてみれば今回の修学旅行は、自分が生徒だった時の修学旅行とコースが似ているのだ。バスであちこちを巡りながら、同時に様々な体験学習が組み込まれている。グラス・スキーをしたり、知覧にある特攻部隊の資料館を見学したりして、あっという間に時間が過ぎていった。ただ、食事は豪華だったけれど肉類が多くて、最後には生徒も「カレーが食べたい」と言い出したのには苦笑した。これまた自分の時と同じで、帰りは志布志港から大阪までフェリーによる船旅である。出航の時にバスの運転手さんとガイドさんに紙テープを投げ「涙の連絡船」状態だ。生徒達はもう興奮状態。「生徒が船から落ちたらやばい」と本気で心配した。快適な船旅の夜、デッキで満天の星空を見上げながら「あー、これが池高の修学旅行だ。自分達の時と同じく、思い出に残るいい旅だったなあ！」と感動してしまった。

修学旅行を終えると、生徒は3年生への準備を始める。高校受験がついこの間のことであったのに、もう大学受験である。「受験戦争」という言葉は当たっているのだろう。みんな多かれ少なかれ受験情報を集めだし、自分の選択科目を考える。3者懇談で親からの愚痴を聞きながらも、すっかり成長した生徒の姿に圧倒されもした。高校2年生の1年間は早い。

3年生になった。この年は甲田教諭が転出し、

あらたに久保教諭が学年団に入った。

私のあやふやな記憶も3年生のクラスのことはよく覚えている。まず私自身も「大学受験指導」というのを初めて体験することになる。「蛍雪時代」を買って、進路部から出される資料を読んで、それに自分の考えをミックスして生徒の前に立った。授業も受験指導が中心にならざるをえない。まだ「類系別クラス編成」ではなくて、全クラスが均質な構成であり、生徒は各自の選択別に授業を受ける。今は無き「物・化・ッ」という呼称が懐かしい。自分のクラスの生徒でも、授業でまったく教えないという者もいた。授業準備は大変で、受験問題集をたくさん予習しないとイケなかった。申し訳ないことだけれど、一度、予習しても解けなくて、時間がなくてそのまま授業に行き「正直に言うけれど、この問題は先生も解けなかった。ごめんやけどわからん。」と話す、生徒から拍手喝采を受けた。生徒達にとっても数学の授業はさぞかし難しいものだったのだろう。

私のクラスは女子に元気があった。クラスの男子生徒は後になってから「女子にあごで使われた」と漏らしていた。体育祭でも自分達が本当の主役である。たぶん、校外でも練習していたんだろう。うちわを用いて「一糸乱れず」ダンスを



して、ダンスの部の最優秀賞をとった。燃えていた。終わってからの教室で「燃えつきるなよ」と言ったことを覚えている。受験指導も精一杯やったつもりである。そう「自分のことは自分でやれ。必要な情報は自分で集めよ。」と指導するのだから、言ってみれば簡単である。それで「指導」としてまかり通る生徒の方もいたものだと思う。夏休みの暑い中、講習をやり、面談をやり、2学期を迎えることになる。

受験生である3年生にとっても、この年の文化祭は「高校生活最後の文化祭」である。我がクラスは演劇であった。池高版「白鳥麗子でございます」を上演した。担任として、私は本当に何もしなかった。生徒がどんどん進めていくので私の援助は不要なのだ。ここでも女子パワーが炸裂。男

子生徒を叱咤しながら見事に上演。このときの様子は卒業記念のマグカップにイラストで描かれている。このカップを見ると今でもその時の光景が目に浮かぶ。

文化祭を終え、いよいよ受験生。「ちょっとスタートが遅いかな？」と心配もしたけれど、一人一人が自分の目標を持っている。最後の最後まで努力した者、結局口先だけで終わった者、色々である。それでいいのだ。そんな風に色んな生徒がいるのが池田高校なのだ。そして生徒達は見事に進学面でも結果を出して、自分たちの池高生活を締めくくった。

この3年間、私にとっては本当にあっという間に終わってしまった。後輩となる生徒達から「先生」と呼ばれる存在になってしまった。最近では、みんな社会人となって大阪以外の地にちらばってしまったけれど、それまではよく「元生徒」達から「先生、食事に連れてって」と呼び出されたものである。この最初の3年間が楽しい思い出になっ

たことが、その後の私の池高生活の出発点である。無我夢中で走って終えた3年間を振り返り、「あんな風にしたらよかったかも」「もっとこうすればよかったんじゃないか」という感想を、次の49期生、52期生の6年間の教育実践の中で試

してきたのである。

46期生のみんなにはパワーがあった。そのパワーを“ごんた”に使った者もいたけれど、卒業して6年が過ぎ、出会う生徒がみんな立派に見える。つい先日テレビ局に勤めている生徒が池高に「ロケ協力」を頼んできた。旅行社に勤めた生徒が営業に来たりもしている。こうして卒業後も母校を訪ねてくれることは喜ばしく思う。今風に言えばあの生徒達には「生きる力」が溢れているんだろう。きっと池高で、英語や数学の力よりも、自分たち自身が生きていく力を身につけてくれたんだろう。そう思えることが、私には本当に嬉しいことである。ありがとう、みんな。

# 47期生

岩城 俊雄

—修学旅行を中心に—

1992年のスタートだが、担任団のメンバーは、半数の6人が池高に転任して2年目という顔ぶれ。前年に始まった府教委の新しい人事異動方針のためである。

そのこともあってか、担任会では活発な論議が行われた。学年主任は英語科の岸田教諭。1年生を迎えるにあたって、私達として、これだけは生徒に訴えていこう、この姿勢だけは保っていこうと話し合った結論は、①基本的な生活習慣の徹底、②予・復習の習慣化、③“いつでもどこでも一声を”の3点であった。

どれもごく常識的なことではあるが、担任会では、生徒に関する話題をなるべく多くとりあげ、丁寧な意見、情報交換が行われたことが印象に残っている。当然ながらいろんなクラスが生まれ、多様な生徒がいたが、個々の生徒に向き合っていこうという姿勢は、意見の違いこそあれ3年間を通じて大切にされたように思う。

47期で一番特徴的だったことといえば、修学旅行といえるのではないかな。

まず、行先の決め方がそれまでとは違った。よく議論する担任会だったが、従来の、生徒からのアンケート方式をめぐって賛否両論、その結果、あえて担任会主導で行先を決定することとなった。従来の方法を上級生などからきいていた生徒からすると、不評だったこと、次年度からは再びアンケート方式に戻ったことを思うと、複雑な気持ちもあるけれど、担任会の中で議論を尽くしたという点では、あれはあれで良かったのではと思える。

行先は、壱岐や、南東北など、いくつかの候補地の中から、四国・土佐に決まった。これも様々な検討を加えた結果の多数意見であった。土佐、というのも、修学旅行先としてはやや珍しいとこ

ろか。第一印象としては地味なので、生徒たちには不満の声もあったが、その分、計画への生徒参加も含め、内容でよりよいものをつくらうという我々の意気込みは強かった。

コンセプトは、“のんびりいこう”—そんな感じだったように記憶している。キャッチコピーとしてあったものではないが、土佐の自然や人とふれ合いながら、とにかくゆっくりと楽しもう、細かなタイムスケジュールで忙しく動くのではない手作りの修学旅行を、という趣旨で、これも47期の特色といってもよいのではなかろうか。

しかし、下見は実に精力的で、食欲であった。高松に始まり、四万十川の中流まで、最大限足をのばした。足摺岬では、太平洋のかなたから昇る朝日が、水平線から離れるその瞬間に、一同感嘆の声をあげたものである。現地の方々もとても好意的で、大阪からやって来る高校の修学旅行に寄せる期待の強さを痛感した。

本格的な準備は2年生になってからであるが、修学旅行委員会を中心にメニューづくりに一番大きなエネルギーを注いだ。



先に述べたコンセプトは、どのクラスにも、四万十川（中村市）での自由行動、足摺岬での自由行動を旅程に入れるというところに現れていた。高知市内自由行動というクラスも6クラスあった。その際、クラスのグループが、どこを歩き、何をするか、大体の予定を

立案して本番にのぞむことになった。

初めての土地、ということで教師たちの思い入れも結構強いものがあった。担任ではないが付添の教員として参加した世界史の北川教諭は、実はトンボ研究の専門家でもあるのだが、四万十トンボ自然館への誘いを熱く語り、同じく地学の河原林教諭は、竜河洞の見学や、佐川での化石採集に意欲を燃やす。2年からの学年主任で地理の長枝教諭は、変化に富む四国を、「大陸」と形容し、風土と人とのつながりを感じ取ってほしいと訴えた。坂本竜馬だけでなく、植木枝盛など、自由民権を求めた人々の存在に思いを寄せて欲しいという声もあった。地元出身、体育の山崎教諭は、

「いごっそう」や「はちきん」といわれる土佐人  
 気質の観察を勧め、国語の海江田教諭は、「懐深  
 い四万十川であなたも心に残るワンシーンを創っ  
 て下さい」と、さすがは映画通。

教師とは欲深いもので、いろんなことを生徒に  
 望み、託し、求めるもの。どこまで通じるかは別  
 として、これは教師の善き性とでもいおうか。

出発は10月19日。7時に新大阪駅に集合。天気  
 は快晴、絶好の旅行日和に気を良くしてスタート、  
 と思いきや、一抹の不安が的中し、二名が時間を  
 過ぎて現れず、家は出たとのこと。列車の出発  
 間際になって、駅構内をさまよう二人をやっと発  
 見して「ひかり61号」に飛びのるというハプニン  
 グ。教師は、心配性であるという。これは悲しい  
 性だが、二人はあらためてそのことを教えてくれ  
 た。

岡山からバスにのりかえ、瀬戸大橋を渡って香  
 川県へ。讃岐といえぼうどん。修学旅行最初の食  
 事は、「うどん学校」での手づくりうどん。太い  
 の、細いの、とあったが、自分たちで切り、ゆが  
 いたうどんはやはり格別であった。

一泊目は高知市で、メインの足摺、四万十川へ  
 行くための宿泊。高知近辺では、山北みかん園に  
 9クラス、濃厚な味は逸品だった。翌日、岸本海  
 岸で地曳網とパーベキューが3クラス。これらグ  
 ルメ派に対し、竜河洞や、佐川地質館という、堅  
 い(硬い?)クラスもあった。ちなみに、佐川地  
 質館では2組のKさんが、記念すべき5万人目  
 の入場者ということで、地元テレビのニュースに報  
 じられ、新聞にも載った。

土佐は広い。2日目の午後は専ら移動。そして、  
 3日目、4日目と、先に述べた自由行動を中心と  
 して、さらに竜串海岸、四万十川遊覧などと、多  
 展開で池高生が西土佐の各地を楽しんだ。この2  
 日間で生徒たちが何を感じてくれるかが、成否の  
 問われるところであった。

池高新聞の記事から、生徒の声を拾ってみよう。

「一番印象に残ったものと言えば、何といっ  
 ても四万十川。日本最後の清流と言われるだけあ  
 って、水がとても澄んでいました。沈下橋の方まで  
 行くと、川の水は、もしかすると水道水よりも澄  
 んでいるのではないかと思うほどでした。又、グ  
 ラスボートで見た海の澄んでいたこと。そして、  
 クラスで肝だめしをした時の星空。星の数が多  
 すぎて逆に気分悪く感じる程でした。修学旅行に  
 行く前には、何もないから面白くないのでは、と思

っていましたが、素晴らしい自然、それだけで楽  
 しめました。四万十川を見ても、何を見ても、  
 「めっちゃきれいや」としか言えなかった自分の  
 言語力が情けなく思うほど素晴らしい所でした。」

各クラスの文章が紹介されているが、総じて、  
 自然を満喫したことの喜びと驚きということが共  
 通していた。地元の人との交流を、「おせっかい  
 なまでに、あたたかい人情にふれ」と述べた感想  
 もあった。

私達が意図したことは、概ね達成されたのかな  
 と安堵した次第である。その後、四国を訪れた修  
 学旅行はない。飛行機の利用も認められて、行先  
 も速くなった。47期は、一番近い所へ行った修学  
 旅行かもしれない。それで長く校史に残るとした  
 ら、それもまたいいことだろう。そして、生徒た  
 ちが、現在は多くが社会に巣立っているが、あの  
 四万十の清流を覚えていて、日本や、世界のどこ  
 かに、再び美しい自然を蘇生させるような願いや  
 営みを自らのものとしてくれたとしたら、それこ  
 そ望外の喜びである。

47期生の歩みを記すつもりが、修学旅行のこ  
 とで随分と字数を費やしてしまった。しかし、多少  
 自費的になるのを許してもらえば、あの大きな行  
 事へのとりくみの中に、当初申し合わせた私達の  
 姿勢は反映されていたということはいえるだろ  
 う。力及ばぬ面も当然ながらあった。とりわけ、  
 信念(?)をもって、行くことを拒んだ生徒との  
 話し合いは、今も一点の痛みとして心にある。が、  
 それもまた、いろんな考え方の人間がいることの  
 証左でもある。それを認めることも、“いつでも  
 どこでも一声を”の趣旨に通じるのではないか。  
 47期生の3年間は、他の学年もそうだが、山あり、  
 谷ありで、決して平坦なものではなかった。500  
 人近くの間が、一つの道と同じように進むはず  
 がない。喜びも苦しみも、道から少しそれるこ  
 とも当然のこととしてあった。そんなかれらと共に  
 過ごした3年間、一人一人が何を心に刻んでいた  
 のか、いつか、誰かから聞くこともあるであろう  
 と楽しみにしつつ、60周年記念誌の一部とさせて  
 いただくことにする。



# 48期生

鈴木 康嗣

## 1年生

平成5年入学の48期生は、初めての40人学級の実施、旧教育課程最後の学年、入試の応募者が573人で定員480人の1.2倍の高い倍率になるなど話題の多いスタートでした。

担任団は、1組渡辺俊、2組吉川、3組木本、4組岐田、5組田口、6組金川、7組牧坂、8組吉岡、9組三浦、10組山本義、11組井上、12組渡辺弘、学年主任、鈴木で、うち9名が池高での初めての担任とあって、フレッシュな構成メンバーで校訓の自主・自律のもと、一つの型にはめず個性豊かな人格の育成を目指そうという思いがあったように感じられました。

オリエンテーションに続き、HRでは「進路だよりNo1」を配布し、1年間の進路計画とともに、授業の大切さ、学習習慣の確立などを強調しました。また、入学以前から検討を進めていた修学旅行のコース決定のアンケートも実施され、集計結果は、僅差で体験学習旅行、行き先は南九州となりました。

春の遠足（4月28日）は、仁川ピクニックセンター、甲山教育キャンプ場、六甲市々原など色々なコースの下見をしたが、いずれも満員の状態で、伝統の能勢妙見山登山となりました。天台山、上杉尾2コースに別れて新緑とヤマツツジの急な山道を登り、ホッとしたのもつかの間、昼過ぎになって雨が降りだし、クラスによっては昼食もそこに雨の中の沢下りとなってしまったのは残念でした。

中間試験後の体育祭では、3年生の指導の下、大応援合戦が繰り広げられ、規模の大きさとその華やかさに感激した生徒も多かったように思います。

体育祭終了後から、1学年主催による中学校訪問を始めました。地元（池田市、箕面市、豊能郡）の中学校との交流を通し、今後の生徒指導に役立てると共に池高への理解を深めていただくという趣旨で始められたものです。

訪問校は、箕面市は三中を除く5校、池田市の全中学および吉川中学校の9校となり、交流を通じて当初の目標を達せられたように思います。現

在では、学校行事として第1学区の中学校との交流会へと発展したのは喜ばしいことです。

夏休みの初めの5日間の地学の野外実習が、箕面駅→箕面の滝→政の茶屋→オヶ原林道→箕面山荘→箕面駅のコースで行われました。岩石の特徴・違いの観察、地形と地層・岩石の関係や箕面の自然の歴史など、教室では勉強できない内容を、観察を通して学ぶことができたすばらしい実習でした。

2学期は、文化祭の準備で始まりしました。クラスでの討議は1学期から行われており、テーマのDREAMにふさわしかったかどうかは別に、各クラスの取り組みは次のとおりでした。

- 1組（ゲーム）ウッキータウンの事件簿
- 2組（模擬店）喫茶「金色夜叉」
- 3組（野外展示）門
- 4組（模擬店）スカーレット
- 5組（ゲーム）バターダーツ
- 6組（創作）暗闇迷路
- 7組（模擬店）かき氷「南極」
- 8組（バザー）越後屋
- 9組（野外展示）北斎
- 10組（ステージ）ドラえもん
- 11組（創作）お化け屋敷
- 12組（ゲーム）バターゴルフ

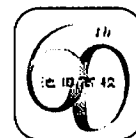
9組は、北斎の絵を写真にとり、これを分割し画用紙に描き、張り合わせるという根気のいる作業に取り組んでいた。また、7組のかき氷屋は、天候に恵まれて大いに繁盛していた。どのクラスも文化委員を中心に頑張っていたようです。疲労のため動けなくなり、終了後自宅まで車で送った生徒がいたことを思い出します。

中間試験後の秋の遠足（10月29日）は、次の4方面に別れて実施しました。

- 1、2組 飯盒炊爨（西宮市甲山教育キャンプ場）
  - 3、4、8組 正倉院展と奈良公園
  - 10、11組 須磨海浜公園と須磨離宮
  - 5、6、7、9組 神戸布引ハーブ園と異人館
- 2学期後半から3学期にかけ、学習内容も難しくなり成績面での差が目立ち始め、進級がややぶまれる者もありましたが、なんとか全員無事1年生を終えることができました。

## 2年生

春の遠足（5月2日）は、橿原神宮駅→石舞台→飛鳥駅のコースで行いました。仏教伝来、布教の礎となった日本最古の寺院の飛鳥寺、田園の中



にぼつりと佇む巨大な石造物の石舞台古墳、古代のナゾの扉を開いた高松塚古墳と、はるか過去のメッセージを聞くことができた1日でした。

6月の生活・学習実態調査では、平均の家庭での学習時間が平均1時間57分で、1年の時に比べると少し減少したにもかかわらずトータル学習時間が増えたと答えた者が半数を越えていたのは、2年生になって塾・予備校の利用者の増加が想像されました。

6月の体育祭準備と並行して、生徒の修学旅行委員会がつくられ、コース選択の原則が確認され、クラスでの話し合いも進みました。

9月は、修学旅行と文化祭の準備が重なり、忙しい毎日が続きました。そのために文化祭の各クラスの取り組みは、次のように短期間集中型の野外展示や模擬店が多かったように思います。

- 1組 お化け屋敷 (ジョニーの部屋)
- 2組 バザー
- 3組 お化け屋敷ドロンパ
- 4組 水戸黄門
- 5組 中華屋梅屋
- 6組 気球
- 7組 ビザ餅
- 8組 ジャミラの部屋
- 9組 写真看板
- 10組 だがしや
- 11組 体力測定ゲーム
- 12組 パッチワーク

2つの大きな行事の間の中試験の成績は、全体に芳しくない結果になったようです。

2年生の最大行事の修学旅行(10月23日~27日)は、林田温泉三連泊で行われた。

2日日以降、次の各コースからクラス単位で3つを選ぶ方式で実施されました。

- ◇ (A) 南国情緒豊かな長崎鼻
- ◇ (B) 桜島と鹿児島市内自主活動
- ◇ (C) 青島、シーガイア、古墳群
- ◇ (D) 球磨川下り、クラフトパーク、玉泉洞
- ◇ (E) ろくろ、グラススキー高千穂牧場

最も人気のあったのは、話題になっていたシーガイアを含む(C)コースであった。

人口海浜のあるシーガイアについては、スクール水着はだめ、アトラクションはすべて有料などとレジャー色が強すぎて、担任会でもコースに入れるかどうか迷ったほどです。

グラススキーで背中を打ったり、川下りで船酔

いしたり、全体レクが盛り上がったこと、また、帰途の「さんふらわあ号」では、ほとんど全員が船酔い状態でクラス点呼も十分取れなかったことなど、いろいろなつかしく思い出されます。

11月4日には、3年次の科目選択の説明会、中旬には保護者懇談と来年度の学習と進路に向けての重要な取り組みが続き、学習面でも落ち着きを取り戻し、真剣に考え始めた時期でもありました。

1月には、阪神大震災にみまわれ、2年生にも神戸からの特別転入生がいましたが、皆の物心両面にわたる暖かい支えがあり、無事卒業進学することができました。

### 3年生

4月27日の学年集会では、1年間の進路指導計画が説明され、それぞれの進路に向かってスタートを切りました。6月の進路説明会、7月の三者懇談、夏期講習、9月中旬には指定校推薦の校内選考と次々にスケジュールが進みました。

春の遠足(5月2日)は、次のような企画になりました。

飯盆炊爨—神戸市ヶ原(1、4、6、7、8、9組)、千里中央公園(3、12組)、篠山(2組) 笠置(10組)、散策—嵐山(5、11組)

6月の体育祭では、3年生が各チームのリーダーとして頑張りました。

この年の応援合戦は、アピールとダンシングとシンボルを含めた、総合の優劣を競うものになり、赤組(2組)が優勝し、競技の部及び総合では青組(6組)が優勝しました。

受験勉強が気になる秋の文化祭では、ステージ部門でまじめに本格劇をねらった1組の「王様とレストラン」と、劇本体と劇中テレビの中の劇とを二重劇にして見せた、7組の「ルパン三世」が好評を博し、映像部門では、2組の映画「血みどろボカホンタス」が本格的カラー映画を追求した意欲的な作品であるという評価を得たのを思い出します。

3年間の総仕上げである進路状況の詳細は別紙に記載のとおりですが、9月の指定校推薦で33名、専門学校19名、公務員4名、国公立合格者が延べ64名、私立合格者が延べ432名となりました。

以上48期の3年間を思い出すまま書き記しました。紙面の関係で3年生の記述が短くなってしまいましたが、お読みになった各自で補っていただければと思っております。

# 49期生

久保 彰男

平成6年2月10日（木）職員会議において教頭より新1年生担任団の発表

広谷良韶 平井文友（国語）、若林勉 北川一馬（社会）、久保彰男 森田薫 芳澤裕之（数学）、濱山中朗 足立泰彦（理科）、裏垣加奈美（体育）、松本清 梅田美枝子（英語）、以上12名で発足直後、互選により、学年主任・久保（数学）選出。

やっと態勢がととのい、これからというところで、いきなり新担任団から3人を転勤で失い、お三方の無念もさることながら、出端をくじかれた思いの船出であった。結果としては、案ずるより生むが易しで、入れ替わりは多かったものの、多士済済の素晴らしい学年団であった。生徒にも恵まれたことは、以下に寄せられた文章からもあきらかである。新カリキュラム、2年次の緩やかな選択制、3年次のコース別クラス編成などこの学年から始まったことも多く、学年教務の森田教諭はじめ、ご苦労をかけた。担任会は3年間休み無しで度々臨時にも開かれたが、和やかな中にもよく意見が出、充実していたと思う。全員が全生徒の担任のような関係でクラスの壁は無きに等しかった。

今回この稿を書くにあたり、旧担任団に招集をかけたところ、職員会議後の短い時間にも拘らずすぐに集まっていたが、まるで同窓会の趣であった。編年体で4000字の依頼であったが、当時の雰囲気や伝えたくて、敢えてメンバーに原稿をお願いし、「49期への思い」を書いて載いた。字数の関係でお断りした方に申し訳ない気持ちである。依頼された方の意に添わない形になったことをお詫びする。

＝生徒と共に＝ 芳澤 裕之

49期生は、私が池高に着任してすぐに46期生の担任をした後、「この3年間で学んだことを試してみよう」と意気込んで担任をした生徒たちです。1年生のときから「指示を待つな！自分で考えて行動しろ！正しいと胸を張れる高校生活を送れ」と徹をとばしてきました。

そんな生徒達とのいちばんの思い出は、生徒達が3年生になった時の体育祭・文化祭です。その年私は生活指導部から自治会の担当に変わり、自

分の教師生活で初めての自治会担当を体験することになります。体育祭の係となり、右も左も解らないまま始めたのですが、生徒達に助けられ役割を果たすことができました。特にこの年から3年生のチームリーダー達の組織を、体育祭運営部と並行して設置し、その生徒達に「自分達で体育祭を創り出せ」とはっぱをかけました。随分と乱暴で強引な注文を出しましたが、生徒諸君は見事に応えてくれ、おかげで大成功。以後、現在まで体育祭運営のスタイルはその年のスタイルが引き継がれています。秋には文化祭がありました。この年の文化祭では「教員劇」も行われましたが、同時に中夜祭のステージを活用した「昼ステージ」が、3年有志の手で生まれた年でもあります。生徒が私の元にやってきて「昼ステージをやらせて欲しい」と言います。すぐに担当の教員と文化祭運営部に許可をもらい「GO」サインを出しました。生徒達どうしが本当に仲の良かった49期生は、そのステージを成功させました。恥ずかしくもその時の生徒達と一緒に、ステージの上で感涙にむせんだことを覚えています。

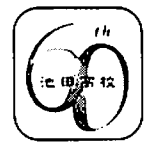
この3年間私なりに精一杯走ってきたつもりです。そのことは生徒達に本当に助けてもらい続けた3年間であったともいえます。49期生の生徒達に与えてもらった充実感が、私にとっては次の3年間のスタートを切るエネルギーになっています。ほんとうにみんなには心の底から感謝しています。わがままで、乱暴で、強引な教師でしたが、みんなのおかげでいい思い出ができました。本当にありがとうございます。

＝家庭科男女共学元年＝ 山本 恵子

49期生は、授業のみではなく学校生活も男女が協力し、支え合った学年であったと思う。家庭科教師の私にとって、49期生は特別の思いのある学年であった。「なんで女子は家庭科なの」と自分の高校時代から思いをいっていたが、いよいよ男女が同時に家庭科の授業をうける時が来たのかと感慨深かったものである。しかし、49期生の諸君はなんと、男女と一緒に学ぶのがごく当たり前という態度、とてもうれしかったのをなつかしく思い出す。

男女が協力して家庭を築いて行くんだよ、話合って分担を決めればいいと授業で話してきたつもりだ。いざ調理実習、男女が同じ班で料理をつくり、互いに味見をする。上手な男子もいれば、苦手な女子もいる。目の輝きがあった。「親にな





るとは」の導入で、保育人形を抱きかかえ恥ずかしそうにした顔が目につく。

**＝三週連続同和HRの思い出＝** 平井 文友

二年次同和教育方針検討の担任会で、それまでの各学期・コマから、「コマまとめ取りで行っては」とのありがたいご助言を受けました。単発ではテーマは幅広くなるものの、それ自体を深める学習には限界があります。「在H」を年間テーマに考えていたので早速連続方式に乗りました。

一方、一年次から「生徒自らが創る同和HR」を目指してディベートなどを導入してきましたが、二年次では運営そのものもHR委員に任せたいと思いました。理由は従来の一斉講義形式に限界を感じていたからです。それは生徒達の「結論はわかっている」の声に現れていました。他人事に止まっている壁を破り、自らの課題として受けとめ、行動につなげていくために、参加体験型学習の必要性を感じていました。その意味で学習会・講演会・討論会の準備や司会進行をHR委員が担い行動する中で、そうした意識変化が見られ、受ける生徒たちにも主体的姿勢が感じられ、まさにこの雰囲気の中で本名宣言が出たことはいずれの限りでした。

**＝修学旅行＝** 篤本 俊治

1996年3月1日（金）頃の山形市の日没時刻が17時32分とあるから、蔵王中央ロープウェイ温泉駅に最初のクラスが到着予定の17時からそんなに時もなく暗くなったことになる。六台目の最後の組が山上烏兜駅（1387m）から宿舎まで歩行する道のりは、暗さにその高度の寒さと降り出した雪も加わり、ミニスカート風生徒達にはもちろん、厳しい冬山行になっていた。

「蔵王パラダイスロッジ」には、若林・浜中・芳澤・森田・栗垣・山本恵・平井各組と川岸校長・久保・長橋・山本義・津村の各氏。「スターライトホテル樹氷の家」には、山下・篤本・大竹・原各組と永川・味舌・海江田・菊池の各氏がそれぞれ宿泊したが、晴れて明るい時はすぐ分かり合えるこの宿舎が、一夜ガスがかかって、教員打ち合わせの後自分のホテルに帰るとき、遭難するのではと心配した程の場所となった。そんな高山気候が体験できた旅行でもあった。当然雪質も良く、生徒達もこの上日月で、充分、スキーなどを楽しみ、ほとんどの班が、地藏山頂駅（1661m）まで登ってスキーで降りてきた。

名物の樹氷もそれなりにあり、雄大な風景のス

キーコースで、大阪の日常とはまた別の素晴らしい修学旅行であったなあと思出すことである。帰りに新幹線から富士山がくっきり見えたことも、非常に印象的であった。

**＝進路指導から＝** 若林 勉

進路指導の総括は難しい。各人の総括など簡単に出るものでもなく、自分の納得のいくように歩み続けているのだから。数字としての結果は「進路のしおり」を参考にして載ければと思う。だから49期生の進路指導にあたった者としての感想程度のことになるがまとめてみたい。カリキュラムが新しく変わった最初の学年、11学級になった学年として、生徒にも担任団にもある種の緊張があったと思う。文I・文II・理系というコース選択で担任も生徒諸君も迷いはあったと思うがそれぞれ当初の目的は果たせたのではないか。文IIでは私立大学進学において女子の進学を中心に頑張ってくれたと思う。文I・理系では一浪を含めて国公立大への進学にも成果を挙げてくれたと思う。49期生だけでなく、困難に遭遇しつつも進路を自ら切り開いているたくさんの池高生に頑張ってくれたいと思います。

**＝生活指導から＝** 山崎 政範

49期生の雰囲気は、入学当時から活気に満ち溢れていたという印象が強い。入学間もない体育祭でも、すでに池高生になりきって楽しんでいる様であった。更に驚かされたのは、文化祭の中夜祭を1年生が主担したことである。楽しむこととふざけることの両方が交錯するのがこの年代の特徴といえるが、1年次より学年生指の芳澤を中心に、生徒向けや時々保護者向けにもプリントを配布したり、節目節目で生徒達に直接語りかけ、学校における行動のあり方、本来の姿を見つめさせることを、学年団で取り組んでいた。49期生は、上から管理され行動を制御するのではなく、池高伝統の、自分達で判断して行動できる生徒諸君であったと思うし、生徒達と学校・教師が一体化していた学年だったと思う。

**担 任 一 覧**

	国	社	数	理	体	家	英
	広平篤 谷井本	北若山 川林下	森芳久 田澤保	濱足中 立	栗垣 崎	山本 松梅原	大味 原竹舌
1年	4 2	11	5 6 主	10 1	3	8	9 7
2年	10 7	1 4	5 3 主	2	6	9	11 8
3年	2 9	3	11 4 主	8	5 10	1	6 7

# 50期生

安場 敏

## 1、1年次（1995年度）

節目のよい第50期生は、1995年4月の入学であった。募集定員は40人学級の10クラス、400人であった。合格者に対して、例年のとおり「高校生活への抱負」という題で作文を書くことを宿題としたが、ほとんどの生徒は未知の高校生活に対する不安とともに、「勉強するぞ、クラブにも入って頑張るぞ、友達もたくさんつくりたい」と、あふれんばかりの希望と決意を表明していた。

担任団は、学年主任高雄、1組佐藤、2組前橋、3組平尾、4組福島、5組川田、6組安場、7組長橋、8組西山、9組岡野、10組高山で構成された。

担任団としての指導目標は、ア、基本的生活習慣の徹底、イ、予習・復習の習慣化、ウ、失敗を恐れず挑戦を、などであった。教室配置は、1～5組は本館、6～10組は北館であった。

生徒も担任団も緊張感をもってスタートした。5月11日実施の生活・学習実態調査によると、家庭での学習時間は、全体の約25%の生徒が1時間以内、約20%が2時間以内、55%が2時間以上とこたえていた。その時点でのクラブ入部率は77%であった。池高生活への満足度は、20%が不満またはやや不満としていたが、80%はおおむね満足とこたえていた。悩みの内容は、圧倒的に「授業がわからなくなりそうだ」「学習の仕方がわからない」「クラブと学習の両立ができるだろうか」という学習に関する不安であった。

5月2日は恒例の春季遠足であった。新入生は、伝統的に妙見山登山であった。ところがこの日は前日から雨であった。当日の朝はまだ降りつづき、能勢電車に乗っている途中あたりでやっと雨が上がった。多くの人々は「中止」を予感していたが、「どんな天候でも現地までは集合」となっていたので、みんなときわ台の集合場所まで来た。欠席はほとんどなかった。中止か強行か、みんなの中に動揺が走っていたところに遠足係の平尾教諭が「決行だ！」と決断した。「雨は上がりましたね。これはやれますよ。雷雨がなければやりましょう。中止すれば楽かもしれないが精神がだれるしね」と決断の言葉。平尾教諭は、長年の山好きで、かつて登山部の顧問もやっていた山歩きのベテラン

であった。さて、すべりながら、泥を跳ねながら、水のしたたる新緑の登山道を登った。頂上に着いた頃はもう最高の快晴であった。新緑、透明な空気、さわやかな風、白雲の浮かぶ青空のもとで弁当を開いた。おいしかった。帰りは沢下りであった。雨で増水した沢に、ときおりザンプとはまりながら、たのしく全員無事に下山した。

2年次に予定の修学旅行の行き先は、入学直後から検討をすすめていた。じつは、大阪府教育委員会が、来年度より航空機による修学旅行を解禁するとの決定をしていた。そこで、沖縄を含んで11方面の検討からはじめ、五島列島、壱岐の島、南九州、沖縄と候補地をしぼり、資料を提示したうえ生徒全員の投票にかけた。結果は予想どおり圧倒的に沖縄であった。池高初の沖縄修学旅行の実現である。大阪府立高校の中で沖縄修学旅行計画は6番目と聞いた。下見を10月下旬に実施し、着々と準備を進めていった。この1年次より、修学旅行に向けての沖縄学習、平和学習をすすめていった。折しも、沖縄の一部米軍基地の使用期限にかかわる問題が政治問題となり、また、米兵の少女暴行事件が起こって大きなニュースになっていた時でもあった。

1年生にとって初めての池高体育祭は、高校のすごさというものを実感することとなった。体育祭は3年生主導の取り組みであるが、中学と比べてその規模と華やかさに驚き感動する生徒が大勢いた。

池高の文化祭も初体験であった。各クラスの取り組みは次のとおりであった。1組演劇「一休さん」、2組おばけ屋敷、3組入場門制作、4組たこやき屋さん、5組演劇「ドラえもん」、6組巨大熱気球打ち上げ、7組巨大池高バッチ制作、8組お好み焼店、9組演劇「北斗の拳」、10組演劇「ゲゲゲの鬼太郎」などであった。演劇に取り組んだクラスが多かったのがひとつの特徴であった。とりわけ5組の「ドラえもん」は高い評価を受けた。

この50期生は、入学直前の1月（17日）に阪神大震災にみまわれた生徒たちであった。神戸で家が倒壊し、豊中に仮住まいして池高生になった者もいた。

## 2、2年次（1996年度）

担任団は、主任の高雄教諭と、担任の川田教諭の転勤によって少し構成メンバーが変わった。学年主任福島、1組佐藤、2組平尾、3組前橋、4

組島山、5組安場、6組高山、7組長枝、8組長橋、9組西山、10組岡野という構成になった。

春季遠足は5月2日に行われた。学年全体として京都・嵐山方面、神戸・六甲方面、宝塚・生瀬の武庫川原でバーベキューという3コースに別れての実施であった。武庫川原コースにはトイレのないのが気がかりであったが、いずれも無事終了することができた。

体育祭は、3年生のリーダーシップのもと、中核となって活躍した。文化祭にもよくとりくんだ。各クラスの出し物は次のとおりであった。1組「カジノと喫茶」、2組模擬店「平尾邸」、3組入場門制作、4組喜劇「土日サスペンス劇場」、5組演劇「学級閉鎖」、6組巨大「迷路」、7組創作映画「ひと夏の思い出」、8組駄菓子屋さん、9組模擬店、10組ゲーム大会。とりわけ、5組の演劇「学級閉鎖」は高い評価を受けた。

池高初の航空機を使った沖縄修学旅行は、多くの収穫をえて無事終了できた。事前の学習で、沖縄の歴史、民俗、文化、それに、沖縄戦、戦後の米軍支配と返還、基地問題と人権問題を結合しての学習などをやった上で本番に出発した。伊丹と関空とに別れて出発したが、第1日目は、主として戦跡めぐりと語り部の体験話を中心とした平和学習、2日目と3日目はオプションとして、史蹟、民俗、自然にくわえてシュノーケリングなどのマリンスポーツを体験した。最終日はひきつづき名勝めぐりとショッピングであった。

3年次の科目選択は2学期の重要なとりくみであった。結果は、文Ⅰ(センター試験受験コース)144人(36.4%)、文Ⅱ(私大受験コース)98人(24.7%)、理系154人(38.9%)という希望状況であった。

この年の大きなニュースとしては、アトランタオリンピックがあり、百武すい星がとび、ロシア船から重油が流出し、O-157食中毒が大きな問題となった。

### 3、3年次(1997年度)

いよいよ3年次、担任団の構成は次のとおりであった。学年主任福島、1組平尾、2組岡野、3組渡辺俊、4組高山、5組長橋、6組佐藤、7組島山、8組前橋、9組西山、10組安場であった。3年次は、ひたすら卒業と進学に向けて勉強していくのであるが、6月の体育祭までは全校のリーダーとして責任を全うしなければならない。

その前の春季遠足は、クラス別に実施するもの

であったが、エキスポランド、京都散策などに分かれた。

体育祭は、池高の華やかな伝統を引き継ぎ、リーダーとしてよく健闘した。文化祭でもステージや映像作品ですぐれた成果を発表し、全体をひっぱっていった。出し物は、1組は喫茶店、2組は模擬店とゲーム、3組は創作映画「政略結婚」、4組は演劇「高校生日記友情」、5組は模擬店とかご屋、6組はカラオケと卓球場、7組は演劇「ロミオとジュリエット」、8組は創作ピアノ劇「ロミオとジュリエット」、9組は演劇「太陽に吠えろ」、10組おぼけ屋敷というものであった。とくに、7組と9組の演劇は高い評価を受けた。

3年間の総決算である大学への合格状況、進学状況は次のとおりであった。

〈合格数〉国公立大53、私立大375、短大57、専門学校9。〈進学者数〉国公立大46(卒業者の11.7%)、私立大170(同、43.1%)、短大25(6.3%)、専門学校9(2.3%)。

この年のニュースとしては、消費税が3%から5%にあがり、ハール・ポップ彗星がとび、ベルーの日本大使館人質事件が起こった。

## 51期生

長田 廣明

### ●学年団の発足から入学式まで

51期担任団は、国語・佐野、海江田、津村、社会・岩城、松石、数学・佐桑、理科・山口、神山、体育・濱口、英語・長田、仁田尾のメンバーで発足した。2月13日に第1回学年会を開き、その後入学者選抜試験まで51期生を迎える準備を進めたが、山口教諭が転勤となり、新着任の末松教諭に交代した。選抜試験の結果は男女共200名と珍しく同数の合格者だった。入学式は4月8日例年通りに行われた。51期担任団は経験豊かなベテランぞろいだが、本校で初めての担任が過半数の6名で、実年齢はともかく、若々しくフレッシュな構成となり、その雰囲気は3年間変わることはなかった。

### ●1年

入学式を終え、翌9日は、対面式、新入生オリエンテーション、部活動紹介。授業は10日より開

始、17日には第1回実力考査(国、数、英各60分)。生徒諸君の3年間にわたる試験との格闘(?)が始まった。修学旅行は、生徒へ複数の候補地を設定した希望調査で、第1位の沖縄に決定し、計画を進めた。5月2日の遠足は、妙見山登山。山上でバーベキューを行った。まだクラスの人間関係が希薄な時期に、材料等の事前準備を含めた班別行動がうまくできるか懸念したが、生徒たちはてきばき準備し、大いに楽しんでくれた。中間考査を経て、6月7日体育祭。1年生はこの池高最大のイベントを初めて経験し、池高生であることを実感したことだろう。5月の進路部による生活学習調査では、部活動加入率は76%、学校生活に満足、または概ね満足が78%で前年度とほぼ同じだが、授業がわからなくなりそうだという不安をもっている生徒が多くなっており、よりきめ細かな学習指導の必要が感じられる結果となった。また社会問題になっている不登校などの心の問題に関しては、担任相互の協力、養護教諭、教育相談係との連携、保護者との連絡を密にするなど、個々の生徒に対する丁寧な指導を目指した。また外部専門機関を積極的に活用し、助言を受けたり、保護者、生徒に案内を行った。特に、長年本校で「心の健康相談」を担当された精神科医の川端利彦先生、池田子ども家庭センターの中野豊子先生、センター嘱託医の大久保圭策先生には、3年間にわたりご協力頂いた。6月の保護者懇談会は例年どおり高い出席率で、本校の保護者の教育への関心の高さを示した。6月から7月にかけては担任団で中学校訪問を実施。同和教育LHRでは牧口一二氏の講演記録「ちがうことこそばんざい」をもとに障害について学習すると共に、同和教育についての意識をアンケートした。

2学期に入り9月3日第2回実力考査(国、数、英各100分)、21、22日文化祭。1年生も限られた時間の中でよく準備した。10月18日修学旅行・2年次科目選択説明会。250名を越える保護者が出席し、修学旅行の概要、2年次の緩やかな文系、理系コース分けとそれに伴う科目選択の説明及び質疑応答を行った。科目選択説明は、生徒にも学年集会を行った上、必要に応じて保護者もまじえて、担任が個人懇談を行った。選択を決めるに当たって、職業レディネステストの実施、卒業生による進路講演会、大学入試、専門学校、就職に関する基礎知識の提供等により、動機付けを行ったが、自分の進路の方向性を主体的、積極的に探っ

てゆくというには、まだまだ時間が必要な生徒も少なくなかった。11月には教科担当者と担任団との情報、意見交換の場として拡大学年会議を開いた。本校で初めての試みだが、有意義な集まりだった。12月には修学旅行の下見。50期が開拓した沖縄修学旅行の成果と経験を参考にしつつ、独自に地元との交流を目指した体験学習メニューを企画し、現地で施設の見学、関係者との折衝等を行った。選択希望調査では、文系197名、理系202名とほぼ半数ずつに分かれる結果となった。

3学期は、1月のLHRでの百人一首大会が楽しい思い出である。クラス対抗戦形式で行い、優勝した個人、クラスに賞状を授与し、大いに盛り上がった。2月の同和教育映画鑑賞は「学校Ⅱ」で、障害者問題についての認識を深めた。自治会活動では、本期生が後期執行委員長になったのをはじめ、2学期後半以降執行部、体育祭実行委員会で活躍し、池高伝統の自主自律の精神を継承していった。また部活動においても、1年生が中心的役割を担いつつあり、今後が大いに期待された。

## ●2年

本校で長年教鞭を執った佐桑教諭が退職し、後任に数学科の三浦教諭が入り新年度がスタートした。4月17日第1回実力考査(国、数、英各100分)、5月2日遠足。修学旅行の事前訓練もかね、京都方面を午前中班別行動とし、班でコースを決め、責任をもって行動することを課題にした。また各班で写真をとりコメントやイラストをつけ、壁新聞形式で後日発表した。見事な作品が幾つもあった。修学旅行も本格的準備に入った。個人の旅行ではできないことを、楽しく、有意義に体験しようという基本方針のもと、美しい自然の中で、平和について考えたり、地元の方々と交流する機会をつくるため、係を中心に企画を煮詰めていった。事前指導の一環として、5月に「GAMA月桃の花」を鑑賞した。生徒達は、沖縄戦の実相を描いたこの映画を真剣に見て、沖縄についてよく考えてくれたように思う。

2学期、文化祭では2年生は発表の中に「沖縄」を何かの形で入れようという課題を与えられたが、難問だったようだ。10月26日、いよいよ伊丹から沖縄へ飛び立った。那覇の宿舎で、ひめゆり同窓会宮城喜久子氏の講演を聞き、体験談を通して沖縄戦末期の惨状を改めて知り、関係者の方々の平和への熱い思いを学んだ。また壕(ガマ)を見学し、暗闇の深さを現場で実際に体験したこと

は、いつまでも残る思い出になっただろう。その後、恩納村に入り、体験学習を行った。ハーリー船、シーカヤック、魚釣り、紅イモ掘り、グランドゴルフ、琉球料理、琉球菓子作り、琉球舞踊、エイサー、サンシン、陶芸のうちから2つのメニューを個人選択するという方式で、実現までには地元との折衝、メンバー調整等多くの苦労があったが、美しい自然の中で商工会の協力により楽しく学び、地元と暖かく交流でき大成功だったと思う。地元の方々の運動会のリレーに飛び入り参加し、大声援を受ける一コマもあった。修学旅行が終わるとすぐ、3年次科目選択指導に入った。本校は進路希望にきめ細かく対応するため、理系、文Ⅰ、文Ⅱの3コースと多くの選択科目群を設けているのが特色だが、それだけに選択決定するまでには、本人及び保護者との十分な話し合いが必要となる。担任はできるだけ時間を割いて、丁寧な指導を心がけた。2学期は、全体指導でも個人指導でも極めて多忙な学期だった。

年が明けて選択者数は最終的に、文Ⅰ・182名、文Ⅱ・65名、理系・151名となった。3学期は進路希望の実現に向けて、学習努力と生活の自己管理の自覚を促す指導を重点とした。2月の同和教育映画鑑賞は、エイズの少年と友人の交流を描いた「マイフレンドフォーエバー」を見た。

### ●3年

数学科の三浦教諭が転勤し、一谷教諭が担任団に加わり3年がスタートした。文Ⅰが4、文Ⅱが1、文Ⅰ、Ⅱ混合が1、理系が4クラスの編成となった。第1回実力考査、遠足、中間考査を経て6月6日に体育祭を迎えた。3年生はダンスの振り付け、団旗、Tシャツの製作、アピールの神輿の製作に団の中心として活躍した。当日だけでなく準備も含めて、体育祭は池高らしさをよく感じさせてくれる行事であるが、51期生も先輩に負けず頑張り、体育祭の成功に貢献した。体育祭で「燃えた」後、希望進路の実現に向けて全力を尽くすべき時期になった。6月18日に進路学年集会を開き、入試状況を中心に説明し、生徒に自覚を促した。また保護者に対しても7月3日に進路説明会を開き、本校生の進路結果等の資料をもとに進路指導部より入試状況を説明し、進路実現への保護者の理解と協力を求めた。担任は期末考査後、夏期講習と並行して生徒、保護者と個人懇談を行った。夏期講習は例年通り、終業式後から8月初旬及び8月下旬に、3つの日程に分けて行われた。

うだるような暑さの中、8月24日より補充授業。実質的に2学期が始まった。9月の文化祭では、中夜祭主催クラスの3年某担任と学年主任が雨男であるためか、開始直後に大雨となり、珍しく中夜祭は翌日に延期となった。この時期は担任が指定校、公募推薦入試、センターテストに関する業務で多忙な時期でもあった。10月の同和教育LHRでは、3年間の学習の締めくくりとして筋ジストロフィーという難病をかかえつつ、自立した生活を送る若竹育子さんを講師に、障害者問題から何を学ぶかをテーマに講演会を行った。LHR委員と有志が自宅を訪問して伺った話をもとに、生徒たちの手でイラスト入りでバリアフリーの住宅の説明をするなどの資料を作り、事前学習をした。当日も有志が介護補助に当たった。受験生活の最中だが、自分の生き方を見つめ直す良い機会になったと思う。11月は第3回実力考査が行われた。

1月はセンターテスト、私大入試と続く中、30日に授業を終了した。2月、受験本番。多様な方式で受験機会を増やす私大入試のため、受験回数の増加傾向が見られた。2月26日卒業式。初めて、開式前に学校長の君が代斉唱についての言及があった。式は予定通り進み、有志のギター伴奏で卒業生一同「空も飛べるはず」を合唱して終わった。共に歩んだこの3年間には、人それぞれに思いがあるだろうが、卒業生諸君には、明日に向かって自らの資質をさらに伸ばし、活躍されることを心から願う。

## 52期生

山本 義厚

平成9年2月、新学年団の発足、気心の知れたメンバーが揃う。48期で一緒だった金川(国)、渡辺(社)、牧坂(体)、田口(書)、木本(英)に加えて、49期生を卒業させたばかりの森田(数)、芳澤(数)、本校では初担任となるベテラン奥(理)、北宮(英)と強力な布陣が構成された。私(山本)は、学年主任として、まとめ役や調整役ではなく、旗振り役を目指そうと決心した。

4月入学式、第一学年のスタート。式はスムーズに進行し生徒は担任とともに教室へ移動、体育館では保護者への挨拶が始まる。「学年団10人中

8人が池高経験者です(式場に安心感漂う)。平均年齢は45.1歳です(どよめき広がる)。若くはないですが若々しい気持ちでやります(笑い声)。」会場の雰囲気や和んだところで、学年団の指導方針の発表、「より優しく、より強く、より大きく」生徒を育てるため期待しつつ努力することをアピール。周囲への思いやりや自主性・向上心の育成の大切さについて保護者の共感を得ることができた。翌日のオリエンテーション、新入生に対し3つの願いに加えて、魅力ある授業・活力あるクラスづくりのために、積極的な姿勢を持ち多くの疑問を大切にすることなどを強調する。新しいスタート台に立ち、期待がおおいに膨らんだものである。

5月春の遠足、恒例の妙見山登山、少路高校に先手を打たれてクッキングセンターが押さえられたため、能勢簡易保険キャンプセンターでのバーベキューに変更。バスの送迎でトラブルがあったが、焼き肉や焼きソバに舌鼓を打つ中でクラスの親睦は深まる。

6月中学校訪問、第一学年の学年行事として始まり、5年目を迎えるに当たり、今後に向けての方向性を考慮しつつ実施。個人のプライバシーに十分な注意を払いつつ「気になる生徒」について中学校からの助言を得るとともに、7月には中高交流会を開催し、一年生の出身中学すべてに地元校としての参加を依頼した。各中学校からの声を聞かざり、交流会開催への要望は強く、今後は新入生に対する、より適切な指導のための「1年学年団行事」として、中学校訪問を行うとともに、「学校行事」として、池高のPR紹介の場や体験入学の場を設定するのが良いのではないかと、という総括を行うに至った。

9月文化祭、造形コンクールを学年独自で計画するも残念ながら不発、3クラスの参加にとどまる。本来の出し物と合わせて取り組むには、まだまだパワーやエネルギーが不足していることを実感する。

10月修学旅行下見、山本・芳澤・金川の3名で出発、生徒の計画に役立つよう強行軍の中、多くの資料を集める。金川カメラマンがおおいに腕を奮い、帰阪後写真資料を完成、沖縄の自然に触れることをテーマの1つにしようと話し合う。また、生徒の希望に沿って、スキューバダイビングを採用方向で考えることにした。保護者説明会では、芳澤チーフが沖縄レポートを報告。「生徒自身が

企画・立案・運営していく修学旅行」として、生徒達が個性を伸ばしていけるよう準備してきた旨を強調。内容についても、独特の芳澤口調は保護者を笑いの渦に。芳澤曰く「私、何かおもしろいこと言いました?」。ダイビングの安全性については、ビデオを使っただけの説明、「泳げない学年主任が20分間無事に潜っていました。それ位安全です(爆笑)」。安全性に細心の注意を払って計画を進めることを強調して終了する。

11月秋の遠足、自主性の育成に向けて生徒自身の手による企画として、神戸三宮・六甲方面、太子町みかん狩り、妙見山バーベキューなどに分かれて実施する。三宮での解散時、女生徒1名が急病のため救急車が出動、緊急時の連絡体制や班別行動の訓練に成果あり。

第二学年始まる。森田が教務主任に選出されたため、山口(数)が担任団に新たに加わる。新風の期待は大きい。その山口を中心としての5月春の遠足。明石海峡大橋開通にちなんで、淡路島へのバス旅行となる。あいにくの雨模様で、予約取消で一悶着あったり、バーベキューなどのクラス企画は十分に生かせなかったが、計画実行の中でクラスの和は深めることができた。

6月宮城喜久子氏沖縄より来校。千里阪急ホテルでの食事会、慣れない接待に緊張の時間を過ごす。翌日は体育館での講演会、「ひめゆり部隊」の一員として戦争の悲惨な体験や平和の大切さを強く訴えられる。生徒達は長時間に及ぶ話にも厳粛に耳を傾け、大きな感銘を受けた様子。修学旅行に向けて、事前の平和教育の一環として、大いなる成果をあげることができた。

10月沖縄修学旅行、天候にも恵まれ無事に終了、総括は次のとおりである。

生徒自身の手で修学旅行を創り上げ、生徒が自主的に行動するという目標のもと、長期的な取り組みとして、一年次より修学旅行委員会をおくとともに、行かせたい所よりも行きたい所を優先してコース設定を行った。また、旅行中は「室長プリント」を準備し、生徒自身が情報をつかみ、言われなくても必要な行動はとるという姿勢で運営した。

- (1) コース設定を主として生徒の手に委ねたことは、試みとして評価できた。
- (2) 壕見学や平和学習を強制しなかったことは、体裁を整えるだけに終わるより良かった。自発的に壕見学やひめゆりの塔訪問を設定したクラスが

出たのを評価したい。

(3) 室長プリントにより自分達の行動を確認するという方法は、かなり効果をあげることができ、消灯後の部屋間移動などで苦勞することも少なかった。

(4) マリンスポーツを導入したが、現地スクールの受け入れ姿勢は充実しており、生徒への対応に関しても安心で、生徒の評価も非常に高かった。保護者に対して説明会やVTRで十分な理解を得ることは、今後とも必要である。

(5) 修学旅行全体を通して、生徒の自覚と自主性に助けられた点が多く、生徒達は期待をかければ応えてくれると思われる。



2月同和LHR、卒業式での君が代斉唱が問題化する中で、生徒が国旗や国歌について自分の意見をしっかりと持てるよう、来年にかけて長期的に取り組むことを決める。

学年末進級判定会議、精神面での不安定さや睡眠障害などでの欠席者が増加の傾向目につく、今後の大きな課題である。

第三学年始まる。5月春の遠足、生徒の希望に従って5つのコースに分かれて実施。千里中央公園での飯盒炊さん(1、6、8組)、京都散策(3、7、9組)、水無瀬飯盒炊さんと京都散策(2組)、ユアサ琵琶湖スポーツセンター飯盒炊さん(4組)、一庫ダム知明湖キャンプ場飯盒炊さん(5組)。

5月進路だよりからの抜粋、「まず一番に気が付いたのは、ほとんどの人が春休み中に入試勉強のスタートが切れなかった。それどころか4月になっても切れていないということです。今のままで大学に行こうなんて考えが甘すぎます。次に気が付いたのは、予備校に通っている者がほぼ2人に1人の割合にいるということです。予備校に通

ったら苦手科目が克服できて、実力も一挙にアップすると思っているのだったら、現実はそのものじゃないです。最後に、希望学部についての確認が不十分なようです。自分の進路は、自分で悩んで努力して自分で決めるしかありません。もう一度各学部について十分に調べましょう。」

9月文化祭、8組が中夜祭を担当したほか、各クラスはステージ部門などに参加し、最後の学校行事を楽しんだ。合唱を行った4、7、9組はそれぞれ高い評価を受けた。

10月学年委員会、3年間のまとめの意見を聞かせてもらう。全体として満足という感想が多かったが、体育祭でのテントが足りない、体育祭の衣裳づくりに時間が欲しい、乗れない授業をどう克服すれば良いのか、体育館の老朽化を何とかしてほしいなどの要望があった。

12月学校診断アンケートの分析と提言。要点をまとめると、以下の通りである。

(1) 池高に入学して良かったという生徒は85%に達する。

(2) 生指、進路、教務関係への信頼は良好である。更に検討を加えて、より大きな信頼を得られるようにしなくてはなら

ない。

(3) 学校生活全般への満足度はそれ程高くない。日常的に生徒の指導、対話に力を入れて、池高生がもっと学校や教師に期待を持ってくれるようにしなくてはならない。

(4) 学習の評価については、消極的支持でしかない。共通テストの実施、評価の統一性や客観性など、生徒や保護者の声にも耳を傾け検討する必要がある。

(5) 学校生活の基本となる授業には問題点がたくさんある。聞くだけ、ノートをとるだけの授業から、活気ある授業・わかる授業へと工夫や検討が必要である。授業の公開や指導法の相互批判などを通して、教科内・教科間で相互に高め合う体制の確立が求められる。

(6) HR活動や自治会活動への意識は低い。

(7) 地域や近隣学校との交流・学校整備については不十分である。

12月公募推薦での大学合格者報告、来春での進路結果におおいに期待するとともに、全員の無事卒業を願って52期の歩みのまとめをしたい。

年 (平成)	月日	本校のできごと	月日	社会の動き
1990年 (平成2年)			2.28	第2次海部内閣 発足
	3.	「池田五十年史」 刊行		
	4.1	林昭校長着任	4.1	「国際花と緑の博 覧会」大阪・鶴見 緑地で開幕
			5.24	韓国ノ・テウ大統 領、国賓として来 日
			9.22	第11回アジア競技 大会、北京で開幕
			10.3	ドイツ統一
1991年 (平成3年)			1.24	政府、湾岸戦争の 多国精軍への追加 支出と被災民輸送 のため自衛機派遣 など決定
			2.27	ラグビー練習中に 脳血しゅで倒れた 植村浩一君、3年 遅れで卒業。
	3.31	創立50周年記念 モニュメント工事 竣工		
			4.16	コルバチョフ大統 領初来日
			4.26	ヘルシャ湾へ掃海 部隊出発
			5.14	信楽高原鉄道で正 面衝突
			6. 3	雲仙普賢岳で大規 模火砕流
			9.27	台風19号、巖島 神社など被害続出
	11.1 ~3	内藤憲雄(体育) 全日本マスターズ 陸上競技選手権 100mハードル、 400mハードルで 優勝	11. 5	宮沢内閣発足、文 相鳩山邦夫氏
			12.26	ソ連邦、解体

## 自治会この10年

### (1) はじめに

自治会部と他の分掌の異なるところは、仕事の内容はもちろんであるが、その最も根本にあるものは「生徒との協同作業」ということである。自治会に関しては、事は教師の中だけではおさまらない。生徒が望むこと、生徒の資質、生徒の行事、部活動へのエネルギーがその学校の自治会の姿を自然に作り出す。だから、自治会の10年とは、本校生徒の姿の10年ということである。

自治会部担当の教師に関して言えば、いわばその道の「スペシャリスト」はいない。出入の激しい部であり、その道10年などという人は一人もいない。これは本校の10年間についてのことである。だから、教師の中では、行事の全体を把握している人は少ないのではないか。

生徒は、三年で卒業という立場であるが、実に学校の伝統を体現するのである。その中で自治会執行部の生徒達は行事のスペシャリストである。わずか三年間の在籍期間であるが、執行部の二年生になると実に行事のことをよく心得ている。自治会室の中での、雑談や遊びやふざけをも含めた交流の内から、彼らの柔軟な頭脳が自然と覚えていくのであろう。この先輩からの流れが、この10年間の自治会執行部の伝統であり、行事運営部の力であった。やるときは本当に一生懸命にやる彼ら生徒達がいなかったら、体育祭も文化祭も球技大会もクラブ紹介もできない。そしてそれに協力し参加する全校生徒のこの10年の姿が、自治会の10年である。

ただ、現在に至って不安が生じつつある。それは、この行事、あるいは予算に関してのノウハウが、執行部内で次の生徒へしっかりと伝えられていない傾向が生じていることである。これは、今年度になってから目立ってきている。そして一年生も何人か自治会室に出入りはしているのだが、入り浸りということにはならない。この入り浸りこそ「学習」には必要なことなのだ。自治会執行部も一つのクラブとしての性格をもっている。流れが途切れることはクラブとしては命取りである。そして、この場合、影響は大きい。教師の出番がこら辺にありそうだ。クラブ予算についてだけでも、その手順や実務は複雑で、いわば、やった者にしかわからないのだ。その経験が伝わらなかったら、生徒の手による運営はできなくなる。他の学校行事も同様である。自治会活動は一つの転換点を迎えている。

今までの自治会活動は生徒の熱意に負うところが大きかったし、これからもそうでありたい。教師が生徒に引っぱり回されるぐらいがよいのである。自治会の姿は、その学校の生徒の能力と自覚と資質とエネルギーを最もよく反映する。そこに衰えがあると自治会の意味も失われてしまう。ここで各項目ごとに10年を振り返って、次の10年への指針



のようなものが拾えれば幸いである。

## (2) 体育祭

この10年間の池高体育祭を振り返ってみて、その当日の一回一回に池高本来の姿を見ることができる。新入生が初めて池高とはいかなるところかを知る時である。様々な批判や反省はあるにしても、あの当日の燃焼はすばらしい。しかし体育祭は当日ばかりのものではない。当日は、その背後に半年分の月日を背負っている。

体育祭運営部が結成されるのが、だいたい十一月頃。そして体育祭は、ときに存亡の危機にあるということになる。これは、平成2年頃から運営部員の集まりの悪さを嘆いた池高新聞の記事からも読み取れる。「誰かがするんだろう」「いざとなったら教師がやってくれる」という風潮を嘆いている。平成5年度の体育祭の後、運営部員のあまりの忙しさと運営部結成の困難を思い、次の体育祭への不安を一人の執行部員が述べていた。そして、平成6年の2月9日の議会において平成6年度体育祭中止に関する議案が執行委員会からだされるのである。

その議案は、おおよそ次のようなものであった。まず平成6年度の体育祭の中止が提案され、その理由として2月現在運営部員が一人しかいないことをあげて、原案が作れないことからこのような提案になったとしている。さらにこの案をクラスに持ち帰り、反対のときは各クラスから体育祭運営委員を2名出すことを求めている。この議案は賛成10、反対14（三年生不在）で否決された。それにしても賛否の差があまりなかったことが意外であるが、この結果、各クラスから2名ずつの運営部員が出るようになった。

これは自治会執行部の一つの策であると思う。しかしその後、最近の二・三年は、何とか運営部は成り立っているように見える。その実体は執行部員のかげもちと、数人の親しい協力者である。旧い問題は今の問題である。

体育祭は当日の華やかさが目立つものだから、これをすべてと思いがちだが、根の浅さはいつまでも残り、縁の下で四苦八苦した人のことはほとんどの人が知らない。

池高体育祭と言えばまず第一に応援合戦だが、これも10年の間に変遷があった。平成元年まではエールとシンボルに分けられていた。平成2年からアピールとシンボルという呼び名になり、平成7年から、ダンシング、アピール、シンボルの三つに分けられた。そして平成11年度にその三つを合体させる方針をとった。この例からもわかるように、どの年度においても運営部は「以前にない新しさ」を求めたのである。それはもちろん競技種目にも及ぶ。しかし新規の種目は、事実上不成功に終わるものもあった。また競技途中でルールを変えることもあった。それはそれとして、常に改善し、新しさを求める努力が運営部員のやる気であり、その少しやかましい委員会の討議の中で、彼らの健全

年 (平成)	月日	本校のできごと	月日	社会の動き
<b>1992年 (平成4年)</b>				
	5.20			奈良県唐古・蹴道跡 楼閣を描いた 弥生中期の土器片を出土
	6.15			国連平和維持活動 (PKO) 協力法案を可決
	7~8			スペイン、バルセロナ・オリンピック
	9.9	1年5組・文化祭での祭金をカンボジアへ寄付	9.12	学校、第2・第4上曜休校に
	9.12	内藤憲雄(体育)全日本マスターズ陸上競技選手権で再び400mハードルで優勝	10	カンボジアに自衛隊派遣
<b>1993年 (平成5年)</b>				
	1.20			クリントン氏(米)米第42代大統領に就任
	4.1	川岸清校長着任	5.4	カンボジアPKOで日本人死傷
			5.15	Jリーグ発足
	6.	KCC・同好会として発足	7.12	北海道南西沖地震、奥尻島を直撃
			8.9	細川連立政権発足
			8.27	農水省、米作柄概況を発表、40年ぶりの不作
			10.13	エリツイン・ロ大統領来日
			12.14	米市場の部分開放決定

年 (平成)	月日	本校のできごと	月日	社会の動き	
1994年 (平成6年)	1	鉄道航空研究会 発足			
			4.28	羽田内閣発足	
			6.~8.	史上最高の猛暑・ 異常湯水	
			6.29	村山連立内閣(自・ 社・さ)発足	
			9.4	関西国際空港開港	
			10.4	北海道東方沖地震	
			10.13	大江健三郎氏ノー ベル文学賞受賞	
			11.21	政治改革関連3法 成立	
	1995年 (平成7年)			1.17	阪神・淡路大震災 (兵庫県南部地震) 発生
				3.20	東京・地下鉄サリ ン事件発生
			4.	統一地方選で青 島・横山両知事知 事誕生	
			6.16	大阪府池上曽根遺 跡発掘	
			8.23	福岡ユニバーシア ード開催	
			9.4	沖縄駐留米兵によ る少女暴行事件発 生、基地整理縮小 問題に発展	
9.20		兵庫県南部地震災 害復旧工事竣工			
			10.	野茂秀雄、日本人 初の米大リーグ新 人王となる。	
			11.19	APEC大阪会議 開催	

さを見るのである。

体育祭当日の各分担の仕事は、どこも大忙しであるが、運営部員にとっては「最後のーがんばり」ということだ。体育祭終了後はアンケートがとられ、また新たな問題点が出されるが、この10年を通じての体育祭の宿題は運営部員である生徒の負担の大きさと、当日の華やかさや発散にばかり目が行く生徒があい変わらず多いということだ。

しかし、この10年、体育祭はこれら運営部員が好んでする苦勞によって、常に成功をおさめてきたと言える。

### (3) 文化祭

いつの頃からか、文化祭はテーマを持つようになった。昭和63年「文明開化」、平成2年「天下無敵」、平成7年「礎」、平成8年「革命」、平成9年「赤」、平成10年「大坂」というふうになつてきた。そして平成11年にはテーマなしとなった。このテーマと実際の行事とどのような関連を持たせたのかははっきりとしない面が多いが、どこまでテーマを生かすかは、各団体の企画や意志に任されていたようである。予算の面では、平成2・3年には30万円程度であったものが、平成11年には60万円になっている。金券売上総額は、平成5・6年までは120万円前後というところであろうか。それが年々減少しているようで、平成10年は68万円である、平成10年からは、しばらく途絶えていた調理模擬店が復活し、特にこの年の三年生に優先的に割り当てられた。保健所からの指示もきびしく、使えない食品もあり、調理の方法も事細かく決められていて、そのきゅうくつな中よく工夫し、盛況であった。場所として食堂の南側入り口付近を提供していただき、全体的に目の届きやすい配慮となっていた。

平成8年・9年と職員劇が行われ、池高新聞の記事に賛嘆をもって記されている。体育館のみにステージ部門を集めたのは平成2年からである。以後体育館ステージとして扱われるようになる。一時期はアカデミー賞、男優、女優賞などの賞もあったようだ。これは平成7年頃のことである。照明・音響などの器材も買いととのえられて、演劇等の出し物をきわ立たせて来た。

お化け屋敷は、10年間一度も途絶えたことのない部門である。平成2・3年の頃は承風会館が使われたが、その老朽化と警備上の問題などから教室のみとなり、最近では北館に集中させている。お化け屋敷は換気と安全に特に気を使う。そのため設計図や「おどしの手順」をクラスから提出させている。お化け屋敷は文化祭にそぐわないという意見もあるが、他の学校でも定番となっていて、必ず希望クラスがある。当日は行列ができるほどである。

文化祭の中で、皆が力を合わせて作り上げたということをもっと劇的に共感させるものに熱気球がある。平成7年の一年六組。平成10年の三年六組の企画である。この

二回とも成功したが、この企画は後々までクラスの雰囲気にかんがりの好結果を残すようだ。天候に左右されやすく、準備にも根気がいるけれど、このような企画は、これからもぜひ行ってほしいものである。

喫茶店、ゲームなど模擬店はいつも希望が多く、これが文化祭の雰囲気の中心となってしまっている。これは10年間変わらない。それ以前も同様であろう。これはこれとして、様々な工夫が見られ結構かとは思いますが、本来文化祭のメインは展示ではなかろうか。その展示がここ10年を見てもほとんどない。文化祭の展示以外で、クラスの展示がほとんどない。平成10年は二年生の「クラス」[プラネタリウム] だけであった。これは文化祭としてはいかにもさびしい。遊んでさわいで……というだけで、それが文化祭であるという意識は、もう変えられないものであろうか。しかし、その中でも上映部門で出来のよい作品が毎年出るのは、さすが池高生という感がある。

中夜祭も途絶えることなく続いている。ある年にはなくなりかけたこともあったが、生徒有志らが毎朝玄関下を集まって開催協力の呼びかけをして、見事な盛況のうちに終わったこともあった。ただここ数年は、以前のような整然としたところはなくなり、むやみにエキサイトする場面が多くなっている。平成10年のファイヤーは、火の周りを走りまわっていた。もうフォークダンスなどできないのであろうか。

#### (4) 球技大会

体育祭、文化祭が大きな行事であるために、その陰に隠れて、目立たず当然のごとく行われてきたのが球技大会である。球技大会は、自治会執行部担当の行事である。この七月と十二月に三日あるいは二日続けて行われる球技大会は、その労力においてかなりのものがある。この企画運営は、すべて執行部生徒の手によって行われる。特教活日程の案を受けて、六月の体育祭終了時点から準備にかかる。種目、組み合わせ、ルール等を決めて原案とし、決定されると考査明けから実施である。その手順は、執行部の先輩から後輩に伝えられてきた。この10年間、いや、それ以前から球技大会が行われてきたのは、執行部生徒たちのおかげである。審判クラブとの連絡、細々とした準備、そして本部設営、各試合への気配りと、そのまじめさにはほとんど感心するものがある。

しかし、ここでかげりも見えている。平成11年夏の球技大会初日のことである。8時20分になっても執行部員は誰も登校してきていなかった。8時25分になってようやく二年生の部員2人が来たが、球技大会の実際についてほとんど教えられていない。このような混乱は初めてである。ようやく三年生が来てスムーズに事が運ぶようになった。

年 (平成)	月日	本校のできごと	月日	社会の動き
1996年 (平成8年)	2.	古本延命事業始まる。	2・10	北海道豊浜トンネルで落盤事故、20人死亡
			2.16	HIV訴訟、菅厚生大臣、国の責任を認めて謝罪
	3.27	LAN教室整備工事竣工		
	4.	コンピューターLANシステム導入		
			7.13	堺市の小学校でO-157による食中毒が発生
			7.19	米、アトランタ・オリンピックを開催
	10.	50期生、初の航空機による沖縄修学旅行	10.14	島根県荒神谷遺跡発掘
			11.7	第2次橋本内閣発足
			1.2	日本海でロシアタンカー「サボトカ」の重油流出
	1997年 (平成9年)	4.1	井上博昭校長着任	4.1
4.		演劇部復活		
			4.22	ペルー・リマの日本大使館に特殊部隊が突入、人質解放
6.11		体育祭・初のヒーローズカップはアクアマリン(水色)へ	6.28	神戸児童殺害事件で中学生を逮捕
8.		ストリートダンス同好会設立		
		9.11	第2次橋本改造内閣発足	

年 (平成)	月日	本校のできごと	月日	社会の動き
-----------	----	---------	----	-------

1997年 (平成9年)			10.16	脳死を「人の死」とする臓器移植法を施行
			10.25	第52回国民体育大会(なみはや国体)大阪で開催
	11.26	自治会が校長にアンケートによる要望書を提出	11.16	日本、初のワールドカップ出場権獲得

1998年 (平成10年)			2.2	郵便番号7桁に
			2.7	第18回冬季オリンピック長野大会開催
	4.	文芸部復活	4.1	改正外国為替法施行、日本版ビッグバン始まる。
	4.	MAKING同好会発足	4.5	明石海峡大橋開通
			7.25	和歌山で「ヒ素カレー事件」発生
			7.30	小淵内閣発足
			8.31	北朝鮮のミサイル「テポドン」、日本上空を飛び越える
			9.22	台風8号に続き7号の上陸で被害
	11.	ダンス同好会部に昇格	11.16	地域振興券や減税など緊急経済対策を決定

1999年 (平成11年)			5.1	本州四国連絡橋「しまなみ海道」開通
------------------	--	--	-----	-------------------

前日に打ち合わせをすべきであったが、私も採点等あってそのままにしていた。いつものとおりやるであろうと安心していただけ、ここで油断があった。

球技大会は、執行部生徒の力なくしてはまったくできない行事である。そろそろ教師がすべてを取りしきるときが、あるいは来るのかも知れないが、そうなれば自治の一つが失われることになる。この球技大会がどうなっていくかが生徒自治の変化を見る目安ともなる。

## (5) 部活動

この2・3年の間に「部・同好会活動規定」と「合宿規定」がより幅のあるものに改定された。また財政面でも「部活動費」が設けられ、全生徒から一律800円を徴収することになった。これは平成9年に決定し、10年度から実施されている。

部活動については、この10年間活発であったことは変わらない。しかし時代であろうか、一部のクラブの衰退があった。山岳部はもうここ5・6年、部員ゼロの状態である。平成7年頃か、そのように部員が存在しなくなって久しいクラブの整理廃部をしてはどうかという意見もあり、一度生徒議会で議案を提出したこともあった。そのときは否決され、そのままとなっている。文芸部も一度は部員のいない状態が続いたが、今は復活している。ギター部も平成11年、活動を再開した。

クラブは、一度部員がいなくなり、先輩後輩の流れが途絶えると、再開がむづかしい。やはりクラブは生徒のものである。

顧問の推戴制は最も望ましい形である。これこそ自治の名にふさわしく、生徒が自主的に教師に対して顧問を依頼し、条件等を話し合っで決める。この形式が今後も続くことを願うが、しかし、なかなか顧問の引き受け手がないクラブの生徒の困っている姿を見ると、あるいは将来、何らかの改善策も講じなければならないのかという思いもする。ここで、将来、自治の一角が崩れることになるのかも知れない。

## (6) 議会

議会こそ、生徒自治の要である。この10年間の議会を見てきて、討論が活発に行われたということはあまりない。原案のほとんどはそのまま通る。早いときは議会そのものが5分程で終わってしまうこともあった。ただ、ときおり長くなる。そして否決ということもある。最近では平成11年度体育祭原案が一度否決されている。

議会は議長次第である。議長がしっかりしていれば議会もしまる。その議長を決めるに際しては、この10年間、ほとんど立候補で決まっている。これは執行部生徒の手際よさもあった。ただ感じていることは、最近のほう

が以前より発言が多くなってきているということだ。その発言の中には、少々失笑をかうものもあるが、とにかくよいことではある。平成2・3年頃の議会は、開会のとき「自治会のしおり」の一部を議長が読み上げていた。その前に起立と礼もあった。今はそれがなくなり、なんとなく始まるようになっていく。

### (7) まとめ

平成10年度後期自治会役員選挙は久しぶりの競争選挙であった。これは平成3年度後期以来のことである。選挙は生徒自治の出発点であるから、このことは歓迎すべきであろう。ただ、流れが途切れるようなことがあれば、果たして新しい流れを作り出せるかどうかは、はなはだ疑問である。この行事や予算業務を貫く流れは生徒が受け継いできた。もし流れを変えたいのなら、何をどのように変えていくか、具体的に責任ある考え方を持って立候補してもらいたい。

後期役員のことを振り返ってみると、ここ10年、委員長には一年生がなることが多い。恐らく半数は一年生であろう。これはぜひとも必要なことだ。次へ受け継いで行くために。後期は次年度への準備のことが中心である。そして、委員長には、大切な卒業式での送辞がある。歴代の委員長は立派にしてのけている。

あと、学校名簿のこと、食堂のこと、そして生徒の声をいかに反映させるかということ。挙げれば多数に及ぶ。名簿は氏名以外の記載は本人の意志に任せられるようになった。近いうちに、またアンケートをしてこのことへの意見を集約しなければなるまい。食堂に関しても平成9年度に値上げがあったが、これからも利用のマナーも含めて委員会に諮ることがありそうだ。

今、この文章を書いているのは、平成11年の夏である。秋の文化祭が終れば、執行部は新体制となる。つまり一年生の出番である。しかし、まだ今年の一学生に、今までの流れを受け継ぐ意志が見えてこない。今年度の文化祭が終った時点で、すべての自治会関係生徒を集めて、今後の相談をしなくてはなるまい。平成11年度後期の出発が今後の10年の鍵になる。

(自治会係 平尾<sup>よしお</sup>恵夫)

年 (平成)	月日	本校のできごと	月日	社会の動き
			7.23	全日空機ハイジャックされる
			8.17	トルコ北西部で大地震
			9.21	台湾中部で大地震
			9.30	茨城県東海村のJCO事業所で放射能漏れ事故
			10.5	自自公3党連立による小渕第2次改造内閣発足
2000年 (平成12年)			3.30	北海道・有珠山の噴火始まる
	4.1	清水秀司校長着任	4.1	介護保険制度スタート
			4.2	小浜首相入院
			4.5	森内閣発足
			7.~	伊豆諸島 三宅島周辺で火山活動
			7.21	九州・沖縄サミット開催
			9.15	豪シドニーオリンピック開催
	11.11	創立60周年記念式典挙		

## 文化系クラブ



### 美術部

- 1990年 三重県・波切にて合宿  
高校展出品  
第一ブロック展（箕面市民ギャラリー）
- 1991年 波切にて合宿  
高校展、第一ブロック展
- 1992年 波切にて合宿  
高校展、第一ブロック展  
第一回ハイスクールアートフェスティバル  
（於プラネットステーション）
- 1993年 波切にて合宿  
高校展、第一ブロック展  
第二回ハイスクールアートフェスティバル  
（於プラネットステーション）  
交通安全ポスター最優秀賞（森桃子）
- 1994年 波切にて合宿  
高校展、第一ブロック展  
第三回ハイスクールアートフェスティバル  
（於プラネットステーション）  
交通安全ポスター入賞（西山裕希子）  
池田市民カーニバル「野菜によるミニ池田」  
に参加。野菜で造形作品「池田」制作
- 1995年 第一ブロック展  
波切にて合宿  
高校展〔絵画〕優秀賞3点 奨励賞2点  
〔デザイン〕優秀賞2点 奨励賞10点  
〔立体〕奨励賞1点  
交通安全ポスター最優秀賞（西山裕希子）
- 1996年 第一ブロック展（豊中市民ギャラリー）  
波切にて合宿  
高校展〔絵画〕優秀賞1点 奨励賞2点  
〔デザイン〕奨励賞2点  
選抜展出品・守屋大輔  
クリーンアップペインティング（池田市）
- 1997年 第一ブロック展（豊中市民ギャラリー）  
波切にて合宿  
高校展〔絵画〕奨励賞3点  
クリーンアップペインティング（池田市）

- 1998年 第一ブロック展（メイプルホール）  
波切にて合宿  
高校展〔絵画〕奨励賞3点  
〔デザイン〕奨励賞1点  
クリーンアップペインティング（池田市）
- 1999年 第一ブロック展（メイプルホール）  
芸文祭コンクール出品  
波切にて合宿  
高校展〔絵画〕奨励賞2点  
〔デザイン〕優秀賞1点 奨励賞1点  
クリーンアップペインティング（池田市）  
豊中市展〔デザイン〕寄託賞（若間春菜）



### 放送部

学校のリーダーとしての部活動

人数の増減こそあれ、熱心な生徒によって着実な活動を続けてきた放送部が、大きく飛躍していったのは、この10年の歩みではないかと思われる。

伝統的に放送部は（その活動内容からいっても）、体育祭、文化祭等で裏方的役割を果たし、貢献してきた。そうした中で46期の吉岡聡が生徒会長を勤めたことに始まり、多くの部員が積極的に生徒会活動に関わるようになった。各行事の実行委員会に参加する者も増え、生徒会長も前田邦彦（48期）、秋田涼子（49期）、丸尾昌弘（49期）と続き、彼らは学校のリーダーとして部活動も活性化させ、新しい取組みが生まれていった。

1993年の文化祭では、前田邦彦を中心としてビデオを作成、上映した。これは当時、社会的問題となっていた遅刻を取りあげ、インタビューし、具体的なデータなどで構成された真摯な内容であり、技術面においても高校生としては高度な技術を駆使した意欲作であった。

1995年には、池田市商工会議所の申し入れをうけて、猪名川の花火大会でミニFM局を開設している。夜間の活動のため、有志による個人参加としたが、全員が参加した。生徒達にとっては有意義な体験となり、以後の文化祭でのFM放送の試みとして生かされた。また地域との関わりという面でもよい体験であり、この活動がきっかけで丸尾昌弘は池田市の「一日市長」をしている。

もちろん、従来の校内放送（昼の音楽、下校放送）、アナウンスのための発声練習といった活動も熱心に続けられていた。その成果はNHK杯全国放送

コンテストの成績となって現れる。岩西昭子（50期）が、1995年1年生で朗読部門大阪大会2位となり、全国大会に出場する。彼女は、3年連続全国大会出場をなしとげ、3年生の時には大阪大会で優勝している。この活躍は当然他の部員の励みとなり、1995年の大阪大会決勝進出は岩西を含め2名であったが、1998年には4名が進出、田村直樹（51期）が朗読部門で入賞し、1999年には、井上路子（52期）がアナウンス部門で入賞し、全国大会に出場した。

1998年には、ラジオドラマ部門で大阪大会1位となり、全国大会に出場した。ラジオドラマは、1995年にKBS京都ラジオの「こちら青春放送局」に応募して佳作となり、以後毎年応募して、1997年佳作、1998年には優秀賞を受賞している。

その他、箕面FM局「タッキー」の学校紹介番組のテープ作成も放送部が担当している。ドラマなど作品製作は、部員全員で検討し、創作脚本を創りあげていっており、そのような活動がつながりを深めたのか、和気あいあいとした雰囲気のクラブである。 （佐野節子記）

1990年～1999年の間の顧問

前田喜美子、佐野節子、小林主典、手塚律子、佐藤尚子

なお、佐野教諭は、NHK杯全国放送コンテストの大阪大会においては、審査員もつとめた。



### 吹奏楽部

北摂地域は大阪でも吹奏楽のさかんな学校が多い。そうした中で池田高校吹奏楽部は中核をなす吹奏楽部として活動している。生徒急減期にあっても、つねに1・2年生だけで50名前後の部員を擁し、音楽作りから部の運営まで生徒の主体的な運営が行われている。

活動は吹奏楽コンクールと定期演奏会が中心である。この2つを柱として、吹奏楽連盟の各種行事、校内では体育祭・文化祭での演奏、チャリティコンサート、ジョイントコンサートなどを行っている。

吹奏楽コンクールにおいては、顧問を指揮者として擁する学校が増える中、生徒指揮者をたてて挑戦し続けている。94年度には大阪府大会に進出した。95年度は惜しくも府大会進出を逃したものの、金賞を受賞し、高い芸術性と技術を示した。

定期演奏会は、毎年春休みに開催している。この10年は箕面市民会館を会場とし、地域の方々からも年中行事として期待されるようになった。吹奏楽のダイナミックな曲から、手作りの寸劇を披露したりと、多彩なステージを構成し毎回好評を博している。

池田高校吹奏楽部独自の取り組みとして、毎年12月には阪急池田駅前でユニセフチャリティコンサートを開催。毎回、市民の皆様から多くの募金を頂き、ユニセフに送金している。

校内活動では、体育祭の開・閉会式の式典音楽を担当している。また、文化祭では毎年、体育館ステージのトリを努めている。また、98年度卒業式より校歌斉唱時の伴奏も担当するようになった。

OB・OG会の活動も活発である。年1回のOB・OG会総会のほか、独自にOB・OG楽団を結成し活動を展開している。OB・OG楽団としての定期演奏会も開催されるようになり、ここ数年で定例行事として定着するようになった。

今後の問題点としては、徐々に新入部員の中にしめる経験者の割合が減少していることと、やはり生徒急減期において、50名の部員を確保することが最大の課題といえる。地域文化に貢献できる新たな活動の模索、など急減期においてもより活発な活動を展開して行くことが求められている。北摂地域の各吹奏楽部を牽引する役割と池田高校の音楽文化への貢献をはたして行きたいと考えている。



### 書道部

平成4年度、書道科氏田教諭転勤により、後任に山口教諭（本校卒・24期）が着任、主顧問となる。

活動は、校内においては四月の文化部展示週間における作品展示に始まり、夏の合宿（平成10、11年度は実施せず）、9月の文化祭部展。校外においては、6月の第一学区高等学校書道展、10月の武庫川女子大学主催高等学校書道展、11月の毎日新聞社主催国際高校生選抜書展“書の甲子園”と大阪府高等学校芸術文化祭書道部門展示、1月の大阪府高等学校書道展等、部員は少ないものの、多くの展覧会に意欲的に応募、出品している。

主な成績は次のとおりである。

平成8年

武庫川女子大学主催高等学校書道展 特選  
春山亜沙子

国際高校生選抜書展 入選  
春山亜沙子、神村由紀

大阪府高等学校芸術文化祭書道部門 入選  
有松由夏、神村由紀、葉山由美、  
堀有紀子

同展においては有松由夏、堀有紀子が特別賞（奨励賞）受賞により府庁新別館南館1F府民ホールにて特別展示陳列された。

平成9年

武庫川女子大学主催高等学校書道展  
青山生子（特選）  
有松由夏、大石有紀子（佳作）

国際高校生選抜書展 入選  
奥野一樹、青山生子、大石有紀子、  
小栗典子、間 晴苗

大阪府高等学校芸術文化祭書道部門 入選  
大石有紀子、北原山里加、間 晴苗、  
伊藤真理子

同展において間晴苗が第22回全国高等学校総合文化祭へ参加推薦され、翌平成10年8月鳥取県にて開催された同文化祭に参加、作品は倉吉博物館での書道展に展示された。

平成10年

読売新聞紙上書道夏季大阪展  
一席 高木 幸

武庫川女子大学主催高等学校書道展  
首藤久実子（特選）

国際高校選抜書展 入選 間 晴苗

平成11年

武庫川女子大学主催高等学校書道展  
大島加奈（特選）、間 晴苗（入選）

大阪府高等学校芸術文化祭書道部門 入選  
大島加奈、間 晴苗、入澤あづさ

最後に、部の様子がよくわかると思われるので、平成九年度文化祭書道部展の会場に掲げられた「ごあいさつ」を録しておく。当時の部長、有松由夏の文である。

「私達書道部は、現在3年5人、2年4人、1年3人の12人で活動しています。去年に比べ部員の数が3倍にもなり、活気あふれるクラブとなっています。そして、先輩後輩の仲もよく、書道好きの仲間という感じで和気あいあいと活動しています。

私はこの書道部に入部するまで、書道は美しく

字を書くだけのものと思っていました。しかし、そのようなものではありませんでした。書道は自分を表現するもの、思ったことを好きなように自由に表現するものでした。その事が分かってから、書道が楽しく、また奥深いものとなりました。今回の書道展で、みなさんに私達書道部員達それぞれの“思い”を少しでも感じて頂けたら、とてもうれしいです。

では、ごゆっくりご覧下さい。」



### アマチュア無線部

アマチュア無線部は、1984年に近畿電気通信管理局より、JA3YWAのコールサインで許可され、約10の周波数帯を運用してきたクラブです。日常の活動としては、国の内外を問わず、他局との交信をし、QSL（交信証）の交換を日本アマチュア無線連盟（略称JARL）を経由して行ってきました。この10年間に、JARL主催のコンテストでは、豊中高校との共同参加などにより、社団法人部門の低出力部で数回の入賞をはたしてきました。また、毎年文化祭では、交信の実演とともに、世界と日本の各地からの交信証や交信先の地図などの展示もやってきました。活動上の困難は、校舎の屋上に設置している大アンテナを維持することでした。強風などでゆるむことも多く、そのたびに上がって修理していました。

かつてはアマチュア無線部はかなりの学校にありましたが、この10年ぐらいい間にどんどん減り、今や希少クラブとなっています。池高においても1999年度の3年生が卒業したらどうなるのかわからない状態です。しかし、この衰退は必ずしもなげくべきものではなく、今やコンピュータのインターネット時代の到来による必然であり、科学技術の進歩の結果であるともいえます。このような時代にあって、いまだ「無線」という言葉の古さや暗さはどうしようもなく、歴史の転換点にあることを認識せざるをえません。池高の歴史のなかに、かつて先進的な「無線部」があり、はなやかな活動をしていたということを誇りとしていきたいと思います。

（1999年度部長、松尾大樹）





## 茶道部

私が着任した平成6(94)年4月、西山久代・岐田穂波教諭を顧問とし、菅千代子先生(昭和23年共学により生徒とともに豊中女学校(現桜塚高)より本校家庭科教諭着任、昭和46年離任)を茶道指導者とする活動は継続していた。ただその年度内に部員が全員退部し活動は休止した。翌平成7(95)年入学早々の50期生濱野招子が「表千家流の茶道をやりたい」と、顧問の所に来、菅先生が裏千家流とお見受けし、少し表流に心得のある篤本が指導することで再発足した。菅先生時代に、必修クラブでの活動を別の指導の先生をお迎えして為されていたようにも聞くが、今は詳しくはわからない。なお、現在の活動のお道具は菅先生が残り置かれたものを基に為されている。先生の私物が多くあるのは承知しているが、学校の物品と区別がつかないことを口実に利用させていただいている現状である。僅かに見た、菅先生のような厳しい立派な茶道指導には及びもつかないが、伝統ある本校茶道部の灯が(どのような流儀にせよ)消えないで残って欲しいと願っている。また、この菅先生の茶道具のこれからのなりゆきがこのままでよいのか、気になるところではある。

(篤本俊治)

(追記)平成12(2000)年1月に菅先生が92歳でお亡くなりになった。ご冥福をお祈りする次第である。なお、ご遺族から茶道具の継続的使用のお許しをいただいた。記して、お礼申し上げる。



## 演劇部

文化部での活動者が減少していく中、演劇部もその例外ではなく、1990年から1999年まで、正規の部員は、1名又は、2、3名が通常という中で、他の文化部や、ボランティアスタッフの協力を得て、文化部展示週間や文化祭に可能な限り、活動成果を発表してきた。特筆すべきは、平成2年3年に渋谷高校の演劇部とユニットを組み、大阪府の演劇祭に参加したことであろう。練習時間の調整その他、難しいことも多かったが、部員のみならず、顧問にも学ぶところは大きかった。来たる

2000年以降の活動には、このような他校との交流、ユニットを組んでの各行事・発表会・コンクールに参加も予定している。



## 漫画研究部

昭和52年、女子生徒十六名により、漫画研究同好会を設立。以後社会科講義室を借りて毎週火・木・土曜日に活動している。毎年の主な行事としては、四月の文化部展示週間での出展、8月の「連合漫画祭」への参加、9月の文化祭での模擬店である。中でも文化祭は、イラストやセル画の展示のほか、シールや便箋、部誌『DOIKKI』などを販売するのであるが、この部誌を文化祭までに完成させるのが例年の大きな目標である。業者に印刷を依頼して本格的な冊子に仕上げるので、その締め切り日に間に合うよう原稿を完成させるのが大変なのだ。だがこれまで続けてきた伝統を途絶えさせないように、連日睡眠不足になりながらなんとか間に合わせるのである。毎年10人前後の部員しかいない小さな同好会であったが、こういった地道な活動が認められ、平成八年に部に昇格させていただいた。



## 軽音楽部

平成9年、ついに部になりました。主顧問の澤田教諭、長田教諭や多くの先輩方の活動の賜物です。

自治会予算での援助を得て、いろいろの器具が揃ってきました。器具置き場も本館階段下倉庫から北館一階の部室に移り事務室での鍵の貸し借りなども無くなりました。

しかし、変わらないのは練習場所の確保でした。視聴覚教室を使用していた時期もありましたが、他の関係で利用するときには遠慮しなければならず、予定が立てにくく、やはり教室になっていま

す。器具置き場が一階ですからできるだけ近い階の教室使用をお願いするのですが音量の大きさのためもあり常に3階や4階の教室の年がほとんどでした。重い器具を運び上げ運び下ろすのは、それでなくても短い練習時間を短縮しています。更に、“騒音”の苦情電話で夏休みにも窓を締め切って練習しています。

活動は普段のグループ別練習日（部会はこの割り当てが主）と、学期に一回のライブ、文化祭ライブがありました。ライブは体育館で行われた年もありましたが、ほとんどは視聴覚教室を会場としました。特に、文化祭ライブは音響を専門家が担当し、校外の方にも聞いていただけるただ一度の機会でもあり、例年素晴らしいものになっています。

平成9年から軽音楽の甲子園“*We are Sneaker Ages*”大会に参加しました。これは8月下旬に予選（近畿全域から百校以上の参加）を行い、選ばれた16校でグランプリ大会（万博ホール）を行うというもので、予選は課題曲と自由曲の2曲（本大会は自由曲1曲）のアレンジや演奏・パフォーマンスと、部として応援をまとまっていきましたが、部員のマナーなども評価の対象となります。平成10年度は2・3年生混合バンドを組みグランプリ大会（グランプリ大会VIDEOは顧問が管理しています）まで進みました。平成11年度は残念ながら予選のみでしたが、これからの部活動のもう一つの目標となると思われます。

また、平成10年度には池田市商工業活性化研修会のカンバック呉服座特別記念コンサートにも参加しました。



## 文芸部

20世紀を終えようとする最後の10年間は、バブル崩壊後、高度情報化社会の影響が高校生にも変化を与えた様で、ワープロ、パソコンを利用してと、表現が多岐に拡がり、活動化した時といえる。活動内容としては、年3回～4回の文芸誌の刊行が主であった。毎年10人に満たない部員数であったが、ほとんど途切れることなく、表現活動を続け、現在に至っている。



## 写真部

今日では一般に文化系クラブは不振であると言われているが、10年前の写真部は今日と比べるとなかなか活発であったと言える。上級生が下級生を指導して、春秋の年2回の文化部展示週間には、西側渡り廊下の2階で、文化祭には教室での写真の展示と作品の人気投票をおこなってきた。これらの展示に至るには、撮影（作画）に始まり、暗室作業（フィルム現像、焼付け、引き伸ばし、印画紙現像）、展示用パネルの製作と膨大な一連の作業が必要なのだが、それらの技術的指導も全て上級生から下級生へと受け継がれてきた。

作品には夜間に花火を撮影したものや滑走路から離陸する飛行機を近景に人物を入れて捕らえたりした、なかなか意欲的なものがあったように覚えている。しかし、それには難しい露出の調整や暗室での「覆い焼き」などの技術を駆使したもので、部員たちの旺盛な製作意欲が窺えるものであった。

この間には、1995年に当時の部長であった3年の入江真作が、大阪高校芸術文化連盟の写真部会で最優秀賞に輝いている。このように、かなりの成果を挙げていたと思うのですが、昨今はなかなか思うに任せない状況になっている。これらの技術が上級生から下級生へ引き継がれていく以上、新しく入部して来る生徒がなければ、うまく継承されなくなってしまう。10年前の当時から写真部の部員数はかろうじて部を維持する程度のものであった。毎年、入学式の後には新入部員の勧誘が大変であったことは今も変わらない。



## 新聞部

池高の創立は1940年（昭和15年）である。ただし、1948年（昭和23年）3月までは旧制「池田中学」であった。したがって池高新聞の前身は「池中新聞」であった。「池中新聞」の創刊は1946年（昭和21年）12月となっているから、創刊54年（2000年現在）となる。この間、発行は通算244号をかぞえている。これを54で割ると年間4.5回の発行となる。つまり、この発行回数は、創刊以来一貫して途切れることなく発行されてきたこと

を示している。今日、多くの学校新聞が「作り手不足」のため廃刊になっている中で、連続と続いてきている池高新聞の伝統は誇るべきものである。

1990年以来、発行責任者は七條靖子、山上洋路、上野さつき、野村雄一郎と続き、第217号までは活版印刷の新聞であった。ところが、1995年6月発行の第218号よりB4裏表のワープロ打ちの手作り新聞に変わっている。この経過は、実は1995年3月をもって部員ゼロの事態となり、池高新聞ももはやこれまでかという危機に直面した。第217号で「休刊宣言」をし、以後部員ゼロの部に予算がつくはずもなかった。この事態を憂慮したY教諭が部員も予算もないクラブの顧問をかってでて、部の再建をはじめたのである。その結果、なんとか部員も出現し、活動を再開することはできたものの、部費ゼロのもとでの新聞発行は「手作り」のほかはなかった。しかし、幸いなことに高性能の「ワープロ」と「拡大、縮小コピー機」の出現で、手作りでも結構な新聞を発行することができた。なお、新生第218号以降、発行責任として個人名を示すことを廃止し、部そのものとすることにした。

池高新聞は、学校の唯一の報道機関として、学校全体の歴史を刻みつつ、一貫して自治会と生徒の立場に立って、その活動と活躍ぶりを報道してきた。過去の池高新聞は、学校と生徒の躍動の熱気が閉じこめられているタイムカプセルである。これを開けば、いつ、どの時の熱気でも生々しく取り出すことができるのである。



## 体育系クラブ



### 陸上競技部

この10年のうちで最も顕著な成績を上げ、全国IHに出場したのは、生田勝也である。平成4年、生田勝也は、全国高校陸上競技大会200mと400mに出場、200mは予選5位、400m予選3位、準決勝5位という成績を残している。最高記録100m 10"8（平成3）、200m 21"68（平成4）、400m 48"1（平成4）である。

次に、陸上競技部の中で、特に顕著な記録を残し、近畿大会以上の競技会に出場した選手について出場種目と記録を記す。

平成3年：○山崎順也、近畿高校陸上競技大会800m出場、最高記録1'56"29。○生田勝也、近畿高校総体400m出場、最高記録前出。○井田啓介・生田勝也・森川和樹・山崎順也、近畿選手権4×400m R 出場、最高記録3'23"98。平成4年：○生田勝也、近畿高校陸上競技大会200m（6位）、400m（6位）、最高記録前出。小佐井孝紀、近畿高校総体800m（2位）。平成5年：○小佐井孝紀、近畿高校陸上競技大会800m出場、最高記録1'56"43。○山下大輔、近畿高校総体走り幅跳び出場。平成6年：○山下大輔、近畿高校陸上競技大会走り幅跳び出場、最高記録7 m 08cm。○奥野功士、近畿高校総体1500m、5000m出場、最高記録1500 m 4'03"9（平成7）、5000m最高記録15'13"88（平成7）。平成7年：○中雄勇人、近畿高校陸上競技大会走り高跳び出場、最高記録1 m 95cm（平成6）。○奥野功士、近畿高校陸上競技大会3000 m S C 出場。○奥野功士、近畿高校総体5000m、3000m S C 出場。○春山亜沙子、近畿高校総体円盤投げ出場、最高記録33 m 50cm。平成8年：○奥野功士、近畿高校陸上競技大会3000m S C 出場、最高記録9'16"64。○角田裕子、近畿高校総体走り幅跳び（5位）、最高記録5 m 21cm。平成9年：○角田裕子、近畿高校陸上競技大会走り幅跳び出場。○角田裕子、近畿高校総体走り幅跳び出場、最高記録5 m 44cm。

池田高校陸上部の輝かしい歴史を振り返るとともに、先輩をしのぐ選手が生まれてくることが期待される。



（写真は平成4年全国インターハイで力走する生田勝也。）



### ソフトテニス(軟式庭球)部

1993年度から「国際ルール」になり「軟式庭球」から「ソフトテニス」と名称も変更され、前衛後衛の完全分業制から、二人ともサーブを行い、サーブ時にはレシーバー以外はバックライン外にいないなければならないなどオールラウンドなプレイが要求されるようになりました。また、1996年度からは男子は島本・高槻・茨木と豊中・池田・箕面・豊能でAブロックになりました。(1999年度には旧1ブロックでは男子部は池田・豊中・桜塚・箕面学園の4校でした。)

公式戦は春季団体(4月)・個人(4月末・5月連休)、総合体育大会個人(7月末)・団体(8月末・9月上旬)、新人大会個人(9月)、準公式戦の池田市総体(6月)、公立個人(8月下旬)、池田市選手権(11月下旬)、池田杯・松田杯(11月)、男子Aブロック初心者大会(12月)、Winter杯(12月)、公立団体(3月下旬)と予選、中央大会を入れると月2回ほどの試合回数になります。残念ながらこの10年はあまりありませんが、近畿大会・インターハイ・国体そしてインドアの府・近畿・全国となれば息付く暇も無いほどでしょう。そうそう、OB会も必ず毎年盛会で行われています。合宿はこの10年近く神鍋で行い、あの暑さも良き思い出となり、この何年かは最後の夜の花火大会が恒例の楽しみになっています。雨天には、公民館での素振り・体操・ボレーボレーも近頃始まりましたし、朝は近所の子供たちとラジオ体操です。OBの応援も増えています。

3月の花道・4月のクラブ紹介では他の部に押され気味ですが、実は毎年役者(何の?)が揃っているのも我が部の特徴です。

試合の成績ですが、かつての名選手・迷選手の名前は上げれば切りが無くなります…。団体戦では男子も女子も府大会2回戦(BEST32位か64以下?)が、個人ではこれも男女とも府BEST32がこの10年では一番良い結果になっています。池田市では優勝も多々ありますし公立大会では府BEST16もありました。池田杯・松田杯の優勝、Aブロック初心者大会準優勝なども先輩たちの残した素晴らしい結果です。初心者が半数以上を占め、一人一人にはほぼ2年間の活動のなか、よくこれだけの成績が残せたと感心しました。



### 硬式テニス部

昭和58年、父赤坂繁幸教諭が退職と同時に子息の赤坂克也(池高24期卒)教諭が後任の化学の教諭として着任された。氏は、池高時代(昭和46年)に愛媛インターハイに出場、社会人となってからは大阪府代表選手として国体にも出場している。氏の指導のもとで部員たちは順調に成長を続けてきた。平成4年、牧坂教諭が着任され、赤坂教諭と2人3脚でクラブ指導を継続してきた。現在赤坂教諭は府立福井高校で教鞭をとられている。氏が福井高校へ転出と同時に、令嬢の赤坂育実が池高に入学。公立高校のNo1として活躍し、この春(平成11年)卒業した。

この10年を振り返ってみて主な成績を取り上げてみると、

平成元年 春季団体女子ベスト16、男子本戦出場。大阪高校総体で複で安田・大城組が準優勝。近畿大会には、単で柳沢、安田、複では安田・大城組が会場。秋季団体ベスト4、男子本戦出場。

平成2年 春季団体女子3位。全国高校総体に女子単で、安田恭子が出場。近畿大会女子複に橋本・台組が会場。秋季団体男女ともベスト16。

平成3年 春季団体女子ベスト16。

平成4年 春季団体女子ベスト16(泉州0-3)、男子予選敗退。大阪高校総体女子単で大勝志津穂がベスト32に入り、近畿選考戦に臨んだが惜敗。

平成5年 春季団体男子ベスト16(清風高校に0-3)、女子団体ベスト8(大阪女学院0-2打ち切り)。大阪高校総体本戦出場者単4複3。秋季団体男子ベスト16(浪速1-2惜敗)、女子ベスト16(阿武野0-3)。大阪サマージュニア単で谷口広樹準優勝。

平成6年 春季団体男子ベスト16、女子本戦出場。女子複において、田和・石原組がベスト8に入り、インターハイ最終選考戦に出場、惜しくも敗退。この年女子の1年生部員が1学期末までにいなくなる。秋季団体男子ベスト16(春日丘に1-2惜敗)。女子ベスト16(泉州高校0-3)。公立学校対抗男子初優勝(大東、幸田、北田、高橋、伊藤、木下)

平成7年 春季団体男女とも予選敗退。危機感つのる。大阪高校総体本戦出場者単・複合わせて3さらに、危機感が増幅された。複で16に入った伊

藤・高橋組は近畿選考戦に臨んだが清風ペアに蹴された。秋季団体男子ベスト16（浪速高校に1-2で惜敗）。

平成8年 春季団体男子ベスト16。大阪高校総体男子複、永淵・安井組ベスト16、近畿選考に臨むが惜しくも敗れる。秋季団体男子ベスト8（清風に0-5の大敗）。

平成9年 春季団体男子ベスト8、女子本戦出場。大阪高校総体男子単、深尾ベスト8、女子単、赤坂ベスト16、近畿大会出場。女子複、赤坂・北田組ベスト8、近畿大会出場。サマージュニアテニストーナメント複で深尾・内田組3位。秋季団体男子ベスト8、女子本戦出場。田村杯単、深尾3位（大阪高校ランキング5位）。公立学校対抗男子優勝（深尾、内田、中川、大浜、谷口、中井、平）

平成10年 春季団体男子ベスト4（深尾、内田、中川、中井）インターハイ出場を決めるリーグ戦に深尾を軸に臨んだが惜しくも4位、女子本戦出場。大阪高校総体男子複、中井・平組が近畿大会選考戦において勝ち抜き近畿大会出場、ベスト16にはいる。秋季大会男子ベスト8（清風に0-5）、女子本戦出場。秋季学区大会（赤坂杯）では中村・吉岡組が同僚の中井・平ペアを破って優勝。夏の大阪高校オープンでは、中村康一が単で優勝。公立学校対抗男子優勝（中井、平、吉岡、中村、今村、角光、吉田）女子本戦初出場。

平成11年 春季団体男女ともベスト8、秋季大会男子ベスト4（上田、須田、芥川、太田、佐々木、北川、小島、吉田）近畿選抜出場を決めるリーグ戦に1年上田を軸に臨んだが惜しくも4位、女子本戦出場。秋季学区大会（赤坂杯）では荒巻・吉岡組が強豪刀根山ペアを破って初優勝。公立学校対抗男子3連覇（上田、吉田、芥川、太田、佐々木、北川、小島）



### 男子バスケットボール部

バスケットボールは、サッカーとともに男子生徒に人気のあるスポーツで、我が部も毎年多くの入部者に恵まれてきた。1993年に長田広明氏（現・西淀川高校）にかわって渡辺が主顧問になり現在に至っているが、この間練習自体は部員の自主活動に委ねてきた。それでも常に北地区有力公立高校の一角を成してきた。現在、インターハイ予選で6回戦を突破し2次予選に進出すること

を目標にしている。

46期（キャプテン、浜中）はインターハイ予選1回戦の桜塚戦で前半23点差をつけられ、敗北必至と思われたが、じりじり追いつき終了1分前についに逆転し勝利した。そして4回戦まで進出した。47期（キャプテン、皆渡）も同大会3回戦で強豪棋津とあたり、前半10点リードしたが後半惜しくも逆転され敗れた。48、49期は個性的で能力高い部員が多かった。48期（キャプテン、具志堅）は夏の大阪総体で四回戦に進出した。秋の北地区公立大会では六戦全勝で中央大会に進出した。そして参加42校中、豊中、茨木、山田に次いで四位になった。オフェンスは地区No.1だと言われた。49期（キャプテン、河野）はバランスのとれた良いチームだった。公立大会では5勝1敗で東淀川とともに同率1位だったが、直接対決で東淀川に敗れたため中央大会出場はならなかった。50、51期は箕面OBの佐々木氏の指導を受けた。50期（キャプテン、森川）は公立大会で3勝したが、その他の公式戦では一度も勝てなかった。実に良く練習したのが51期（キャプテン、竹ノ下）だった。インターハイ予選では3回戦まで順調に勝ち上がった。しかし連戦による疲労と負傷者続出で四回戦の対住吉戦は前半リードしながら逆転をきった。チーム発足当初は全く試合にならなかった52期（キャプテン、山本）も徐々に力をつけてきた。新人戦で千里に善戦し、対抗戦では北野、豊中、桜塚、少路をあいついで破った。インターハイ予選では芥川、吹田東に勝ち3回戦で大工大高にあたった。敗れはしたものの前半は1点リードし、終始互角に戦い私学の強豪に肉薄するまでになった。

現在、53、54期が活動している。キャプテン福田を中心に25名の部員と3名のマネージャーから成っている。1999年4月から45期の藤本が指導にあたってくれた。北地区公立大会で千里（大阪総体四位）について2位になった。新人戦でも4回戦に進出し、中央大会にも出場した。幸い合宿にはOB会の支援を受けて毎年OBが多数参加して後輩の指導にあたってくれている。2年に1度開かれるOB会も部員の刺激になっている。様々な支援と協力をえながら、部員は勉強とクラブの両立、そしてインターハイ予選2次予選出場を目指して頑張っている。



## 女子バスケットボール部

○私が女バスの顧問を引き受けることになったのは、昭和61年に40期生が2年になった時、担任をしていた生徒から顧問になってほしいという依頼があったからでした。池高のクラブは顧問推裁制でしたが、バスケットボールの経験のある先生がおられなかった事もあり、バスケットボールの事は何も知らない私に声をかけてきたのでした。

当時の女バスはOGの大学生がコーチとして面倒を見てくれていましたが、土日以外の日はコーチのアドバイスにより自分達でトレーニング計画を組み立てて、毎日の練習に励んでいました。また、少しでも実戦に近づくために練習試合の回数を増やし、公式戦の前月は毎週のように近隣の高校や枚方・大阪市内の高校に出かけたこともあり。そして、練習試合に負けた後は、体育館で3人が平行に走って50本連続のシュートインをはかる練習をフラフラになるまで行ったこともありました。その甲斐もあって、北部の有力校であった池田北高校を公式戦で破って、次の公式戦ではシード校になったこともありました。

合宿は男女バスケが合同で行っていましたが、男女の2つのチームが体育館を使用するので、十分に練習できない状況でした。そこで練習重視の合宿をめざして、次の年からは女子単独の合宿となり、宿舎から体育館まで徒歩10歩という琵琶湖畔の合宿所を見つけて夜遅くまで練習しました。その後、合宿所は淡路島へと変わりましたが、朝から晩まで練習に明け暮れる厳しい合宿を行いましたが、今でも続いているのでしょうか？

また、クラブ顧問の推裁の時期になると、1年生の部員とクラブのことを話し合いました。「自分たちはどのようなクラブを作り上げたいのか」、そして「そのためには何が必要なのか」という問いに、1年生達は真剣に悩み、苦しんだと思います。全員の意見を取りまとめ、何度も話し合いを行いました。結局、私自身は生徒とクラブの事を話し合う機会を持つことで、クラブへの希望と夢をお互いに共有できたと思っています。私にとっては、教員として本当にやりがいのある8年間でした。(北川一馬)

○私が本校に着任した平成6(94)年4月、足立泰彦・裏垣加奈美・二敷寛治を顧問とし、キャプ

テンは小林美代子(47期)であった。やがて、48期生(キャプテン好光由紀)から私にも顧問の依頼があり、深く考えることなく、それまで全くバスケットボールに縁のなかった私に関わりを持つことになった。以来現在まで足かけ六年、少しは生徒との付き合いで練習や試合を見るようにはなったが、指導するというような域には達せず、生徒には迷惑をかけている。

学校スポーツは、みなそうなのであろうが、生徒は、そこではほんの2~3年を通り過ぎるだけであり、チームやそのメンバーも毎年変わる。この変わる中で、変わらないものがチームカラーといわれたり、伝統といわれたりするものなのであろう。具体的には、準備体操、基礎練習形態、整理体操などの方法かと観察するが、長い目で見るとやはり変化しているようで、たまに指導に来るOG達の意見は、練習があまくなっているという。

私の観察では、バスケットボールはいかにもアメリカ人の競技であると思わせる。やられたら、やり返させる平等性、すきがあれば人のもの(ボール)を奪い取るずる賢さ又は緊張性、時間以内に事を処理しなければ罰を受ける責任性、反則についてのきまりが特に細かい規則性、選手交代の自由性などなど現代社会に、いや国際社会に必要なとされるいろいろな要素を持った競技と認識している。コートは広くはないが、あんな重いボールを持って、相手との接触プレーがあって、ボール保持したら動けないというのは、やはり厳しい競技に思われる。そのバスケットボールを進んでやりたいとする生徒達を、国際化する現在、頼もしい存在に感じている今日この頃である。

(篤本俊治)



## ラグビー部

ここ数年高校ラグビーの状況は、部員減少という難題に直面し困難な状況に陥っている。現在大阪府の加盟チームは、約180校あるが、15人以上の部員を有し、公式戦大会に参加出来る高校が60にも満たないのである。

平成2年から平成6年迄は、平均的に毎年10数人の入部が続き、常に30人以上の部員を擁していたが、平成7年の新入部員が後にも先にも2名しか入部せず、大きな転機を迎える予兆となった。その年の46期生が引退すると当時の2年生が、公

式戦に出場できないとの理由で1人を残し全員退部し、年度途中にクラブに入っていない生徒に呼びかけ入部した2人を含む僅か6人となってしまった。幸い翌49期生が必死の声掛け勧誘により、大量26人入部し、その後50・51・52期生と順調に新1年生が入部、また、平成9年には福井高校より溝口博教諭が顧問として来てからチーム力も強化され、公立普通科高校としては、今の状況下において、全国的にみても、恵まれたチームになったといえる。府下全体にみられる部員不足の波が池高では早く訪れたが、その困難状況で、半年間たった6人でくじけず活動を続けた者達が、この10年間の最大の功労者だったと思う。その6名の氏名をここに記しておく。

47期今中宏則、48期三浦隆之・小林真平・山崎優・太田聡・山田茂

〔主な戦績〕

- 平成8年 大阪総体ベスト8
- 平成10年 第13回12校大会 優勝 4勝1分  
第6回北摂大会 優勝 6勝0敗
- 平成11年 近畿大会大阪府予選 ベスト8  
大阪総体 ベスト8  
第14回12校大会 準優勝 3勝1敗

〔名選手紹介〕

43期生主将の後藤広太郎は、1年生よりスクラムハーフとしてレギュラーで活躍し、大阪でも府下No.1のスクラムハーフとして、その名を馳せた。大学は、学生ラグビー界の名門明治大学に進み、平成7年の全国大学ラグビー大会の優勝メンバーとしてその名を連ねた。全国のラグビー有名高校からのエリート集団の中で、無名校から入りメンバーに入ったことは、絶賛に値するだろう。



(対全慶応大戦。背中9番が後藤。)

また、同43期生の木島英登は、平成2年の4月練

習中脊髄損傷の大怪我をし、1年間の手術・入院・車椅子等の訓練を経て、復学を果たし、その後神戸大学へ進み、現在は広告の仕事に携わり社会人として活躍している。車椅子生活を余儀なくされたにもかかわらず見事な精神力で高校・大学を過ごし、復学後の一年は、コーチ役としてグラウンドで部員を指導した姿は、先輩・後輩を問わず、大きな感銘を与えた。ラグビー部に大きな足跡を残した一人である。(山崎政範)



### サッカー部

平成7年に池田高校に転勤してまいり、永川教諭、若林教諭、平井教諭、磯村教諭と共にサッカー部顧問として活動させて頂くことになり、伝統あるサッカー部の名に恥じない様に頑張っていこうと気を引き締めたしだいであります。

平成8年には磯村教諭が渋谷中学校へ赴任され、平成9年には永川教諭が茨木工業高校へ転勤され、以後、若林教諭、北宮教諭と共に指導に励んでおります。

Jリーグ発足以降サッカー熱は高いものがありますが、優秀なプレーヤーのJリーグのユースチーム登録などによる高校チームのレベルダウンや、生徒の減少に伴う部員数の減少、厳しい練習に耐えられず、途中で止めていく生徒の数も多く、クラブ活動を取り巻く環境は大変厳しいものがあります。しかし、部員諸君のサッカーに対する情熱は大変高く、熱心に練習に励み技術面・戦術面だけでなく、精神面の強化にも力をいれ、池高サッカー部の一員として日頃の生活態度から正して、一試合でも多く公式戦を戦えるように頑張っておりますので、応援の程宜しくお願い申し上げます。

—主な戦績—

	回戦	対戦相手	戦績
・平成2	春季	1 柴島	5 : 2 勝
		2 東淀工業	1 : 0 勝
		3 島上	0 : 0 P K勝
		4 近大附	0 : 3 負
・平成5	秋季	2 枚方西	1 : 1 P K勝
		3 守口	1 : 0 勝
		4 山田	2 : 3 負
・平成8	春季	1 箕面東	2 : 0 勝
		2 布施	0 : 0 P K勝
		3 柏原	2 : 1 勝

	4	上宮太子	0 : 2	負
新人大会	1	八尾北	6 : 0	勝
(ベスト16)	2	守口	3 : 1	勝
	3	岸和田	2 : 1	勝
	4	山田	1 : 0	勝
	5	堺東	1 : 3	負
・平成9 春季	4	大冠	1 : 3	負

戦績は、高体連主催の大会で、大阪高校サッカー五十年史を参考にさせていただきました。

(濱口直巳)



## 柔道部

平成3年4月～平成4年3月

平成3年の部員数は3年6名、2年7名のところに新人部員13名が加わり、柔道場の活気が一段と高まり、密度の濃い練習が続いた。2年の渋谷をポイントゲッターに有望新人三浦、金山等が続き全柔連府予選北地区大会、高校総体、新人柔道大会北大会では団体戦で常時1、2回戦は突破できる実力はあったが、中央大会には後一步のところで阻まれていた。

平成4年4月～平成5年3月

この年の入部は田辺ら5名であったが、46期生三浦の父親をコーチに迎え、池田市主催の合同練習参加や熱意あるものは田辺道場に通うなど、他校生や社会人との練習交流が広がった。日頃の練習の成果はこの年の全柔連府予選個人戦54キロ級で田辺が見事ベスト8に進出する結果となって現れた。

平成5年4月～平成6年3月

この年の入部は松江、古谷等9名である。その中に女子でただ1人中川がいた。彼女は中学からやっており、背負い投げ、体落としと技にキレがあり相手を足技で崩すコツを心得ており、1年で初段を取るなど将来が楽しみな生徒であった。惜しむらくはただ1人の女性であったため、男子が遠慮がちな練習になったために伸び悩んだ。ただ大阪大学招待試合での活躍が印象に残る。

平成6年4月～平成7年3月

この年大江、三谷等男子5名と福原ら2名の女子が入部してきた。この年は松江、古谷をポイントゲッターに全柔連府予選北地区大会を突破、念願の中央大会に進出している。中央大会では1回戦で惜敗したが、実力以上の力を発揮した。松江

は2段を取得しており、他の部員も殆どが有段者であった。チームワークが優れていた。

平成7年4月～平成8年3月

この年の入部は間瀬等男子3名と濱野の女子1名の4名であった。大江は中学からやっており並外れた馬力と技術があったが、彼に続くポイントゲッターがなく地区大会でも敗退が続いた。濱野は男子を意識せず、男子も遠慮なく練習したため、小人数ながらアットホームの雰囲気があった。

平成8年4月～平成11年3月

平成5年頃より、全国的に柔道人気に陰りがみられ、団体戦にも事欠く事態が懸念されていたが、本校でもご多分に漏れず、8年の入部は2名、9年は1名、10年は2名、11年はついに新入部員はなくなり、部存続の危機に直面している。

柔道の面白さ奥深さを50期生落合は次のように語っている。

「僕は高校から柔道を始めた。それは初めての格闘技であり、初めてのスポーツだった。柔道を選んだ動機も、あまり走らなくてよさそうという程度だ。しかし偶然にせよ、その選択は正しかった。

某年春、池田高校に入学。まだ柔道を知らない。5月に初めて道場に行き、そのまま入部。当初、柔道が楽しいものとはとても思えなかった。一日覺を叩いて終わりだったり、その後も投げられ、抑え込まれ、絞められ、極められ、苦しい上に誰にも勝てなかったからだ。退部はしないという誓いを立てた事を少し後悔した。

同年秋、なんとか練習についていけるようになった。まだあまり勝てないが、柔道続ける事はできそうだ。しかし、自分は本当に強くなっているのか？など不安な気持ちになった時期でもある。道場を見回すたびに柔道着を着ている自分に、なんだか違和感を覚えていた。

翌年春、新入生が来た。・・・弱い。あたかも去年の僕のように打ち込みでダウン。どうやら僕は成長していたようだ。一安心である。ここから僕の柔道は少し変わった。今まで先輩が相手だがむしろに動いていたのだが、後輩が相手だと動きがわかる。いつ、どんな技をかけるか、どっちに動くかなどがわかったのだ。これで変な体勢からの技が減り、切れ味も良くなった気がした。「柔道」というものが少しだけわかった。少しずつ柔道を好きになっていった。

同年冬、出稽占先で体重90キロぐらいの人と乱



取りをした。初めて柔道で感動した。その人を投げたからだ。ただ投げただけじゃなく、柔道として投げれた。その重さは感じられず、ただ自分の手足を動かしているだけのようだが、手は確かに相手の襟を掴んでいた。全く不思議な感覚だった。柔道とは、なんて素晴らしいんだ。以来、この感覚に魅了され一層練習に励んだ。

翌々年夏、ついに引退の時を迎えた。いつしか柔道着に対する違和感は消えていた。柔道部に入って良かった。裾の解れた道着や色褪せた帯を見るたびに本当にそう思う。実質、二年間ぐらいだったが、柔道は僕に多くのものを与えてくれた。心身共に鍛えてくれたのだ。ありがとう柔道着、ありがとう柔道場、そして歴史ある柔道部よ永遠に。感慨に浸りながら部を去った。」



### アメリカンフットボール部

1990年

記念モニュメント建設実行委員会が出来、発祥の地建設へ

豊中定期戦 ● 0-35

1991年

ニックネーム決定 46 'GALLEON

10/5 披露・除幕式

豊中定期戦 ● 8-12

1992年

6月 ピーター岡田氏来阪

豊中定期戦 ● 0-27

1993年

中4期 古川明氏 H本A F協会理事長 就任

豊中定期戦 ○ 21-14

1994年

8月 米国・レイクワシントン高校との国際交流 部員派遣

豊中定期戦 ● 0-6

1995年

豊中定期戦 ● 0-14

1996年

7/21 創部50周年式典 50周年記念誌 作成

7/26 レイクワシントン高校訪日・試合

春季大会 3位

豊中定期戦 ● 0-7

1997年

豊中定期戦 ● 0-56

1998年

8月 読売新聞 わが母校に記事が掲載される  
豊中定期戦 ●

1999年

8月 海外交流 マウイ・キングケカウリケ高校 チーム・キャンプ実施

豊中定期戦 ○ 18-0

伝統あるアメリカンフットボール部も、平成元年の春季大阪大会の優勝を最後に、この10年間は池高アメリカンフットボール部の低迷期に入ったみたいです。人数的・タレント的には、そこそこの部員が揃いながら、練習不足等のことから、なかなか良い戦績を挙げることが出来ませんでした。同じ公立高校でも、豊中高校は確実に実績を上げ、池田高校の代わりに箕面高校が頭角を現してきたのが現状です。OB会としては、現役諸君達に精神面・技術面等でバックアップできるようにと、中学・高校フットボール発祥の地・モニュメントの創設や海外交流を実施しました。全OBは、今後、池高フットボール部員が誇りをもち、名実共に名門高校としての活躍を期待して援助しています。



### 水泳部

部員は例年20~30名と比較的多いクラブで、プールの使用は5月の連休明けの、まだ水の冷たい頃から毎日水に入り、よく泳ぐクラブである。

部員は、小学校以来のスイミングクラブでのキャリアをもつ実力派と、高校からクラブに入る初心者の生徒と、幅広く存在する。

専らスイミングクラブで練習するものもいるが、両立する者も少なくなく、皆和気藹々と練習し、仲も良い。

6月の地区大会から、本格的なシーズンに入り、地区大会を突破して中央大会に進出する選手も毎年多く、第一学区のレベルとしては高い方に属するといつてよいであろう。

そんな中で特に傑出した選手は、46期生(91年入学)の清水あい。200mの平泳を得意とし、毎年近畿大会に進出して健闘した。

また、50期生(95年入学)の大倉正嗣は、200mバタフライでやはり近畿大会出場を果たした。両名とも決勝には残ることがなかったが、水泳部の歴史を継承するものであった。



さらに、藤本教諭の指導の下、昭和42年に途絶えた水球（男子）への取り組みも復活し、水球用プールではないというハンディを抱えつつも、各大会に参加し善戦し、その成績は52期生の金田崇臣（97年入学）を迎え、大きく飛躍した。彼は、98年及び99年に大阪の国体強化選手に選出されている。また、53期生山川直也（98年入学）も99年に国体強化選手に選出され、伝統だった水球の灯を再びともし、後輩の指導にあたっている。

～～～主な戦績～～～

1997年

- 府選手権大会
- 200mバタ 大倉正嗣 9位（2分17秒90）
- 府高校対抗大会
- 200mバタ 大倉正嗣 5位（2分16秒11）
- 400m男子混継 森田・福留・大倉・岩田 9位
- 府新人大会
- 100m平泳 福留悠介 7位（1分12秒32）
- 200m男子継 岩田・福留・森田・細井 9位

1998年

- 新人大会
- 水球の部 第3位

1999年

- 府選手権大会
  - 印藤あかり
  - 100m自由形 5位（1分0秒75）
  - 200m自由形 2位（2分10秒03）
  - 杉村 薫
  - 100m平泳 2位（1分15秒44）
  - 200m平泳 5位（2分46秒87）
  - 近畿高校大会
  - 印藤あかり
  - 100m自由形 6位（1分0秒31）
  - 200m自由形 3位（2分9秒07）
  - 杉村 薫
  - 100m平泳 2位（1分15秒22）
  - 200m平泳 6位（2分43秒68）
  - 日本高校大会出場（岩手県盛岡市）
  - 予選タイム
  - 印藤あかり
  - 100m自由形 （56秒92）
  - 200m自由形 （2分8秒44）
  - 杉村 薫
  - 100m平泳 （1分14秒04）
  - 200m平泳 （2分41秒60）
- いずれも残念ながら決勝進出はならなかった。

女子ハンドボール部

昨今の高校女子のハンドボール部は、厳しい状況にあります。

競技そのものが日本ではマイナースポーツであり、さらに接触プレーの多い格闘技に近い競技内容が、現代の若者に受け入れられないこと、また、他のクラブにも共通する少子化の影響をその理由としてあげることができます。

第1学区の府立高校16校のうち女子のクラブがあるのは、わずか7校だけであり、私学でも伝統校が、休部や廃部になった話をよく耳にします。

今まで府下4ブロックに分けられていた地区も、平成11年度から南（中・南）、北（北・東）の2地区に統合され、平成12年度からは複数の学校で1チームを編成する案も考えられています。このような中で10年間、何とか部員数を確保し活動を続けてこれましたのは、池高ハンドボール部の輝かしい伝統と先輩諸氏のご協力の賜物であると感謝しております。

ここ10年の公式戦の主な記録

- 平成6年春 インターハイ北ブロック大会3位、中央大会2回戦負け。（ベスト16）
- 夏 大阪総体北ブロック大会4位、中央大会1回戦負け。
- 平成7年春 インターハイ北ブロック大会3位、中央大会2回戦負け。（ベスト16）

この4年間は、北ブロックの大会を勝ち上がることができずにいます。中学校での経験者も殆どいない状態で、何とかチームができあがるころには3年生になり引退となります。

また、平成6年度からは、従来の夏合宿を高知県春野市での春合宿に変え、練習試合を増やすようにしています。

中学時代に絵筆しか持ったことのない生徒が、入部して3年間で少しずつハンドボールを覚え、精神的にも成長して行く姿を見ていると、これも高校での部活動の意義ではないだろうかとも考えています。

厳しい状況ではありますが、部員ともども部の伝統を守りなお一層の努力を続けたいと思います。

（鈴木康嗣）



### 男子バレーボール部

- |        |        |                      |
|--------|--------|----------------------|
|        | 大会名    | (戦績)                 |
| *1990年 | 春季1次予選 | (3部優勝、2部昇格)          |
|        | 新人1次予選 | (2部優勝、1部昇格)          |
| *1991年 | 新人2次予選 | (ベスト16)              |
|        | 春季1次予選 | (1部2位) 新人1次予選 (1部3位) |
| *1992年 | 春季1次予選 | (1部4位、2部降格)          |
|        | 春季2次予選 | (ベスト16、近畿大会出場決定)     |

近畿 (1回戦敗退) 池田0-2 洛南 (京都)

春の部別リーグでは強豪がひしめくゾーンに入ってしまった、箕面には九分九厘勝っていた試合を落とした後だけに、2次予選で勝ち進んで近畿大会出場を果たせたことは部員全員にとって忘れられない思い出となったことと思う。34年前に2年連続で近畿大会に出場した私にとっても大変喜ばしいことであった。

(浜中山朗)

[スコアブックのマネージャーのことは]

夢だった近畿大会出場!! 1回戦で負けてしまったけれど45期生の部員の皆さん、お疲れさまでした。いろいろと問題やもめごともありましたが、何とか乗り越えてくれたことを嬉しく思います。

- |  |        |                                     |
|--|--------|-------------------------------------|
| *1993年   | 新人1次予選 | (2部3位)                              |
|  | 春季1次予選 | (2部2位)                              |
| *1993年夏~1994年夏までの記録は残されていない。しかし、この間は特に取り上げるような成果はなかった。 |        |                                     |
| *1994年   | 新人1次予選 | (2部2位)                              |
| *1995年   | 春季1次予選 | (2部3位)                              |
| 1995年秋~1997年秋までの記録は残されていない。この間に一度3部に降格し、再び2部に昇格している。   |        |                                     |
| *1997年   | 春季1次予選 | (2部4位、3部降格)                         |
|  | 新人1次予選 | (3部2位)                              |
| *1998年   | 春季1次予選 | (3部2位) 新人1次予選 (3部優勝)                |
| *1999年   | 春季1次予選 | (2部3位) 府立高校大会 (ベスト16) 新人1次予選 (2部2位) |

現在、部員数はプレーヤーが2年生5人、1年生9人の13人で女子マネージャーが4名の17名である。2000年の春季部別では必ず1部昇格を果た

すべく練習に余念がない。



### 女子バレーボール部

この10年間の部別大会の成績は以下の通りである。

90年春	1部4位	秋	2部2位
91年春	2部3位	秋	2部2位
92年春	2部優勝	秋	1部4位
93年春	2部2位	秋	2部2位
94年春	2部2位	秋	2部4位
95年春	3部2位	秋	3部4位
96年春	4部優勝	秋	3部優勝
97年春	2部優勝	秋	1部4位
98年春	2部3位	秋	2部優勝
99年春	1部3位	秋	1部2位

90年代前半は、1部残留こそ果たせなかったが、2部以上を維持したほかトーナメントでもまずまずの戦績を残すなど、しっかりとしたチームとしての活躍がみられた。

毎日昼休みに主将を中心に分刻みの練習計画を立て、放課後それを実行していた。生徒が運営の中心で、足立泰彦・三浦元嗣らは顧問としてそれを支えるというスタイルが定着していた。選手としては、43期辻本・45期山崎・47期蔭山が地区選抜チームに選出されたが、中でも山崎の強力なリーダーシップは特筆すべきものであった。

92年春に顧問として山本義厚が加わると、クラブの体質は少しずつ変化しはじめた。自主性を尊重しつつも、目標を定め与えるのが顧問の仕事だと考え、指導者としてクラブの方向づけに力を注いだのである。「楽しく厳しく」をモットーに、各人の技量や力量に応じた練習メニューがつけ加えられた。クラブノートでの対話も始まった。しかし、力を備えていながら発揮できず、大事な場面で弱気になるという繰り返して、チームが軌道に乗るのには5年の年月が必要であった。

95年秋には不本意にも4部に陥落したが、逆にこれで発奮し、3シーズン連続優勝で一挙に1部昇格を果たした。このときの主力は50期の奥田・石川・白石らで、冏抜けた攻撃力は相手を圧倒し、近畿大会出場まで今一步と迫るなど、ようやく闘志溢れる勝つことの楽しさを手に入れたチームが完成した。文化祭において、バレーならぬダンスで華々しく活躍するのもこの頃からで、白山な冨

開気の中で伸び伸びと自分を発揮できるようになった。98年秋には、52期能見・野口の2枚エースで2部優勝し、翌春初めて1部残留を果たした。現在もとび抜けた選手がいない中、総合力とチームワークで十分に1部の実力を示している。98年春からは芳澤裕之も顧問に加わり、伸び伸びと前向きに、何事にもプラス思考で取り組むというチームスタイルの確立に向け、着々とチームづくりが進んでいる。



### 硬式野球部

主な戦績 「平成4年秋 ベスト8」「平成5年春 ベスト16」「平成6年夏 ベスト16」「平成7年春 ベスト16」

平成元年、宮崎監督（現大産大高監督）麻野部長の体制で野球部は平成のスタートを切った。就任したばかりの頃、池高生とはなかなか頑固な生徒達だという印象であった。それは技術指導を入れても数日経つと元に戻ってしまっているということである。今までの自分の技術に自信を持っているが故、自分の型をなかなか変えようとしなことが非常にかたくて難しかったそうである。しかし麻野部長の野球が徐々に浸透し年々力をつけてゆき、44・45期生は、公式戦では結果は残せなかったが、練習試合などでは、甲子園出場校に勝ったり、対等の勝負をするなどなかなかのチーム力であった。こうした土台が46期生に大阪府ベスト8という形で現れたものであった。しかし46期生が突出して強いチームであったというわけではなく、新チームの頃は、連戦連敗で、「暗くなるまでミーティングをしたこともあった」というような状況からスタートしたのであった。

（麻野部長談）46期の勢いがその後47期、48期生に受け継がれていった。47期の夏の大会では次年度に選抜に出場した某校のエースを打ち込んでの16進出であり印象に残るゲームでもあった。48期生の春季大会では五回戦で監督が負傷退場するというアクシデントもあり思い出深い大会となった。この大会を最後にここ4年間ベスト16から遠ざかっている状況であるが、その間古豪私学とのゲームで8対0から逆転勝ちを取めたことも、また、逆転や接戦の連続で4回戦まで駒を進めたこともあった。51期の秋季大会の1回戦で当該大会の優勝校と対戦し、一つのミスをきっかけに点差

をつけられ惜敗したのも我々にとって良い経験となった。この10年間で野球部OBには、大学で野球に携わっているものも、他の分野で様々な活躍をしているものもあります。諸先輩方の今後の活躍と池田高校野球部の発展を願い、新世紀に向け、更なる飛躍を期待しております。



### 剣道部

平成2年から11年までの10年間の活動についてまとめておく。平成2年から6年までの記録が残っていない。部員数は10人前後で推移していたが、ときには部としての活動が危ぶまれた年もあったようだ。

49期（H6～8）は男子の経験者が多く、充実した練習ができていた。小山は在学中に三段を取得した。中島は今も、時々後輩たちに稽古をつけている。

その後の50～52期は1～4名という少ない部員数で、十分な練習ができなかったが、部の存続に貢献した。特に52期の女子3名の積極的な勧誘により53期・54期は男女とも一学年でチームができるようになった。練習内容も充実し、平成9年より小豆島において、渋谷・東豊中・箕面などと夏季合同合宿に参加し、部員たちの意識も高くなりつつある。53期は技術レベルも高く好成績を残している。54期とともに今後の飛躍を期待する。

平成11年7月には、地元中学を招待し、剣道大会を催した。部員たちの自主的運営により中学校との交流を深め、内外より高い評価を得た。この行事が毎年継続され、剣道部の発展に寄与してくれることを祈る次第である。

顧問は平成元年より現在まで、28期剣道部OBの芳澤教諭（数学）が中心となりご自身も稽古されていたが、アキレス腱断裂のためまとめ役に回られた。平成8年より25期OBの私（生物）が主担を引き継ぐ事となった。また、24期OBの田口教諭（書道）も名を連ねられている。昭和46年、渡辺教諭（前桜塚高校教頭、七段）のご指導の下、私が高2のときに現在の道場が完成し、今では懐かしい思いで指導にあたっている。しかし、30年余りの年月が過ぎ去り、床板があちこちで割れており安全面において修理が急がれる状況だ。

（末松 真）



主な大会成績 ( )内は中心になった期

平成7年度(49期)

8月大阪総体 男子団体ベスト32

11月新入戦

ブロック大会 男子団体ベスト8

中央大会進出ベスト32

平成9年度(50期)

6月池田市民戦

男子個人優勝(阪本)、三位(竹原)

平成10年度(52期)

8月大阪総体 女子団体ベスト16

11月新入戦女子個人ベスト32(渡辺公53期)

1月北摂大会 男子団体ベスト16(53期)

女子団体ベスト8

平成11年度(53期)

9月池田市民戦 男子・女子団体優勝

男子個人優勝(坂口)、女子個人優勝(渡辺日)

11月新入戦ブロック大会 女子団体3位

同、中央大会進出

女子団体、男子個人(川上)、女子個人(渡辺公)



## 卓球部

80年代までは1学年の部員数も男女合わせると10人以上を数え、北摂大会(第1学区の国公私立で構成された大会)では毎年のように優勝を争うほど活発な活動を続けてきたが、90年代に入り、卓球に対する世間的なイメージも手伝ってか、まず女子部員が入ってこなくなった。ついで男子部員も、この10年間は1学年で多くて5人、少なければ1人という状況で、ついに97年度からはメンバー不足で団体戦に欠場する状態が続いていた。

10年間の戦績としては、92・93年度永谷・長岡を中心として、あと一步で京阪神大会というところまで行ったが、それ以上はあまり目立った成績は残していない。府大会もせいぜい3回戦どまりである。

最後に、95・96年度の主な成績を付けておく。

95年度 春府大会 2回戦敗退

夏北摂大会 準決勝敗退

夏府大会 2回戦敗退

96年度 春北摂大会 準決勝敗退

春府大会 2回戦敗退

現在、数名の部員が、部の再生をめざして活動に励んでいる。



## 体操部

平成9年

府立高校体操競技大会

床運動 阪本妙子(一年) 第五位

跳馬 首藤久実子(二年) 第六位

平成11年

府立高校体操競技大会

床運動 阪本妙子(三年) 第四位

平均台 〃 第六位

個人総合 〃 第六位

ここ十年間の成績は上記の通りである。部員は少人数ながら、途切れることなく続いている。特に体操部のように高度の技術を要し、又、事故の危険性も大きい競技においては、技術指導者の不在は、部活動低迷の大きな原因となっているが、平成9年度から生徒の希望と相手校のお誘いにより指導者のおられる箕面高校へ時々練習に行っている。平成12年1月から、府教委の進める「学校間連携」に則り、正式な手続を経て実施している。



## バドミントン部

今振り返って思うことは、毎年キャプテンが素晴らしいことでした。44期の松村、47期の幸村、49期の今木田、51期の鶴田など、本当によく部員をリードしてくれました。合宿は夏に箕面の帝釈寺で宿泊して練習は校内でやっていたのですが、途中からは春休みに滋賀県のマキノ町で行うようになりました。多くの先輩たちの支えがあってクラブが続いていることを忘れずに、仲良く元気にバドミントンを楽しんでくれることを願っています。(前顧問 長枝 宏)

入学して初めてこの部に仮入部したとき、外周を走ったり筋トレをして、次の日、歩くのが辛いほど筋肉痛になったことをよく覚えています。入部して見ると1年生は当時20名以上おり、練習はなかなかできませんでしたが、先輩たちは面白く優しく接して下さって、とても楽しかったです。一番思い出に残っていることは3月に行った滋賀県での合宿です。宿舎から体育館までの道程をランニングしみっちり練習しました。この合宿では

心身ともに成長できたと思います。私にとって高校生活におけるバドミントン部での日々は誇りであり自信となっています。

(49期キャプテン 今木田京子)

入部当時、1年生は経験者10人、初心者3人と圧倒的に経験者が多く、初心者にとってはいい条件となり、経験者にとってはいい刺激でありました。私が中学から今までの6年間で一番思い出に残っていることは、高2の豊能地区大会ダブルス上級で優勝したことです。この試合中、私はペアの鎌田さんと、そして周りで応援してくれていた友達と心が一つになっていることを、すごく感じました(鎌田さんも全く同じ気持ちだったそうです)。この試合が、今まで私がやってきた試合で一番感動したものです。

特徴といえば仲良くまとまっていたことです。練習メニューが単調で飽きてきたら、中学時代の練習や、テレビで見たものなどで楽しく練習しました。学校以外でも何人か体育館に通ったりして、一人一人が技術向上に意欲的だったと思います。

(52期キャプテン 西尾佳子)

この5年間バドミントン部の顧問をしています。最初はルールも知らず長枝教諭に教えてもらいながらゲームを楽しんでいましたが、先生が急に転勤になられて責任が重くなりました。バドミントン部は女子ばかりで部活のルールを守って明るくやってくれるのでホッとしています。何と言っても顧問も試合に参加出来るところが嬉しくて(見ているだけではつまらない)、10代に混じって頑張っています。51期生は23人で50期生がいなかったこともあって、自由に伸び伸び練習していましたが、キャプテン・副キャプテンには2年分の苦勞をかけたような気がします。52期生は13人で西尾・鎌田ペアは豊能地区を制す程の力があつたので、他の部員にも刺激になり、技術が向上しました。一年間で豊能地域のほとんどの高校と練習試合をやり自信がついたようです。大阪大会においても個人戦でほとんどの部員が3回戦、4回戦あたりまで進んでいます。53期、54期もこれからの成長が期待されます。

(顧問 山田由美子)



### 合気道部

池田高校合気道部は今から31年前、本校教諭でいらっしゃった氏田教諭が作られたクラブである。平成4年に氏田教諭が転勤された後、田岡耕治教諭が主顧問をなさり、平成7年から津村が引き継いだ。顧問が合気道未経験のため、現在も師範の阿部醒石先生及び氏田教諭に指導をお願いしている。池田高校創立60周年にあたり氏田教諭に筆を執っていただいた。(津村)

平成3年頃までは関西において合気道部のある高校が集まり、関西学生高校合気道連盟を作って、お互いに技を競い合う大会を行ってきました。参加校は、和歌山の新宮高校、大阪の北野高校、北淀高校、北千里高校、桜塚高校、池田高校、四条畷高校、それに園田学園高校、帝国女子学園といった高校でした。我が池田高校も各部門に優勝して好成績を取って来たのですが、相次ぐ先生の異動があったり、校務が忙しく指導できなくなったりして大会ができなくなりました。こういった異動で指導者がいなくなってしまうと、自然消滅とならざるを得ないクラブがある中で、我が合気道部は池田高校の暖かいご指導、OB諸君の献身的な指導、前顧問が近くの高校に異動したことが幸いして現在も消滅することなく、元気に活動していることは、誠に喜ばしいことです。

もう一つ変わったことは、毎年夏の合宿を行っていた高槻市の道場が縮小され、48期生を最後に合宿場所を変更せざるを得なかったことでこれは誠に残念なこととなりました。合気道部は昭和48年よりずっと白炊という合宿形態をとってきました。買い出し、洗濯、調理、遠くのほうまでの銭湯通い、全部分担を決めてお互い協力しあって過ごした期間は卒業しても懐かしい思い出の一つです。O-157の関係で白炊もなくなり、場所も吹田道場に変わりましたが、平成11年の合宿には20余名のOB参加者があり、盛況でした。

池田高校創立60周年にさきがけ、平成11年10月11日(月)には箕面の武道館で合気道部創部30周年記念式典を開催したことは、誠におめでたい次第です。池高合気道部は先輩との交流が今も盛んで、卒業生が池高の合気道部で過ごした頃を懐かしく思い、あたかも故郷へ帰ってくるような心境

でこの式典に参加してくれるのです。10周年から30周年まで5年ごとの区切りで行われてきた訳ですが、こんなに定期的に卒業生とつながりがあるクラブは、大阪府下の高校で数少ないと自負するところです。当日は総勢200名近くの参加者で、来る35周年の再会を祈念して盛会裏に式典を終えました。  
(氏田照陽)



### ダンス部

1999年(平成11年)部に昇格したダンス部は現在、部員数33名の大所帯で活動を活発に行っている。ダンス部が同好会として発足したのは、1995年(平成7年)である。当時、50期生として入学したばかりの安河内直子の呼びかけで初心者ばかり10名弱の集まりで活動は始まった。しかし御承知の通り、部活の活発な本校での活動場所の確保は難しく、廊下や外庭のセメント部分などを使用しての日々であった。特に雨の日は最悪で、多くの他の部が廊下を使う為に端へ押しやられてしまう状態であった。しかしながら当面の目標を文化祭・芸文祭に置き試行錯誤の中で積極的に取り組

み1年目としては上々の評価を得ることができた。これを自信として次の年の4月新入生歓迎会では大胆なステージ発表が目をつけたのか10名近くの新入生が入部してくれ一層活動意欲に拍車をかけてくれた。この傾向は今なお続いている。

現在の実績としては、4月新入生歓迎会、8月全日本高校大学ダンスフェスティバル、9月文化祭(3回発表)、10月修学旅行発表、11月大阪高校創作ダンス発表会と一年間を通じて校内、校外へと練習の成果である発表の機会を作っている。中でも8月の全日本高校大学ダンスフェスティバルは全国から多くの学校が出場し年々スケールが大きくなってきており、出場2回目にして専門の審査員より高い評価を得たこともあり、ダンス部の最大の目標としている。

同好会発足より現在まで振り返り思うことは、いつも初心者集団で始まるにもかかわらず2年余りの努力と熱心さで3年生になった時には相当な上達ぶりを見せている事、そして、作品は生徒自らが考えた動きであることなど池高生自身の質的水準の高さを見せつけられることである。顧問としてもよりハイレベルな部にするべく基本レッスンのみならず心身共の育成により一層力を入れてゆきたい。  
(裏垣加奈美)



# 60周年記念座談会

## 今、母校を思う



1999年11月20日(土) 本校作法室にて

### ご出席者

水越 知	(44期)
丸尾 昌弘	(49期)
秋田 涼子	(49期)
青木 良真	(50期)
平林 誠弘	(50期)
和嘉 優資	(51期)
森村 治	(52期)
三木 健	(52期)
統括 篤本 俊治	(本校教諭)
書記 友國 武	(承風会幹事)
司会 平井 文友	(本校教諭)

司会 では、始めていきたいと思います。今日のこの場はご案内いたしましたように、本校は来年初立60周年という、めでたい年を迎えることとなります。そのために種々の行事を考えておりますが、こちら記念誌の係でもここ10年の歩みを編集しているところであります。その企画の一つとして卒業生の皆さんに集まっていただいて、ここ10年の思い出を共有したいと思っております。お忙しいところご出席ありがとうございます。

顔ぶれを見ていただくとこちらの人数がおわかりになると思いますが、おそらく学校を隔々まで広く見ていただいたであろうということで、自治会の役をなさった方々をお呼びしました。43期から52期まで各期2名をお呼びしましたが、お仕事の関係などで本日は出席者8名という少し寂しいお集まりになりましたが、内容は皆さんのお力で盛り上げていただいて、楽しく思い出を語っていただければ、と思っております。よろしくお祈りします。

最初は簡単な自己紹介を型通りにしていただいて、その後は文化祭や体育祭などの行事をふり返っていただくのを一つの柱にして、それから授業や先生といった教室での思い出を二つ目に語っていただこうと思っております。そして三つ目に、

そんなにここ10年で生徒の気質が変わるなんて思わないんですが、友人などを思い出していただいて、その頃の生徒がどのようなものであったかも触れていただこうと思っています。もちろんそれぞれに当てはまらないこともあると思いますので、あとは自由に語っていただこうと思っております。

### 〔自己紹介〕

それでは、最初簡単に自己紹介ということで、私の方からさせていただきます。記念誌のテープ起こし係といいますか、(笑)座談会の係をやっています国語科の平井と申します。池高は現在7年目進行中です。生徒との係わりで言えば、49期の担任を1年生から3年生を送り出すまでしてきました。その他は残念ながらほかの仕事をやらせてもらっている関係で、現在まで担任はしていません。今日は司会をやらせていただきます。では、よろしくお祈りします。

友國 私は27期で皆さんと20年ぐらい差があると思いますが、在校中は皆さんと同じく自治会の会長もしましたし、水泳部にも入っていました。池田高校を出まして、立命館大学に行き、箕面市役所に勤めまして、現在は箕面市立病院の事務局におります。承風会の27期の幹事として、この記念誌の編集委員に割り当てられました。よろしくお付き合いをお願いします。

篤本 私、記念誌の統括ということでして、国語科です。私も49期の担任で上がって、今は別の仕事をしています。よろしくお祈りします。

青木 50期の青木です。2年生の時に会長をやらせていただいて、ここにおられる方々と一緒に苦労しました。ソフトテニス部に在籍していました。

水越 44期の水越と申します。皆さんよりは少し上かも知れませんが、同じく自治会をやりました。その後も存続していて、何よりです。(笑)2年生の時に友達から誘われて自治会(役員)に入りました。3年生では誰も会長になる人がいな



くて、先生に頼まれて立候補しました。しかもその時の演説は大雨だったので、放送室からのものとなって、全く誰が会長なのか分からないものとなってしまいました。今は京都大学で勉強しています。

**平林** 50期の平林です。執行委員長をやったかどうか、よく覚えてないんだけど、(笑) 1年生の時から3年生の終わりまで、体育祭・文化祭や入学式などやらせていただきました。

**和蔭** 51期の和蔭です。49期の先輩方に強く推されまして、やることになりました。1年生の終わりから3年生の初めまでやっておりました。

**森村** 52期で現在3年生の森村です。文化祭のこととか1年生の時やりはじめて、2年生で執行委員長をやり、自分達で好き勝手に遊んでいました。

**丸尾** 49期の丸尾といいます。2年生に執行委員長をやり、放送部に所属してました。自治会の後期という地味なところをやってきました。予算の執行でかなり苦労なり、努力なりしました。

**三木** 52期の三木です。2年生の後期にやりました。池高の中で何かやりたいと入ったのですが、余りいい世界ではなかったです。(笑) 森村君に頼りきっちゃって、おかげで何とか出来ました。写真部の部長をやっていますが、部員は一人だけです。

**司会** こういうメンバーですから、どうしても自治会の同窓会みたいになってしまう傾向になるのは仕方ないんですけど、この場はあくまでその当時の学校全体の様子を語っていただきたいと思っておりますので、お話いただければありがたいと思います。

#### 【行事の思い出】

もちろん自治会の行事でもあるんですが、学校生活の中で大きな節目になるのが、行事の中では体育祭であり文化祭であると思うのですが、その具体的な思い出をふり返っていただきたいんですが。

**水越** 今でも体育祭で応援合戦や創作ダンスはやっているんですか。1年生の時こんなんするんかと思ってびっくりした。僕は飲み込みが悪いうえに、陸上部だったのでクラブに力を入れるために創作ダンスには出るなど言われていたのに出てしまって、両方やることになってしまい、困りました。

**丸尾** 応援合戦やダンスは毎年やっているんで

すけど、ダンスやってTシャツ作って、あとおまけというか、アイデア出し合ってみこし作ったり何かして毎年変わっています。

**森村** ダンス以外のいろんなことをやって欲しいと思って、今は応援合戦の時間を増やしてみました。ペットボトルのロケットを打ち上げたりして、今年は結構楽しいものができました。

**司会** ダンス自体も年々のはやりで激しいものが入ってきてますよね。

**平林** 50期の1年2年の時はダンスミュージックが流行っていて、以前よりどんどん派手になり、服も露出度が増えて、行き着く所どうなるのかなと心配していたんですけど、結局ダンスミュージックがさびれて、演歌を取り入れてみたり、ダンスも新しい工夫をしていったんで、安心しました。

**丸尾** 3年生の選曲でその年の雰囲気が決まりますよね。正統派でいくのか、一発ねらいでいくのか、(笑) 僕等の時でも北島サブちゃんをかけてみたりとか。最近では機器の発達で、一曲だけかけるのではなくて、混ぜてみたり、切ってみたりとか、毎年新しいものが出てきますよね。

**司会** 競技の種目も年々変わってきてますよね。

**森村** 毎年同じものをやったら生徒で運営している意味がないということで、思い付いたのをどんどん取り入れています。ただ、あまり実験もせずに入れるので、失敗したことも一杯あります。

**青木** 3チームでのトライアングル綱引きは失敗だった。試したけど、本番は40人が引き合う訳で、どこだってあんまり変わらなくて、結局終わらねえ。(笑)

**丸尾** 運営する側は常に新しいものを作りたいと考えるのであって、僕等が1年の終わりにいろいろ新しいものを追求して出しまくって、北館の前で試して、その時は出来ると思いましたが、でも、本番は雨になってしまい、砂をまいて無理矢理やったんですけど、応援合戦はやったけど、種目をどんどんカットして、その時僕等が考えた種目が優先的にカットされました。今になって思えば、それで良かったんだなあ。なぜなら、新種目やっていたらそれぞれ先程のトライアングルのように成り立たないものばかりじゃなかったかと。でもそれをプログラムに全部載せちゃうあたりが面白い。先生方もこれはできない、もめちゃうと思っていたんでしょうけど、ゴーサインを出すあたりは池高ならではのようです。

**司会** 池高ならではのということでは、体育祭を生徒の自治会が主催するという形は珍しいことです。他校では教師主導の所が多い。こうした形は伝統として残していった欲しいと思います。

では、文化祭の思い出の方に移りたいのですが、どうでしょうか。これは面白かったとか、これは悲惨だったとか。(笑) どなたからでも。

**和嘉** 1年生の時に迷路を作ったんですよ。その時たまたま箕面市の市議会選挙がありまして、その立て看を譲ってくれるというんで、喜んでもらいまして、それをソフトテニスのフェンスの所からずらっと並べたんですよ。ところが台風がきまして、前日雨の中ずぶ濡れになって準備して何とか中夜祭の終わる頃で来たんですが、次の朝学校へ来てみたら全部つぶれてました。2~3mの高さがあったんですけどべちゃんこで、これは何のゴミの山やと叫んでいました。

**丸尾** 文化祭は台風の季節ですからね。

**和嘉** 英語科の某先生が担当でしたからね。雨男でした。

**青木** 僕らの時は0-157でしたね。カレーとか焼きそばとか調理をともなう模擬店はべっちゃんこでした。3年間駄菓子屋ばかりになりました。非常事態でしたね。

**森村** 去年やっとな復活させて、今年はお好み焼きとかたこ焼きがあって、結構おいしかったですよ。

**平林** 準備でいうと体育祭に比べてダラダラしちゃいますね。夏休みをはさんだりするから。

**森村** 確かに取り組むのが遅いですね。

**青木** 一日で出来そうな気がするからね。お化け屋敷なんかは前日でないと出来ないからね。

**丸尾** 体育祭に比べると、テンションが低いね。

**司会** 教師の立場からになるけど、年々文化祭は文化より祭が強調されてきているように思います。以前は体育館ステージや文化部の取り組みがもっと盛んだったようだけど。文化祭の受け止め方がそれぞれの期で違うのかな。

**三木** 文化部の部員がだんだん減ってきているように思います。入部している割合はむしろ減っていると思います。それに全体の生徒数も減っていますしね。

**水越** 僕らの時は一クラス48名で12クラスやっただ。

**丸尾** 1800人もいたんですか。ベビーブームですね。

**篤本** 今は40人学級の9・10・9クラスですね。

**丸尾** 1100人ですね。全体の人数が減っていますからね。文化部の割合も減ってますね。

**森村** 一つ一つのクラブが5人とか3人ですからね。

**丸尾** だから、ほとんどの文科系クラブが今存続の危機になっています。プラバンぐらいしか安泰なのはないのと違いますか。

**篤本** 自治会自体はどうですか。年々立候補が減ってきているように思うけれど。

**和嘉** 資料を見ていると15年ぐらい前まではすごいメンバーが多かったですね。

**丸尾** 僕ら是对立候補のある選挙なんてやったことがないです。

**平林** 自治会運営部に体育会系の人が多い。皆なんか見ていると、文化祭運営部(陸上部)(水泳部)(テニス部)なんていうのがすごく多い。

**丸尾** やっぱり今は無所属や文化部の人が多い。

**司会** 話を聞くと、だんだん不活性化の傾向にあるのかなあ。(笑) その背景には少子化というのが絶対的にあるんだろうね。何とか立て直す方向を考えたいんだけどね。で、さっきの話に戻したいんだけど、文化祭の祭の部分でのカルチャーとしての工夫を先輩としてアドバイスいただけるかな。

**丸尾** 野外造型が基本と思うんだけど、最近あまり見ないね。去年気球をあげましたけどね。風にあおられて結構難しかったけど。それから、さっき言った迷路とか。

**司会** 私は49期が1年の時、野球部のバックネットの所に空き缶で壁画を作りました。台風で傷めつけられたけど。

**森村** 運営部としてもグラウンドでやって欲しいと働きかけているんですが。

**司会** 元気がないと何事もできないですよ。

**三木** 無気力ですね。始まるまでは全然せずに、始まってからおいしいとこだけを取っていく。

**司会** 下積みのしんどさを嫌うんですかね。

**森村** 準備の楽しさを知らない。文化だったら調べるところが楽しいのに、それを嫌がるからどうしても祭りになっていく。

**丸尾** 今年は職員劇はなかったんですか。面白かったですけどね。

**篤本** しばらくないね。一昨年だったかな。二回やったけど。職員も高年齢化して、体力が落ちてくるから。(笑)

**森村** 先生方も体育祭や文化祭で生徒と一緒にレベルの参加者になってくれると楽しいんですけどね。

**司会** 体力的には無理だろうけど、感性的にはついていきたいと思うね。

#### 〔教室での思い出〕

では、ここで話を交えます。さきほどからも幾人かの先生の話も登場していますが、思い出に残る先生についてお話いただけますか。どうでしょう。

**丸尾** 個性の強い先生が多いと思いますね。それは個性の強い先生が集まるのか、それとも池高に来てそうなるのか知りませんが。(笑) 池高OBの先生が多いですね。

**青木** 四十代の先生は熱くなる世代なんですかね。僕らより頑張りますからね。あの赤いトンネル作ろうと言いだしたのは誰でしたかね。

**森村** 池高へ来て変わる先生があるんじゃないですか。最初池高へ来てびっくりしたのは、体育祭の開会式の時に校長先生が踊りだしたことです。

**丸尾** 校風が先生たちを自由にさせているところもあるのかなあ。池高は先生たちにとっても居心地良いのところがいますか。(笑)

**篤本** 生徒の受け止め方があると思いますね。こちらが個性を出して、生徒が受け止めてくれるというのがあってでしょう。

**司会** 大昔は厳格で近寄りたがたい、こわいというのが先生像だったそうだけど、今の先生はキャラが出せるという意味では先生自体も幸せな時代になったと思いますね。

ところで、君たちにとって毎年名物先生が登場したのでは。授業を含めてどうですか。

**丸尾** 二敷先生の現代社会が面白かったです。何でもありのしゃべりをしてくれたんです。

**青木** 長橋先生の中国語。いつも出てくるんです。なかでも自慢は「私は中国へ行って日本人に見られなかった」(笑)

**水越** 数学の佐桑先生。あの格言をテープに取っておきたかった。

**丸尾** 英語の原先生。インドの話が面白かった。いつも「インドへ帰る」と言うんだよね。あのキャラが良かった。

**水越** 国語の戎居先生。よく可愛がってもらったんですけど、古文の授業で歌うように詠んでくれるんです。聞いてて気持ち良かったです。結構

人気ありましたね。あと同じ国語の三善先生。かなり学者風で、すごく物知りで、漢文が得意でいらっして、これも聞いていて気持ちが良く、リズムがありました。

**司会** 教室の外まで朗々とした声が聞こえてきて、その当時は皆あの先生の講義だけは受けたいというような声を聞いた覚えがありますね。それこそ名物先生ですね。

#### 〔生徒の気質〕

また話変わりますが、難しいと思うけど、高校生気質についてお話いただきたいんです。ざっくりばらんに友達を語るということで、どうでしょうか。

**三木** 僕たちの代では敬語を使う人がどんどん減ってきてると思うんです。上下関係が少なくなったと言うか、敬語を使うケースがないと言うか。僕ら見ているうちに2年生や1年生で敬語を使わない人がどんどん増えてきている感じです。

**丸尾** 僕、(池高) 出て3年ですけど、この3年の間に昔の10年ぐらいの変化が一気に来ている感じがします。今某塾でバイトをしてるんですけど、最近の子は僕らの時とずいぶん違う気がします。たとえば今の子はみんな携帯をもって、情報がじゃんじゃん取れるようになってきてる。

**三木** そのせいで、情報の中で自分一人の世界ができてしまって、周りを気にしなくなってしまってる。

**丸尾** 他人との接し方が下手になってきている。じかに顔をつき合わせてしゃべることが少ない。そういう機会がすごく減ってると思う。

**青木** 俺なんか逆に電話の方があかんけどな。相手の顔が見えないから話した時に、相手がどう思っているかが分からないじゃないですか。だから俺電話全然ダメなんです。

**司会** 確かに今は携帯でメッセージを送り合ったり、あるいは大学生ぐらいになったらeメールでコミュニケーションとったりして、それが無いともうコミュニケーションがとれないような状況になってるみたいだね。

**平林** コミュニケーションという意味では、体育祭・文化祭といった行事が非常に大事だと思いますね。そうしたイベントのなかで仲良くなれるということがあります。

**丸尾** 携帯電話は高校生にとって必要かなあ。

**篤本** 今では半数以上が持っている。爆発的に普及してきた。

**丸尾** 僕らの時は、3年前ですけど、ポケベル持っているのが珍しかった。

**和嵐** 結構授業中にもピッピイーて鳴っている。テストの時も先生から電源切っとけと言われてる。

**司会** 頭を悩ませている問題の一つですね。

**丸尾** 高校生は毎日朝の8時40分から来て1H6時間授業受けて帰る訳やから、数時間同じ建物の中にいるんでしょう。それで必要なかなあ。数10m歩けば会える訳でしょう。

**三木** 他に、年の差のつながりがだんだん少なくなっている。横のつながりばかりで上下のつながりがない。僕が中学校の頃は上下の中で敬語を強制されて、学んできた。今の子はそんなのいないでしょう。

**丸尾** TPOをわきまえるのが下手になったのかなあ。

**司会** コミュニケーション論でした。で、秋田さんがお見えになったので話に加わってもらいます。

**秋田** なんで女性が少ないんですか。

**司会** 半分ぐらい女性をお呼びしたのですが、お仕事の関係でこうなってしまいました。話はだいぶ進んできているのですが、自己紹介からお願いします。

**秋田** 紅一点になりましたが、49期の秋田です。執行委員長とかいろいろやった関係で、この場の面々も知っているんですけど、よろしくお願ひします。

**司会** 今まで語っていただいたのは行事の思い出とか授業や先生の思い出とか、あとはざっくりらんに何でもという形で進んでいるんですけど、どんなことでもいい、思い出を語っていただけますか。

**秋田** 高校時代は元気でしたよね。一時間一時間が濃くて、学校にいる時間の方が長かった。1年生の時のクラスはすごい皆元気だったんですよ。月に1回どこかに行こうということで、1回目は5月の遠足のあとでした。クラスのみんなでボーリングに行って、ご飯を食べました。2回目は6月にエキスポランドに行った。その後も毎月毎月どこかに行って、よく遊んでました。

**三木** クラスによっても違うでしょうけど、今は理系文系に分かれてて、男女の偏りがあったりして、集まってもあまり面白くない。

**篤本** 理系文系に分かれたのは、新(教育)課

程になった49期からですね。

**丸尾** 2年生の時にはもうゆるやかな理系文系に分かれていて、1年生の秋にはある程度進路を決めなければ、という状態だった。

**司会** その前は自由選択という形で、クラスは理系も文系もいたですね。で、話が途切れたんですけど、秋田さん、そんな1年生の時の思い出ですね。その後は。

**秋田** 1年生の後半から自治会にかかわって、執行委員長とかやらせてもらったんですけど、体育祭は既成の種目は面白くないというので、(新種目を)巾広く出したんですけど、それが全部否定された時はどうしようかなという感じでしたね。先生とよくけんかしました。そういう形で一から一歩一歩やってきました。根底から変えていこうというパワーがあった。49期は本当に元気がありましたね。体育祭にしろ、文化祭にしろ、実際にそれぞれみんなが個性を持っていたから、体育祭やったらサッカー部の主将が中心になってやってくれたり、という形で皆の力添えがあってできたから、私たちだけが目立っていたのはすごい悪いなあというのが、ずうっとあったんです。一番思い出に残っているのは、三年生の時の体育祭ですね。ダンシングという名前をつけたのは私たちなんですけど、それまではそのダンシングを授業の後近くの公園でヤミ練という形でずとやっていたんですけど、それはそれで楽しかったんですけど、それは違うやろということで、やめようということになったんですけど、それが一斉になくなったのは、それぞれのチームのリーダーが集まって、皆でそれはよくないやろということで、団結してやめたんです。やっぱり皆の力でできているんだなと思いました。

**司会** あと、教室での思い出とかは。

**秋田** 自治会に情熱を傾けていたんで、勉強に関しては苦しい思い出ばかりなんです。でも、勉強できるのは今しかないなというのは思います。一所懸命勉強するのは一時期やと思うんですけど、それを放っておいてもなんとかなるやんと思っている人結構多いと思うし、漠然と夢も持たずに学校に通っている人すごく多いと思う。目的意識を持って、一所懸命勉強できるのは今やというけじめをつけられるのが池高生やと思います。

**司会** その目的意識ということで言うと、ここにお集まりのメンバーは自治会もやり、クラブにも入り、勉強もまあそこそこに(笑)ということ

で、皆さんは池高に入る時、何かやってやろうという事で入ったんですか。

**丸尾** 入ってからの雰囲気でしょうね。中学生の時は(池高の)表面的なことしか分からなかったけど、入ってみたらいろんなことができそうやなという。何もないだっ広い所に連れてこられたような。その何もない所に何か創り上げたら評価されるというようなどころなんです。

**司会** そうか。中学時代まではがんじがらめと言っていていいような規制があってやる気も阻害されてしまうというようにことに対して、すべての高校がそうということではないでしょうが、それと比較して確かにこの池高は生徒に任される部分で、結構あるからね。そのあたりで何かやってやろうと。ただね、みんながそうとは当然なれない訳で、やっぱりそれぞれ固有の思いがあって。

**秋田** 中学時代に高校を選ぶ基準で、やっぱり自分の成績じゃないですか。輪切りにされている中で、自分のレベルじゃ、この高校だと。そうしてたまたま池田高校に入ってきたというのはあると思うんですけど。この池田高校というのは、偉そうに言ったら、伸ばそうと思えばどんだけでも力が伸ばせるし、何もしなくても卒業できる。勉強という意味ではなくて、個性を、自分の中の成長をすごく伸ばせる学校だと思うし、逆にそれをしなくて個性を开花させないまま卒業する人もいるから、それが人それぞれということじゃないかなと思う。

**丸尾** 朝の8時過ぎに学校始まって、3時過ぎには終わるわけじゃないですか。その後の時間を3年間どう使うかという所が人それぞれで、クラブをやる人、勉強する人、ボーとしてる人、そういうところでしょうね。

**秋田** でも、クラブは入った方がいいよね。クラブに入ってる人減ってるんですよ。

**森村** 7割くらいですね。実質はもっと少ないでしょうけど。他の高校はもっと少ないですね。

**秋田** 私が放送部に入ったのが1年生の6月ぐらいで、それまでは真っ直ぐ家に帰っていたんですけど、そのまま何もしないで3年間過ごしていたら多分今ここにはいないだろうし、そういう意味で言うと、クラブというのは重要だと思う。何もしないでテレビ見て寝てるだけというのは勿体ないと思う。

**司会** むしろ今高校生がクラブをしてない理由はそうじゃなくて、バイトをしてるからなんです

ね。

**三木** 高校1年からもうバイトですね。お金が欲しい。今の人は携帯でしょ、それにブランド物とか買うでしょ。みんな取り残されるのが嫌で、流行追ってどんどん物を買う。

**秋田** 私らの時はそんなにお金は使わなかった。携帯も持ってなかったし、遊びに行くのもたまにカラオケに行くぐらい。バイトをするほどお金が欲しいというのは考えられへん。

**森村** クラブに入らずに予備校とか塾に行っているのも多い。行かんでいいと思いますけどね。

**司会** まあ、池高がこれだけのクラブ率を誇っているというのは、そういう意味では高校の良き風を保っているということでしょうね。ただ、コミュニケーションに関してはここ2~3年の間で大きな変化がある。

**秋田** その変化が、みんなが持っているからというのでは嫌ですね。池高生らしくない。

**三木** 今は皆が持っているからという方向になってきてるんですよ、池高でも。

**丸尾** 池高は我が道を行くというのでなくてはいかんと思いますよ。

**司会** ありがとうございます。なんか、まとまったようで、ですね。あととはご自由に語っていただきたいと思います。せっかくの機会ですので、言い残されることのないように。(笑)

**平林** 池高坂のおかげで運動しない僕には大変役に立ちました。

**秋田** 私、記録12分よ。よく走った。

**三木** それは速いですね。

**秋田** すごい大変やったわ。でも、授業よりも授業以外で先生たちと接点あったし、話す機会も多かって、その時いろんな経験ができて良かったと思う。

**司会** 校舎が古いのはどうしようもないね。まあ、百周年には建て替わっているだろうけれど。

**友國** 僕らの時は新校舎で、きれいでびっくりしました。向こうの谷間も無くなって。僕らの頃は防火水槽の時代でした。

**司会** こうやって一通り思い出を語っていただきましたが、お約束の時間もきたようですので、この辺で終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

(文責 平井文友)

# 本校に寄せる思い・ 思い出



## 「府立池田中学校」

古川 明(池中4期)  
関西アメリカンフットボール協会  
理事長



青嵐映ゆる五月山・千古に  
淨き猪名の水、なつかしい大  
阪府立池田中学校校歌のメロ  
ディを口ずさみながら、今この原稿を書いています。北摂に久しぶりに誕生した第16大阪府立中学の池中は、先生方も生徒も清新の気に満ちていました。昭和18年入学の我々4期生も、府立中学生徒の誇りを胸に今迄の人生を生き抜いて参りました。昭和18年の池中1年生から昭和20年の池中3年生迄の3年間は大日本帝国が世界相手に戦っていた時代であり、米軍の空襲で池中の校舎も炎上、多くの生徒が家を失う等々、困難な状況の時代でしたが池中の生徒のほとんどは、意気軒高、義務感に燃える誇り高い少年でした。烈しい戦火の中でも、池田中学ではすばらしい教育を与えていただいた事を今、改めて感謝します。国漢の岩田久郎先生の論語や、時には先生の「高瀬舟」の朗読の講義、しみじみとしたありがたい授業でした。京大出身宮内芳郎先生のハイレベルの英語—池田中学では戦時中も内容の濃い英語の授業がありました。—今日は農家の手伝い、明日は和歌山迄陸軍陣地の構築と戦時中の中学生の生活は結構多忙でしたが、先生や仲間と一緒に生活は、教室だけで暮らし受験勉強に苦勞している今の生徒さんよりは、むしろ楽しく充実していたようにも思います。1945年8月戦争終了、8月15日正午、私達は承風台、池田中学校校庭に整列、あまりはっきり聞きとれなかったけれど天皇陛下の終戦の言葉を聞いていました。池田中学学徒特別攻撃隊として、9月に和歌山に出陣を予定していた(らしい、と後日わかりましたが)50名の同期は、この時、14才で散華する運命から救われた次第です。

空腹をかかえたつらい少年時代であったけれど私の周囲の池中生徒は勇ましく、希望に燃えて自

分達の運命をものともせず戦い続けていた事は歴史の証言として残しておきたいと思います。1946年、日本初の中学タッチフットボール部を豊中中学とほぼ同時期に創部、おかげ様で、又新しい文化に触れ、アメリカンフットボールの関係者として今日迄、楽しく有意義な人生を送らせていただいている事を、池中時代の多くの恩師、同期の諸兄に感謝したいと思います。

※(あえて旧制とは書きませんでした。特に、小生の学年は池中に入学し、池中を卒業したので、旧制・新制という感覚があまりない事を御理解ください。後年になって便宜上、誰かが言い出した事です。)

## 「毎日が晴れだった」

永井 一郎(池中五期)

終戦直後。中学二年。食べ物も、文房具も、衣服も靴も、なんにもなかった。それでもいくつかの運動部が始まった。六尺のさらしがあればよかったです。六尺のさらしがあればよかったです。六尺のさらしがあればよかったです。それがあの中のころの水着だった。



プールの水は緑色だった。十センチも手を入るともう見えなくなってしまう。アオミドロがびっしり繁殖していたのだ。さらしは一日で緑に染まった。ミズスマシやゲンゴロウが口に飛び込んだ。水は変えられなかった。そんな金はなかったのだ。みんなたちまち腹をこわした。結膜炎と下痢は当たり前だった。漏らしながら泳いだ。プールは大腸菌の培養液と化した。それでも泳いだ。

昼めしはポケットに入れた炒った大豆一合きりだった。固い豆をどろどろになるまで噛んだ。そのエネルギーで、毎日三千メートルは泳いだ。少々不潔でも子どもは死にはしない。子どもの体はほとんどん栄養分を吸収することだって覚える。子どもは元気なのだ。

そして、タッチフットボールとサッカーが全国を制覇する。サッカーの優勝メンバーは全員同級生だったはずだ。これは凄いことだった。サッカー一部員でなかったのに思い出すたびにうっとりしてしまう。

中学四年。旧制高校受験の年、一年の間に四百本の映画を見た。新しい映画も入って来たが、戦時中凍結されていた欧米の名画が一挙に放出されたのだ。どうやって見たんだろう。親友たちが払ってくれたこともあった。このたくさんの映画が、その後の私の俳優生活にどれほど役に立ってくれたことか。

あの時代は文字通り何もなかった。だが私たちは本当に豊かだった。毎日が輝いていた。すばらしい思い出を作ってくれた友人たちも、もう何人かが亡くなった。だけど、池中は面白かったよ。楽しかった。幸せいっぱいだった。たくさんの友達と先生方に、心からのお礼を申します。ありがとうございました。

び合った事も多い。

早いもので、母校も六十周年を迎える。卒業以降、残念乍ら一度も承風台を訪れる機会に恵まれないが、どんな校風に育ち、どんな学生諸君が、何を目指して学んでいるのか改めて新鮮な興味がそそられる。

2000年と云う新しいミレニアムを迎え猛烈なスピードで世界が激変しつつある今日、問われるのは個々人の市場価値だと思う。市場価値の対角線にあるのは、自己責任と専門性であると同時に、自らの発想力と実現力が厳しく問われる。その中で「したたかさ」と「しなやかさ」と「つややかさ」が新しい競争社会の中で変わらず求められる人間の資質と思う。

承風台の校風に、この三つの資質を育てる土壤があれば嬉しい。

間違いなく二十一世紀は、個々人が輝かねば、国も、会社も輝かない時代となるからだ。

(役職名は平成12年7月現在)

### 「承風台の価値」

上島 重二(高2期)

三井物産代表取締役社長

私が入学した時の池田中学(現池田高校)は府立中学で最も新しい、創立五年目の学校であった。



爾来、学制改革もあり、承風台には六年間通学する事となったが、当時の印象は、歴史と伝統が全く無く一表現は悪いが一荒地の上に建った学校との印象の反面、新しいが故に、極めて個性的な若者、そして、個々の価値観の拡がりの大きな学生の集団であった。

それだけに、個々の学生の足跡が大地に浸みこむ様に、自由で闊達な校風となって育って行ったと思っている。

サッカー全国優勝の時の仲間や、官界・政界・財界のみならず、教育・演劇等幅広い世界で活躍して来た仲間達の顔が懐かしい。

私も承風台六年間の生活が土壌になってかその後、自由を伝統とする京都大学から、三井物産への途を選び、今日でも世界の市場を相手に飛び廻っている。

地球の裏側にあるブラジルで、或いは印度やニューヨークで、ばったり級友に会って、再会を喜

### 「免疫・アレルギーについて」

榎木義祐(高3期)

榎木医院開業

日本アレルギー学会評議員

免疫、アレルギーを一生の勉強のテーマとしています。喘息、花粉症、アトピー性皮膚



湿疹、蕁麻疹が中心です。医は生死を扱う生物学でありますので、医にたづさわる者として生死の問題を考えずに過ごす日は一日たりとてありません。人間はすべて生死の中にあるのに、この問題の根本ほど我々の理解をこえたものはありません。宗教、哲学、医学もここを源流としています。人間を人間たらしめているものは正に知能であり「我思う故に我あり」であります。ボケや植物人間となり我を思わなくなっても医学的に我はあるのです。知能は人間の一部でしかないので。人間の存在はその全身全霊によります。医は観念哲学でなく物に即した哲学をもとめられています。熱力学の第二法則に抗して生きる生命は、はげしい物質代謝の中に存在します。物質界は輪廻の世界にありますが、その輪廻の輪をまわすエネルギーは輪廻の世界の外にあります。般若心経に言う色即是空、空即是色、不生不滅、不増不減とは色を物質又は質量とよみ、空を

エネルギーとよめば熱力学の第一法則を語っている様に思えてなりません。多種多様の物質の本能がエネルギーという形のない共通の存在であり、その総量に変化はないと照見した遠い昔のインドの知恵者に私は礼したてまつりますが、熱力学の第二法則にまで思い至らなかったのは残念なことです。そうではなくて、あるいはどこかにかくし絵の様に述べられているのでしょうか。生活を宗教的につましく、宗教を哲学的に理解し、哲学を観念的でなく事物に即して科学し、そして科学を日々の仕事に実践することを私の理想としています。

### 「新聞部と私」

櫻井武次郎(高10期)  
神戸親和女子大学教授

私が池田高校に通ったのは、昭和三十年四月から翌年十二月までの二年足らずの間でしたが、その間の生活の大半は、新聞づくりと共にあったと言えるようです。そして、それだけでなく、以後の私の人生に大きな影響を与えてくれていったのでした。

今、モノを書くという仕事をしているのも、私の中では、新聞部時代から引きつづいていることなのです。よく「あなたの文章修行は、どこでなされたのですか？」と聞かれますが、間違いなく新聞部時代が文章修行時代でした。

文章を書くということだけではありません。勤務している大学で、文学だけでなく映画論の授業を担当していますが、これも「池高新聞の映画記事を書くために学んだことが基盤になっています。そして、写真やレイアウトの基礎知識も、すべて新聞部時代に得たことが、そもそもの始まりでした。

池田高校は、自由でのびのびとした雰囲気、本当にいい学校でした。途中で転校した私には、とりわけそのことがよく分かります。

大学に入った年の夏休みだったかに、現在大阪教育大学で宇宙物理学を教えている横尾武夫君と土田衛先生のお宅に伺った時、先生は「二学期から上バキにはきかえんでもええことに職員会議で決めたけど、生徒はびっくりしよるやろな」と嬉しそうにおっしゃっていました。それまでは、登校すると下足室に行つて赤い印をつけた上バキとは

きかえるのが決まりでしたが、生徒からの要求の前に、職員会議で撤廃を決めたということでした。

生徒にとって不便なこと、生徒の自由を損なうようなことがあれば、「お前ら、それでガマンしとるんか？」と、先生の方からおっしゃるといふようなところのあるのが、池田高校でありました。従つて、新聞記事の内容にも、何の制限もなく、部員一同は自由に新聞づくりを楽しんでいたのです。

### アメリカで工場を経営して

奥 勇(高15期)

1992年、湾岸戦争のさなか、アメリカ・カリフォルニアに工場進出し、陶磁器の絵付加工・販売を始めました。当時は日本がバブル崩壊寸前の絶頂期でアメリカは最悪の経済状態にあり、ニューヨークやロス市街の有名なビル、ホテル、デパートやゴルフ場までが法外な価格で本邦企業にどんどん買収されていました。(これらは、それから1~2年のうちに殆ど半値以下で転売されていった。)

徹底した品質管理と生産効率の追求に腐心したおかげでアメリカ市場の信頼を勝ち得るのにそれほど時間はかかりませんでした。あふれる応募者のなかから、厳しいふるい落としをくぐった従業員はおしなべて謙虚で、労働意欲が高く、ハイレベルの鍛錬にもよく耐え、生産効率は日本の同業者の2倍近い実績をあげて、進出3年目にして月商100万ドルを達成し、カンサス州に第2工場を展開するという勢いでした。しかし、この頃が私共にとって絶頂期で、その後の東欧・ソビエト崩壊で由緒ある歴史に裏付けられた商品群が信じられない価格でアメリカ市場に流れ込み、ついでアジアのバブル崩壊によって、さらなる価格崩壊へと拡がっていき、私共は円高によるコスト高の製品安の中で急速にマーケットを失い、深刻なリストラと75%のダウンサイジングを強行し、かろうじて生き残り、今日に至っています。

今日のアメリカ経済繁栄の理由としては、まず第一に情報産業が急速に台頭し、軍需産業等の縮小を吸収して余りあったこと、第2に国防予算がロシア崩壊によって、それまでの半分弱に減り、その分が社会資本の整備に回され景気浮揚の大き





な原因となっていること、第3にリストラで失業者が出て、価格破壊によって余力を取り戻した第3次産業に吸収され失業率は日本以下になっていること。第4に全国津々浦々、どんな小さな地方コミュニティにも小規模事業者助成制度があって、10%の自己資金で100%の資金が連邦政府の保証で借りられることです。過去に失敗していても、かえって貴重な経験を積んだとして有利にはたらく環境なのです。それは私共日本人に対して、現地に雇用をもたらすなら平等にその恩典を使わせてくれます。(今の日本の制度と比べて歴史の違いを感じます) この制度によって誰もがベンチャービジネスを興せるのです。特にコンピューター業界ではこの制度を利用した新興事業者の成功が相次いでいます。この背景には個の自立を重視するアメリカ教育があることを見逃してはなりません。人種・民族・価値観・生活様式の違いはあっても、各人の能力に差別はありません。後輩の池高生諸君、グローバルな感覚を磨き、ボーダレス社会に突入した日本の将来を考えられる余裕をもって下さい。

電気炊飯器は、御飯を炊いて火元にいる時間を必要としなくなり、電気冷蔵庫と電子レンジは、冷凍ピラフをチンすれば朝御飯が食べられ、全自動洗濯機、食器洗機……なども同様で、時間とエネルギーをわれわれの側にもたらしけてくれました。この16時間を労働側が浸食をしているのは事実ですが、従前の生活にくらべて、私たちはもっとも時間とエネルギーをもっているのではないのでしょうか。しかし労働からのストレスが癒されていません。

労働ストレス対策とし、事業所に心理相談室をもうけ、心理相談員を配置する……、ストレス解消技法、たとえば自律訓練法を教える……、いろいろな対策が考えられています。しかし実はこれらの対策ではなく、ごく自然な労働-生活周期のなかで、知らないうちに労働ストレスが解消されてゆくことが一番だと思います。すなわち、われわれ自身が裁量権をもつ16時間の再検討です。予防的立場に立って、ストレスフルな状態にならない、追い込まれない仕掛けやシステムづくりをめざしたいと念じています。

## 「勤労者の働き方と

### 過労死問題」

三戸 秀樹(高15期)

関西福祉科学大学・教授

医学部の基礎講座で二十余年、労働衛生学や労働科学に関係する研究をつづけてきま



ましたが、1998年春に福祉系大学へ異動を致し、障害者の就労問題や余暇生活へも研究の視野を広げようと考えています。近年の労働現場における健康・安全問題は、典型的な職業病が姿を消しはじめ、新しく過労死や過労自殺などの問題が急浮上をしています。この原因のひとつにストレスが考えられます。

働きのストレス調査から、原因の上位に位置づけられるものに人間関係があります。人間関係をともなう労働は、実は昔も今も同じです。ということは、昔も類似ストレスをこうむっていたはず。今日の一日労働周期で、労働ストレスがうまく解消されていないとみるなら、現況の労働8時間から受けるストレス問題もさることながら、それ以外の16時間(=家庭8時間+睡眠8時間)問題ではないかと考えられます。

## 「海の官僚三十年」

工藤 栄介(高16期)

親父が船大工だったせいで造船工学を専攻し、昭和四五年運輸省に入省、昨春退官しました。



中央の行政府が一体何をやるかも全く知らず飛び込んだので、政・官・業界間の駆け引きを目の当たりにし、毎日が社会科の勉強。忙しくも楽しい初任時代を過ごしました。

①船舶・海洋の技術開発(超高速船、メガフロート) ②原子力開発と安全(「むつ」、「もんじゅ」) ③造船業の国際問題(米・EUとの補助金削減交渉) ④船舶の新基準(タンカー二重船体、核燃料輸送) ⑤海上保安業務(ナホトカ号油事故、不審船)など、幸い一貫して好きな船や海に携わり、趣味と仕事が渾然一体、『公私混同』をさせて貰いました。

二-三年置きに異動の繰り返しで、落ち着かなくもありましたがオランダへの留学、コンテナ船での太平洋往復、在英大使館勤務などの得難い経験と、自然と人情溢る玉野市・舞鶴市での地方勤務をさせていただきました。

現在はシップ・アンド・オーシャン財団に勤務し、海に関する各種政策研究いわゆるシンクタンク活動を今春から開始すべく、準備に勤んでおります。

校庭の桜満開の頃、記憶に間違いなければ、物理の山崎先生がよく一吟してから授業を始められました。これがきっかけで大学では詩吟部に入り、猪名川上流で螢を観ながら高歌放吟・泥酔・バンカラしたのを思い出します。ここ当分は十分練習時間も取れそうもありませんが、そろそろ再会しようかと考えております。

### 「池高フットボールの思い出」

茨木 克治(高22期)  
大阪産業大学

アメリカンフットボール部監督

六十周年を迎えられるとの事ですが、私自身早いもので、卒業して三十年が過ぎようと

しております。私は、池高で巡り合ったフットボールを大学でも続け、その後も大学・実業団の指導者として現在もグラウンドに立っております。

自身のフットボールコーチとしての哲学・指導理念を形成する原点となった池田高校及び池高フットボールでの懐かしく貴重であった三年間の想いを少し述べさせていただきます。

一九六七年の四月、私は入学式を終えるやいなや当時のタッチフットボール部に勇んで入部しました。しかしながら、その時点で二名の新入生が入学式前から練習に参加していた事にまず驚かされました。秋山、森この両君が私をフットボールの魔の道に引き込んで行った張本人でした。練習は厳しく、私たちの話題は、練習の文句・コーチへの不満が日常茶飯事でした。当時は、正門横にある二つの全国制覇の石碑の意味や、日本で最初にアメリカンフットボールを始めた高校であるという伝統等は全く理解しておりませんでした。

ところが、我々は池田高校風自主運営を学び、又やさしく厳しい先輩から池高流フットボールを指導して頂いたことで三年間で大きく変わりました。

同期の連中の半数が卒業後もフットボールを継続し、その後も何らかの形でこの競技に関わりいつまでも魅せられております。

練習嫌いの秋山君は、医大に進んだ後、自身でクラブを創部しプレイを続けました。現在も多忙



な中、池高のチームドクター兼ディフェンスコーチを務めております。

森くんも進んだ大学でゼロからチーム作りを行いプレイを続けました。

私が、在学中に教えられた事は(勿論、卒業してから理解出来たことですが)次の三点です。

#### 一、自主・自由・自律

池高自身が持ち合わせている素晴らしい風土であったと今も感謝しております。また、自己責任がなければなんの価値も持たないことも学びました。

#### 二、諸先輩との出会い

フットボール界には、偉大な先輩が多数いらっしゃいます。現在も、スタンドやグラウンドで励まされ指導していただいております。

#### 三、コーチングの理念

フットボールは、選手とコーチの協同作業で勝利するスポーツであるという事。チームが創造性を産みだせなければ成長していかないという事をコーチから教えていただきました。

頑固で我が儘だった私に、たった三年間でこれだけの事を自然に身に付けさせてくれた先生・先輩・チームそして母校に存在していた校風・文化に深く感謝しております。

後輩のみなさんには、伝統に臆することなく次の新たな歴史を創造し続けてください。ただ、「自由を享受する者は責任を負う」という原則だけは見失わずに、自主・自由・自律の正しい風土を継承していただければと思います。

### 「甲子園にて・・・」

武 周雄(高25期)  
朝日放送

卒業して四半世紀以上が過ぎました。毎年夏の甲子園で高校生をま近に見ているだけに、気持は「高校球児」です。

池田高校も60周年と聞き、自身の年令によりやく思いが至りました。遠い日の思い出としては、昭和46年の夏の大阪大会、ベスト8まで勝ち進んだ日生球場の一日が忘れられません。また、当時の監督だった、池高OB小川修一先生が、つい最近まで大阪府高野連の会長という要職につかれていまして、師弟関係は、どこまでも続くものだなあと思っています。



### 「あんた池高か！」

尾久土正己(31期)

みさと天文台・天文台長

今私は、流れ流れて和歌山の山の中の天文台で新しい天文教育の流れを作り出そうと燃えている。ここへたどり着くまでの経緯を振り返ってみると、私が池高OBであったことが大きく影響している。



高校に入学する直前の春、突如やってきた大彗星・ウエスト彗星によってすっかり天文ファンになった私は、1年で履修する地学に熱中した。ところが、担当の真下先生の地質分野の授業が面白く、自分も真下先生のような面白い授業ができる高校教師になろうと大阪教育大に進学した。進学後、病をわずらい野山を歩き回る自信もなかったので、趣味の天文でもしようかと、天文学研究家のドアをたたいた。当時、天文の教官は2人いたが、そのうちの一人が池高OBの横尾武夫先生だった。「あんた池高か！」直接の指導教官は、もう一人の先生になったが、横尾先生が池田駅前出身というだけで、研究室に親しみがわき、居心地の良さのためか、大学院へと進学した。私が、教員採用試験を受験する頃は、教員は非常に狭き門であった。そんな中、知人から宝塚の雲雀丘学園高校のポストが空くらしいと聞き、面接にいった。すると、そこでもいきなり「あんた池高か！よし合格や」という高木隆校長と出会った。私の世代はすれ違いになるが先輩方は、ご存じの池高を代表する？有名な先生であろう。大学院を中退し、そこであこがれの高校教師を4年勤めた。しかし、院を中退してきたことが少し気になっていたので、高木校長に「大学院に戻りたいのですが」と相談すると「若いときしかでけへんから」と快く進学させていただいた。その後、高校に復職したが、兵庫県建設する新しい天文台の計画に関わるようになって、転職を考えたときも、「若いときしかでけへんから」と快く天文台の世界へ送り出していただいた。おかげで、現在のみさと天文台に誘われたときも、「若いときしかでけへんから」と自分で納得して決心した。まだまだ若いつもりなので、この先もわからない。こういうあまり先のことを気にしないふらふらした人生って池高的なんだろうか・・・。

### 「トルコから」

岩城あすか(45期)

イスタンブール大学院生

トルコに留学しに来て二年がたった。当初はいろいろと勝手がわからず戸惑うことも多かったが、今ではすっかりこの国に馴染んでしまっている。



つくづくユニークな国だなあ、と思う。もともと中央アジアの騎馬遊牧民だったトルコ族は、長い年月をかけて西へ西へと移動をくり返し、行く先々の土地の言語、風習と混ざりあってきた。そのプロセスもさることながら、トルコ族が入ってくる以前のアナトリア(小アジア)の歴史の積み重ねも非常に面白い。シュリーマンゆかりのエフェソス、トロイヤ、ベルガモンをはじめヒッタイト王都ボアズカレ、チグリリス、ユーフラテスの二大大河の源流など、現在のトルコ共和国に存在する遺跡、文化遺産は数知れない。アジアの東端の島国からやって来た私には、東西のあらゆる文化的要素(多民族、多言語、多宗教)のモザイクが新鮮で、とても惹き付けられる。国中どこを旅しても常に新しい発見と驚きがあって、感動がつきない。

この多文化共存大国トルコの懐の大きさのおかげで、私自身も異国にいながら大変居心地よく暮らしていける。私の住むイスタンブールでもそれぞれの持つルーツ、文化的背景は違って当たり前、という暗黙の了解というべきものがあるから、「トルコ人になれ」と強制されることがないからだ。一定の型にはめ込まず、互いを尊重し合う雰囲気は日本にあるだろうか。

もうひとつ忘れてはならないのがトルコの人々のもつホスピタリティである。いつ客人が来てもいいように家はすみずみまで手入れされ、台所も準備が行き届いている。本当はすごく気を使っているのに、それを客人に感じさせないテクニックは脱帽ものだが、これも彼らが遊牧民族の末裔であり、人をもてなす極意を知っているからであろう。真心のこもった人づきあいを肌で感じつつ暮らせたことも、私にとって本や学校では習えない、かけがえのない貴重な経験である。

## 「スキー講習会の思い出」

宮本 忠範(保体)

前任の吉田恒二氏の後を引継いで、昭和41年より60年までお世話をさせていただき、その間の思い出について何か書いてほしいとの依頼については、あれも、これもと書きたい事は多くありどれにしようかと困ってしまいます。スキー講習会をお世話した時の苦労話しても書いてみようかと思えます。

高速自動車道路が完備するまでは、夜行列車で大阪駅より長野駅まで行くのですが、この列車“急行ちくま”の確保について大変苦勞した事を一番に思い出します。12月24日、帰省客とスキーへ行く人達と同じ列車に乗るのですから、一年前より旅行者に依頼して列車に乗車出来るようすること、座席指定ではなく、列車に乗車出来ることへの確約みたいな状態で満員列車の中で我々池高の生徒先生方の乗れる場所が決まるのです。満員列車の通路へも寝そべって長野まで行った頃の睡眠不足の顔で、開講式をした事など……。また宿舎の確保についても、安い料金で宿泊するわけですから、スキー講習会を終えて帰阪する際に、次年度の宿泊予約をして帰阪した事、熊の湯ホテルの支配人で今は亡き小林様の御好意に支えられ宿舎の確保をしながら帰阪した事等、本当に小林様には感謝の気持ちでいっぱいでした。

それから横手山ツアーですか、講習会の最終日の行事として参加者全員による横手山山頂からのスキーツアーですが、前夜は天気が気掛かりで、ラジオの天気予報を聞き、テレビが部屋に置いてある時はテレビの最終天気予報を見て決行か否かを決めた事など、思い出されます。横手山山頂へはリフトで“のぞきの小屋”までしかリフトのなかった時からのツアーで、経験者のみが山頂までのぞきの小屋からスキー板をかついで行った事、山頂からは晴天の時は日本アルプスの山々、富士山頂や遠くは日本海まで観る事が出来た事など多くの事が思い出されます。



## 「木造校舎が

改築されて行く中で…」

清水真知子(社会)

“丘の上にある学校ですよ”と、石橋駅で教えてもらい溜め池（現在は埋め立てられて敬老の里と石橋公園）を右手に坂を登って来たのは1964年。運動場に面する校舎は堂々たる2階建の木造であった。並行する校舎は中庭をはさんで平屋の木造。当時は土足のままで、中庭への出入りは自由。庭から直接授業に行く先生も。その中庭には防火用の池があった。夏には食用蛙が鳴き、冬には時々ずぶぬれになる男子も。

初めて女性の教師が2年の共学クラスを担任したという5組は'67年度文化祭の演劇コンクールで最優秀賞を獲得（谷田信一脚色「ネロ皇帝」）。その興奮さめやらぬ私のクラスはこの中庭の池のまわりで、打上げコンパを始める。ゲームの後は詩を朗読する者、ドイツ語で歌を唱う者、北大の寮歌を歌う者等々。下校時間を延ばしてもらい中庭をあとにしたのは日没の頃、青春の1ページである。この演劇コンクールが行なわれたのは武道場として建てられたという旧体育館。この建物は校舎改築時に一時ベニヤで仕切られ、普通教室に使われたこともある。隣りにあったのが新体育館。高校紛争時、卒業式ボイコット事件のあったのはこの体育館。喜多條清光ら数名が退場。当日、式の始まる前から体育館横で心配そうに見守っていたお兄さんの喜多條忠氏（作詞家）の姿が私には印象的であった。喜多條清光は大阪の昆布博物館建設に奮闘中と最近新聞で報じられている。この新体育館も取り壊され、急増期の北館が建つまでは西門一帯が“多目的コート”と称され池高生の憩いの場に使われていた。

木造校舎時代に赴任して一番困ったことは職員トイレが男女1枚の板で仕切られていたことである。勿論水洗トイレでない。女性教職員が少ない時代、産休も取りにくく、育休もなかったが、女性（男性も）職員休養室も長い交渉の末に出来上がり改善されて行った。

木造校舎が改築されていく中、再建されなかったのは本館西端にあった洗濯室。男子にトイレ掃除をさせるか否かで会議になった時は驚いたが、そのうち女子のみのクラスもなくなり、増加単位時代には男子も“食物”を選択することが出来るよ



うになった。'95年からは家庭科は男女共修となり実習室もふえているとか。校舎改築を経て今や池高も共生時代に入ったようであり、今後、より広く学べる場に発展することを祈ります。人生のすばらしい糧を与えて下さった卒業生の皆様に感謝しつつ、筆を置きます。

## 「修学旅行」

佐桑 光治(数学)

池高では修学旅行の係を3回担当したが36期(昭59卒)の南九州が一番印象に残っている。どのようにすれば生徒を主体的、積極的に修学旅行に関わらせる事が出来るか、どの学年も苦勞する。従来から南九州の修学旅行で実施している霧島での登山、宮崎青島海岸での半日の自由行動に加えて鹿児島市内の1日を、生徒の自主的な計画によるグループ別行動に充てることにした。霧島で宿泊の翌日、錦江湾をへだてて鹿児島市街を望む桜島までバスで移動後解散、西鹿児島駅からバスで約30分程北方にある島津家の別荘磯庭園に集合する計画を立てた。

82できたグループに行動計画を提出させたが、城山展望台から西郷洞窟、私学校跡、天文館通りで昼食、ショッピングという典型的なコースを選ぶものから、桜島や鹿児島市内でサイクリングをするもの、郊外の酒造工場を見学したり、薩摩焼の実習をするもの、市電で一周し車窓から鹿児島大学を見学するもの、市内の温泉に入浴する女子のグループ等ユニークな計画もあった。それらを実現させるための準備に相当の時間を要したものだ。

旅行が近づくにつれ、万一、事件や事故に巻き込まれたらどうするのか、行方不明にでもなれば探しようがないではないか。計画は無謀ではないか。こんな心配の声も聞こえてくるようになった。そんな一抹の不安を抱えて修学旅行の当日、桜島で解散、教師も要所に巡回し指導に当たる。学年主任の柴田教諭と私は鹿児島警察署に挨拶の後、市の中心地にある照国神社前のホテルの一室を本部にして待機、不測の事態に備える。当日の宿泊地は宮崎の青島である。磯庭園での全員の集合時間は3時50分で、4時出発は厳守したい。全員無事か。ギリギリするような時間の経過、胃も痛くなってくる。やがて4時ちょうどに磯庭園から



「全員集合、青島に向かう。」の電話。学年主任と思わずバンザイを叫んだ。バスを追いかけるタクシーの中で池高生の素晴らしさを改めて感じたものだ。20年近く経った今でもあの時の感激は忘れられない。

## 「池高での思い出

音楽科での自由課題について]

上杉 一暁(音楽)

1、2学期に1回ずつ実技テストの中に自由課題のテストを設定していた。音楽と言ってもジャンルが広く、生徒たちの好きな音楽もそれぞれ随分違っている。課題だけの評価で計り知れないものがあるようで、又、生徒たちのかくれた才能も見たいと思い前任校からやり出したものだ。統一課題テストとは別に自分の好きな音楽の分野から歌なり器楽なり自由に選んで演奏する。一人でもよくグループの場合は7名位までとした。意外な程にこれが大当たりして、テストにはかなりの時間と労力を要したが、理論のテストや課題テストとは別の自主性のあるいきいきとした生徒の表情が伝わって来て良かった。ピアノを続けている者はピアノ演奏、エレキバンドを組んでいる者はバンド演奏、マリリンバなどを使って器楽合奏したい者はそれぞれグループを組んで自分たちで編曲して演奏する。曲目はリストの華麗な「リゴレットバラフレーズ」や、子供の頃にやっていたベートーベンの「エリーゼの為に」、当時流行している歌や、エレキの曲、管楽器の合奏、マリリンバを含んだ器楽演奏など多岐にわたった。生徒たちは早朝練習などして音楽室で何度も合奏練習して仲間同志で発表する喜びを味わっていた。私も音楽している事の幸せを生徒たち全体と共有出来て音楽の教師をやっていた良かったとつくづく味わう事の出来る一瞬一瞬だった。そして池高生の自主性、集中力と完成度の高さ、若者らしい音楽する事の喜びに感心して聞き入っていた。この時ばかりは質素な音楽室も華やかなステージのあるホールに見えていた。毎年12月に池田市民文化会館小ホールにて自由課題などで演奏した者から希望者を募って池高小音楽会を開催していた。これには音大などへの受験生も相当いたと思う。今後共池高の音楽科の発展を願っている。



## 「60周年を迎えて」

矢野 治(技師)

池田高校創立60周年おめでとうございます。

阪急石橋駅を降りて、箕面川を渡り寿し善の前を、20年6ヶ月、通い慣れた池高路を登ると、どっしりとした正門に。しっかり大地を踏み締め天までそびえるメタセコイヤ、威風堂々と立ち並ぶ校舎の回りを、ランダムに植えられた樹木、すばらしい環境の中で、池高魂が生まれ育む。

私が池田高校に勤務したのが昭和52年10月1日、その日は上曜日で翌日が池高体育祭、生徒・教職員が運動場にて準備をされていました。ロープ張りやライン引き、そしてテントを5張、まだ支柱が木でベグを打ちテント結び(トートランヒッチ)を生徒に教えたのが昨日のように思い出されます。

平成元年、ある女子生徒が、ソフトボールを指導して欲しいと、ソフトボール同好会を作り、沢山のクラブ活動がひしめくグラウンドの片隅で、練習を。無謀にも豊中高校に試合を申し込み、結果は4対28で大敗、相手校に申し訳ないやら情けないやら。

平成10年4月1日、大阪府立吹田養護学校に転勤、初めての経験で期待と不安の中、小学部、中学部、高等部の児童・生徒189名(知的障害児)と111名の教職員が手を携えて、その日その日を必死に生きている姿を見て、私も頑張らなければ。池高時代多くの生徒やすばらしい先生方から教えて戴いた池高魂が、今も私の心の支えに。

70周年・100周年に向けて、池田高校の益々の発展を祈りつつ。(大阪府立吹田養護学校主任技師)



## 「春霞たなびく彼方に…」

重松 伸司(高13期)

(三重県立看護大学・教授として  
1997年より在職)

同期生の間では、おそらくほとんど記憶に留まることのないなかただろう二人の学友を、僕は折りに触れて思い出す。関川(旧姓笠原)正武と徳田友助のことである。

笠原君は小学校4、5年頃からの幼馴染、中・高時代までを共にした。1999年、大阪の本町で急性心不全のため、亡くなった。

シャイな笑みをいつも浮かべていた男である。自分がそこにいることを恥じるような、そんなはにかみであった。しかし、そのはにかみはよく誤解を招いた、特に教師からの。「お前、怒られてんのに、ニヤつくな」、小学校の担任教師は彼をよくぶん殴った。が、それでも笑みを止めることができない、女形のような物腰と口数少ない色白の子。今ならイジメの対象としてうってつけである。しかし、見かけによらず彼は滅法強かった。小・中・高と同期生の中で、彼に勝てる相撲相手はいなかったと思う。高校時代、彼と語ることはほとんどなかったが、大学入学後、久しぶりに彼と飲んだ。とにかく強くなりた、その一心で当時から名を馳せていた天理大学柔道部に入ったのだという(学部が何であったのか、僕は未だに知らない)。そして、念願叶い、陸上自衛隊の幹部候補生として入隊した。しかし、数年後、突然彼は除隊し、姓が変わり、東京の大きな洋品店の若旦那に变身した。除隊の理由を彼はポツリといった「派遣された沖縄で、僕は辞めようと思った」、1973、4年の事だった。それから20年後の秋、荻窪の自宅に泊めてもらい、正武と奥さんとお嬢さんと雑談をした。とてもゆったりとした時間であった。その翌年、事業拡大のためであろうか、単身、大阪の本町に支店を構え、朝から晩まで経営に奔走したという。その中での急死であった。シャイな笑みとは裏腹の強靱な意志。強くあるということはどう言うことなのか。

徳田友助は、笠原とは対照的であった。同級生が昼飯時にばか話にふけっている間にも、ひたすら英単語を暗記している、色浅黒く、いつも何かを見据えている目の大きい、南国風の少年は異色であった。大阪郊外の典型的な中産市民の子弟がやってくる、春先の日だまりのような池田高校で、



憑かれたようにベンキョーしているのは、たぶん彼ぐらいであったろう。彼の口癖は「僕ね、徳之島から来てん。何とか医学部に入りたいねん」…彼と偶然再会したのは京都大学の薄汚い学生食堂、きつねうどんを注文していた時であった。彼の第一声は「重松君、タノモンせえへん?」。国家の、社会変革の、デモの…と頭が一杯であった、二十歳の僕には、その言葉は余りに想像外で、強烈であった。彼と会ったのはそれきりである。

それから30数年後、いつもは通り過ぎしていた「名古屋徳洲会総合病院」の前で、ふとここに彼がいるのではないかと思った。突然の面会を申し込まれた病院はいぶかしんだ。同期であったという説明に納得した事務次長は、「友助院長は、昨

年亡くなられた」と告げた。痛恨の気持ちが込もっていた。自分の重篤を押し、点滴を受けながら患者の治療を続けたという。見かねた長兄の徳田虎雄理事長が無理やり車で鎌倉の自院に運び、治療を受けさせたという。奄美の徳之島という無医村の島で、貧困の中で治療を受けることができず死んで行った肉親の例を繰り返させない、というのが虎雄・友助ら徳田兄弟の悲願であったという。

貧しいということが当たり前の時代の中で、僕らは育った。そして、それが自らの実体験の中で醸成してきた時に、僕らは生き、そして死んでいく。意志とは何なのだろうか、強くあるということはどういうことなのだろうか。



1958年アルバムより

# 承風会この十年

## ご挨拶

吉治 仁義(高6期)

平成三年春(一九九一年)から二期四年にわたり、前任の有田会長の後を承けて承風会の会長を勤めさせていただきました。



思い返せばこの時期、世相はバブル経済がはじけて長い不況のトンネルに突入しつつあり、一方では雲仙普賢岳の爆発や阪神淡路大震災といった天変地異が相次いで世情騒然たるものがありました。しかしこの間も同窓会活動は順調に進展し、春の総会には多くの同窓生がここ承風会に集まり、恩師を囲んで語らいの輪が広がり、時の経つのも忘れる楽しさがありました。

母校の桜は関係者の愛情溢れる手当てで老木も立派に蘇り、季節には爛漫の花を咲かせ、ここに集う同窓生を祝福して呉れています。承風会には厳しい世相とは別の懐かしいぬくもりのある世界があり、これこそが同窓会の良さというものでしょう。総会の準備打合わせのため、カレーライス一杯で夜遅くまで相談し合っていた幹事会のことを懐かしく思い出しています。

かつて母校のグラウンドで、ラグビーの楯円球に青春の情熱をぶつけていた自分も今や六十五才、愈々世間で言うところの高齢者の仲間入りとなりました。

「少年老い易く学成り難し 一寸の光陰軽んずべからず 未だ醒めず池塘春草の夢 階前の梧葉すでに秋声」これは池高生の頃、岩田先生に習った漢詩の一節ですが、今や実感としてよく理解出来る齢になりました。斯様に人生の真実を衝いた言葉は、少年の心にもずしりとした重味があっけいつまでも忘れないものです。

母校も今年には六十周年を迎えますが、承風会は会長はじめ役員幹事の皆さんが逐次若返り、熱心に会の運営に力を尽くされているご様子を承り、心から喜び且感謝致しております。どうか池高生にとってここ承風会が、いつまでも変わらぬ心のふるさとでありますよう願ってやみません。

母校六十周年の記念すべき年に当たり、承風会の更なる充実発展をお祈りしご挨拶と致します。

## この十年間に思うこと

一特に寄付金に見る母校に対する思い一

中山 正義(高9期)

前承風会々長



毎年承風だよりの寄付金は、一年間で300万円前後である。母校の同窓会に寄付をするという事は、それだけ母校を思う気持が強いという事に他ならない。

十年前の五十周年の時の寄付金等について思い起こしてみたい。

池田高校の創立五十周年記念行事が盛大に行われた平成二年から今日までの十年間というものは、我が国の社会経済情勢は未だかつて経験した事のない未知の世界に足を踏み入れたような状態を過ごして来た。

五十周年の時は、我が国はバブルの絶頂期にあったが、我々はそれがバブルの頂点であり、すぐに風船が割れるようにしぼんでしまうとは殆どの人が分からなかった。そして皆大変元気があった。五十周年への承風会員の寄付金を見てもその事は良く分かる。

目標額3000万円はかなり高い数字に思われたが、結果的には4500万円を上回る浄財が集まった。いくら役員が熱心に仕事をして皆が盛り上がったからといっても、所詮無い袖は振れないのである。

当時卒業生総数が約1万7千人として、何と一人平均2700円という金額になる。

つまり池高卒業生全員が一人2700円を寄付したことになる、この数字は大変な数字であると言わざるを得ない。母校を愛する気持が多く卒業生にあったのと、バブルのピーク時であった事が幸いしたと思われる。

やがてバブルがはじけると我が国経済は果てしない泥沼へと沈んでいくのである。長い間景気の低迷が続き、不況の風が吹き荒れる真只中の平成七年から四年間、私は承風会々長を勤めさせて頂いた。

池高創立五十五年から五十九年までの比較的平穏な時期であった。

最初の年に池高の桜の古木が枯死寸前であるこ



とが分かり、母校のシンボルとも言える古木を助けようと、古木延命保存会を発足させ寄付金を募ったところ420万円が集まり、府の教育委員会からの100万円と併せて古木を治療することができた。

短期間に420万円集まったことに大変感謝すると共に心強く思い、卒業生の母校を思う気持の強さに感激させられたのであった。

この記念誌が発行される60周年の諸事業も、きっと卒業生の熱い思いに支えられて、成功するものと確信している。



6月3日／“池高の桜”の保存を考える集い／存ごとに美しい花を咲かせ我々の心を慰めてくれる本校の桜、しかし昔の桜を知る者の目には、近年の樹勢の衰えは著しく、会議室の窓から見える名樹「本館歪曲老桜樹」も、その背後自転車置場周辺の大木も、枯枝や枯幹が目立ち、痛々しく映ります。そこで、池高の歴史を見守ってきたこれらの老桜樹を枯死から救い、何とか保存していくために、標記の集いを開きたいと思います。体育祭前のお忙しいときではありますが、万障お繰り合わせの上お集まりください。／記／6月8日（木）午後3時／図書室別室／（浜中、田口）

1995年（平成7年）4月、きっかけは恒例の職員写真撮影の後で、本校教諭で卒業生でもある浜中と田口が、桜の木の下で、近年の樹勢の衰えについて語り合ったことからである。木造校舎時代に本校で学んだ浜中にとって、桜は数少ない当時のままの物の一つであるという。田中にとってもその数年前母校に赴任したとき、本館2階会議室の窓ガラスに掛かるほど満開の枝姿に感動したの

を覚えている。それがここ数年の間にめっきり勢いが衰え、枝や幹の痛みが目立ってきたのである。

当場所は古くは渡来人が開いた土地で秦野の丘と呼ばれ、昭和初期まで数千本の梅樹があり有名だったらしい。旧制池田中学校は明治34年に府立第九中学校として設置されるも日露戦争後の財政窮乏が主因で廃校、再び昭和15年に大阪府立第16中学校として天王寺の府立盲学校跡校舎を仮校舎として開設され、翌昭和16年に府立園芸学校が移転した跡の現在の場所に移転した。その当時の校舎配置図には既に「樹のマーク」とともに「サクラ」、「ケヤキ」と記されているので、おそらく園芸学校時代に植えられたものであろうか。その後、今に残る昭和18年、24年、35年、63年の配置図は、二度の火災に見舞われ様相を大きく変えていった本校の歴史を物語るが、ずっと定位置に記された「サクラ」と「ケヤキ」は、静かにその歩みを見守ってきたことを証明している。そして特筆すべきは昭和43年本館建設に伴う伐採危機の折、設計変更をし西半分を北側にずらしてまで桜樹3本を守ったこと。「本館歪曲老桜樹」と呼ばれる所以である。詳細は紀要『承風』11輯所載「本校史跡ガイド」（三善貞司）に詳しい。ともかく60年間今の場所で、しかも戦中戦後の激動の時代を経て今日まで、本校に学んだ全生徒とその教職員を見守り、そのすべての心を美しい花で癒し続けてきた事実が変わりはない。そのいわば池高のシンボルともいえる名樹を、今なにもせずに放置して枯れるに任せてしまっているのだろうか。

当時、教職員の中で池高卒業生は浜中由朗（理科、12期）、氏林操（司書、16期）、一谷英晴（数学、20期）、北坂好江（実習助手、22期）、田口梅屋（書道、24期）、芳澤裕之（数学、28期）、岡野良彦（数学、32期）、菊池美奈子（養護、32期）の8名。それに教職員の人事異動と退職により15年以上勤務の教職員は藤本務（昭42～、保健体育）、長谷田三保子（昭43～、美術）、竹中治夫（昭44～、社会）、佐桑光治（昭46～、数学）、上杉一暁（昭52～、音楽）、矢野治（昭52～、技師）の6名になっていた。少なくとも往時の樹をご存じのこれら14名に、生物科の武田繁典、川岸清校長、東浦勉教頭、工藤喜一事務長を加えた18名にとりあえず集ってもらい相談することにした。冒頭の文書がそれである。

“集い”で話し合った結論は、とにかく樹医に診断してもらい、蘇らせる方法があるのか、ある

とすればどれぐらいの費用がかかるのか診てもらおうということになった。樹医には心当たりがあった。

箕面市立中小学校の西側を南北に走る市道が原線という狭い二車線道路がある。通称「桜通り」といい「大阪みどりの百選」に選ばれて両側に古く立派な桜並木が続いている。その頃たまたま見たテレビ番組で樹医山野忠彦氏の活動の紹介をしていて、氏が通りの桜を治療したことが映像とともに紹介されていた。氏はそれまで未開発であった樹木の治療技術を独学で研究開発し、戦後日本で初めての樹医としてこの30年間に全国各地の1000本以上の老木や巨木を治療されたという。上藤事務長と一緒に桜通りを視察後、箕面市役所公園課を訪ね、担当者に桜通りの治療工事の概略説明と山野氏が代表をされている日本樹木保護協会を紹介してもらった。

その前に学校出入りの植木屋にも見てもらって相談したところ、桜は寿命が短いので若い樹を植えて更新していった方が良く、また3本の桜については狭い場所に植えられているので2本伐って1本にした方がよいとアドバイスされた。話は分かる、しかし池高のシンボルを簡単に伐るわけには行かない。この桜は3本あるからこそ目印として意味があるのである。

早速、協会に診断の依頼をした。樹医の山野氏は現在95歳（平成10年98歳で永眠）で引退されていて、山野氏と一緒に全国を治療して廻られた山本満氏の令息で現在理事長をされている樹医の山本光二氏が6月12日午後に来校された。「本館歪曲老桜樹」3本を含む本館西側の桜古木7本と西門脇の桜古木1本、それに本館と中館の間の中庭西にあるケヤキを診てもらった。

ケヤキは数年前の強剪定により枝が異常叢生し、また何時の頃かは不明だが落雷にあったらしく主幹の南側の内部木質部が大きく露出して内部腐朽が進行している。放置すればいずれ空洞化し寿命は短くなる。

ソメイヨシノは明治初年に東京染井の植木屋が売り出したオオシマザクラとエドヒガンザクラの交配雑種で、葉に先立って大きな花が枝を埋め尽くして賑やかに咲くので人気があり、全国で最も広く植栽されている。本校の桜もこのソメイヨシノである。ただ交配種だけに弱く、「桜切る馬鹿」の喩えどおり切り口から腐朽菌に冒されやすいのも事実である。ソメイヨシノの大木が少ないのは

この品種がまだ新しいからということと、一般に樹勢が衰えたら伐って若木に更新していくから。しかし樹勢は衰えても、適切な治療と世話によっては寿命はまだまだ延びるということであった。

桜は木質腐朽が進行しており、本館建設時に伐採は免れたものの間際まで根が伐られたこと、加えてコンクリート通路が設置されたことも厳しい環境を作っている。西門脇の桜はもう手の施しようがないが、あとの樹は治療すれば良くなるということなので見積もりを依頼した。

後日届いた見積書は、痛みの激しい桜3本で約64万円、「本館歪曲老桜樹」3本で約241万円、堀の際の最も大きい桜が1本で約96万円、ケヤキが約75万円、総額約480万円、思いの外の大金である。

これを受けて7月5日、再度集まりをもった。そして少しでも多くの古木を助けるために池高卒の職員が中心となって、同窓会組織を中心に、在学生や保護者、池高の職員等にもはたらきかけて寄付金を募り、優先順位を決めて集まった額により工事にかかる、踏圧が悪影響なので自転車置場の移転を含め周辺整備を計る、さらに募金活動をする以上、正式にしかるべき会を発足させる必要があるということになった。

#### 大阪府立池田高等学校古木延命保存会規約

第一条 本会を大阪府立池田高等学校古木延命保存会という。

第二条 本会の事務局を大阪府立池田高等学校（以下「学校」という）内に置く。

第三条 本会は学校のシンボルともいえる古木の延命保存を目的とする。

第四条 本会は学校の在学生、教職員、卒業生、ならびに在学時の保護者で、本会の趣旨に賛同する人々をもって構成する。

第五条 本会の経費は寄付金をもってこれに充てる。

第六条 本会には次の役員を置く。

(イ) 会長一名 (ロ) 事務局長一名  
(ハ) 会計一名 (ニ) 会計監査二名  
(ホ) 顧問 (校長、承風会長)

第七条 本会は会の目的が完了した時点（約二年）で解散するものとする。

これに樹医による診断報告書、見積書、前掲の紀要「承風」と「池田五十年史」の該当箇所のコピー等を添えて浜中より提出された議案は、8月

31日の職員会議で可決承認された。会長は浜中、事務局長は田口、会計は岡野、会計監査は一谷、芳澤。

その後9月、文化祭に来校された中山正義承風会会長、服部吉三後援会相談役、織田豊石PTA会長に経過報告説明し、相談した。

そして11月13日に承風会緊急特別幹事会を開いてもらい、浜中と田口で説明した。全部一括して施工した場合の見積を取る、急を要するので工事は着工する、代金は承風会で立て替え、集まった分だけ順次返済する、「承風だより」に募金の記事を書く、寄付金は一口1000円で広く募る、口座を開設し「承風だより」に振込用紙を同封する、校長から府へも働きかけをしてもらうこと等が決まった。

翌日、日本樹木保護協会の山本氏に電話し、一括見積の再提出とスケジュールの送付を依頼した。3日後届いた見積書で約20万円減になること、工期は1月22日～2月2日になることを知らせてきた。

11月28日放課後、9月以降の状況、全体見積書、工期等の報告会を校内で開く。

年が明けて1996年、1月末で三年生の授業が終わることもあり、予定を二週間遅らせてもらい2月12日～同月24日の予定で治療工事が始まった。枝や幹の枯れた部分を完全に切除し特殊な保護剤を塗布、幹の表面に付着している苔類を除去、穴傷や木質露出部分の腐朽部をノミで丁寧に切除し殺虫、殺菌する。古い傷口の木質内側に巻き込んでいる形成層を整切除し、虫類菌類雨水等が入らないように、且つやがては形成層がこの支持体の上を伸長して覆うように穴傷を鉄筋入りモルタルで完全に塞ぐ。土壌の入れ替えについては、根を痛めぬよう手と僅かな道具を使っての作業、根の発根促進処理と薬剤による土壌の殺虫殺菌、土壌改良のための木炭チップ投入と樹勢回復のための施肥等着々と延命治療の工程は進む。

同時に、1月30日付けで「母校の古い桜とケヤキを救おう！」という記事を掲載した「承風だより」第33号が発刊配布され、中山会長が冒頭の挨拶で傍線を引いて強調していただいたこともあり続々と寄付金の振り込みが始まった。また在校生の保護者に向けて趣旨説明と寄付依頼の文書が配られた。続いて2月25日の読売新聞朝刊に“よみがえれ「池田高校」”というタイトルで写真入りで大きく載せていただいたこともあってか、振込

は順調に続いた。また振込用紙送付依頼や某大阪市立高校の先生から生徒に樹医志望者がいて山本樹医の話を知りたいので電話番号をとという依頼などもあった。一方、川岸校長の尽力の結果、大阪府教育委員会から経費の一部として約100万円府費負担していただけることになった。

3月末日までで寄付金総額は約240万円だったが、4月6日時点で300万円を突破した。これに承風会より約119万円を借りて支払いを済ませた。

4月8日、新入生の保護者宛にも同じ文書が配られた。4月14日の恒例の承風会総会でも説明報告と募金をした。5月6日梅田スカイビルにおいての23期卒業25周年、24期卒業24周年の記念ジョイント同窓会でも募金を呼びかけた。

6月での総額は約400万円となり教育委員会からの約100万円と併せて約500万円、一方、古木の延命治療に要した費用が約459万円、振込用紙印刷代が約2万円で支出合計461万円、募金を始めて5ヶ月で目標を上回る浄財が寄せられたのである。保存会では承風会から借りたお金を返し、余ったお金でまだ古木といえないが今少し手を入れておいた方がよいと思われる校内の桜の樹の治療をし、残りを承風会の基金に入れることにし、職員会議に報告、承認された。追加治療は2月17日～21日、12本の桜に対して行なわれた。7月19日発行の「PTAおしらせ」第36号と翌1997年1月31日発行の「承風だより」第34号に、浜中保存会会長の報告とお礼の文が掲載された。2月21日の承風会定例幹事会で、続いて4月13日定例総会で報告し、古木の延命保存治療と募金のために結成された本会は当初の目的を達成し解散した。最終的に1634名の方から4,162,621円の浄財が寄せられた。

本来ならば寄付していただいた方のご芳名を「承風だより」に記してお礼申し上げるべきところ、これだけ多くの方々のお名前を整理するだけの余力がなかったことと、また印刷費、郵送料の理由からも断念し、その分治療に回させていただいたことを、遅ればせながらお礼方々お詫び申し上げたい。振込用紙の通信欄の多くにはそれぞれの熱い想いが記されてあった。最後に、その中からお一人だけご紹介したい。

平成の桜守の各位へ

何を隠しましょう、私は旧職員で古木の桜にひそかに心を寄せている一人です。と申しますのは70年の昔弱冠15歳、私は承風舎の旧名秦野の丘に開設された大阪府立園芸学校に生徒として学びました。後年作業科教員として校内の桜の管理に励み、大阪教育大に転じて後もずっと老樹の桜を遠くから眺めて居りました。この度の古木延命保存会の発足に当たり些少ではありますが小枝の一本でも活かして下さいることを願って止みません。老木の願いよろしく。

愚筆御寛恕下さい。 岡本義春

余録であるが、テレビ朝日「すてきな宇宙船地球号」という番組で国内取材第1号として「樹木の声の聞き」と題する番組を制作する「柳えふぶんの壺」という会社から、山本樹医を通じて取材申し込みがあった。編集趣旨は「人々と樹木のふれあい、特に思い出に重なる樹木が皆一本は必ずある、そんな身近な木を大切にしよう」というもの。今回の本校の取り組みとそれに寄せられた多くの想いが番組を見たより多くの人に伝わるならすばらしいことだと思い、取材を受けることにした。番組は6月15日(日)午後6時30分～30分間テレビ朝日系列全国ネットで放映された。またこれを偶然視られた神奈川県在住の卒業生の方から、思わぬお礼状を戴いた。今後もせめて母校にいる間は、身近にいる者としてこれら古木「承風桜」、「承風樺」を見守っていきたい。(敬称略)



ケヤキ(左手前)から桜を望む。(1954年頃)



この桜樹を背景に卒業写真を撮ることに決まっていた。(1954年頃)



治療を終え、若木(左手前)と咲き競う桜。(1997年)



治療と整枝を終えたケヤキ(中央)。(1997年)

平成二年三月三十一日発行

# 「池田五十年史」略



## 1. 池田中学への胎動

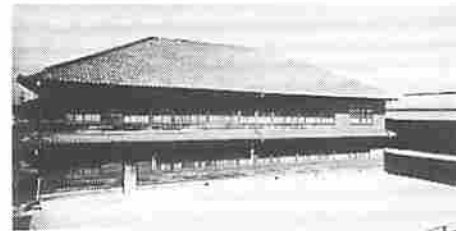
府立池田高校の歴史は昭和15年創立の府立第16中学校に始まるとされている。府立ではない豊能郡立の池田中学校として、はるか昔の明治11年設立（教員4名、生徒男子17名女子4名の共学、主長（校長）八木正厚）の記録が文部省年報にあると言う。明治14年の年報には校名の存在は見当たらないというから短期間の存在であったのだろうか、それ以上の記録はない。当時の教育はフランス啓蒙思想の影響が強い自由主義的方針のためだろうか、男女共学がすでに行われていたことに驚かされる。明治36年には府立第9中学校（教員6名、校医1名、第1回入学生101名、校長尾見五郎）が現在の池田市立池田中学校所在地に開校している。しかし、これも僅か3年後には財政難を理由に整理対象にされ、第9中学校は四條畷中学校に移し替えられ、39年3月末日廃校となった。当時を偲ぶ面影として明治の校舎の鬼瓦が今も市立池田中学校に大切に保管されている。

## 2. 草創期の池田中学校

府立第9中学校の廃校後、待つこと実に35年。第二次大戦の勃発と日独伊軍事同盟と次第に戦時色が色濃くなっていく昭和15年、大阪市天王寺の府立盲学校移転跡をとりあえずの仮校舎として誕生した府立第16中学校（5年制の男子校）の正式な設置場所として、地元の猛烈な誘致運動が実り池田市に決定、1年後の16年3月池田市畑町160番地、府立園芸学校跡（現在地）に移転、4月1日より府立池田中学校として再び誕生した。16にちなんで4月16日が創立記念日と定められた。校地は旧豊能郡秦野村の秦野台地にあり、地名が示すように古代の大陸渡来人が居住していたところであり、江戸時代に中国から来朝した隠元禪師が開祖の黄檗宗の仏日寺（現洪高前）も近い。せせこましい大阪市内から、名勝秦野梅林に引っ越した喜びと気概をこめて、校地名は『承風台』と命名された。「先人の遺風を継承し、四季折々の変化

の中にあって、しかも毅然としている」ことを意味している。

発足当時の天王寺仮校舎（15年）



移転当時の校舎全景

（移転当時を回顧した卒業生の手記）

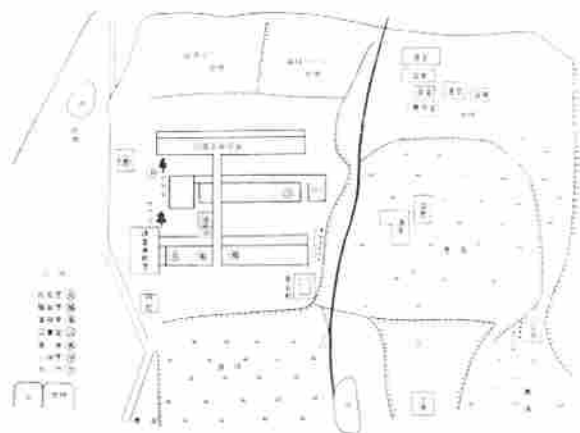
○「岡辺の緑薫る風」これは旧校歌の一節ですが、承風台はその言葉通りの丘でした。昭和16年の春、野草の生い繁った旧校舎に佇んだとき、みじめな建物に対する幻滅と、失望を救うように、私達の琴線に楽しいハーモニーを奏でて過ぎたあの風の薫りは、今でも忘れることができません。今庭球コートになっている処にはクローバーが密生し、その絨氈の緑をひときわ引き立てる様にレンゲの花が咲き、屋外授業を受ける車座の人の肩に、紋白蝶が止まっては離れたあの時の印象は、土の香りと共に忘れ得ない思い出の1つであります。校長室の横に銀木犀の木があって、秋には仄かな香りをただよわせ、日暮の坂道、家路を急ぐ後からシャンシャンと鈴の音を鳴らして追い越して行った乗合馬車の情緒も、もう今では見られないものの1つでしょう。」 [野田三郎：中1期]

○「当時の思い出—図書室の移転はどうするのだろうかと思っていたら、全員数冊の本を借り出せと

命令があった。池田の校舎へ移ってから返却せえといわれ、なるほどと合点がいった。それでも減らず、ついに3冊借りろと強制され、あわてて飛んでいってなるべく薄い本を奪い合った。机と椅子（くっついていた）は、生徒の手でトラックに乗せたが、なにしろ木炭自動車で池中の坂を上げるのに息切れし、坂の下に戻って荷物を降ろしてからエンジンを吹かせたという。」

〔浅原建三：中1期〕

（図 昭和16年当時の旧園芸校跡地の校舎配置）



（注）・図中のケヤキ・サクラは古木保存会の手で若返り手術がなされ、現在の化学教室、書道教室前にそれぞれ大樹となり、現校舎をみつめている。

・図中の泰安殿は、天皇・皇后の写真「御真影」を安置したもので、耐震耐火構造で、社殿風につくられており、その前を通るたびに敬礼を強要されたという。

戦時体制下の物資欠乏と言論統制、逼迫する生活苦と戦いつつも、実利実益をただちに求めず、基礎的人間教育を授けるという高い建学の理念から、哲学に篤い学究的・理想主義者であった初代校長庄静夫は既設の中学の由緒と伝統の背後にある姑息と因循に背を向けて、新しい教育—真の人材育成—を教育目的に据え、有能で個性豊かな新進気鋭の教師を集めて組織化し、理想的な中学建設に活発に動いた。オンボロ校舎ではあったが、鋭気に満ちた雰囲気をしてこに生徒の意識の革新をはかり、学問への情熱をかき立てようと努力した。また校地や登校路に桜を植えて回り、まさに“山紫水明の地に人材出ずる”の環境を整え、師弟一如をモットーに厳しい勉学の中にも家庭的な校風

樹立を目指した。全力を傾けた教師、厳しい指導によく耐え、忘えんとする純真で柔順な生徒、そんな学校の方針に献身的に協力しようとする保護者の三位一体となった池校創業の苦心が始まる。戦時下のこと、各方面への必死の陳情を繰り返した結果、18年には2階建3棟36教室の新校舎・柔剣道場・講堂（体育館）・銃器庫などが、19年には特別教室がほぼ完成し、学校らしく体裁が整って来た。整備に最重点が注がれたのが図書室で、本のための尖費は惜しまず、日曜日には教職員は京都あたりの書店まで買出しに出掛けた。こうして1万冊に余る蔵書となったが、小説はただの1冊もなかったと言う。言論統制など戦時体制下にある時世なるが故に、かえって学問の自由にとって欠くことのできない図書室の整備の思いが教職員を動かしたのであろう。真の人間教育への篤き思いと勇気に敬服する。今日に至る「自由」な校風の淵源がここにある。

### 3. 戦時下の学校生活

非常時と呼ばれていた時代の開校であったから、スタート時から教育も軍事がかった。目ばしいものを拾い出してみる。

15年：黒靴にゲートルを巻き、肩から布製の鞆をかけ、2列縦隊で十人、十数人と集団をつくって登校する2列行進登校制度、制服と持ち物→写真



全校生徒の水泳合宿訓練（由良浜海岸）→写真  
朝：宮城遙拝、勅語・校訓の斉唱、昼：水泳、夜：建国体操、講演、座禅この行事は毎年実施の予定であったが、時局の進展とともに実施困難になり、後年のプール建設につながっていく。これらの軍隊式訓練に用いられた池中太鼓→写真  
軍事教練→写真（教練に使用した木銃と鉄兜）教



18年：この年までの軍事教練の教官は社会人としても豊富な体験を持った教官であったが現役のバリバリ中尉が配属されたことで、池中教練は一変する。軍歌を合唱しながら有馬、水無瀬など40km徒歩大行軍が実施され、また軍事訓練として乗馬訓練、登山訓練が新たに加わり、クラブ活動は鍛錬班の名のもとに銃剣術、剣道、送球、籠球等があった。→写真 府から3、4年生を対象に予科練航空戦士の強制割当が指示されている。勤労奉仕として従来の農家の田植えや稲刈の手伝いに加え整地等にもしばしば出動した。→写真



(当時の学校の状況を回顧した生徒の手記)

○「胃の強いやつは文学が分からない」と漱石が胃弱を誇ったように、身体が強くないということは僕の誇りだった。池中に入った最大の理由は、乱暴な上級生がいない、配属将校がいない、ということだった。「学校にカメラ持参はいけない」「飲食店出入はまかりならぬ」という禁止ずくめの池中だったとは言え、府下ではゲートルの着用が最も遅かった学校ではなかったか。その池中も、太平洋戦争が始まると、英語の教科書のネルソンの課は欄付けにして読めぬようにされ、楠木正成、金剛山を礼拝する教師が精神教育をし、直流と交流の分からぬ数学教師が物理を教えるようになって

た。それもまだましだった。無残にも戦時色の権化、配属将校が「天皇陛下の命により」やってきた。中尉殿の彼はしばしば職員室を出、運動場の傍らにテントを張って「にらみ」をきかした。中尉殿がどの位偉いか中学生には判らなかったが、ドウモウな顔は威嚇するに十分だった。教練の前の授業は教練用白ズボンにはきかえて受け、授業終了十分前ともなると教室はざわめいて生徒はゲートルをつけはじめる。「学校は教練を受けるところと違うんだぞ」と言うだけで、生徒を責めなかった先生、英語の柚山先生だった。「せや、せや」と喜んで和するのが生徒のせめてものレジスタンスだった。

今にみろ、大尉や少佐になってやるから、あいつをドツイたるからという気持ちは誰しもが抱いたことだろう。[中野慶三：中2期]

19年：戦時体制が強化され、軍人、高校、高専などの志望によるクラス編成が始まる。6月には勤労働員が発令され(夏休みが廃止)、4～5年生は7月、後に3年生が、それぞれの工場に散っていった。徹夜の作業、食糧不足、B29の空襲の危険にさらされながら増産に従事した。かくして承風台には工場動員を免れた1、2年生も授業どころではなくなってきた。しばしば勤労奉仕を課せられながら軍事教練・作業・武道等の授業を含めて日夜勉学に励んだ。運動場はすっかり蒔畑に変わった。武道場・特別教室・普通教室の3分の2が住友プロペラ製作所、食糧営団、交易営団、伊丹飛行隊に拮取され、学校を隠れ蓑に工場疎開、疎開倉庫と化し、たちまち様々な機器や半製品類、原料、食糧、飛行機部品が詰め込まれた。後の本校空襲炎上の原因となったといわれている。

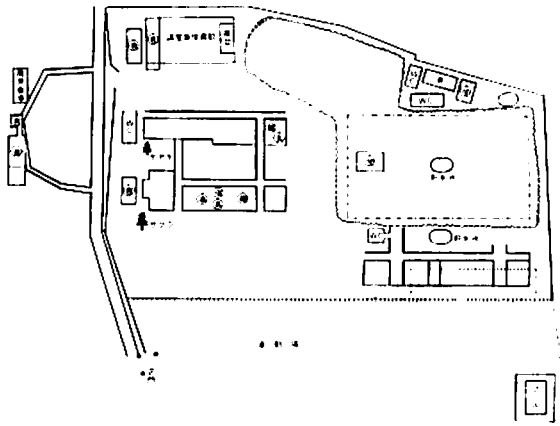
20年：敗戦直前となり、大阪も空襲を何回も受けており、3月1・2期生が卒業したが、卒業式後も動員継続のため学校にとどまるよう指令された。このように、軍隊教育や勤労働員が日常化してゆき、知性や感性を磨く教育が日増しに薄くなってゆき、建学の理想が「国家」の前にひれ伏す状態に立ち至り、初代校長は辞任する。

#### 4. 受難(本校の6・7、2・26事件)と新教育の胎動

20年6月7日午後伊丹空港爆撃のB29群の1機が本校に飛来、焼夷弾数百発を投下、瞬時にして体育館はじめ2、3号校舎の24教室が消失した。(図昭和20年空襲、24年放火による消失区域)



### 空襲で消失した2、3号校舎



【作家北田基司：中5期『私の空襲体験』（昭和44年ノーベル書房刊）より、

○「たしか、昭和20年6月のある日だったと記憶する。午後、空襲警報とともに運動場の壕に避難した直後に、ゴゴゴという地鳴り状の音が壕壁を揺るがし、続いてザアザアという大雨の音、あるいはバリバリという雹の無数に降り注ぐ音が重なったとたん、中学校の校舎の屋根という屋根に、クリスマス・ツリーの燈のまたたきというのか、おびただしい燐の鬼火の大群というのか、油脂焼夷弾の焰が燃え、熔融して流れ、疵をしたたり落ちた。当時、学校には、中学2年の僕らと1年生しかいず、3年以上は工場動員に駆り出されていた。がら空の校舎には、入れかわりに陸軍とS金属が入っていた。その眼もくらむばかりの火焰の花の開花を見たたん、だれもが壕を飛び出し、校舎に向かって走り出した。瞬間、隣りにいたTが「いくな！ 油かぶって死ぬぞ！」と怒鳴った。どうやって、あの興奮の極限でTがそんな冷静な判断をくださったのか、いま思い出しても僕は畏敬の念に堪えない。たしかに、たちまち濃褐と真黒な煙、大きな真赤な先のとがった舌を吐き出す火焰に包まれた校舎に、ええかっこして消火作業に飛び込んで行った連中は、煙りに巻かれたり、油をかぶったり、屋根から転がり落ちてくる六角の焼夷弾の筒にあたりたりしたにちがいない。なにしろ、防空頭巾が火熱で乾いて紙のようにパッと燃えだし、紐を解く間に火傷してしまうのだ。「プール、プールへ飛び込め！」Tの指図で、プールの水で全身ずぶ濡れにしてから、Tと僕は校舎に飛び込んだ。なにしろ、彼にも僕にも、多少の火の粉をかぶっておかないと、後ろめたい気持ちがあったのだ。2階の廊下には、漢文の教師が

仁王立ちになって、生徒の運んでくるバケツの水を窓にぶっかけている。廊下を物凄い煙が渦を巻いて走り抜ける。窒息感、と思った瞬間、火焰が矢の東となって天井を這い走った。後ろめたさもなくともあるものか、Tと僕は唸りながら階段を転がり降り、遁走した。運動場では、陸軍の兵隊とS金属の社員が必死で荷物を運び出している。驚いたことには、兵隊がやっていることは、消火作業などではさらさらなく、米俵を気でも狂ったように放り出しているのだった。社員は机の袖出しごと窓からぼんぼん投げる。たちまち運動場は、米俵と製図機械やらでいっぱいになった。」

校舎炎上後の6月末から7月上旬にかけて、あらたに、敵前上陸に備える築壕作業（和歌山県海草郡）や地下工場建設作業（池田市東山）に動員されている。またこの頃「池中特攻隊」という大変な組織が結成されようとしていた。

○「昭和20年7月頃だった。勤労働員中の各工場、引率中の先生が朝の点呼の際、緊張した表情で、「池中中学特攻隊の編成』について語られ、志望者を募集された。要旨は以下のとおり。一人っ子と長男ははずす。但しどうしても入りたければ、親の印をもらって来い。任務の内容は和歌山付近でタコツボ陣地を掘り、背中に爆薬を背負って敵の戦車に体当たりすることである。結局50名ほどの中、十余名の志願者が集まり、私もその一人に選ばれた。物分かりの大変よい母も、判を押すとき泣いていたように思う。8月15日、他の工場に行っていた仲間も含め、総勢50名の幼い神風特攻隊が池中中学に集まって来た。当時まだ独身だった岩田久郎先生が、この隊の隊長になれる予定で、この日の午後結団式をすることになっていた。しかし、正午終戦の詔勅が出て、幻の特攻隊となってしまった。この隊には岡本の重さんや段中君も確かにいたと思う。結団式の取り消しを聞いたとき、正直な気持ちはこれで死なないで済むとほっとした安心感であった。あまりにも幼かった。」〔吉川明：中4期〕

こうして終戦の8月15日がくる。

終戦とともに文部省は戦時教育体制を一掃するべく180度の転換をはかった。「尽忠報国、滅私奉公、八紘一宇」は一億総懺悔となり、「平和、民主、自由、平等、人権、個性」に大きく変転したから教育現場は混乱した。昨日までがんじがらめに縛りつけた帝国から解放され、生命をかけて死守せよと教えた価値観が否定され、一夜にして

枠組のない世界と民主主義という新たな価値観が唐突に出現したことに、生徒も教員も驚き、そして大いに戸惑った。9月には勤労働員されていた上級生が全員帰校し、焼け残った1号校舎等で9月21日から授業らしきものが開始された。机も椅子も大半が消失しており、じかに床に座って勉強した。天気の良い日は新聞紙持参で、中庭に座り込む授業も多かった。軍国主義・国家主義につながるものとして教科書のうち修身、日本歴史、地理は使用禁止となり、他は部分的に引きちぎったり、墨を塗って抹消するなどの処置がとられた。教練と武道の科目は廃止、これに伴う銃や軍刀などの道具類の処理（主に池田署へ持参）がなされ、朝礼のような号令を伴う団体集合は一切廃止となる。服装はゲートル不可となったが、極度の物資不足のため、ある者は着用、靴のないものはぞうり、わらじ、下駄、地下足袋、はだしなども勝手となり大幅に規制がなくなった。

11月になって、尼崎市の工場から食堂用長机を譲り受ける朗報が入り、19、20日の両日全校総出で人力で運び込まれた。これにより、座っての授業という難行苦行は免れ得た。

12月には校友会規定（後の自治会規約に相当）ができています。この定めにより、後に文化部として図書部、雑誌部（新聞部）、文芸部、美術部、音楽部、地歴同好会、数学同好会、理科同好会、博物同好会が、運動部には相撲部、体操部、陸上競技部、馬術部、排球部、蹴球部、庭球部、米式蹴球部、送球部、水泳部、野球部、登山部が組織され、戦後初期の本校部活動の目覚ましい活躍の礎となった。

21年：食糧増産が最優先され、家庭での増産に勤めしむため、「臨時休校」などの措置も取られた。学校でも生徒用・教職員用・生徒教職員両用の用途のついた物資の配給が何回かあったが、量が極めて少なく、くじびき等で配分されたが、生徒間には不平不満が残った。生徒の不平不満は終戦後、言説の変わった教師に対する不信の念と増幅され、一時期校内に下克上の不穏な風がながれたこともあった。変転した教育現場について、後日、シベリヤ抑留から帰国した社会科教員小林茂はつぎのように書いている。

○「私が赴任した昭和17年は、既に戦時色で濃厚に染められ、スパルタ式教育が横行、授業から登下校まで総て軍隊式規律に基づいていた。池中を名門既設校と遜色のない進学校にするため、頑健

な若い先生を集め、厳しい毎日が展開された。生徒は遅刻して叩かれ、忘れ物をし、あくびをしては成績から減点された。脇見や私語で殴打されても、生徒は純真で柔順、保護者もそんな方針に協力し極めて熱心であった。戦局が不利になるや勤労働員に駆り出され、ペンが生産労働に取って代わられる。しかも空襲が激化し、教職員と生徒が罹災の折、どう連絡し対処するかという訓練が行われ、私は大変不安になった。応召で戦地に赴いた私はシベリヤに抑留され、やっと24年池田高校に戻って来た。既に新教育体制になっており、ひどくびっくりした。民主主義が叫ばれ、授業では生徒の発言力が強くなり、時には教師が生徒に迎合している向きがあった。自由と放縦が混じって、なんだか教室の管理が難しくなっていた。これが新しい教育というものか、私には分からなくなっていた。私は1年半で池高を辞した。」

また「米国教育使節団」が来日、つぶさに日本の教育政策を検討して、「新教育体制」の勧告をなし、そのなかに「民主教育制度は個人の価値と尊厳を認めることが基本である。それは研究の自由と批判的に物事を分析する能力と訓練を助長するものでなければならない。そのために画一化と標準化を避け、地方分権を確立させることが肝要」、「教育課程の変更が急務だ。それは中央官庁の処方箋ではなく、地域社会の必要に応じた個人の興味に於いて作成しなければならない」などがある。かくして21年5月には文部省は「新教育指針」を配布し、軍国主義、国家主義を徹底排除し、人間性、人格、個性を尊重する民主主義を確立しようとするものであった。かくして府は次の事項を生徒に必ず伝達するように通知した。

(1) 学校では「神様」(注：天皇)を拝まないこと。  
(2) 「国体ノ本義」「臣民ノ道」に関する本を読まぬこと。

(3) 「大東亜戦争」「八紘一宇」などの用語の禁止さらに教職員に次の事項の通知が要望された。

- (1) 授業内容の討議批判の奨励
- (2) 連合軍の占領目的、敗戦の真因を知らせる。
- (3) 軍国主義、超国家主義教育の廃止
- (4) 修身、国史、地理の授業停止

この年の生徒の転出入はきわめて多く、罹災・疎開・外地からの引揚が主な理由である。食糧難にもかかわらず、スポーツ熱は興隆し、芋畑に変貌していた運動場も徐々にもとの姿にかえっていた。終戦後はじめての運動会が5月西宮球技場

を借りて行われ、9月には初めて遠足を行って長い暗雲を払拭し平和を謳歌した。また米軍政部ジョンソン氏（府教育担当官）が来校、新教育と銘打ってアメリカンフットボールを執拗に勧め、ボールや道具、ルールブックを持参し、実演した。これが本校アメフト部の始まりであり、豊高ともども日本の高校アメフト部の草分け的存在となる。この間、言語に絶する資材難、頼りにならない府当局にも拘わらず、地域の篤志家の寄贈や保護者会の血のにじむ尽力、寄付により80余万と建築資材が集まり、この熱意が府当局を動かして予算執行となり、請負った業者も損得抜きで工事にかかり、11月20日ついにバラックではあるが、戦災跡地に平屋建2棟12教室の校舎が竣工した。外窓、電気設備すらない吹きさらしであったため、後に新任の教師や新入生は“馬小舎教室”と呼んだが、当時を知る在職教師にとっては粒々辛苦の結晶であり、怒りで涙が滲み出たと言う。戦火で消失した府立諸学校で最も早く立ち直ることができたのである。けれどもこの校舎も24年には放火で消失し、マッチ売りとバイトで校舎再建を図る美談とあいなる。その23日には新校舎落成記念学芸大会・体育大会が催された。校門がなかったのでアーチを立てお祭り気分を盛り上げたのが今日に至るまで引き継がれている。体育祭でも弁当が持参できぬほど世は極度の食糧難に陥っていた。「民主主義は新聞の発行から」という指令によって、本校でも12月には府下初の学校新聞が創刊され新聞部が発足。用紙の入手難で大学ノート大の二頁の創刊号ではあるが、己が意見を活字にする喜びは格別であったろう。学芸大会の内容が創刊号に以下のごとく記されている。

「11月19、20日にわたって挙行された。諸々の不利な条件を克服して予想以上の好成績を取めた。

英語劇・・・通訳付、日本語解説あらば、もっとよかった。

弁論・・・「我が天皇論」「国語国字問題」は熱烈な気迫と豊富な思想で、大勢の拍手を浴びた。

演劇・・・エイブラハム・リンカーンは、文芸部員の努力と、先生方の援助で実に見事な演技であった。他に英語の小喜劇、寸劇とも思想より中学生の関心をひいて成功した。いずれも出演者が中学生の品格を保ち、真摯な態度をとったことが大成功の要因である。」

写真 戦争復興新校舎落成記念祭



この頃戦災で荒廃した校内を少しでも美しくしようとして美化委員（略称B I）が誕生した。これは全く本校独特のもので、委員は献身的に校舎校具の修理補修に当たり、とかく善意を失いがちな校内に一眼の清涼剤を盛り込んだ。

22年：新学制を次年度に控え、現状のままでも新制高校に切り換えるための臨時措置として、新入生なし、旧制中学3・4年生は新制高校1・2年生に、旧制中学1・2年生は併設中学2・3年に籍換えされた。5月には「スクールシティ」と称する生徒自治会が発足。主な内容は全校生徒が選んだ市長と数人の助役、各クラス2人ずつの代議員からなる代議員会、同じく各クラスから審議員を出して審議員会と三権分立を基幹とした最も民主的な本校独自の自治会がスタートした。

23年：4月1日より新制池田高等学校と改称、高1と併設中2の学年から男女共学とし、高2・3年は共学せず、従来とおりであった。市外第一学区に属する本校は豊中高、桜塚高、市立豊中高と協議した結果、石橋以南より通学する高1年生、併設中学3年生計168名が本校から桜塚高校（旧制高女）に送り、桜塚高より石橋以西に居住する生徒252名を本校に迎えた。

共学初めての対面式（S23.4.1）





旧制中学のクラス写真

「狼の中へ子羊をやるが如し」等の迷言の飛ぶ中で、お互いに好奇心をもちながら直視できず戸惑いと気恥ずかしさでモドモドしながらも明るく楽しい日々が過ぎた。かくして互いに新しい刺激剤を得た本校生は、勉学・スポーツ両面で目覚ましい活躍を發揮し始めた。体育祭では初めてフォークダンスや後年本校名物となる仮装行列が登場した。

24年：1月タッチフットボール部（現アメフト部）が全国優勝を成し遂げ、サッカー部も全国大会4位に入るなど華々しい活躍は見事であった。またホームルームが導入された。そして2月26日校史に痛恨の1頁を加える放火事件が起きた。あれほど苦心して建てた戦災復興仮校舎2棟12教室が全焼した。放火直後の全校生徒集会の様子が感動的に記された教員の文書がある。

○「このままでは池高は廃校になるかもしれない。僕達はどんなアルバイトをしてでも資金の調達に努力しよう」愛校心のほとばしる熱っぽい発言が相次ぎ「池高生頼もしい」の感を先生たちはいやが上にも味わわされた。期末考査が近づいていた。アルバイトが先か、矢張り二部授業ででも残った校舎を利用して試験を受けるべきか、と彼らの論議は進んでいった。しかし桜塚から移ってきてからまだ1年にみえない女生徒たちはそんな場での発言には馴れていなかった。

「女子の発言がないのはどうしたことか。君たちには愛校心がないのか」

1人の生徒が口火を切ったが矢張り発言する女

生徒はいなかった。

「何故発言しないのだ。池高生になったという自覚に欠けているのではないか」

そんな風に云われれば云われるほど女生徒たちは体を硬くして、俯いているばかりだった。去年の4月、池高道を上ってきて初めて校門を入るのに10分間も躊躇しなければならなかった彼女たちの心理は、その頃になってもまだそう変わっている筈がなかった。正直に云って共学に馴れていない彼女たちは臆病だった。それに、2年生3年生には女生徒がいなかった（共学は併設中学3年生と高1だけであった。なお当時併設中学は3年生だけを残し1・2年生はとっていなかった）男子の上級生の非難は想像以上に彼女たちへの威圧となっていたのだ。

そうした女生徒の心理を男生徒は理解出来なかったらしく興奮した彼らの攻撃の矢は一斉に女生徒に向けられ始めた。「桜塚の方がよかったのか。設備のよい桜塚が恋しいのなら桜塚へ帰れ！」そんな乱暴な言葉まで発せられた。そのとき、耐えられなくなった1人の女生徒が遂に手をあげて発言を求めた。高1の内海小枝子さんであったと記憶する。それを見て、女生徒たちはほっと救われたような気持ちになった。云いたいことは皆同じだったのだ。ただ手をあげて云う勇気がなかっただけなのだ。だから彼女たちはひたすら誰かが発言してくれるのを待っていたのである。

指名されてその女生徒は立ち上がった。桜塚のような立派な講堂があるわけではない。みな板敷の床の上に坐っていたのである。

「私たちも池高生です。愛校心がないなどと云わないで下さい。私たちに出来ることがあったら、何でもします。たとえ口では云わなくても」そこまで云って女生徒の言葉が途切れた。そして泣いた。ハンカチで涙を拭き拭きどうしても次の言葉がつかなくかった。

また別の女生徒が立った（併設中学3年生の多田美智子さんであったと記憶する）。「何でも云いつけて下さい。私達にも復興を手伝わせて下さい」

何といういじらしい発言だろう。人移り校舎また改まって幾星霜、ホームルームや自治会での女生徒の発言の変化にも今昔の感がある。男子生徒の発言にも情熱がほとばしり女生徒の発言にも心情に訴えるものがあつた。この日の生徒集会はこの意味に於て池高史上最高の生徒集会であったと言えよう。



まさに本校にとって受難の時期であったが、その試練をバネに愛校心が高まり、教師・生徒・保護者が心を合わせ、三位一体となった「なにくそ!! こんなことでヘコたれてたまるか!」という承風魂（池高精神）が発露し、鍛えられ、逞しくなっていた。そしてこの精神的バックボーンは本校の今に至る校風を作り出した。

“災い転じて福となす”やがて池高生が華々しく活躍する出番がやってくる。

### 5. 新生池高の黄金時代

戦時教育体制のもとで殆ど窒息状態にあった向学心や文化やスポーツへの心が新教育体制に移行するやいなや、また火災で奮い立った「池高精神」「承風魂」は春の訪れとともに芽吹き爆発的に噴出してきた。語畑のグラウンドは整地完了とともにタッチフットボール以外にサッカー、ラグビー、ハンドボールも新たに興った。異性の眼を意識してか男子運動部の練習は激しかったようだ。校舎放火炎上に対して、生徒のマッチ売りやアルバイト稼ぎの収益（50万円）が呼び水となって、その後の池高を愛する多くの人々の熱意が実り、24年5月復興予算865万円が通過（ただしこのうち250万は学校、地元負担）9月着工、25年3月に平屋建2棟12教室と音楽ホール、12月には2階建本館が完成した。この喜びを後藤安久（第3代校長）は「全校生のアルバイト義金と呼び水となって、多くの学校関係者の感動がこの校舎を誕生させた。府の予算では到底早期復興の夢は不可能であったのに、熱烈な池高愛・承風魂が奇跡を生んだのだ」。復興委員長として寝食を忘れ奔走した保護者代表の上島恒造は「先生、保護者の総てが承風魂に結ばれ、渾然一体となったればこそ、この目を迎え得た。学業に運動に府下随一の力をみせた本校は僅か創立10年ながら、他校数十年を凌ぐ苦悩を経て成果を得た。諸君、もう立派な基礎はできました。さあ池高生よ、天下の池高ここにありと叫ぼうではありませんか」と語り、自治会会長三宅弘人も「我々の眼前に、かような豪華な校舎が姿を見せたのは、まことに感謝に耐えない。ここに至るまでの血の滲むような苦心は、語り伝えて行きたい。そしてこの苦心を池高生の伝統として、益々発展させねばならない」と述べている。これらは決して誇張でなく、真に辛酸を嘗めた者のみ発言できる喜びの爆発であった。

かくして漸く環境の整った池高は運動に続いて学

業・文化活動に真摯に取り組み一段と向上を示してくるのである。

サッカーで一部優勝メンバー



運動面では25年1月サッカー部は前年に続き2年連続近畿地区代表として全国大会に出場、創部わずか3年にして全国制覇の偉業を成し遂げた。

タッチフットボール部も24年の日本選手権大会に続いて26年も強敵慶応高を破りV2をはたした。

かくして自治会の各クラブは百花爛漫の時代を迎え、中百舌島で行われた府民体育大会では、数クラブが優勝を目指し、応援にでんてこ舞いの始末であったと言う。

戦後一時禁止されていた学校柔道が26年許可されるや池高柔道部が創設され、その年の第1回府高校選手権で団体戦、個人戦ともに優勝、この年の4つの府民大会すべてに団体優勝をしている。硬式テニス部は21年軟式庭球部として発足、大阪府優勝、国体出場、近畿大会、インターハイ等での数々の成果があり、特に30年の高校テニス全国大会には5指にあまる選手が出場、うち村山誠子は女子シングルスで優勝、鳥井、井内も5回戦に残り優秀選手として表彰されている。村山は同年の国体ダブルスでも優勝している。

村山誠子は一年生のときから、全国大会に出場した名選手だった。しかし2年とも決勝で大谷高の福田重子と対戦して優勝を阻まれた。そして3年目（昭和30年）決勝で奇しくも宿敵福田重子の妹、許子と対決することになった。試合直前村山はアキレス腱をいためたが「腱が切れるまで」と健闘をつづけ、遂に2対1で福田を降して全国制覇の偉業をなしとげた。



テニス部

32年にはハンドボール部とバスケットボール部が春、秋の府民大会でそれぞれ優勝し、陸上競技部も29年の白井と30年の田島はそれぞれ近畿大会で入賞し、国体に出場している。51年には国方卓が全国インターハイでハードルで優勝、沈滞しがちな池高の空気を打ち破った。

池高文化に花咲かせた最古の文化部は16年創部の地歴部である。24年頃から能勢の実地踏査等の郊外活動をはじめてから真価を発揮、その成果を『郷土のすがた』にまとめた。レベルはかなり高く世に評価され、市販の地図「北摂の山々」等に参考文献として記載されたりした。その活動ぶりは度々新聞・テレビで報道され、36年全国学芸コンクールでは文部大臣賞を受賞している。

地歴部



21年には新聞、演劇、生物が創部している。新聞部は米軍の「民主主義は新聞から」の指令で半ば強制的に創られたが、つねに部活動や全校生徒の声を部員1人1人が丹念に取材し、公正な立場から若者の良識ある論陣をはり、自治会とともに「住み良い学園作り」に貢献し、池高文化の基軸として高い地位を占めてきた。31年の全国高校新聞毎日コンテストをはじめ4回の受賞があるが、なかでも圧巻は総合ジャーナリズム研究所編集

『新聞と教育』（46年8月）で全国の優秀高校新聞3紙の1つにあげられ、「自治会は与党、新聞部は野党」という編集方針を高く評価し、長文の池高新聞論を展開していることである。

演劇部は当時の火災と物資不足のもと、舞台、道具などすべてないないづくしでスタートしたが早くも25年全大阪高校演劇コンクールで2位と頭角を表し、その後池田市民公会堂で毎年のように公開発表した。

23年創部の文芸部からは在校中からプロに伍して活躍するという文学的才能豊かな部員が登場する。山内美穂（28期）は1年で『着手帳』2年で『蜘蛛巣女』3年で『花じずく』の3冊の単行本を自費出版、各新聞が「天才的文学少女」だと数回報道。「花崩し」は文芸専門雑誌『新潮』（51年6月号）に掲載され、10代では初の新潮新人賞候補に推された。また「太宰治文学賞」「女流文学賞」等の候補作品に選ばれたが、受賞までには至らなかった。なお59年には平中景（36期）が受験を控えた3年時に書き続けた小説『シーズ・レイ』が卒業後「文芸賞」を受賞し、「予備校生が文芸賞」と全国的に大きな話題となった。ちなみに文芸賞といえば第1回受賞が『非の器』を書いた高橋和巳であり、プロ登竜門となる権威ある賞である。

24年それまでの英語同好会がE S Sと改称大阪府英語弁論大会で24、25、26、39、40、43と1位になっている。また、25年の全関西R C、44年のY M C Aスピーチコンテストでそれぞれ1位を獲得した。

「君の名は」等のラジオドラマ全盛の時代、民間放送局が次々設立され、各学校でも校内放送が始まっていた26年、本校でも放送部が誕生した。自治会が先生方を説得、乏しい機械類を集めて放送を開始した。28、29年とそれぞれ朝日、NHK学校放送劇コンクールで入賞、39年全国高校ラジオ作品コンクールで放送劇「僕に拍手を」が準優勝した。

放送部



29年同好会でスタートしたユネスコ部はユネスコ精神―戦争のない平和な国際社会を築く―にもとづき、部員1人1人が心のなかに平和でヒューマニズムをもたなければならないという基本原則を確認して、世界各地の風土習慣を知り、実際の生活を学び合い、文通によって友好を深めるという研究活動に入った。部員たちは長時間討論し、図書館、新聞社、領事館などに通って資料を集めた。その結果は31年、33年～41年と毎年藤山賞を受賞という素晴らしい結果となって表れた。

必修クラブとして生まれた「点訳同好会」は郷土の話題や歴史を点訳して寄贈したりボランティア活動、障害者問題を真剣に討議するなど、そのユニークな活動が注目されていたが59年長年の功績が認められ「優秀青年ボランティア団体」として最高の厚生大臣賞を受賞している。

このように、文化クラブの本領は運動部にややおくれで20年代後半から発揮されてくる。晩年、国語科教員岩田は生徒の気質の変化をあげて次のように激励している。

○「当時の池高には、『文化祭は池高文化を世に問うもの、なまかなものを発表しては池高の名折れになる』という気概があった。もちろん、文化祭は全校生徒が自分たちの文化祭の意義のもとに『全員参加』すべきものであるが、多数であることが、往々にして、自分たちだけが楽しければよい意識になりがちで、文化祭よりも、学校まつりの的なものに陥り易い。いやしくも文化と銘打って、郊外の人々に公開する以上は、十分な準備期間と息長い努力で研究し、練習した成果を一枚の名譽にかけて発表すべきもので、その努力の過程で、全員が何らかの形で参加するところに、文化祭の真の意義があるのではないかと思う。当時と比較すると今日の社会情勢も大学への進学状況も随分困難度を加えている。昔のままに万事通用するとは思わないが、そういう困難な諸条件を克服しつつ、真の文化祭の型を作り上げる所に、生命のこもった文化が生まれるのではないか。」

勉学の面でも26年3月初めて女子卒業生を出したが東大、阪大、大阪女子大等に進学する者も相当数を数え、女子の面目を高からしめた。この年東大現役合格4名を筆頭に国公立大学に多数の合格者を出して意気を示した。その後も恵まれた環境のもとで順調に卒業生をだしていくが、世が落ち着き、進学へのうねりが高まるにつれ、新設校も増え、学歴偏重の社会風潮、科学技術教育重視、

新教育理念の形骸化のもとで「有名大学進学」が次第に生徒の手枷、足かせとなり、何となく運動部の活気が衰微し、ついで文化部が、そして「真摯」な生活態度は「落ち着き」から「温和」と変わってゆき、教室も運動場も職員室も一丸となって活気に満ちあふれていた「池高精神」「承風魂」はいつしか深い太平の眠りについた。かわって「灰色の高校生活」「三無主義」が横行し、沈滞と物ぐさとけだるさが池高キャンパスを長らく徘徊する。しかしこの太平の夢が破られ、しばしのあいだ生徒が目覚めるときがやって来る。

## 6. 高校紛争

池高紛争は過激派の手による学園紛争ではあるが、本質において、建学の精神でもある「真の教育」をめぐる展開された論争である。2000年の今日にも通ずるところ大につき、やや詳しく述べる。35年ごろより生徒急増期にはいり、多くの新設高校が設立される中で、進路実績で沈滞ぎみの池高の特色づくりが迫られ、「高度な進路希望に最大限応じる」観点にたった能力別学級編制（通称3・8組）が具体的切札として、37年よりスタートした。テストの上位1～50名を3組、51～100位を8組、他は均等クラスとし、能力別に教科指導する内容である。これが池高紛争の淵源である。このやり方は生徒を覚醒させるに十分だった。若者の正義感をおおいに傷つけ、学校不信は募り、「教師は大学合格実績をあげるのに汲々している。我々は商品ではない、1等品と2等品に分けられてたまるか」、「3・8組は池高の入試特攻隊」と憤慨し、池高新聞は「単なるクラス分けのあれこれの問題でない。このことに象徴される日本の高校の（非人間的な）現状、さらには日本の社会の問題」と指摘し、大略つぎの要旨の論説文を載せている。「人間はなぜ、能力・知性・性別などで区別し差別しなくてはならないのだろうか。頭は考える為にある。常に疑問をもち、何故ということをおぼえてはならない。この疑問をもつことで人間は向上したのだ。この素晴らしい頭でこの地球を、日本、池高を見て欲しい。今日行われていることが当然なことか。私たちの最大の問題である大学入試制度は主に記憶力が試されるので、記憶力が良いと言うことが理解力なり判断力なりが良いということにつながるそうである。高校は学問を身につけ、人間性を育てる所である。某予備校の先生は良い大学に行けない1つの理由



に、自治会活動をし、クラブ活動をすることをあげておられた。この先生がいわれようとしていることは、脇目をせず、1年からまっしぐらに受験勉強することであろう。その結果、大学に行き一流会社に就職できたとしても、そのような人間は、どんな疑問も持つことのできない人間である。また高校の先生が、高校は人間性を育てる場で予備校ではないと言ったことを真に受けて大学を落ちたという例をあげておられた。なんと馬鹿げた話ではないか。青春は感じ易く正義感に目覚めてこそ価値がある。私たちは叫ぶ。「高校は予備校ではない。高校は学問を学ぶところと同時に人間性を高める所でもある。私達こどもは大人の玩具ではない。」小学校から試験に追い回され、太陽をまともに見たことのない人間、それが現在の高校生の姿だ！」。自治会も全校アンケートをとり生徒総会を開いている。38年東京オリンピック前年のことで府議会は国旗掲揚を決議。39年「3・8制度」に反発してくすぶり続けていた一部生徒の不満が「能研テスト勧誘」「うどん値上げ」問題の形になって爆発する。

この年の能力別アンケートによれば、賛成36% 反対64%。生徒の要望の要点は「進学校と呼ばれる他校にもかかる例がない。進路に応じたコース別、選択科目別に授業を編成し、ホームルームは男女比率同じで均一設置」ということであった。この年能力別編成で初の卒業生となった17期生の感想は「実力伸長に役立つ9%、あまり役立たない13%、どちらとも言えない66%」であった。また、この年は老朽化の著しい平屋建木造校舎に変わって鉄筋3階建特別校舎1期工事（現在の中館）建築の過程にあり、ドリル、ブルドーザー、ダンプの工事騒音がひどく、教室不足で体育館がベニヤ板で仕切られ3クラスが詰め込まれるなど、授業環境は劣悪であった。（改築工事は3年間続く）そのためもあってか、進路状況には目立った変化は見られなかった。40年学校は「進学志向者が大半の本校では、入試に勝てる学力をつけるのが教員の大切な職務」だとの共通理解のもとに、「能力別は必要。但し従来のやりかたは疑問で変更する」と決定、41年度から1年のみ均一クラス編成となる。またその頃から登校拒否型の生徒がポツポツみられ、社会科教員平田の尽力で、この年から日本赤十字病院の医師川端利彦博士の手厚い支援を仰ぎ、心の健康相談が始まった。2人の問題意識は「学校という教育現場で何故このようなこ

とが起こるのか」にあり、病院を離れ学校と言う場で、生徒のなまの姿にぶつかりながら、この問題に考えていこうとする熱意によるものであったという。「生徒を全人格的存在として見る、人のつながりと出会いを大切にする」立場にたって、生徒の声に耳を傾け、医師と教師が連携して対処していく点で、当時全国的に見ても稀なカウンセリングのあり方であった。博士には以後30数年の長きにわたって尽力いただくことになる。41年には特別校舎2期（現音楽・被服・視聴覚棟）が完成、42年には本館建築のため、2度の火災（空襲・放火）にも不思議と難を免れ、先輩諸氏には思い出多き1号校舎（18年建築の木造2階建12教室）が撤去された。43年1月3年3学期の授業形態が大きく変わった。前年度の入試で現役がやや振るわなかったこと、特に理系の合格が低下したことから、私学受験直前で負担の多い1月末の定期考査を12月実施、1月の授業は午前中とし、午後は自習もしくは入試に必要な講座のみ選択受講とした。能力別編成4年目の20期は現役の国公立型が躍進し、他校の低落傾向に比してかなり効能を上げ始めた。にもかかわらず、この制度には生徒だけでなく教員の中にも異論が多かった。5年目に入っても、例えば某3年生は大要次のように述べている。

○「今日の学校教育は豊かな人間性を培う場になっていない。教育者はそれが非教育的だと知りながら、ただ目前の入試に合格させる現実の要請に負けて、人間の精神を破壊するか、退廃させる教育の方法を取っている。阪大合格全国9位、神大同8位、こんな数字に踊らさせるほど人間は貧しくない。能力別編成は他にかけがえのない友情など多くのものを奪っていく。そして不平等、抜き難い教師不信、そのように僕らが感じている以上、当然教育は成り立たない。それは教育を破壊する要素ばかりである。よって生徒の精神が破壊されるのは当然である。能力別は若い僕たちの心の底に深い傷跡を残し、かつ現在その傷跡は深まりつつある。若者はたるんでいる、根性がない、目的がない、夢が無い、とか批判を沢山浴びるが、それらは主として精神教育がなされていないからだと思う。精神教育は知識として教えられ、覚えるというような簡単なものではない。人間形成は教育のすべての中から、学校生活総ての中から培われて行くはずのものである。また教育の目的がそこにあるのも確かなことである。池高の諸君、先

生方、考えてみると変ではないか。同じ高校の中に上のクラスと下のクラスがあるということは、同じ料金の郵便を一方は字がうまいから速達扱いに、他方は下手だから普通便にするようなものである。学力の差もあり、能力の違いもある多様な生徒を抱えて苦闘するのが真の教育の姿であろう。池高の先生方、真の勇気をもって下さい。僕たちはそれを望んでやみません。」

43年日大の使途不明金に端を発した学園紛争はたちまち他の大学に飛び火して44年東大安田講堂封鎖、入試なしとなるなど大学混乱の渦が拡大し、やがて大学紛争は活動家の指導のもとに高校生の間にも波及し、高校紛争が府下でもあいついで起こってきた。

池高紛争は44年2月の21期卒業式に始まる。開式1時間まえから21期生の10人ばかりが運動場でピラをまいたり、マイクで呼びかけたりしはじめた。その内容は「自分たちは現在の教育体制に不満を感じている。したがってこの体制を打破するために教育委員会や学校側から押し付けられた卒業式は拒否し、他の会場で自主的な卒業式をやる」というものであった。式が始まり校歌斉唱のあと、1人の男性が立ち声明文をよみはじめ、これに呼応して数名が退場した。

4月8日午前中の始業式当日に私服警官2名が校内待機にあるのを知った池高反戦会議のメンバーが午後の入学式に向かう校長を廊下で阻止、詰問した。そのため時間がきているのに式が始められず、結局各ホームルーム教室での分散入学式となった。前代未聞の「入学式実施不能事件」である。4月9日「警官導入問題生徒総会」が開かれた。前執行委員長の伊庭は大要「卒業式、入学式に関する事件はつきつめて考えてみれば、現在の社会体制の歪み、現在の高校教育の歪みによるものと思える。池高のA、B類型や3・8組制度が、本当に各生徒の能力をうまく発展させていけるかという、大きな疑問を感じます。高校生活に張り合いをもつ人間としての生徒よりも、テストの点を気にし、点を上げるために、自己を犠牲にして、努力するような人間としての生徒をつくりあげているように思える。現在の機構に慣れてしまっている人間（僕自身も含めて）は、疑問が生じたとしても、それを深く突き詰めるまでには至っていない。反戦会議の人々が起こした事件はその問題を池高全体に深く考えさせる起爆剤になった」と語っている。5月全学闘争委員会なる組織

がつくられ、『池高差別教育（能力別編成、A・B類型コース、文理系コース）粉砕』を打ち出した。学園紛争のなかで、生徒達の意識は「能力別学級編制」に集中しつつあった。9月文化・体育両祭と平行して「3・8制即時撤廃運動」が広がり、授業ボイコットや3年8組の廃止決議、3年3組の有志の能力別授業反対決議がでるに及んで、学校側は連日遅くまで会議を続け「教育調査」と題するアンケートをも実施し、ついに10月上旬「次年度からは全学年を通じ3・8制は実施しない」と決定した。この年の卒業式から「厳粛・簡素」となり、各方面からの祝辞辞退、卒業生表彰の廃止が決まった。

受験体制廃止の第1目標は能力別クラス編成であった。



池高紛争が最高潮に達したのは12月1日3年生2人が授業をボイコットして教務室前に座り込み「本校はあらゆる差別教育をやめて教育の原点に戻り、全員で真の高校教育を考えよう」と訴える。引き金は学校が実施した3年3学期授業形態アンケートである。A案：3学期は午前中授業、午後は受験科目の講座。B案：2月上旬まで従来どおりの授業、最後に定期考査。結果は圧倒的多数でA案を選んだが、一部生徒は不満をもち、本校の予備校化に拍車をかけるものと把握した。受験本位に、学校の授業形態を変えられることに抗議しなかったのであろう。それから数日はクラス討論、全校集会、学年集会と授業どころではなくなった。受験体制を巡って職員の見解も割れた。最後は平石校長の判断で「受験体制を改めるべく自分は反省した。生徒達が云うように教育の原点に戻ろう」となった。45年に入って、「真の教育」の具体化

に、教員も生徒も戸惑っていた。3学期の授業は一方的に教えるのは悪いとあって、生徒発表、グループ別学習、自主教材、討論形式などの授業が模索されたが、教育が成立する土台である教師・生徒間の信頼関係をなくしていた3年の各教室はすぐにいき詰まり、やがて厭世観が漂い、欠席やサボりが目立った。これだけの紛争があったにもかかわらず、この年の卒業生の進路は不思議なことにトータルではあまり変わらなかった。また1、2年の定期考査の平均点がわずか3ヵ月で驚異的にアップした。真の教育の効果か、澁刺さをとりのどした生徒自身のエネルギーの発露の結果なのだろうか。45年4月真の教育にもとづき基本方針を発表：①能力、類型別を総て廃止②HRの男女均等③2年に2時間選択（家庭との兼ね合い）④3年に6時間の自由選択⑤考査よりもレポート、実験、討議を重んじて成績評価をだす⑥講座数は原則として調節しないなどである。かくしてキャンパスは次第に落ち着きを取り戻していった。

47年には標準服制度が実施されている。実施に至るまでの経過をたどると、3・8制撤廃運動の陰で目立たなかった制服自由化の運動はその後も一部生徒、クラスなどで、ピラ・アンケート・署名などの活動や議論が続いていたが、46年3学期、学校全体の問題として採り上げられた。自治会執行部は全校アンケートの結果をふまえ「標準服制度」原案を議会に提出、議会では自由化そのものについて鋭く意見が対立したが、現実的な解決案として「テスト期間を設けて検討する」ことを付帯条件に、執行部原案が採択された。学校側もこの生徒試案を評価、PTA総会、職員会議議決を経て47年5月より12月までの「テスト期間」に入った。期間終了後、学校及び生徒で構成する服装検討委員会は保護者・生徒の意向をアンケート及び全員投票を実施、集約し、以下のⅠ、Ⅱの検討資料を職員会議に提出した。

#### Ⅰ（アンケートの表）

	1学期末	2学期末	生徒アンケート (3学期末)
制服制度がよい	47.7%	20.9%	15.9%
標準服制度がよい	46.0	74.6	65.2
自由服制度がよい	6.3	4.5	17.4

Ⅱ 服装が自由に選択できたテスト期間を通じて、自由服の生徒は、ほぼ全体の10～30%であった。この事情からは、少なくとも、標準服の廃止は、実情にあったものではない。一方多数とは言えぬものの、自由服に対する志向も、上衣28%、ド衣21%とある以上、これを強制的に制服制度の枠に押し込めることは、すでに教育的に最善ではないと、判断された。

以上の点からすると、「池高生の服装基準となる通学服を定める」を基本としながら、「校則上の拘束とはしない」旨を補則とする「標準服制度」の線は、概ね妥当と見られる。

これをうけて、学校は標準服制度が適当と決定した。決定にあたって、次の見解を発表している。①標準服制度は学校における集団生活を正しく認識し、自律的な精神を重んじて、生徒自らが厳しく自己を律していくことを本旨とする制度である。②標準服制度は生徒の自律性に信頼することを指導の原理とするが、教育上必要と判断する限りの指導、助言、示唆はむしろ積極的に行われる性格のものである。

池高紛争の直接の出来事であり、教育は生徒と教師の信頼の上に成り立つものであって、強制は教育の破綻につながるものであるとの認識からか、時間はかかっても共通の理解と自覚を求めて、手順を踏んで決定された。池高標準服制度は今に至るまで定着しており、本校校訓の「自主・自律」の1つの柱であり、生徒の「誇り」となっている。

#### 7. ゆらぐ伝統

53年夏休み前に発行された「池高新聞」では3年生の意識の変化をあげている。[Q.池高は進学校だと思うか はい60 いいえ40、Q.学校側にもっと受験体制をとって欲しいか はい54 いいえ27 その他19、Q.現在のカリキュラムに満足か はい29 いいえ57 その他14 Q.学校がもっと進学に力をいれたら、生徒の学力は向上するか はい38 いいえ38 その他24] この年は国公立大学の入試形態がそれまでの1期・2期の2回受験チャンスから1回きりのマークシート方式による共通1次試験の導入が発表された年で、受験生やその家庭にとってはかなりの衝撃と動揺を与えていた。そのための受験対策を望む声が父母だけでなく、生徒のなかにも広がっていた。かくて「真の教育」を言い出した生徒たちもマンネリ化

した状態に変化を求め再び改定の要求がでるようになった。この間の事情を池高新聞は次のように解説している。「池高紛争後、学校は一切の受験対策はとらなくなり、生徒は自由に自分で問題集を買って自主的に勉強してきた。その後受験は一層苛酷となり、受験対策を望む声が生徒の中にも広まり、学校も対応に迫られている。しかし、「学校は本来勉強の場であり、予備校ではない。」ということは紛争時に互いに確認しあっており、以後の本校の自由な校風の柱となってきた。現在「授業がつまらない→生徒のやる気もない→生徒が怠ける→教師のやる気が減退する→授業がつまらない。」と悪循環に陥っている。教師と生徒はともにこの現状を認識し努力し合うことが必要であろう。生徒をひきつける中味の濃い授業が大学受験に自ずと役立つのである。」まさに正鶴を得た模範的教育論である。生徒に未知への探求の扉を如何にして開かせるかが教師の腕の見せ所であり、それができる教師がプロであり、「真の教育」の中味であろうということは多くの教師が自認しているのだが…。60年6月、自治会運営部はマンネリ化した文化祭をとらえ、テーマを「『ザ・ルネッサンス』・池高文化祭を見直し、いにしえのような活気を取り戻そう！」と定め、全員参加を呼びかけ、演劇上映に力を入れるなど、ザ・ルネッサンスに賭ける運営部の意気込みが窺われた。この呼びかけが契機となってか、翌年の校務協議委員会では「ここ数年本校の活動が学習、クラブ、生活面など全ての面でマンネリ化した。また教職員の激しい移動で、本校の伝統が不安定な状況になった」との認識に立ち、次の3点に関し教職員の討議を呼びかけている。①停滞気味の日常に活力を②自主、自律、信頼の校風を③学力の向上、進路保障の推進を。カリキュラムの変更を含め、創立50周年を控えて多少の機運は盛り上がった。54年西田校長進路発言―国公立の大学めぐりから池高ビジョン論議が起こるが、広がりがなくいつしか雲散霧消した。

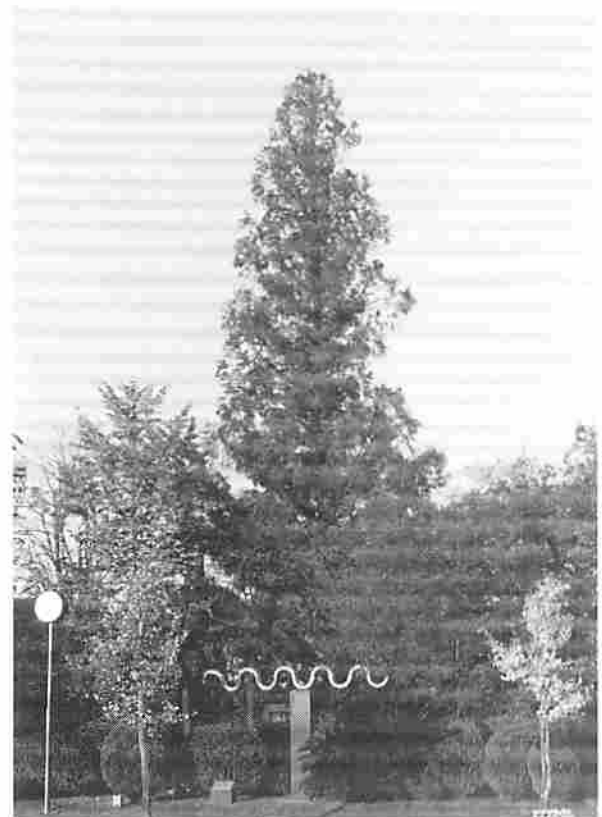
54年紛争いらい廃止されていた3年学力テスト(4、8、11月の3回全員受験)が復活。このころより、運動部の弱さ以上に文化部の不振が目立ってくる。まともに活動しているのは地歴部と美術部、書道部ぐらいであとは文化祭に一夜づけの展示を出すのが精一杯であった。56年から府教育委員会が進める強制促進人事異動が始まった。生徒増で新設校の設立が多く、若い年齢層の職場に

ベテランを配するのが狙いであったが、永年教員の希望を尊重する校長間人事が定着していた現場では、この促進人事の強行には驚きと反対の声が強かった。この年以降、長年本校に勤務した教員の転出が続き、よかれあしかれ池高の特色が薄れ、「池高精神」「承風魂」を知る人も急速に減少していった。57年入学生(37期生徒)に対して、1年担任団は例年に比べてダレ気味だとして、「1年生に訴える」というピラを出し、「静かに白習を、となりの教室に迷惑をかけない、チャイムがなったら遊びをやめる、ガラスを割れば届ける、帰りには換気扇を必ず閉めよ、爆竹を鳴らして遊ぶ者がいる、幼児性から脱却せよ」などと書かれてあり、その後もくりかえし「自覚せよ、誇りある池高を作ろう」と呼びかけている。まことに異例で、荒れる中学校の風潮のなかで生じた池高生幼児化現象の一例である。

そのような中で承風魂の1つの表れと受け取れる出来事が60年に起きている。1年女子生徒の投書を某新聞が「池高の服装問題」として大きく取り上げたため、話題となった。投書の大意は「大阪市内在住の私が遠い池田を選んだのは、学校の自由さが気に入ったからです。具体的に言うと制服が無い、3年は半分ぐらいが私服です。靴、靴下、髪も自由、パーマもかけたければかけてもいいという感じ。私は自由だから別に甘えようとは思いません。自分のことは自分でという自主性が出てきたし、いかに高校生らしく過ごすかと考えることにもなりました。学校によって様々ですが、和歌山の高校3年の方の手紙(その学校では下着の色も決められ、男女が話していたら反省文提出)に驚きました。規則でぐるぐる巻にするより、手足の自由の利くゆるい方がずっといい。きまりをきつくすればするほど守りたくなるんじゃないでしょうか。」というものであった。学校では全体の主旨はともかく、前半部に事実誤認があると問題になり、学年担任団では1年全体を集めて、標準服制度に至る過程を詳しく説明した。投書女生徒はこれ聞いて「標準服制度は学校と生徒の信頼関係による自己規制、パーマは自己規制、学校へ来る服装はどれが良いかは自分自身で考えるとの伝統によるもの」が本校の方針であることを認識し、事実誤認の部分を訂正するよう再び投書して求めた。もちろん本校では投書の主が誰なのかとの詮索は全くしなかったが、新聞社は投書本人に学校が圧力をかけたのではないかと考え、記

者が来校様々に取材した。その結果本校の服装制度に理解を示し、「制服はないが自律厳しく、生徒の選択まず見守る」との見出しで、大きく事実をありのまま報道した。また19歳の本校卒業生の投書「池高はとても素晴らしい学校です。出身高校を聞かれたら、胸を張って池高ですと答えます。」も同時に掲載、「規則ゆるやかでも羽目はずさない。それは信頼関係が生徒と先生との間に成り立っているからだ」と報じた。生徒・教師・保護者の信頼のうえに互いに厳しく切磋琢磨するところに池高精神、承風魂の真髄がある。生徒が発案し、教師が評価し、保護者が支持する三身一体となった取り組み—校舎再建運動や標準服制度—などは池高精神・承風魂の典型的な発露であり、その取り組みの過程で生徒の主体的・自律的な行動が彼ら自身の人格の飛躍的な成長をもたらすという優れて教育的なものであった。そうした実践努力の重りが池高の校風を醸成していくのである。

ところで本校には校訓の定めが今だにない。新制高校になった頃、何度か校訓の機運が盛り上がったが、旧制中学時代の『五誓』の校訓が時勢に流され、極めて戦時色の濃い内容で軍国主義教育のお先棒を担いだことの反省と痛みが重く、容易に煮詰めるに至らなかったという経過がある。否、定められないところに本校の素晴らしさがあるといえよう。強制されなくとも、この承風台上で学び続ける者には、自主性を重んじながらも互いにブレーキをかけあい、恣意性を抑制することを心掛けてきた。それは勉強にもクラブ活動にも学校行事にも自治会活動にも行き渡っている。それゆえ他校に比して格段に少ない校則や服装等の規制となっている。この伝統的に受け継がれてきた「自主・自律」の精神が本校の校訓なのである。自律を尚べばこそ、「校訓」といった堅苦しいものは無用の長物なのである。しかし、残念なことに、「自主・自律」は時として「自由・自立」の言葉に置き換えられ、かつ「自由」が放任、恣意と取り違えられることがしばしばある。「池高は自由」だとか、逆に「池高ほど自由を束縛する学校はない」とか聞かれるが、この機会に「自主・自律」の真の意味を今一度味わっておきたい。



昭和28年三木博士の息子 隆氏(高5期)が卒業記念に苗木の1本を寄贈し、当時の大川教頭が自らシャベルで穴を掘り無造作に植えたメタセコイア—今や18mの高さとなった。

## 『池田五十年史』の頃

三善 貞司

五十年史をひもとけば  
すっかりセピアにかすんだが  
汗の香りが残ってる  
文字もやっぱり涙色

あれから10年……大好きな池田高校が還暦を迎えた。しかも「60周年記念誌」まで刊行される。こんな嬉しいことはない。

私は昭和19年4月、旧制池田中学校5期生として入学し、平成4年3月池田高校国語科教諭の職を定年のため退いた。途中空白の年月もあるが、人生の大半を承風台で過ごしたことになる。その愛着と恩恵は、計り知れないものがある。「30周年記念誌」「40周年記念誌」、そして『池田五十年史』の企画・執筆・編集・刊行を総て主担したのは、無論これらの思いからであった。

五十年史は昭和60年7月、50周年記念事業実行委員会委員長岡本直文、承風会会長有田稔、後援会会長柴田匡、PTA会長西岡義晃、同前会長深井八郎各氏と、小野昌和、井村和夫、鶴飼壮一郎各教諭に私、塚本盛治学校長、平野勉教頭、西田安男事務長らが集まった会合で、刊行が決定された。管理職を除いていずれも池田中・高校の卒業生で、ひとしお母校愛に燃えた人たちばかりだ。また管理職も池高大好きを自認する方たちであった。当時私は主要な校務を担い、国文学の勉強や連載原稿を抱え多忙をきわめていたから逃げ腰気味であった。しかし母校半世紀の誕生日を祝おうとする皆さんの情熱に押し切られ、企画から刊行までの全責任を背負うことになる。

池高は戦争が苛烈になる昭和15年の創立のせい、古い資料・文書の類が全く保存されていなかった。極端な物資不足、2度も校舎炎上の災害を受けたこと、さらに何度も新築・改築を繰り返したせいもあって、その後の保管ぶりも不十分だ。創立10数年頃上田衛教諭は、「今、史料を整理しておかなければ大変なことになる」と警告しておられるが、その大変な時代はとっくに過ぎていた。校史を孜孜として編む日が来るなどと悠長なこと

を考える人は、誰もいなかったのであろう。いな、終戦後の大混乱期を生きぬくためには、今日と明日を考えるだけでせいっぱいであった。

それでも創立20周年記念誌「承風」と、クラブ史「われらのあゆみ」、それから写真好きだった大川三郎教頭が寄贈してくれた旧制池中時代の僅かな校内スナップが残っている。また30周年記念事業のひとつとして、篠田恭一教諭が精魂傾けて編まれた「池高新聞（縮刷版）」も手許にある。これらが唯一の宝物なのだが、私はそのほとんどを30周年・40周年の記念誌に使い果たしており、永遠に池中・池高の歴史を残すためには根本的に発想を改めねばならないと、無い知恵をしぼった。

私は若い頃、中国の史家司馬遷が好きだった。友人を庇って皇帝武帝の逆鱗に触れ、むごたらしい腐刑を受けて獄につながれ、生きた屍になりながら典雅な文体を駆使して、52万6千5百字の『太史公書』（後称・史記）を書きあげたあの気迫に、脱帽せぬ者はあるまい。中国の古代国家の栄光を今に伝えるのは、幽鬼の如きひとりの男の筆の力である。

「よし！ 司馬遷でいこう。本紀と列伝だ」

雲泥の差のある私だが、司馬遷を真似ることに決め、五十年史に2本の柱を立てることにした。それが「正史」と「人物誌」である。もちろん人物誌が物議をかもしうことは、百も承知だ。しかし極端な資料不足からこうするより他に方法はなかった。承風台で暮らした教員や卒業生の動向を残しておきたかった。

夏休みに入って私は多くの他校記念誌を参照し、校史を編んだ他校の教員も訪問して要点を聞いて回った。北野高校では資料が内蔵された収納庫を見せてもらい、仰天した。あの学術書に近い「北野百年史」が出版されるのは当然だ。歴史を大事にする学校は、母校に人一倍強い誇りと愛着を抱く人たちのふるさとだ。圧倒されて瘦腕に赤面したくせに、私は翌日にはもう奮起していた。池高だって五十年史だ、府立高校50年の中でどこも出したことのない校史を刊行してみせよう、まるでドン・キホーテのように意気込んだ。

「写真・イラストの多い当世に媚びたような記念誌に背を向け、後世に伝え得る池田中・高校の正史を編纂する。」

私は墨で大きくこう書いて原稿箱に放り込んだ。原稿1枚目である。

あの頃の池田中学は、旧制中学の大半がそうだったように少年兵士の育成機関に似ていた。しかし四季こもごもの彩りを見せる恵まれた自然環境のせいもあって、牧歌的情緒の漂う思春期の生徒にふさわしい雰囲気もあった。知的教養の高いリベラル派の若い教員も多かった。それが配属将校の着任以来一変し、苛酷な軍事教練、勤労働員、軍需工場の教室接収と続き、昭和20年6月空襲のため校舎の大半が焼失する。敗戦後青空教室で授業に戻り、粗末な木造ながらようやく教室が揃って間もなく、同24年2月何者かの放火によりまたも復旧校舎が炎上した。男女共学になった直後で、池高は廃校になるとの噂が流れた。

だが50周年記念事業の役員たちは、総てこの苦難に満ちた時代の卒業生である。いや、池高を最も愛した生徒たちは、当時の在校生ではなかろうか。彼らは生徒大会を開き、アルバイトで復旧資金を集め府教委に再建を懇願しようと決議し、いっせいに町へ出た。彼らの得た金額は知れたものだが、銅貨の1枚にまで汗がにじんでいる。これがPTAはもとより池田市や箕面・豊中など生徒通学区域の人たちに感銘を与え、再三陳情が繰り返され、府知事は再建予算を組むことになる。現在校庭に建つ「承風」碑は8代半石鑛吉校長が、この経緯を残そうと私費で建立されたものである。

草創期の生徒たちは、新設学校池田の名を挙げようと懸命に努力した。勉強もやったがクラブ活動に熱中したのは、池田の名前を少しでも世に広めたいとの思いからである。昭和25年1月（放火炎上の1年後）サッカー部は全国大会で優勝し、世間を驚嘆させた。タッチフットボール（現・アメリカンフットボール）は、規模が小さかったとはいえ、全国大会を2度制覇している。高校アメフットの発祥の地は池高であり、OBたちの手で「発祥の地」碑が建立される。年月は下るが同28年には女子硬庭部員村山誠子（高8期）が全国大会で優勝、同51年陸上競技部員国方卓（高29期）が全国大会110mハードルで優勝する。他の運動部も大阪府大会優勝や国体出場などは数多く、しかも設備の全く整わない腹ペコの時代になし遂げている。文化部も地歴部やユネスコ部、放送部など全国レベルの優秀な業績を挙げる。教員も負けてはいない。積極的に教員のスポーツ大会に出場しては池田の名を高めた。古い伝統校に劣るものか、歴史は自分たちが作っていくぞとの空気が校内に充満していた。

30年の歳月が流れた頃、全国的に流行した学園紛争が池高にも襲いかかってくる。ひきがねになったのは俗に3・8組と呼ばれた「学級能力別編成」である。この年代の受験年令層は爆発的に増加し、大学入試は熾烈を極めた。教員たちは何度も協議して進路・適性に応じたコース別編成をとったのだが、これが中国の文化大革命と日本の大学紛争に影響された一部の生徒たちを刺激し、「池田反戦会議」「全学闘争委員会」「有志連絡協議会」など不特定グループが生まれ、同調する一般生徒たちも増え、卒業式ボイコット闘争、職員室前坐り込み、学校バリエード封鎖などが次々に起こった。結局同44年11月、学校長は「本校の過熱した受験教育体制を改め、真の理念に基づく教育を実施する」と表明し、生徒たちの要求の大半は受け入れられる。卒業式次第の変更、生徒手帖廃止、模擬考査廃止、選択授業の設置、標準服制度などはこれに始まる。

私は以上の2点を質は異なるが、いずれもよりよき学校生活を営むための母校愛だと把握する観点で、正史を編もうと考えた。早速資料収集にかけ、「承風だより」や幹事会で協力を依頼し、昔の卒業生や教員たちに電話・手紙等で問合わせうちに、あっという間に半年が過ぎた。出版社に相談すると私の編集に2度の校正を入れ、印刷・製本の段階を重ねると最低1年は必要とのことだ。つまり1万枚前後の原稿と、写真・図版等を僅か3年足らずで完成せねばならぬ。50周年記念式典は平成2年4月だから、同年3月までには刊行する、これが至上命令であった。

同窓会は無論・現旧教職員、PTAなど池高関係者は全面的に応援してくれた。しかし予想どおり依頼した原稿は、予定した締切日に間に合わない。人間、誰でも時間割どおりにはいかないのだが、絶対的な時間的制約があるからこれは辛かった。次に人の記憶、印象など全くあてにならないことを、痛感させられた。電話やアンケートで問合せると、同一事件なのに全く返答が異なるのだ。おまけに昔のことになればなるほど、感傷的に美化され誇張され、いつの間にか作為が事実として定着してしまう。遅々として企画ははかどらず、しかも不運なことに選ばれた6人の編集委員のうち3名が、すぐに転退職された。私は猛然と独走せねばならなかった。だが小説なら机上で削られるが、史書はそうはいかぬ。作業は蟻の歩みに似てプランは次々に画餅となり、深夜突然眼がさめて

煩悶呻吟し、そのまま朝を迎える日が続いた。もちろん授業や校務は本務だから大事に優先せねばならぬ。

そのうちに右手首に疼痛を覚え、次いで感覚が麻痺してきた。握っている鉛筆が落ちるのだ。整形外科に通い治療したが、きつい書櫃なので字を書くのを止めなさいといわれる始末、懸命に氷で冷やしながらこれはもう駄目だと頭を抱えたこともある。それでも私は書かねばならなかった。夏休みも冬休みも無かった。日曜も祝日も書いた。睡眠時間も平均3～4時間であった。

「心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ」。

これは人口に膾炙した『徒然草』の名台詞である。無論『枕草子』末尾の「あやしきことをこよや何やと書き尽くさむとせしに、いとものおぼえぬことぞ多かるや」をもじって吉田兼好がイキがった文句だが、この気持ちは永年ものを書き続けた者以外にはとても理解できまいと思っている。では五十年史で私は何を「ものぐるほしく」追い求めていたのか。一言でいえば「承風魂」である。池高を愛する多くの人たちの胸に燃えたぎる「承風魂」を後世に伝えたい一心で、ひたすら書き続けた。私の独走を誹謗・中傷する声も時には耳に達したが、外野席の野次だと聞き流した。もし五十年史が高校の記念誌の中で異色の体裁をなしていると評価されることがあれば、それは「承風魂」のせいである。「承風魂」とは何か。そんなことは知らぬ。語りたくもない。

平成1年6月、半年遅れで1万枚の原稿は完成した。工程日数はあと8ヵ月しかない。この無理な願いに清文堂出版社の前田成雄社長は、献身的に尽くしてくれた。互いの勤務の都合で打合せは日曜のみ、社員を使えば休日出勤の手当てが要り予算を超えますからと社長も日曜出勤され、私の注文を聞き適切にアドバイスされ、印刷会社に来てくれた。珍しい義侠心に富む方であった。工程日数8ヵ月のうち6ヵ月は、私が2度の校正に費やした。6ヵ月で合計2万枚の原稿を校正したことになる。この年12月視力障害を起し転倒して左足を骨折した。それでも私は松葉杖をついて登校した。定年間近の老教師にはきつかったが、休むわけにはいかなかった。

平成2年3月、『池田五十年史』は刊行される。私は直ちに各方面に発送する業務に入った。その

最中、私が生徒だった頃漢文を習った旧師から電話がかかってきた。

「できばえはまあまあやが、あんだ、幾つか誤字があるで……」

私の仕事はこの程度であった。もうひとつつけ加えたいことがある。それは井村英夫教諭の援護だ。彼とは旧制池中時代の同級生で、池高に実に39年間も物理を担当して在職された。同窓会活動にも尽力され、承風会の恩人といってよい。50年事業でも対外的な諸交渉を推進した功労者であるが、私の愚痴のよき聞き役だった。彼の笑顔がどれほど焦燥と疲労ですさんでいく私の神経を和らげてくれたことか、今だに感謝の念でいっぱいだ。また本史刊行には莫大な費用が要った。全額卒業生を中心にした寄付金で賄っている。愛校心に改めて頭を下げたい。

退職後私は女子短大で古典の講座を担当している。お茶目で陽気な茶髪女学生たちが、面白くもない老人の講義に耳を傾けてくれるのは嬉しいが、つくづく池高生は素晴らしかったなあと思わずにはいられない。時代の流れて池高生も変わったといわれるが、そうは思わない。私は教師の一番大事な仕事は、生徒に勉強させることだと思っている。そのためにはまず教師自身が勉強してみせなければなるまい。こちらが勉強すればするほど、池高生は名鐘の如くいい余韻を響かせてくれる。『池田五十年史』を刊行できた最大のエネルギーは、永年の在職期間に接した池高生たちの眼差しであったと断言できる。

ちぎれ雲うしろ姿のゆめを追う 貞



写真は池田五十年史



## 資料・統計編

- (1) 校舎図
- (2) 教育課程（平成元年度～平成11年度）
- (3) 本校合格者・卒業者数  
（イ）累年合格者数と合格率 （ロ）卒業者数
- (4) 高校各期卒業時決定進路一覧
- (5) 主要大学合格数
- (6) 修学旅行一覧
- (7) 歴代学校長名
- (8) 現教職員名簿
- (9) 旧職員名簿
- (10) 20年以上勤続教職員名簿
- (11) 各期担任一覧
- (12) 校務分掌主担者一覧
- (13) クラブ顧問主担者一覧
- (14) 生徒自治会役員一覧
- (15) PTA役員一覧
- (16) 体育祭・文化祭



## (2) 教育課程

教科	入学年度		平成元									
	類型											
	学	年	①	②	Ⅲ	計						
科目		学級数	12 (共通)(選択)									
国語	国語 I	5				15						
	国語 II		5			17						
	国語表					18						
	現代文				2 2	19						
社会	古典				3 2,3	20						
	現代社会	4				11	注1) ●▲から、異なる科目をそれぞれ1科目選択する。 注2) 3年(選択)の「日本史」「世界史」「地理」は●または▲でその科目を選択した場合のみ選択することができる。					
	日本史			4▲	2	13						
	世界史			3●	2	15						
	地理			3● 4▲	2	17						
倫理					2							
数学	政治・経済				2	2						
	数学 I	5				11						
	数学 II					13						
	代数・幾何			3	2	14						
	基礎解			3		15	注3) 3年(選択)で「微・積」を選択する場合は、「代・幾」「確・統」計4単位も併せて選択する。					
微分・積分				4	16							
確率・統計				2,3	19							
理科	理科 I	4				10						
	理科 II					12						
	物理			3	2,3	13						
	化学			3	2,4	14						
	生物				4	17						
保健	地学				4	18						
	体育	男4 女2	男4 女2	3	2	男女 13 9						
芸術	保健	1	1			15 11						
	音I・美I・工I・書I	2			2	4 8	注4) 3年(選択)の「音I」「美I」「工I」「書I」は1年で履修していない科目の中から2科目まで選択することができる。					
	音II・美II・工II・書II		2			6 9						
音III・美III・工III・書III				3	7 11							
外国語	英語 I	5				15						
	英語 II		3	3		17						
	英語 II A				2	18						
	英語 II B			2		19						
	英語 II C		2		2,3	20						
家庭	家庭一般	女2	女2			女 4						
	食				女2	6						
							注5) 3年(選択)の15単位は(選択)の欄に示された科目から13科目を限度として組み合わせ、各群に置かれた科目より1科目ずつ計15単位を選択する。同一の科目は重複して選ぶことはできない。					
教科・科目の計			30	32	32	94						
ホームルーム活動・クラブ活動			2	2	2	6						
教育課程を補完充実するための教育活動			2	0	0	2						
総計			34	34	34	102						

教科	入学年度		平成 2・3								
	類型										
	学年		①	②	Ⅲ	計					
	科目	学級数	12 (共通)(選択)								
国語	国語Ⅰ	5				15					
	国語Ⅱ		5			17					
	国語表現					18					
	現代文				2 2	19					
社会	古代史			3	2,3	20					
	現代社会	4				11					注1) ●▲から、異なる科目をそれぞれ1科目選択する。 注2) 3年(選択)の「日本史」「世界史」「地理」は●または▲でその科目を選択した場合のみ選択することができる。
	日本史			4▲	2	13					
	世界史			3●	2	15					
地理			3● 4▲	2	17						
数学	政治・経済				2	2					
	数学Ⅰ	6				12					
	数学Ⅱ					14					
	代数・幾何			3	2	15					
理科	基礎解析			3		16					注3) 3年(選択)で「微・積」を選択する場合は、「代・幾」「確・統」計4単位も併せて選択する。
	微分・積分				4	17					
	確率・統計				2,3	20					
	理科Ⅰ	5				11					
保健体育	理科Ⅱ					13					
	物理学			3	2,3	14					
	化学			3	2,4	15					
	生物				4	18					
芸術	地学				4	19					
	体育	男4 女2	男4 女2	3	2	男女 13 9					
	保健	1	1			15 11					
外国語	音Ⅰ・美Ⅰ・工Ⅰ・書Ⅰ	2			2	4 8					注4) 3年(選択)の「音Ⅰ」「美Ⅰ」「工Ⅰ」「書Ⅰ」は1年で履修していない科目の中から2科目まで選択することができる。
	音Ⅱ・美Ⅱ・工Ⅱ・書Ⅱ			2		6 9					
	音Ⅲ・美Ⅲ・工Ⅲ・書Ⅲ				3	7 11					
家庭	英語Ⅰ	5				15					
	英語Ⅱ			3	3	17					
	英語ⅡA				2	18					
	英語ⅡB				2	19					
家庭	英語ⅡC			2	2,3	20					
	家庭一般	女2	女2			女 4					
家庭	家庭食物				女2	6					
教科・科目の計		32	32	32		96					
ホームルーム活動・クラブ活動		2	2	2		6					
教育課程を補完充実するための教育活動		0	0	0		0					
総計		34	34	34		102					

教科	入学年度		平成 3									
	類型											
	学年		①	②	Ⅲ	計						
	科目	学級数	12 (共通)(選択)									
国語	国語Ⅰ	5				15						
	国語Ⅱ		5			17						
	国語表現					18						
	現代文				2	2	19					
社会	古典				3	2,3	20					
	現代社会	4					12				注1) ●▲から、異なる科目をそれぞれ1科目選択する。 注2) 3年(選択)の「日本史」「世界史」「地理」は●または▲でその科目を選択した場合のみ選択することができる。	
	日本史			4▲	2		14					
	世界史			4●	2		16					
	地理			4●	4▲	2		18				
	倫理					2		20				
政治・経済					2							
数学	数学Ⅰ	5					10					
	数学Ⅱ						12					
	代数・幾何			2	2		13					
	基礎解析			3			14				注3) 3年(選択)で「微・積」を選択する場合は、「代・幾」「確・統」計4単位も併せて選択する。	
	微分・積分					4	15					
確率・統計					2,3	18						
理科	理科Ⅰ	4					10					
	理科Ⅱ						12					
	物理			3	2,3		13					
	化学			3	2,3,4		14				注4) 3年(選択)の「物理」「化学」の2単位は、他の理科を選択しない場合のみ選択することができる。	
	生地					4	16					
生物学					4	17						
保健体育	体育	男4 女2	男4 女2	3	2	男13 女9	13-15					
	保健	1	1				9-11					
	芸術	音Ⅰ・美Ⅰ・工Ⅰ・書Ⅰ	2			2	4	8				注5) 3年(選択)の「音Ⅰ」「美Ⅰ」「工Ⅰ」「書Ⅰ」は1年で履修していない科目の中から2科目まで選択することができる。
音Ⅱ・美Ⅱ・工Ⅱ・書Ⅱ				2		6	9					
音Ⅲ・美Ⅲ・工Ⅲ・書Ⅲ					3	7	11					
外国語	英語Ⅰ	5					15					
	英語Ⅱ			3	3		16					
	英語ⅡA					2	17				注6) 3年(選択)の「英ⅡB」は2単位または3単位のいずれかを必ず選択しなければならない。	
	英語ⅡB					2,3	18					
英語ⅡC					2,3	19						
英語ⅡC			2	2,3		20						
家庭	家庭一般	女2	女2			女4	4					
	食生活					女2	6					
								注7) 3年(選択)の17単位は(選択)の欄に示された科目から13科目を限度として組み合わせ、各群に置かれた科目より1科目ずつ計17単位を選択する。同一の科目は重複して選ぶことはできない。				
教科・科目の計		30	32	32		94						
ホームルーム活動・クラブ活動		2	2	2		6						
教育課程を補完充実するための教育活動		2	0	0		2						
総計		34	34	34		102						

教科	入学年度		平成 4・5								
	類型										
	学年		①	②	Ⅲ	計					
	科目	学級数	12 (共通)(選択)								
国語	国語 I	5				15					
	国語 II		5			17					
	国語表現					18					
	現代文			2	2	19					
社会	古典			3	2,3	20					
	現代社会	4				12					注1) ●▲から、異なる科目をそれぞれ1科目選択する。 注2) 3年(選択)の「日本史」「世界史」「地理」は●または▲でその科目を選択した場合のみ選択することができる。
	日本史			4▲	2	14					
	世界史		4●			2	16				
	地理		4●	4▲		2	18				
政治・経済					2	20					
数学	数学 I	6				11					
	数学 II					13					
	代数・幾何			2	2	14					
	基礎解析			3		15					注3) 3年(選択)で「微・積」を選択する場合は、「代・幾」「確・統」計4単位も併せて選択する。
	微分・積分					16					
確率・統計					2,3	19					
理科	理科 I	5				11					
	理科 II					13					
	物理			3	2,3	14					
	化学			3	2,3,4	15					注4) 3年(選択)の「物理」「化学」の2単位は、他の理科を選択しない場合のみ選択することができる。
	生物					17					
地学					4	18					
体育	体育	男4 女2	男4 女2	3	2	男13 女9	15				
	保健	1	1			9	11				
芸術	音I・美I・工I・書I	2			2	4	8				注5) 3年(選択)の「音I」「美I」「工I」「書I」は1年で履修していない科目の中から2科目まで選択することができる。
	音II・美II・工II・書II			2		6	9				
	音III・美III・工III・書III					3	7	11			
外国語	英語 I	5				15					
	英語 II			3	3	16					
	英語 II A				2	17					注6) 3年(選択)の「英II B」は2単位または3単位のいずれかを必ず選択しなければならない。
	英語 II B				2,3	18					
英語 II C			2	2,3	19						
家庭	家庭一般	女2	女2			女4	4				
	食物				女2	6					
										注7) 3年(選択)の17単位は(選択)の欄に示された科目から13科目を限度として組み合わせ、各群に置かれた科目より1科目ずつ計17単位を選択する。同一の科目は重複して選ぶことはできない。	
教科・科目の計		32	32	32		96					
ホームルーム活動・クラブ活動		2	2	2		6					
教育課程を補完充実するための教育活動		0	0	0		0					
総計		34	34	34		102					

教科 科目	学級数	平成7・6年度				平成7・6年度				平成7・6年度				備考	
		文 I				文 II				理					
		I	II	III	選計	I	II	III	選計	I	II	III	選計		
		4(5)				2				4				学級数は平成7年度(平成6年度)	
国語	国語 I	5				5				5				<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各記号から1科目選択する。ただし、3年文I・文II及び理系の共通4単位の日本史、地理は2年次に履修した科目に限る。</li> <li>○ 文I及び文II 3年選択2単位は3年次の4単位選択科目に限る。</li> <li>○ 公民(2/2)は計4単位選択する。</li> <li>○ アジア研究、郷土研究、異文化理解はいずれか1つしか取れない。</li> <li>○ 2□、2▼はいずれか1つ選択する。</li> </ul>	
	国語 II		4				4				4				
	国語表現				2				2				2		
	現代文			2				2				2			
	古典 I		2				2	2							
	古典 II			3				3				2			
古典講読				2				2							
地理・歴史	世界史 A		2				2				2				
	世界史 B			4○	2□			4○	2			4○			
	日本史 A		2*				2*				2*				
	日本史 B			4○	2□			4○	2			4○			
	地理 A		2*				2*				2*				
	地理 B			4○	2□			4○	2			4○			
	アジア研究								2				2		
公民	郷土研究								2				2		
	異文化理解								2				2		
公民	現代社会	4				4				4			4・8		
	倫理・政治・経済			2○	2□			2▼	2▼			2○		2○	
数学	数学 I	4		2		4		2※		4		2Y	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3年文II 2※はいずれか1つ選択する。</li> <li>○ 3年理系は合計4単位を選択する。</li> </ul>		
	数学 II		3	2			3				3	2			
	数学 III											4Y			
	数学 A	2			2	2					2	2Y			
	数学 B		2				2				3				
	数学 C											2			
理科	総合理科							2					<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2年□▼△はいずれか1つ選択する。ただし、△生物と▼地学のペアは取れない。</li> <li>○ 3年文I (2/2)はBとIIの合計4単位を化学・生物・地学の中から1つ選択する。</li> <li>○ 理系3年 ((2/2)は計4単位を物理・化学・生物・地学から2つ合計8単位を選択する。ただし、3年(2/2)は2年で履修した科目に限る。</li> </ul>		
	物理 I A	2				2				2		2△			
	物理 I B										2	2			
	物理 II											2			
	化学 I A	2				2				2		2▼			
	化学 I B		2□		2		2□					2			
	化学 II				2							2			
	生物 I B		3		2		3				2+2△	2			
生物 II	生物 II			2							2	2			
	地学 I B		2□		2		2□				2▼	2			
地学 II	地学 II			2							2	2			
	体育	3	3	3		3	3	3		3	3	3	11		
保健	1	1			1	1			1	1					
芸術	ライフスポーツ							2					4		
	音I美I I I書I	2			2	2			2						
	音II美II I I書II		2				2				2				
	音III美III I I書III				2						2				
	音楽鑑賞演習				2						2				
	美術鑑賞演習				2						2				
外国語	生活デザイン				2							2	17		
	実用書				2							2			
	英語 I	4				4				4					
	英語 II		3	2			3	2			3	2			
	オーラルコミュニケーションB	2				2				2					
家庭	オーラルコミュニケーションC				2							2	4		
	ライティング		2	2			2	2			2	2			
	家庭一般	2	2			2	2			2	2				
	食生活				2							2			
教科・科目の計		33	33	27	6	99	33	33	27	6	99	33	33	33	99
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	3	
	クラブ活動	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3		
教育課程を補完充実するための教育活動		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総計		35	35	35	105	35	35	35	105	35	35	35	105		
選択の方法		類型選択は第2学年から実施													

教科科目	入学年度 類 型 学 年 級 数	平成8年度					平成8年度					平成8年度					備 考	
		文 I					文 II					理						
		I	II	III	III選	計	I	II	III	III選	計	I	II	III	III選	計		
		4					2					4						
国語	国語 I	5					5					5					13	
	国語 II		4					4					4					
	国語表現				2	16				2	18				2	18		
	現代文			2		18			2		20			2		20		
	古典 I		2			20		2	2		22					22		
	古典 II			3					3					2				
地理・歴史	世界史 A		2					2					2			4 8	各記号から1科目選択する。ただし、3年文I・文II及び理系の共通4単位の日本史、地理は2年次に履修した科目に限る。 文I及び文II 3年選択2単位は3年次の1単位選択科目に限る。 公民〔 $\frac{2}{2}$ 〕は計4単位選択する。 アジア研究、郷土研究、異文化理解はいずれか1つしか取れない。 2▽、2▼はいずれか1つ選択する。	
	世界史 B			4○	2□				4○	2			4○					
	日本史 A		2*					2*					2*					
	日本史 B			4○	2□				4○	2			4○					
	地理 A		2*			4		2*			8		2*					
	地理 B			4○	2□	10			4○	2	10			4○				
	アジア研究													2				
	郷土研究													2				
公民	現代社会	4				4	4				6	4			4	4 8		
	倫理政治・経済			2○	2□	10			2▼				2○	2○	8			
数学	数学 I	4					4					4		2Y		20	○ 3年文II 2単はいずれか1つ選択する。 ○ 3年理系は合計4単位を選択する。	
	数学 II		3	2				3	2※				3	2				
	数学 III													4Y				
	数学 A	2			2	15	2				13	2		2Y				
	数学 B		2			17		2					3					
	数学 C													2				
理科	総合理科								2							18	○ 2年□▽△はいずれか1つ選択する。ただし、△生物と▼地学のペアは取れない。 ○ 3年文I〔 $\frac{2}{2}$ 〕はBとIIの合計4単位を化学・生物・地学の中から1つ選択する。 ○ 理系3年〔 $\frac{2}{2}$ 〕は計4単位を物理・化学・生物・地学から2つ合計8単位を選択する。ただし、3年〔 $\frac{2}{2}$ 〕〔 $\frac{2}{2}$ 〕は2年で履修した科目に限る。	
	物理 I A	2					2					2						
	物理 I B												2△	〔 $\frac{2}{2}$ 〕				
	物理 II													〔 $\frac{2}{2}$ 〕				
	化学 I A	2					2					2						
	化学 I B		2□			13		2□					2▼	〔 $\frac{2}{2}$ 〕				
	化学 II			〔 $\frac{2}{2}$ 〕										〔 $\frac{2}{2}$ 〕				
	生物 I B		3					3					2△	〔 $\frac{2}{2}$ 〕				
	生物 II													〔 $\frac{2}{2}$ 〕				
保健体育	体育	3	3	3		11	3	3	3		11	3	3	3		11		
	保健	1	1				1	1			13	1	1					
芸術	音I美I工I書I	2			2		2			2		2				4		
	音II美II工II書II		2			4		2			4		2					
	音III美III工III書III				2	6				2	6			2				
	音楽鑑賞演習				2	8				2	8			2				
	美術鑑賞演習				2	10				2	10			2				
	生活デザイン				2					2				2				
	実用書				2					2				2				
外国語	英語 I	4					4					4				17	○ オーラルC、リーディングはいずれか1つしか取れない。	
	英語 II		3	2		18		3	2		18		3	2				
	ナラコニケーションA	2				20	2				20	2						
	ナラコニケーションB				2					2				2				
	リーディング			3	2				3	2				2				
ライティング		2	2				2	2				2	2					
家庭	家庭一般	2	2			4	2	2		4	2	2			4			
	食				2	6				6				2				
教科・科目の計		33	33	27	6	99	33	33	27	6	99	33	33	33		99		
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1		3	1	1	1		3	1	1	1		3		
	クラブ活動	1	1	1		3	1	1	1		3	1	1	1		3		
教育課程を補完充実するための教育活動		0	0	0		0	0	0		0	0	0	0		0			
総計		35	35	35		105	35	35	35		105	35	35	35		105		
選択の方法		類型選択は第2学年から実施																



教科科目	入学年度 類型 学年 学級数	平成11・10・9年度					平成11・10・9年度					平成11・10・9年度					備考	
		文 I					文 II					理						
		I	II	III	III選	計	I	II	III	III選	計	I	II	III	計			
		4					2					3・4・3						
国語	国語 I	5					5					5					13	
	国語 II		4					4					4					
	国語表現				2					2					2			
	現代文			2					2					2				
	古典 I		2					2	2									
	古典 II			3					3					2				
地理・歴史	世界史 A		2					2					2			4・8	○ 各記号から1科目を選択する。ただし、3年の共通4単位の日本史と地理は2年次に履修した科目に限る。 ○ 文I及び文IIの3年選択2単位は3年次の4単位選択科目に限る。 ○ 文Iで世界史B・日本史B・地理Bを選択した場合は、必ずそれぞれ右の2□を選択する。 ○ 郷土研究、アジア研究、異文化理解はいずれか1つしか選択できない。 ○ 2▽は倫理、政治・経済の選択者に限る。 ○ 文IIの2▽はいずれか1つを選択する。	
	世界史 B			4○	2□				4○	2				4○				
	日本史 A		2*					2*					2*					
	日本史 B			4○	2□				4○	2				4○				
	地理 A		2*					2*					2*					
	地理 B			4○	2□				4○	2				4○				
	アジア研究					2				2					2			
公民	現代社会	4			2▽		4				4					4・8		
	政治・経済			4○					2▽				4○					
数学	数学 I	4		2			4		2◇		4		2◆		20	○ 文IIの2◇はいずれか1つを選択する。 ○ 理系は◆から合計4単位を選択する。		
	数学 II		3	2				3				3	2					
	数学 A	2			2		2				2		2◆					
	数学 B		2					2				3						
	数学 C												2					
	数学演習A・B								2◇									
理科	総合理科								2						18	○ 2年の※△▲はいずれか1つを選択する。ただし、△生物と▲数学のペアは選択できない。 ○ 3年文I (2/2) はBとIIの計4単位を化学・生物・地学から1つ選択する。ただし、2年で履修した科目に限る。 ○ 3年理系 (2/2) 計4単位を物理・化学・生物・地学から2つ選び、合計8単位を選択する。ただし、2年で履修した科目に限る。		
	物理 I A	2					2				2							
	物理 I B										2△	(2/2)						
	物理 II											(2/2)						
	化学 I A	2					2				2		2▲					
	化学 I B		2※		2			2※					(2/2)					
	化学 II				2								(2/2)					
	生物 I B		3		2			3				2+2△	(2/2)					
地学 I B		2※		2			2※					2▲	(2/2)					
	地学 II			2								(2/2)						
保健	体育	3	3	3			3	3	3		3	3	3	11				
	保健	1	1				1	1			1	1						
	ライフスポーツ				2					2								
芸術	音I美I書I	2			2		2			2	2			4				
	音II美II書II		2					2				2						
	音III美III書III				2					2								
	音楽鑑賞演習				2					2								
	美術鑑賞演習				2					2								
	生活デザイン				2					2								
外国語	英語 I	4					4				4			17	○ 英語文法・作文演習、英語読解演習はいずれか1つしか選択できない。			
	英語 II		3	2				3	2			3	2					
	リーディング			3					3				2					
	ライティング		2	2				2	2				2					
	英語文法・作文演習				2					2								
	英語読解演習				2					2								
家庭	家庭・食物	2	2				2	2			2	2		4				
	食				2				2									
教科・科目の計		33	33	27	6	99	33	33	27	6	99	33	33	33	99			
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	3		1	1	1	3		1	1	1	3			
	クラブ活動	1	1	1	3		1	1	1	3		1	1	1	3			
総計		35	35	35	105		35	35	35	105		35	35	35	105			
選択の方法		類型選択は第2学年から実施																

### (3) 本校合格者・卒業者数

#### (イ) 累年合格者数と合格率

年 度	志願者	合格者	合格率	入学定員	期 生
平成元年	639	576	90%	576	高44期
平成2年	604	552	91%	552	高45期
平成3年	567	540	95%	540	高46期
平成4年	524	516	98%	516	高47期
平成5年	574	480	84%	480	高48期
平成6年	554	440	79%	440	高49期
平成7年	469	401	86%	400	高50期
平成8年	470	400	85%	400	高51期
平成9年	431	360	84%	360	高52期
平成10年	435	400	92%	400	高53期
平成11年	490	360	73%	360	高54期
平成12年	397	360	91%	360	高55期

#### (ロ) 卒業者数

卒業年次	男	女	計	卒業期
平成元年	301	260	561	高41期
平成2年	340	282	622	高42期
平成3年	299	269	568	高43期
平成4年	298	268	566	高44期
平成5年	281	258	539	高45期
平成6年	288	240	528	高46期
平成7年	253	256	509	高47期
平成8年	231	247	478	高48期
平成9年	208	228	436	高49期
平成10年	207	184	391	高50期
平成11年	199	196	395	高51期
平成12年	175	188	363	高52期

#### (4) 高校各期卒業時決定進路一覽

		卒業者	国立大 進学者	公立大 進学者	私立大 進学者	短大 進学者	就職者	その他 (各種学校 予備校)	合計																																																																																																																																																																
平成元年 41期	男	301	18	10	46	100	6	263	561																																																																																																																																																																
	女	260	12	4	82					平成2年 42期	男	340	19	7	56	119	12	293	622	女	282	8	4	14	平成3年 43期	男	299	27	6	51	97	15	253	568	女	269	8	6	95	平成4年 44期	男	298	28	7	62	82	6	230	566	女	268	11	6	123	平成5年 45期	男	281	21	9	56	88	6	240	539	女	258	9	3	107	平成6年 46期	男	288	31	10	62	68	5	232	528	女	240	14	4	93	平成7年 47期	男	253	18	4	56	65	3	232	509	女	256	10	6	100	平成8年 48期	男	231	21	8	60	45	4	196	478	女	247	14	5	114	平成9年 49期	男	208	23	7	66	42	6	142	436	女	228	15	6	118	平成10年 50期	男	207	23	7	71	25	0	142	391	女	184	9	7	99	平成11年 51期	男	199	15	9	72	34	0	142	395	女	196	9	4	94	平成12年 52期	男	175	18	10	59	19	0	129	363
平成2年 42期	男	340	19	7	56	119	12	293	622																																																																																																																																																																
	女	282	8	4	14					平成3年 43期	男	299	27	6	51	97	15	253	568	女	269	8	6	95	平成4年 44期	男	298	28	7	62	82	6	230	566	女	268	11	6	123	平成5年 45期	男	281	21	9	56	88	6	240	539	女	258	9	3	107	平成6年 46期	男	288	31	10	62	68	5	232	528	女	240	14	4	93	平成7年 47期	男	253	18	4	56	65	3	232	509	女	256	10	6	100	平成8年 48期	男	231	21	8	60	45	4	196	478	女	247	14	5	114	平成9年 49期	男	208	23	7	66	42	6	142	436	女	228	15	6	118	平成10年 50期	男	207	23	7	71	25	0	142	391	女	184	9	7	99	平成11年 51期	男	199	15	9	72	34	0	142	395	女	196	9	4	94	平成12年 52期	男	175	18	10	59	19	0	129	363	女	188	10	7	105										
平成3年 43期	男	299	27	6	51	97	15	253	568																																																																																																																																																																
	女	269	8	6	95					平成4年 44期	男	298	28	7	62	82	6	230	566	女	268	11	6	123	平成5年 45期	男	281	21	9	56	88	6	240	539	女	258	9	3	107	平成6年 46期	男	288	31	10	62	68	5	232	528	女	240	14	4	93	平成7年 47期	男	253	18	4	56	65	3	232	509	女	256	10	6	100	平成8年 48期	男	231	21	8	60	45	4	196	478	女	247	14	5	114	平成9年 49期	男	208	23	7	66	42	6	142	436	女	228	15	6	118	平成10年 50期	男	207	23	7	71	25	0	142	391	女	184	9	7	99	平成11年 51期	男	199	15	9	72	34	0	142	395	女	196	9	4	94	平成12年 52期	男	175	18	10	59	19	0	129	363	女	188	10	7	105																									
平成4年 44期	男	298	28	7	62	82	6	230	566																																																																																																																																																																
	女	268	11	6	123					平成5年 45期	男	281	21	9	56	88	6	240	539	女	258	9	3	107	平成6年 46期	男	288	31	10	62	68	5	232	528	女	240	14	4	93	平成7年 47期	男	253	18	4	56	65	3	232	509	女	256	10	6	100	平成8年 48期	男	231	21	8	60	45	4	196	478	女	247	14	5	114	平成9年 49期	男	208	23	7	66	42	6	142	436	女	228	15	6	118	平成10年 50期	男	207	23	7	71	25	0	142	391	女	184	9	7	99	平成11年 51期	男	199	15	9	72	34	0	142	395	女	196	9	4	94	平成12年 52期	男	175	18	10	59	19	0	129	363	女	188	10	7	105																																								
平成5年 45期	男	281	21	9	56	88	6	240	539																																																																																																																																																																
	女	258	9	3	107					平成6年 46期	男	288	31	10	62	68	5	232	528	女	240	14	4	93	平成7年 47期	男	253	18	4	56	65	3	232	509	女	256	10	6	100	平成8年 48期	男	231	21	8	60	45	4	196	478	女	247	14	5	114	平成9年 49期	男	208	23	7	66	42	6	142	436	女	228	15	6	118	平成10年 50期	男	207	23	7	71	25	0	142	391	女	184	9	7	99	平成11年 51期	男	199	15	9	72	34	0	142	395	女	196	9	4	94	平成12年 52期	男	175	18	10	59	19	0	129	363	女	188	10	7	105																																																							
平成6年 46期	男	288	31	10	62	68	5	232	528																																																																																																																																																																
	女	240	14	4	93					平成7年 47期	男	253	18	4	56	65	3	232	509	女	256	10	6	100	平成8年 48期	男	231	21	8	60	45	4	196	478	女	247	14	5	114	平成9年 49期	男	208	23	7	66	42	6	142	436	女	228	15	6	118	平成10年 50期	男	207	23	7	71	25	0	142	391	女	184	9	7	99	平成11年 51期	男	199	15	9	72	34	0	142	395	女	196	9	4	94	平成12年 52期	男	175	18	10	59	19	0	129	363	女	188	10	7	105																																																																						
平成7年 47期	男	253	18	4	56	65	3	232	509																																																																																																																																																																
	女	256	10	6	100					平成8年 48期	男	231	21	8	60	45	4	196	478	女	247	14	5	114	平成9年 49期	男	208	23	7	66	42	6	142	436	女	228	15	6	118	平成10年 50期	男	207	23	7	71	25	0	142	391	女	184	9	7	99	平成11年 51期	男	199	15	9	72	34	0	142	395	女	196	9	4	94	平成12年 52期	男	175	18	10	59	19	0	129	363	女	188	10	7	105																																																																																					
平成8年 48期	男	231	21	8	60	45	4	196	478																																																																																																																																																																
	女	247	14	5	114					平成9年 49期	男	208	23	7	66	42	6	142	436	女	228	15	6	118	平成10年 50期	男	207	23	7	71	25	0	142	391	女	184	9	7	99	平成11年 51期	男	199	15	9	72	34	0	142	395	女	196	9	4	94	平成12年 52期	男	175	18	10	59	19	0	129	363	女	188	10	7	105																																																																																																				
平成9年 49期	男	208	23	7	66	42	6	142	436																																																																																																																																																																
	女	228	15	6	118					平成10年 50期	男	207	23	7	71	25	0	142	391	女	184	9	7	99	平成11年 51期	男	199	15	9	72	34	0	142	395	女	196	9	4	94	平成12年 52期	男	175	18	10	59	19	0	129	363	女	188	10	7	105																																																																																																																			
平成10年 50期	男	207	23	7	71	25	0	142	391																																																																																																																																																																
	女	184	9	7	99					平成11年 51期	男	199	15	9	72	34	0	142	395	女	196	9	4	94	平成12年 52期	男	175	18	10	59	19	0	129	363	女	188	10	7	105																																																																																																																																		
平成11年 51期	男	199	15	9	72	34	0	142	395																																																																																																																																																																
	女	196	9	4	94					平成12年 52期	男	175	18	10	59	19	0	129	363	女	188	10	7	105																																																																																																																																																	
平成12年 52期	男	175	18	10	59	19	0	129	363																																																																																																																																																																
	女	188	10	7	105																																																																																																																																																																				

(5) 主要大学合格者数

本校は本校から主に進学する大学等の合格者数を統計した

学年	(国立)											(公立)												
	元	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	元	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
奈良教育	3	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
秋田	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新潟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新潟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東京農芸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三重	4	3	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山形	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電気通信	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山口	1	1	2	1	0	5	2	3	4	7	5	4	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富山	2	1	1	1	0	4	8	7	5	4	7	4	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岡山	8	5	5	5	2	4	8	7	5	4	7	4	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(筑波)	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東京教育	0	4	4	4	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神戸商船	2	4	4	4	0	1	4	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
京都工繊	10	7	9	15	14	8	7	7	7	7	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大阪外語	5	1	4	8	5	4	4	7	7	7	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大阪教育	19	7	7	20	16	8	8	9	9	10	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和歌山	3	4	5	6	4	1	3	3	3	5	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
九州	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
静岡	6	2	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広島	4	2	1	2	1	3	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東京	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東北	2	2	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北海道	2	2	4	2	3	1	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神戸	8	9	15	12	11	18	8	10	9	5	7	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
大阪	5	3	0	4	6	3	6	6	6	3	3	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
京都	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
香川	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
元	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	11



## (6) 修学旅行一覧

43期	平成2年3月2日(金)～3月6日(火) (車中一泊) <b>蔵王温泉スキー場</b> ・パラダイスロッジ(3・4・5・10・11・12組) ・スターライトホテル樹氷の家 (1・2・6・7・8・9組)	44期	平成2年10月24日(水)～10月28日(日) <b>壱岐の島</b> ・千賀荘(2組)・福川荘(7・8組)・宝来荘(4組)・宝盛荘(5・11組)・烏米荘(1・12組)・近海荘(6組)・ペンションおとしま(10組)・乙島荘(3・9組)
45期	平成4年2月29日(土)～3月4日(水) <b>蔵王温泉スキー場</b> ・パラダイスロッジ ・スターライトホテル樹氷の家	46期	平成4年10月25日(日)～10月29日(木) <b>南九州</b> ・霧島温泉ホテル林田温泉 ・指宿観光ホテル
47期	平成5年10月19日(火)～10月23日(土) <b>南四国(高知・足摺岬・四万十川)</b> ・松栄別館(1・3・5・6・8・9組) ・松栄第二別館(2・4・7・10・11組) ・足摺パシフィックホテル (1・3・5・6・8・9組) ・足摺国際ホテル(2・4・7・10・11・12組)	48期	平成6年10月23日(日)～10月27日(木) (船中一泊) <b>南九州</b> ・霧島温泉ホテル林田温泉
49期	平成8年3月1日(金)～3月5日(火) <b>蔵王温泉スキー場</b> ・パラダイスロッジ (1・2・3・5・6・9・10組) ・スターライトホテル樹氷の家 (4・7・8・11組)	50期	平成8年10月25日(金)～10月28日(月) <b>沖縄</b> ・エッカホテル沖縄 ・ホテルみゆきビーチ
51期	平成9年10月26日(日)～10月29日(水) <b>沖縄</b> ・パシフィックホテル沖縄 ・ホテルみゆきビーチ	52期	平成10年10月25日(日)～10月28日(水) <b>沖縄</b> ・エッカホテル沖縄 ・ホテルみゆきビーチ
53期	平成11年10月24日(日)～10月27日(水) <b>沖縄</b> ・エッカホテル沖縄 ・ホテルみゆきビーチ	54期	平成12年10月22日(日)～10月25日(木) <b>沖縄</b> ・ホテルみゆきビーチ

## (7) 歴代学校長名

初代	庄 静 夫	昭和15年2月－昭和20年3月
二代	佐々木 茂 八	昭和20年4月－昭和23年8月
三代	後 藤 安 久	昭和23年10月－昭和27年4月
四代	金 子 睦 夫	昭和27年4月－昭和32年3月
五代	秋 山 敏	昭和32年4月－昭和35年5月
六代	土 屋 憲 三	昭和35年6月－昭和38年3月
七代	北 川 昂	昭和38年4月－昭和41年3月
八代	零 石 鑛 吉	昭和41年4月－昭和45年3月
九代	高 谷 重 夫	昭和45年4月－昭和50年3月
十代	西 田 驍 夫	昭和50年4月－昭和55年3月
十一代	三 上 五 城	昭和55年4月－昭和58年3月
十二代	塚 本 盛 治	昭和58年4月－昭和62年3月
十三代	人 位 昇	昭和62年4月－平成2年3月
十四代	林 昭	平成2年4月－平成5年3月
十五代	川 岸 清	平成5年4月－平成9年3月
十六代	井 上 博 昭	平成9年4月－平成12年3月
十七代	清 水 秀 司	平成12年4月－

(8) 現教職員名簿 着任順(専任) (同年順不同)

氏 林 操	S39・4～	(実習助手)	濱 口 直 巳	H7・4～	(保健体育)
北 坂 好 江	S45・5～	(実習助手)	仁田尾 達 二	H7・4～	(英 語)
富 田 外代美	S58・7～	(教 務)	森 尾 俊 三	H8・4～	(理 科)
菊 池 美奈子	S62・4～	(養 護)	奥 登	H8・4～	(理 科)
奈良崎 富 子	S62・4～	(実習助手)	末 松 真	H8・4～	(理 科)
高 橋 康 郎	S62・4～	(技 能 員)	北 宮 康 史	H8・4～	(英 語)
山 本 恵 子	H1・4～	(家 庭)	畠 山 剛 雄	H8・4～	(英 語)
平 尾 恵 夫	H2・4～	(国 語)	岡 勝 見	H9・4～	(社 会)
大 竹 葉 子	H2・4～	(英 語)	染 川 隆 俊	H9・4～	(社 会)
佐 藤 尚 子	H3・4～	(国 語)	白 崎 俊 行	H9・4～	(数 学)
海江田 千津子	H3・4～	(国 語)	尾 崎 聡	H9・4～	(数 学)
岩 城 俊 雄	H3・4～	(社 会)	木 村 隆	H9・4～	(理 科)
長 橋 務	H3・4～	(社 会)	溝 口 博	H9・4～	(保健体育)
小 林 主 典	H3・4～	(数 学)	福 吉 久 代	H9・4～	(美 術)
山 口 由美子	H3・4～	(数 学)	林 吉 弘	H9・4～	(事 務 長)
芳 澤 裕 之	H3・4～	(数 学)	二 木 晃	H9・4～	(事 務)
牧 坂 孝 則	H4・4～	(保健体育)	武 本 敬 子	H9・4～	(事 務)
田 口 梅 屋	H4・4～	(書 道)	手 塚 律 子	H10・4～	(国 語)
吉 岡 宏	H4・4～	(英 語)	柴 田 和 久	H10・4～	(英 語)
岐 田 穂 波	H4・4～	(国 語)	濱 秀 夫	H10・4～	(数 学)
金 川 武 人	H4・4～	(国 語)	清 野 郁 子	H10・4～	(社 会)
渡 邊 弘 志	H4・4～	(社 会)	宮 川 康 子	H10・4～	(音 楽)
岡 野 良 彦	H4・4～	(数 学)	岡 島 真 之	H10・4～	(技 能 員)
山 本 義 厚	H4・4～	(理 科)	中 井 弘 一	H10・9～	(教 頭)
浜 中 由 朗	H4・4～	(理 科)	井 上 博 之	H11・4～	(数 学)
平 井 文 友	H5・4～	(国 語)	望 月 龍 一	H11・4～	(数 学)
森 田 薫	H5・4～	(数 学)	山 田 淑 子	H11・4～	(英 語)
裏 垣 加奈美	H5・4～	(保健体育)	岩 谷 礼 子	H11・4～	(英 語)
梅 田 美枝子	H5・4～	(英 語)	伊 澤 由 美	H11・4～	(教 務)
山 本 京 子	H5・4～	(技 能 員)	佐 藤 節 子	H11・5～	(事 務)
篤 本 俊 治	H6・4～	(国 語)	清 水 秀 司	H12・4～	(校 長)
安 場 敏	H6・4～	(理 科)	寺 口 尊 教	H12・4～	(保健体育)
前 橋 健 司	H6・4～	(保健体育)	吉 田 穂 積	H12・4～	(社 会)
木 村 さと美	H6・4～	(英 語)	荒 木 雄 造	H12・4～	(理 科)
西 山 兆 子	H6・4～	(家 庭)	時 本 重 子	H12・4～	(英 語)
津 村 亜 子	H7・4～	(国 語)	藤 野 智 子	H12・4～	(理 科)
松 石 純 代	H7・4～	(社 会)	浅 井 美保子	H12・4～	(事 務)



## (9) 旧職員名簿

講師・産休講師・非常勤職員等については、資料上不正確な面が多く、残念ながら割愛した。また池田中学時代は、職務区分が極めて不明瞭で、混同している点を許容願いたい。

氏名	在職期間	教科	氏名	在職期間	教科
高橋 修	15・4～15・9	(助手)	岡村 武雄	15・3～19・7	(事務)
吉田 正雄	15・3～16・3	体操	森本 健二	18・6～19・7	図工
安田 武	15・4～16・3	剣道	東 重次郎	18・10～19・9	(配属将校)
桧本 正	15・4～16・3	音楽	袖山 忠明	17・9～19・10	英語
安達 正一	15・1～17・3	(事務)	弥吉 菅一	19・4～19・11	国漢
鹿内 健三	15・3～17・3	国漢	坂上 博一	19・6～20・1	剣道
安良 暁一	15・3～17・3	英語	庄 静夫	15・2～20・3	(校長)
林田 実	15・3～17・3	国漢	横井 鹿之助	17・3～20・3	数学
村中 吉盛	16・9～17・3	剣道	水谷 愛之介	16・8～20・4	習字
守屋 岩男	16・3～17・8	体操	桑田 旨夫	16・3～20・5	数学
猪谷 文臣	16・11～17・9	歴史	加野 高行	16・3～20・8	音楽
烏居 高熙	17・3～17・9	剣道	溝川 功	18・3～20・9	作業
上月 順	15・3～18・3	図画	中島 修	18・5～20・9	数学
小林 百合子	16・3～18・3	(助手)	朝倉 敏一	18・9～20・9	化学
北川 重男	16・3～18・3	数学	服部 一郎	19・3～20・9	生物
原 正	16・11～18・4	歴史	柳谷 安太郎	19・3～20・9	体育柔道
窪野 桂	17・9～18・4	国漢	外海 啓一	19・4～20・9	化学
曾沢 太吉	16・3～18・5	国漢	林 清	18・3～20・12	図画
高田 仁一	17・5～18・7	化学	綾 仁信治郎	15・2～21・3	数学
藤原 悠紀雄	16・3～18・9	生物	肥塚 正太夫	19・3～21・4	数学
田中 昭	16・8～18・9	(助手)	土田 真太郎	18・9～21・6	数学
神村 三郎	17・3～18・9	物象	小寺 幸正	19・5～21・6	修身
本橋 和	17・9～18・10	体操	池永 留吉	17・3～21・7	教練
山田 直一	18・9～18・10	柔道	大槻 重信	18・4～21・7	物象
北川 浩	18・3～19・1	体操	細井 久男	19・8～21・7	(事務)
永井 藤治	18・7～19・3	体操	原 千寿子	17・3～21・8	(事務)
大沢 辰雄	16・2～19・4	剣道	佐々木 宗太郎	17・9～21・8	剣道
西原 哲吉	17・7～19・4	(事務)	飯尾 和義	21・4～21・8	数学
政本 義員	18・3～19・4	修身	中川 正善	21・4～21・9	数学
江崎 雪	18・4～19・4	歴史	尾上 恒雄	15・3～21・10	英語
山本 一義	18・9～19・4	柔道	上田 広高	17・3～21・10	国漢
北上 信雄	19・1～19・4	教練	滝井 与志司	18・3～21・10	数学
中野 久夫	17・3～19・6	英語	岡本 義春	20・11～21・10	作業

氏名	在職期間	教科	氏名	在職期間	教科
根岸英二	20・11～21・11	図面	田中恒雄	22・4～23・4	社会
佐野ツルエ	21・8～21・11 (事務)		坂上彦四郎	22・4～23・8	国語
原清治	20・9～21・12	物象	中西敏一	22・4～23・8	体育
鳩谷征	15・10～22・3	教練	佐々木茂八	20・3～23・9 (校長)	
宮本数秀	17・3～22・3	英語	福井良一	23・4～24・1	数学
市崎常臣	17・3～22・3	国漢	大津静夫	19・4～24・3	生物
内山正良	17・4～22・3	国漢	中務保之	21・9～24・3	社会
桑田一恵	18・7～22・3	体操	白附憲孝	23・5～24・3	数学
丸山十一郎	19・5～22・3	数学	広瀬満里子	23・6～24・6	英語
田中静夫	20・4～22・3	数学	松浦淑子	23・4～24・8	国語
有坂隆道	21・4～22・3	歴史	中西政子	23・4～24・12	数学
花畑平男	21・6～22・3	体操	三隅珠一	20・10～25・1	保健体育
末本宣一	21・9～22・3	社会	大西千枝	23・4～25・3	家庭
佐藤健太郎	21・10～22・3	物理	落合勇	23・4～25・3	社会
平畑豊	21・12～22・3	数学	福田善雄	24・4～25・3	数学
宮田明夫	16・3～22・4	英語	梅溪昇	24・5～25・4	歴史
嶋村吉雄	18・7～22・4	国漢	志賀禎一	18・3～25・5	体操
中島遜	15・2～22・5 (教頭)		関俊一	23・4～26・1	国漢・習字
岩田七イ	21・1～22・8 (事務)		大浜多美子	23・4～26・1	生物
秋山博愛	19・10～22・10	歴史	小林茂	17・3～26・3	歴史
中本一男	22・4～22・10	化学	中林豊市	21・4～26・3	英語
吉岡明	22・1～22・12	体育	尾崎健三	23・4～26・3	数学
汐見元男	22・4～22・12	化学	後藤春雄	25・4～26・3	数学
石井立	21・11～23・1	歴史	増田毅	25・4～26・3	社会
森田武躬	16・3～23・3	国漢	塩野芳夫	25・9～26・3	歴史
奥村和夫	16・7～23・5	地理	多賀保志	22・9～26・6	数学
大竹益雄	18・3～23・3	国漢	永田幸令	24・6～26・6	数学
浜中武彦	20・9～23・3	国語	津田久子	25・3～26・9	家庭
高橋桂四郎	20・12～23・3	英語	水嶋昌	24・5～26・10	書道
藤田貞之助	21・10～23・3	数学	藤道雄	21・10～27・1	実業
栄井敏郎	22・4～23・3	数学	後藤安久	23・12～27・3 (校長)	
井口隆	22・4～23・3	国漢	北村裕	25・10～27・3	社会
梅田健一	22・4～23・3	化学	近藤享	26・4～27・5	数学
宮内芳郎	18・3～23・4	英語	寺田正一郎	19・12～28・3	国漢
山崎尚士	21・9～23・4	生物	小田孝一	23・4～28・3	物理
富田敏造	22・4～23・4	数学	谷川雅敏	27・4～28・3	保健体育

氏名	在職期間	教科
萩原辰三郎	27・4～28・3	社会
佐々木好太郎	19・4～30・3	教練(事務長)
下村高明	20・9～30・3	(事務)
原田澄子	27・4～30・3	家庭
北村敏子	21・1～30・7	(事務)
井上幸子	26・3～31・3	(実習助手)
清水洋子	26・4～31・3	(事務)
西条茂美	17・7～31・5	(校務員)
樋上查代子	25・9～31・7	(実習助手)
福嶋新作	27・9～31・8	数学
金子睦夫	27・4～32・3	(校長)
細川勝馬	22・8～32・4	(事務)
浜田初生	26・3～32・9	(実習助手)
石原文吉	33・4～34・2	保健体育
鈴木武光	33・4～34・2	保健体育
西野博子	30・7～34・6	(事務)
植村義行	21・8～34・10	(事務)
同前	42・4～45・9	(事務長)
秋山敏	32・4～35・5	英語(校長)
太田洋子	27・3～35・12	保健体育
須賀卯夫	22・4～36・3	美術
吉竹博	24・4～36・3	生物
大川三郎	15・4～36・3	生物(教頭)
金井早苗	21・9～36・3	(養護)
中村俊子	25・6～36・3	国語
土田衛	23・4～36・4	国語
加藤昌美	30・11～36・8	(事務)
上西フミ子	25・9～36・10	(事務)
別府善次郎	25・4～37・3	英語
井村和子	32・10～37・4	(実習助手)
菅原順子	34・7～37・4	(事務)
今安善三	36・10～37・12	(事務)
岡本毅	19・8～38・3	社会
平田太郎	21・7～38・3	数学
重本長生	26・4～38・3	社会
富浪良夫	28・4～38・3	保健体育

氏名	在職期間	教科
中井多鶴子	34・4～38・3	(養護)
土屋憲三	35・6～38・3	(校長)
杉山広濟	27・4～38・5	社会
渡辺恵美子	30・4～38・12	(実習助手)
高木隆	18・4～39・3	社会
山崎勝次	21・12～39・3	物理(教頭)
伊藤尹	25・9～39・3	(校務員)
田圃紀雄	37・10～39・3	(事務)
森川祥子	38・4～39・3	(養護)
進藤陽子	39・4～39・11	(養護)
鈴木太良	23・4～40・3	国語
黒子マチ	31・7～40・3	(実習助手)
長瀬和雄	36・4～40・3	地学
嶋川聡子	37・5～40・3	(実習助手)
中村洋三	38・4～40・3	社会
菅野正	38・5～40・6	社会
吉田恒三	25・3～41・3	保健体育
山本恵三	25・12～41・3	国語
洲沢千春	37・4～41・3	(事務)
北川昂	38・4～41・3	(校長)
加藤重義	19・8～41・4	社会
増田忠雄	23・4～42・3	英語
小川謙三	24・7～42・3	(事務長)
山本家道	27・4～42・3	英語
吉川和之	36・4～42・3	生物
斉藤貫	39・4～42・3	国語(教頭)
北崎豊二	39・5～42・3	社会
鳥本昇	40・4～42・3	化学
中谷満智子	31・4～42・9	(事務)
中川啓史	38・4～42・9	社会
矢野淳一	19・3～43・3	英語
薬師任子	21・8～43・3	(実習助手)
細見清枝	26・11～43・3	書道
加納哲也	36・4～43・3	保健体育
高橋脩	36・4～43・3	美術
森川貞夫	37・4～43・3	保健体育

氏名	在職期間	教科
鍛治 彰	38・4～43・3	(事務)
市村 昌三	42・4～43・3	社会
関原 厚子	41・4～43・6	(事務)
河村 敬子	36・9～43・12	(事務)
大森 宏	26・4～44・3	社会
二宮 咲	26・7～44・3	国語
三宅 テルエ	26・10～44・3	家庭
森口 新三	38・4～44・3	社会
大津 皓司	39・4～44・3	数学
浦上 芳之	40・4～44・3	(実習助手)
天野 郡寿	41・4～44・3	保健体育
岩田 久郎	18・3～45・3	国語
福富 角二	20・7～45・3	英語
西堀 孝	38・4～45・3	生物
井田 紀子	39・1～45・3	(実習助手)
小林 與志治	39・4～45・3	(事務)
森口 忠子	40・4～45・3	国語
零石 鑛吉	41・4～45・3	(校長)
大西 博司	44・4～45・3	(実習助手)
田口 政雄	42・4～45・4	(事務)
堀口 正次郎	21・10～46・3	数学
菅 千代子	23・4～46・3	家庭
大出 幹雄	38・4～46・3	英語
大杉 正樹	40・4～46・3	数学
三浦 大蔵	26・6～47・3	数学
斉藤 正雄	28・3～47・3	(校務員)
江本 義文	42・4～47・3	社会
辻本 陽子	42・4～47・3	(事務)
肥田 耕也	42・4～47・3	(教頭)
八木 マユミ	45・4～47・3	(実習助手)
川上 義三	30・6～47・8	国語
安田 由之助	26・5～48・3	数学
大蔵 一誠	45・4～48・3	(事務)
千頭 清之	47・4～48・3	社会
管 一美	45・10～48・7	(事務長)
野上 茂郎	27・1～49・1	生物

氏名	在職期間	教科
三浦 文男	31・9～49・3	数学
伊原 巧	45・4～49・3	英語
鹿兒島 紀文	47・4～49・3	(事務)
上野 稔	48・4～49・3	(事務)
瀬戸 麿	37・4～50・3	英語
村上 勝	37・4～50・3	数学
小川 修一	39・4～50・3	国語
井川 敏一	43・4～50・3	(事務)
吉田 武	43・4～50・3	保健体育
三木 雅文	44・4～50・3	社会
高谷 重夫	45・4～50・3	(校長)
後平 和明	38・4～50・9	英語
服部 吉三	21・1～50・12	音楽
馬場 紫津子	23・4～51・3	保健体育
辻本 昭信	46・4～51・3	生物
関 友行	46・4～51・3	数学
巽 三郎	47・4～51・12	(教頭)
星田 公一	50・4～51・3	国語
進藤 周平	38・4～52・3	(技術員)
年木 治	38・6～52・3	社会
井田 誠夫	42・4～52・3	化学
同 前	57・4～60・3	
森川 英純	48・4～52・3	社会
奥田 量美	48・7～52・3	(事務長)
森口 孝巳	50・4～52・3	国語
末川 衛	51・4～52・3	数学
小牧 三郎	26・9～53・3	数学
栖川 長蔵	39・4～53・3	物理
向窪 督	40・4～53・3	国語
辻井 清	40・10～53・3	(技術員)
大西 悦子	47・4～53・3	(実習助手)
村上 清	50・4～53・3	(事務)
太田 義隆	52・4～53・3	(事務長)
中川 健	40・4～54・3	社会
沖田 清人	46・4～54・3	英語
谷口 了亮	49・4～54・3	(事務)

氏名	在職期間	教科
岸 良 弘	45・4～55・3	(事務)
渡 辺 宏	45・4～55・3	国語
西 田 曉 夫	50・4～55・3	(校長)
青 木 智 子	51・4～55・3	保健体育
森 正 幸	53・4～55・3	数学
中 川 慈 永	54・5～55・3	(事務)
小 林 章	42・9～56・3	社会
谷 本 仁 志	48・4～56・3	数学
藤 山 幸 弘	51・4～56・3	英語
津 田 昌 信	20・9～57・3	化学
大 野 義 則	36・9～57・3	国語
中 川 輝 夫	53・4～57・3	(事務長)
名 張 美陽子	54・4～57・3	英語
乾 由 美	55・3～57・3	保健体育
山 田 啓 司	56・4～57・10	英語
篠 田 恭 一	22・11～58・3	英語
赤 坂 繁 幸	23・1～58・3	化学
金 子 又兵衛	26・9～58・3	数学
三 井 一 彦	39・4～58・3	保健体育
平 田 友 亮	40・9～58・3	社会(教頭)
大 前 富 雄	43・4～58・3	英語
三 上 五 城	55・4～58・3	(校長)
菊 川 貞紀子	57・4～58・7	英語
柴 田 福 一	37・4～58・12	英語
四 方 美和子	52・4～58・12	(教務)
布 施 雅 男	36・4～59・3	国語
富 士 正 晴	40・4～59・3	地学
中 島 フサエ	43・9～59・3	(事務)
納 祐 子	44・4～59・3	国語
平 賀 正 男	45・4～59・3	生物
真 下 貢	49・4～59・3	地学
丸 岡 正 樹	50・4～59・3	社会
野 尻 和 正	51・4～59・3	国語
水 野 末 二郎	51・4～59・3	生物
篠 原 隆	22・11～60・3	英語
市 村 俊 郎	26・4～60・3	英語

氏名	在職期間	教科
桑 谷 静 松	32・12～60・3	(技術員)
中 井 学	41・4～60・3	国語
門 間 俊 樹	48・4～60・3	保健体育
小 出 猛	51・4～60・3	英語
上 田 啓志美	51・4～60・3	社会
西 川 一 義	38・4～61・3	数学
宮 本 忠 範	38・4～61・3	保健体育
田 中 孝 夫	38・4～61・3	物理
鶴 飼 壯一郎	42・4～61・3	英語
畠 ヶ 絹 代	43・4～61・3	(実習助手)
金 田 信 二	49・4～61・3	数学
平 野 勉	58・4～61・3	(教頭)
浜 村 寿々子	59・4～61・3	数学
小 野 昌 和	43・4～62・3	社会
笹 部 定 雄	47・4～62・3	(技術員)
関 省 子	49・4～62・3	英語
澤 行 雄	52・4～62・3	国語
前 田 彰 信	53・4～62・3	社会
上 松 義 明	53・4～62・3	(実習助手)
奥 村 満 将	56・4～62・3	数学
塚 本 盛 治	58・4～62・3	(校長)
西 田 安 男	57・4～62・4	(事務長)
中 田 勝 利	44・4～63・3	保健体育
烏 山 巖	52・4～63・3	社会
河 村 修	52・4～63・3	社会
久 保 宗 一	55・4～63・4	(事務)
村 上 諭	58・4～63・3	数学
宇 田 和 英	59・4～63・3	国語
貴 田 町 子	59・4～63・4	(事務)
高 山 邦 章	61・4～63・3	物理
山 田 敏 枝	46・4～既・3	家庭
山 口 敏 博	49・7～既・3	(事務)
野 村 修 一	50・4～既・3	数学
乾 均	54・4～既・3	保健体育
盛 野 芳 郎	58・4～既・3	英語
伊 丹 裕 子	58・4～既・3	英語

氏名	在職期間	教科
田原 恭藏	61・4～H元・3	(教頭)
近久 修	62・5～H元・3	(事務長)
加藤 宏文	62・4～H2・3	国語
中村 明宣	54・4～H2・3	国語
大今 步	54・4～H2・3	社会
香川 雅子	62・4～H2・3	(実習助手)
人位 昇	62・4～H2・3	(校長)
田中 茂子	63・4～H2・3	(事務)
鎌田 美文	S59・4～H2・3	英語
柴田 嘉子	S34・12～H2・3	(事務)
萬田 暁治	H元・4～H2・12	(事務長)
前田 貴美子	S45・4～H3・3	国語
清水 真知子	S39・4～H3・3	社会
佐藤 一彦	H2・4～H3・3	社会
藤田 泰助	S55・4～H3・3	数学
伊原 真利子	S47・4～H3・3	数学
加納 定昭	S55・4～H3・3	生物
山口 禎	S50・4～H3・3	保健体育
弘瀬 隆志	S54・4～H3・3	英語
鹿志和 品子	S59・4～H3・3	英語
森本 博幸	S53・4～H3・4	(事務)
朝尾 ヒロミ	S60・4～H3・3	(技能員)
明智 博幸	S53・4～H3・4	(事務)
柳 真二	H元・4～H4・3	(教頭)
三善 貞司	S38・4～H4・3	国語
井関 洋子	S57・4～H4・3	国語
澤田 朗	S57・4～H4・3	社会
廣田 久夫	S52・4～H4・3	数学
松村 昌和	S54・4～H4・3	数学
井村 英夫	S28・4～H4・3	物理
岡本 為倭夫	S52・4～H4・3	化学
川上 幸雄	S57・4～H4・3	保健体育
氏田 秀明	S45・4～H4・3	書道
西村 正彦	H元・4～H4・3	英語
戎居士 郎	S55・4～H5・3	国語
藤井 吉雄	S58・4～H5・3	国語

氏名	在職期間	教科
甲田 也寸志	S61・4～H5・3	数学
佐々木 由紀子	S57・4～H5・3	保健体育
桑高 伶子	S56・4～H5・3	英語
岸田 佑史	S60・4～H5・3	英語
中山 道杷	S40・1～H5・3	養護
林 昭	H2・4～H5・3	(校長)
小寺 司	H3・1～H5・3	(事務長)
久延 純子	S63・4～H5・4	(事務)
車田 鶏子	H3・4～H5・3	(技能員)
渡辺 仁子	H5・4～H5・10	養護
広谷 良韶	S55・4～H6・3	国語
北川 一馬	S59・4～H6・3	社会
松本 清	S59・4～H6・3	英語
山根 譲二	S56・4～H6・3	物理
麻野 洋一	H元・4～H6・3	保健体育
富浪 貴志	H5・4～H6・3	英語
本下 和弘	S63・4～H6・4	(事務)
岩井 恵子	S56・4～H7・3	国語
伊敷 健二郎	S55・4～H7・3	社会
中路 彰	S59・4～H7・3	数学
赤坂 克也	S58・4～H7・3	化学
足立 泰彦	S59・4～H7・3	生物
大角 正弘	S58・4～H7・3	保健体育
内藤 憲雄	H元・4～H7・3	保健体育
永田 洋子	H3・4～H7・3	英語
大島 麻紀	H5・4～H7・3	国語
東浦 勉	H4・4～H8・3	(教頭)
西山 久代	S59・4～H8・3	国語
山下 宏明	S56・4～H8・3	社会
高雄 新三	S62・4～H8・3	数学
山口 憲美	S60・3～H8・3	理科
武田 繁典	S59・4～H8・3	理科
長谷田 三保子	S43・4～H8・3	美術
井上 誠一	S60・4～H8・3	英語
川田 哲嗣	S60・4～H8・3	英語
上西 孝志	H元・4～H8・3	(事務)

氏名	在職期間	教科
中井 博	H3・4～H8・3	(事務)
市原 陽子	H7・4～H8・3	英語
佐桑 光治	S16・4～H9・3	数学
藤本 務	S12・4～H9・3	保健体育
上杉 一暁	S52・4～H9・3	音楽
竹中 治夫	S44・4～H9・3	社会
田岡 耕治	S60・4～H9・3	国語
長枝 宏	S62・4～H9・3	社会
河原林 育朗	S59・4～H9・3	地学
味舌 寛治	S61・4～H9・3	英語
川岸 清	H5・4～H9・3	(校長)
工藤 喜一	H5・4～H9・4	(事務長)
湊 清子	H2・4～H9・4	(事務)
芝野 雅人	H6・4～H9・4	(事務)
松本 葉子	H8・4～H9・3	数学
福島 元	S63・4～H10・3	社会
原 常郎	S62・4～H10・3	英語
二敷 寛治	S62・4～H10・3	社会
三浦 元嗣	S61・4～H10・3	数学
渡辺 俊博	S63・4～H10・3	物理
永川 博志	S60・4～H10・3	保健体育
柴部 知与	H9・4～H10・3	国語
矢野 治	S52・10～H10・3	(技師)
羽間 良三	H8・4～H10・8	(教頭)
久保 彰男	H4・4～H11・3	数学
田中 泰輔	H3・4～H11・3	英語
佐野 節子	S63・4～H11・3	国語
吉川 正幸	S63・4～H11・3	数学
一谷 英晴	S61・4～H11・3	数学
長田 廣明	S63・4～H11・3	英語
中野 隆子	H6・4～H11・3	英語
藤本 有里	H8・4～H11・3	英語
岡原 梯次	H8・4～H11・4	(事務)
田渕 和美	S59・1～H11・10	(教務)
鈴木 康嗣	H3・4～H12・3	化学
神山 達志	H7・4～H12・3	物理

氏名	在職期間	教科
山崎 政範	S61・4～H12・3	保健体育
木本 直子	H5・4～H12・3	英語
若林 勉	H5・4～H12・3	社会
井上 博昭	H9・4～H12・3	(校長)
前田 陽子	H5・5～H12・4	(事務)

(10) 20年以上勤続教職員名簿 (平成12年3月現在)

氏名	教科	勤続期間 勤続年月	氏名	教科	勤続期間 勤続年月
大川三郎	(教頭)	15・4～36・3 (21年0月)	小牧三郎	(数学)	26・9～53・3 (26年7月)
岩田久郎	(国語)	18・4～45・3 (27年0月)	金子又兵衛	(数学)	26・9～58・3 (31年7月)
高木隆	(社会)	18・4～39・3 (21年0月)	野上茂郎	(理科)	27・1～49・1 (22年1月)
矢野淳一	(英語)	19・3～43・3 (24年1月)	井村英夫	(理科)	28・4～4・3 (39年0月)
加藤重義	(社会)	19・8～41・4 (21年9月)	桑谷静松	(技師)	32・12～60・3 (27年4月)
福富角二	(英語)	20・7～45・3 (24年9月)	柴田嘉子	(事務)	34・12～3・3 (32年4月)
津田昌信	(理科)	20・9～57・3 (36年7月)	布施雅男	(国語)	36・4～59・3 (23年0月)
服部吉三	(音楽)	21・1～50・12 (30年0月)	大野義則	(国語)	36・9～57・3 (20年7月)
薬師任子	(実習助手)	21・8～43・3 (21年8月)	柴田福一	(英語)	37・4～58・12 (21年9月)
堀口正次郎	(数学)	21・10～46・3 (24年6月)	西川・義	(数学)	38・4～61・3 (23年0月)
篠田恭一	(英語)	22・11～58・3 (35年5月)	宮本忠範	(保健体育)	38・4～61・3 (23年0月)
篠原隆	(英語)	22・11～60・3 (37年5月)	田中孝夫	(理科)	38・4～61・3 (23年0月)
赤坂繁幸	(理科)	23・1～58・3 (35年3月)	三善貞司	(国語)	38・4～4・3 (29年0月)
菅千代子	(家庭)	23・4～46・3 (23年0月)	清水真知子	(社会)	39・4～3・3 (27年0月)
馬場紫津子	(保健体育)	23・4～51・3 (28年0月)	氏林操	(実習助手)	39・4～
市村俊郎	(英語)	26・4～60・3 (34年0月)	中山道杷	(養護)	40・4～5・3 (28年0月)
安田由之助	(数学)	26・5～48・3 (21年11月)	藤本務	(保健体育)	42・4～9・3 (30年0月)
三浦大蔵	(数学)	26・6～47・3 (20年10月)	長谷田三保子	(美術)	43・4～8・3 (28年0月)



氏 名	教 科	勤続期間	
		勤続年月	
竹 中 治 夫	(社 会)	44・4～9・3	(28年0月)
前 田 貴美子	(国 語)	45・4～3・3	(21年0月)
氏 田 秀 明	(書 道)	45・4～4・3	(22年0月)
北 坂 好 江	(実習助手)	45・5～	
佐 桑 光 治	(数 学)	46・4～9・3	(26年0月)
上 杉 一 暁	(音 楽)	52・4～9・3	(20年0月)
矢 野 治	(技能員)	52・10～10・1	(20年3月)

## (11) 各期担任一覽

### 高校43期生 (平成3年3月卒業)

加藤 宏文(主任)	赤坂 克也	松村 昌和
大今 歩	大角 正弘	原 常郎
山口 禎	高雄 進三	桑高 伶子
足立 泰彦	長枝 宏	伊原真利子
藤井 吉雄	井村 英夫(主任)	清水真知子

### 高校48期生 (平成8年3月卒業)

鈴木 康嗣(主任)	渡辺 俊博	吉川 正幸
木本 直子	岐田 穂波	田口 梅屋
金川 武人	牧坂 孝則	吉岡 宏
三浦 元嗣	山本 義厚	井上 誠
渡邊 弘志		

### 高校44期生 (平成4年3月卒業)

戎居 士郎(主任)	伊敷健二郎	長田 廣明
吉川 正幸	内藤 憲雄	佐野 節子
加納 定昭	佐桑 光治	松本 清
福島 元	二敷 寛治	渡辺 俊博
西山 久代	井上 誠一	足立 泰彦

### 高校49期生 (平成9年3月卒業)

久保 彰男(主任)	足立 泰彦	篤本 俊治
裏垣加奈美	平井 文友	森田 薫
芳澤 裕之	原 常郎	山本 恵子
梅田美枝子	浜中 由朗	若林 勉
山下 宏明	大竹 葉子	味舌 寛治
山崎 政範		

### 高校45期生 (平成5年3月卒業)

藤本 務(主任)	田岡 耕治	鹿志和晶子
中路 彰	若林 勉	麻野 洋一
一谷 英晴	西村 正彦	山本 恵子
北川 一馬	川田 哲嗣	河原林育朗
広谷 良韶	氏田 秀明	原 常郎
桑高 伶子		

### 高校50期生 (平成10年3月卒業)

高雄 新三(主任)	佐藤 尚子	前橋 健司
平尾 恵夫	福島 元(主任)	川田 哲嗣
安場 敏	長橋 務	西山 兆子
岡野 良彦	高山さと美	畠山 剛雄
長枝 宏	渡辺 俊雄	

### 高校46期生 (平成6年3月卒業)

上杉 一暁(主任)	山下 宏明	大竹 葉子
井関 洋子	芳澤 裕之	大角 正弘
山口 憲美	岩井 恵子	甲田他寸志
武田 繁典	味舌 寛治	平尾 恵夫
長橋 務	佐藤 尚子	久保 彰男

### 高校51期生 (平成11年3月卒業)

長田 廣明(主任)	佐桑 光治	海江田千津子
津村 亜子	濱口 直巳	神山 達志
末松 真	仁田尾達二	松石 純代
岩城 俊雄	佐野 節子	三浦 元嗣
一谷 英晴		

### 高校47期生 (平成7年3月卒業)

岸田 佑史	山根 譲二	海江田千津子
永田 洋子	小林 主典	佐々木由紀子
赤坂 克也	藤井 吉雄	山口由美子
岡野 良彦	山崎 政範	長枝宏(主任)
岩城 俊雄	長田 廣明	永川 博志
佐野 節子		

### 高校52期生 (平成12年3月卒業)

山本 義厚(主任)	田口 梅屋	金川 武人
奥 登	芳澤 裕之	木本 直子
北宮 康史	渡邊 弘志	牧坂 孝則
森田 薫	山口由美子	

### 高校53期生

吉川 正幸(主任)	篤本 俊治	染川 隆俊
山本 恵子	尾崎 聡	溝口 博
大竹 葉子	木村 隆	岡 勝見
吉岡 宏	森尾 俊三(主任)	佐藤 尚子
濱 秀夫	海江田千津子	

### 高校54期生

安場 敏(主任)	前橋 健司	白崎 俊行
裏垣加奈美	岡野 良彦	手塚 律子
柴田 和久	清野 郁子	鈴木 康嗣
西山 兆子	末松 真	

### 高校55期生

岩城 俊雄(主任)	福吉 久代	望月 龍一
津村 亜子	濱口 直巳	山田 淑子
井上 博之	岩谷 礼子	山本 義厚
松石 純代		

(12) 校務分掌主担者一覽

	総務	教務	生徒指導	進路指導	自治会	図書	文化情報	コンピュータ	保健	同推委
平成元	井村	山根	藤本	岸田	山口(禎)	上杉		河原林	加納	三浦(元)
2	井村	山根	永川	岸田	山口(禎)	上杉		河原林	加納	三浦(元)
3	井村	山根	永川	岸田	澤田	原		河原林	広谷	三浦(元)
4	二敷	高雄	永川	佐桑	内藤	原		河原林	広谷	福島
5	二敷	高雄	伊敷	佐桑	内藤	原		中路	広谷	福島
6	二敷	高雄	伊敷	佐桑	内藤	上杉		中路	田岡	福島
7	長枝	一谷	永川	二敷	山口(由)	上杉		河原林	小林	岩城
8	長枝	一谷	永川	二敷	山口(由)	上杉		河原林	小林	岩城
9		一谷	永川	若林	山口(由)		篤本	三浦	小林	岩城
10		森田	山崎	若林	平尾		篤本	吉岡	浜中	平井
11		森田	山崎	若林	平尾		篤本		浜中	平井
12		森田	芳澤	金川	平尾		篤本		浜中	平井

→ 「文化情報」之改名

→ 「文化情報」と合併

(13) 現存するクラブ顧問主担者一覧 (ただし、平成元年度～平成十一年度在職者を記載)

文化 部

アマチュア無線

山根 譲二(理) 渡辺 俊博(理)  
安場 敏(理)

演劇

戎居 士郎(国) 鹿志和晶子(国)  
岩井 恵子(国) 海江田千津子(国)

写真

佐桑 光治(数) 井関 洋子(国)  
武田 繁典(理) 若林 勉(社)  
長橋 務(社)

書道

氏田 秀明(書) 田口 梅屋(書)

新聞

中村 明宣(国) 澤田 朗(社)  
岩城 俊雄(社) 安場 敏(理)

茶道

前田貴美子(国) 伊敷健二郎(社)  
西山 久代(国) 篤本 俊治(国)

美術

長谷田三保子(美) 長橋 務(社)  
福吉 久代(美)

吹奏楽

上杉 一暁(音) 福島 元(社)  
神山 達志(理) 松石 純代(社)

文芸

三善 貞司(国) 向窪 督(国)  
大今 歩(社) 西山 久代(国)  
佐野 節子(国) 海江田千津子(国)

放送

三善 貞司(国) 戎居 士郎(国)  
前田貴美子(国) 佐野 節子(国)  
佐藤 尚子(国)

軽音楽

長田 廣明(英) 森田 薫(数)

漫画研究部

木本 直子(英) 大竹 葉子(英)

運 動 部

合気道

氏田 秀明(書) 田岡 耕治(国)  
津村 亜子(国)

アメリカンフットボール

伊敷健二郎(社) 三浦 元嗣(数)  
柴田 和久(英)

剣道

加納 定昭(理) 芳澤 裕之(数)  
末松 真(理)

## 硬式テニス

赤坂 克也(理) 牧坂 孝則(体)

## サッカー

永川 博志(体) 濱口 直巳(体)

## 柔道

氏田 秀明(書) 山崎 政範(体)  
加藤 宏文(国) 西村 正彦(英)  
甲田也寸志(数) 森田 薫(数)  
奥 登(理)

## 水泳

藤本 務(体) 岩城 俊雄(社)  
尾崎 聡(数)

## 体操

松村 昌和(数) 岡野 良彦(数)  
田口 梅屋(書)

## 卓球

中村 明宣(国) 一谷 英晴(数)  
白崎 俊行(数)

## ソフトテニス

竹中 治夫(社) 松本 清(英)  
北川 一馬(社) 井上 誠一(英)  
高雄 新三(数) 森田 薫(数)

## バスケットボール

井村 英夫(理) 清水真知子(社)  
山下 宏明(社) 北川 一馬(社)  
長田 廣明(英) 足立 泰彦(理)  
渡邊 弘志(社) 篤本 俊治(国)

## バドミントン

伊原真利子(数) 佐々木由紀子(体)  
長枝 宏(社) 山口由美子(数)

## バレーボール

山口 禎(体) 松村 昌和(数)  
川上 幸雄(体) 足立 泰彦(理)  
三浦 元嗣(数) 浜中 由朗(理)  
山本 義厚(理)

## ハンドボール

山根 譲二(理) 澤田 朗(社)  
田岡 耕治(国) 福島 元(社)  
金川 武人(国) 鈴木 康嗣(理)  
濱 秀夫(数)

## 野球

麻野 洋一(体) 前橋 健司(体)

## ダンス

裏垣加奈美(体)

## ラグビー

藤本 務(体) 山口 禎(体)  
藤井 吉雄(国) 山崎 政範(体)  
溝口 博(体)

## 陸上競技

大角 正弘(体) 内藤 憲雄(体)  
山口 憲美(理) 半井 文友(国)  
森尾 俊三(理)

(14) 生徒自治会役員一覧

12		11		10		9		8		7		6		5		4		3		2		平成元年 (1989)		年度
後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	期
岡田友歩	齊藤信行	木内翔	木内翔	三木健	森村治	岡本研次	青木良貞	和寫優資	平林誠弘	丸尾昌弘	秋田涼子	秋田涼子	河野貞介	前田邦彦	樋口竜二	吉岡聡	樋口竜二	反麻美子	水越知	雪岡甲	森真理子	雪岡甲	中村明弘	執行委員長
吉田聡美	間晴苗	西敏明	山路洋平	首藤章之	藤田龍也	中條萌乃	和寫優資	東村義志	秋田涼子	森慶吾	大東郁希郎	山中雅之	西貞智子	雑喉新一	齋藤隆一郎	川谷建三	稲垣敦夫	森惠美	山口義裕	筒井雅子	筒井雅子	仁熊卓也	浜田百合子	議会議長

(15) P T A 役員一覧

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	平成元年	年度
木下公夫	野口亮	坂上晴一	加納進三	松村立子	織田豊石	毛芝正純	渡辺義隆	村田陽之	臺暢雄	日高綏子	青敬佑	P T A 会長
杉本彩二郎 中尾好美	岡本長恵 木下公夫	松原淑恵 野口亮	島林かよ子 坂上晴一	高寺啓子 加納進三	炭谷みどり 飯田修美	松下麗子 織田豊石	岡田俊子 岡田俊子	松村立子 土田敬子	渡辺義隆 武安雅子	村田陽之 岸本美知代	森繁寛 日高綏子	川村貴彦 副会長
林吉弘	海邊登美子 林吉弘	岡本長恵 林吉弘	島林かよ子 松原淑恵	高寺啓子	松村立子	松下麗子	日下部英里子	松村立子	土田敬子	臺暢雄	永礼繁子	會計
長橋務	上田治夫 長橋務	中尾好美 白崎俊行	中田光治 二敷寛治	田口雄一	西山久代	山口憲美	若林勉	山口雄一	赤坂克也	廣田久夫	佐桑光治	書記

(16) 体育祭 (1) 色別クラス編成

青	茶	赤	黒	黄	柑	水	紺	白	紫	黄緑	桃	灰	緑	グループ カラー
		3-7 2-6 1-3	3-9 2-7 1-4	3-3 2-9 1-11	3- <sup>4</sup> / <sub>8</sub> 2-5 1-1	3-11 2-3 1-5	3-1 2-2 1-10	3-10 2-1 1-8	3-12 2-12 1-7	3-2 2-8 1-2	3-13 2-10 1-12	3-5 2-11 1-6	3-6 2-4 1-9	元年度 (1989) 6/10 (土)
		3-7 2-9 1-6	3-10 2-12 1-12	3-12 2-1 1-3	3-8 2-6 1-10	3-11 2-2 1-9	3-5 2-7 1-4	3-2 2-10 1-2	3-9 2-3 1-1	3-3 2-4 1-11	3-6 2-5 1-7	3-4 2-11 1-8	3-1 2-8 1-5	2年度 (1990) 6/9 (土)
3-6 2-9 1-4	3-12 2-2 1-1	3-4 2-8 1-9	3-2 2-5 1-6	3-10 2-10 1-10	3-7 2-4 1-12	3-11 2-6 1-8		3-1 2-3 1-11	3-5 2-11 1-2		3-8 2-7 1-7	3-3 2-1 1-5	3-9 2-12 1-3	3年度 (1991) 6/9 (日)
3-7 2-2 1-3	3-2 2-5 1-1	3-12 2-12 1-6	3-8 2-9 1-10	3-10 2-7 1-7	3-11 2-6 1-9	3-6 2-3 1-5		3-1 2-8 1-8	3-5 2-10 1-12		3-9 2-1 1-2	3-4 2-4 1-4	3-3 2-11 1-11	4年度 (1992) 6/7 (日)
3-2 2-1 1-9	3-4 2-12 1-10	3-5 2-11 1-2	3-1 2-8 1-8	3-7 2-5 1-6	3-10 2-4 1-12	3-9 2-10 1-4		3-3 2-9 1-11	3-12 2-7 1-5		3-8 2-2 1-1	3-6 2-3 1-3	3-11 2-6 1-7	5年度 (1993) 6/11 (金)
3-5 2-8 1-4		3-9 2-6 1-5	3- <sup>1</sup> / <sub>12</sub> 2-7 1-7	3-2 2-10 1-2	3-10 2-5 1-8	3-11 2-4 1-9		3-4 2- <sup>1</sup> / <sub>9</sub> 1-10	3-3 2-12 1-11		3-7 2-3 1-6	3-8 2-11 1-1	3-6 2-2 1-3	6年度 (1994) 6/10 (金)
3-6 2-8 1-8		3-2 2-9 1-3	3-7 2-2 1-10	3-10 2-7 1-1	3-9 2-11 1-7	3- <sup>3</sup> / <sub>12</sub> 2-1 1-9		3-5 2- <sup>5</sup> / <sub>6</sub> 1-6	3-1 2-4 1-2		3-11 2-10 1-4		3- <sup>4</sup> / <sub>8</sub> 2-3 1-5	7年度 (1995) 6/9 (金)
3-10 2-1 1-2		3-7 2-2 1-6	3-3 2-6 1-9	3-5 2-5 1-4	3-11 2-4 1-1			3-2 2-7 1-5	3-1 2-10 1-8	3- <sup>8</sup> / <sub>9</sub> 2-8 1-3	3-6 2-9 1-10		3-4 2-3 1-7	8年度 (1996) 6/7 (金)
くじら 組		赤組	黒兵衛	Yellow Ishi	炎のオ レンジ	アクア マリン		vaportail 飛行機雲			桃源 雑技団		紫緑体	
3-2 2-4 1-9		3-7 2-9 1-3	3-1 2-8 1-5	3-9 2-7 1-4	3-3 2-3 1-2	3-10 2-2 1-6		3-4 2-5 1-8			3- <sup>5</sup> / <sub>6</sub> 2-10 1-1		3-8 2- <sup>1</sup> / <sub>6</sub> 1-7	9年度 (1997) 6/11 (水)
Blue planet		落赤星	黒判の ゴダイ ダンディ	黄面組	なっちゃん	最強 力水		驚きの白さ ミルクマン			ピンク パンサー		グリーン ジャイント	
3-7 2-5 1-7		3-5 2-1 1-1	3-2 2- <sup>4</sup> / <sub>2</sub> 1- <sup>2</sup> / <sub>4</sub>	3-8 2-7 1-10	3-4 2-8 1-6	3-3 2-9 1-5		3-6 2-6 1-9			3- <sup>9</sup> / <sub>10</sub> 2-4 1-3		3-1 2-3 1-8	10年度 (1998) 6/6 (土)
青島		チューリ ッパース	ブラック ベリー	笑顔ちゃん チーム				ホリデー その上			ピンク マッチョ		ウツミドリ ガドリ ミドリ	
3-6 2- <sup>3</sup> / <sub>6</sub> 1-7		3-3 2- <sup>4</sup> / <sub>5</sub> 1-9	3- <sup>3</sup> / <sub>7</sub> 2-9 1-6	3-4 2-7 1- <sup>1</sup> / <sub>4</sub>				3-2 2-2 1- <sup>2</sup> / <sub>8</sub>			3-8 2-1 1-5		3-5 2-8 2-10 1-3	11年度 (1999) 6/5 (土)



## (2) プログラム

	元年度 (1989)	2年度 (1990)	3年度 (1991)	4年度 (1992)	5年度 (1993)	6年度 (1994)	7年度 (1995)	8年度 (1996)	9年度 (1997)	10年度 (1998)	11年度 (1999)
100m・200m走 (予)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジュースびんびんレース	○										
1500m・400m走	○	○	○	○							
混合スウェーデンリレー (予)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
綱引き	○	○		○	○	○	○	○			
400mリレー(4×100m) (予)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
800mリレー(4×200m) (予)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
応援合戦part 1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
応援合戦part 2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PTAドリブルリレー	○	○	○	○							
クラブ対抗リレー	○	○	○								
玉入れ	○	○									
Various Runner	○										
100m・200m (決)	○	○	○	○							
混合スウェーデンリレー (決)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
400mリレー (決)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
800mリレー (決)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
色別リレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
借り人レース		○									
障害物リレー		○	○							○	
3人4脚リレー			○	○							
キャタピラレース			○								
騎馬戦				○	○	○	○	○		○	○
渦巻きリレー				○	○						
棒引き				○	○	○	○	○			○
33、333…Mリレー					○						
大縄跳び						○	○	○	○	○	
借り物競走						○	○	○			○
馬跳び							○				
200xm走								○			
サバイバル棒引き									○	○	
つながり太郎									○	○	
PTA競争									○		
クラブ対抗スプーンリレー									○		○
魔のトライアングル									○		
Human Bridge(改)(破)									○	○	
騎馬王決定戦									○		
棒たおし											○
三輪車リレー											○
パン食い競争											○
バトン競争											○
お玉リレー											○
台風の日											○

# 文化祭 (1) 参加団体

	元年度 (1989)	2年度 (1990)	3年度 (1991)	4年度 (1992)	5年度 (1993)	6年度 (1994)	7年度 (1995)	8年度 (1996)	9年度 (1997)	10年度 (1998)	11年度 (1999)
軽音楽部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アマチュア無線部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
漫画研究部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
文芸部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
写真部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
茶道部	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△
華道部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
書道部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
美術部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ブラスバンド部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
合気道部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
放送部	○	○	△	△	○	△	○	○	○	○	○
演劇部	ワイルド キャットハウス	夢のあと	不思議なクリスマス マスの作り方	○	○	○	○	○	夢から 醒めた夢	○	ロマンス 扉のこちら
天文部	○	△	△	△	△	△	△	○	○	△	△
点訳同好会	○	○	△	○	△	○	○	△	△	△	△
生物部	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△
将棋部	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△
鉄道研究会	○	○	△	△	△	○	○	○	○	△	△
新聞部	○	○	△	△	○	△	△	○	△	△	△
地学同好会	△	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△
K C C	△	△	△	△	○	○	○	○	△	△	△
ダンス部	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○
地歴部	○	○	△	○	△	△	△	△	○	△	△
クッキング部	△	○	△	△	△	△	○	△	△	△	△
自治会	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	△
P T A	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○
どんぐりアンサンブル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メイキング同好会	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△
ユネスコクラブ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△
女子バレー部	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○
職員(劇)	△	△	△	△	△	△	△	○	○	△	△
保健委員会	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△
生徒	△	△	△	△	△	△	△	△	沖縄○	△	△

# 文化祭 (2) テーマ・クラス出し物

年度 テーマ 学年 組	元年度(1989) 9/16-9/17 GO FOR BROKE 当たってくだけろ	2年度(1990) 9/22-9/23 天下無敵	3年度(1991) 9/14-9/15 Power	4年度(1992) 9/19-9/20 〇〇〇〇〇	5年度(1993) 9/18-9/19 DREAM
3年1組	バーコード 模	茶ん茶らおかし 模	カラオケBOX 模	「夢の国」 バ	中華風喫茶 模
2組	野外ステージ	涼風 模	野外ステージ	南町奉行 模	大黃門祭 ス
3組	御茶之子茶々 模	お祭り気分 バ	シェーン ス	門 野外展	白雪姫 ス
4組	こわい話 ス	東京コロッケ 模	ドミノ 展	ゴールデンボーイ ス	上映 映
5組	舞姫 ス	仮装 展	野外ステージ	和風亭かかし 模	野外ステージ
6組	野外ステージ	ウエストサイドストーリース	赤ずきんちゃん ス	西遊記 ス	野外ステージ
7組	あっかるい お店屋さん 模	レ・ミゼラブル ス	花鳥風月 模	門 野外展	シンデレラ ス
8組	ZOO IIカラオケ 模	〇データーランド 映	喫茶 模	またはもう一つのガ ラスの靴 ス	上映 映
9組	Aマイナー ス	カラオケ 模	バザー バ	お化け屋敷	白鳥麗子でございます ス
10組	消費税反対 野外展	コボちゃん バ	涼庵 模	おちゃめなTV 映	新撰組 ス
11組	ねるとん紅鯨団 模	トロピカルアイランド 模	喫茶 模	一休とゆかいな仲間たち ス	駄菓子屋 「遊ちゃん」 模
12組	バザー バ	ラッキーしまうま バ	サウンドオブミュージック ス	オブリガード 模	必殺仕事人 ス
13組	ストリーオブファイアー ス				
2年1組	UFO 野外展	クイズ	オズの魔法使い ス	アメリカの友情愛 映	ヨーヨーつり ゲ
2組	バザー バ	タージマホール 飾外展	バザー バ	お化け屋敷	くんち募金 野外展
3組	この店凶暴につき バ	白雪姫 ス	Can't buy me love ス	仮装行列	宝さがし ゲ
4組	伝記 映	立体的な世界地圖展	鎌田行進曲 ス	怒羅絵門 映	バザー バ
5組	よろずや バ	カラオケ 模	お化け屋敷 模	長崎くんち 展	上映 映
6組	北の国から ス	門 野外展	THE緑口 模	愛と友情の still love her	今はまだ16才だから ス
7組	カラオケ 模	一球入魂 バ	巨大ボーリング 野外展	中夜祭 ス	のみだおれ 模
8組	実にくまい 模	ベルサイユのばら ス	ディスカッション ゲ	完全純和風茶屋	ちんどん屋 模
9組	砂絵 展	ベルリンの壁 野外展	お化け屋敷	水戸黄門の愛 模	ダーツ バ
10組	憩いの広場 ゲ	お化け屋敷	イントロあてカラオケ ゲ	TIME ス	上映 映
11組	TORI 模	お化け屋敷	野外ステージ	バザー ス	プテラノドン 野外展
12組	観覧車 野外展	OKONOMIはうす 模	もくらたたき 模	友情とは何か バ	ウォーリーはどこだ 展
3年1組	凱旋門 野外展	ゲーム ゲ	氷屋 模	ミニ四駆レース 映	ウッキータウンの 事件簿 ゲ
2組	ラブコメディ 映	ゲーム ゲ	サザエさん ス	リオのカーニバル 展	喫茶「金色夜叉」 模
3組	海の家 模	大仏 野外展	なんちゃんを捜せ 展	熱気球 野外展	門 野外展
4組	ドッキリカメラ 映	自由の女神 野外展	7日間戦争 映	国旗ドミノ 野外展	スカーレット 模
5組	エッフェル塔 野外展	ピラミッド 野外展	壁面顔 野外展	愛の歌は地球を救う	バターダーツ ゲ
6組	お化け屋敷	白雪姫とゆかいな 仲間たち ス	モアイ 野外展	壁画 野外展	暗闇迷路
7組	迷路	どんぐりや 模	門 野外展	バザー バ	かき氷「南極」 模
8組	学校横断～省略～ SPECIAL ゲ	ピーターパン ス	たくあん 映	サザエさん ス	越後屋 バ
9組	門(街の門) 野外展	文句あんのか! 映	炎の誘惑 映	ちびまる子ちゃんの ラムネ 模	北京 野外展
10組	バザー バ	Road of destiny 運命の道 ス	ウエストサイドストーリース	ロミオとジュリエット ス	ドラえもん ス
11組	イントロクイズ 模	Do you like the Earth 展	夢から醒めた夢 ス	和菓子屋くりちゃん 模	お化け屋敷
12組	迷路	ブッチーニ 模	どっきりカメラ 映	緑川バザー 模	バターゴルフゲーム ゲ

年度 テーマ 学年 組	6年度(1994) 9/16-9/17 achievement	7年度(1995) 9/21-9/22 礎	8年度(1996) 9/21-9/22 革命	9年度(1997) 9/20-9/21 赤	10年度(1998) 9/19-9/20 大坂	11年度(1999) 9/18-9/19 テーマなし
3年1組	パロディー 映	王様のレストラン	混浴 横	マッスル喫茶 横	中夜祭	合唱 ス
2組	一休 ス	血みどろボカボンタ 映	ハレンチ高校白書 映	タイマン屋 ミニサッカー 横	サンノニ ス	地獄甲子園 横
3組	バザートライアングルバ	GAME 映	だかし屋グリコ 横	政略結婚 映	勝訴それに至るまでス	卓球喫茶「たま」 横
4組	ちんどん屋 横	ほなみ亭 ベビーカステラ 横	ホストクラブ 大学入試センター 横	高校生日記 ス	なっちゃん 横	Special Project of 3-4 ス
5組	門 野外展	らーめん 横	いたずらになりかけ 映	池モロッコ添えと かご屋 横	人魚姫アリエル物語 ス	タコ三昧 横
6組	プロジェクトA ス	クイズビデオ 映	創作ビデオ 映	カラオケ ナオコの卓球道場 横	気球あげ 野外展	東ティモール 独立戦争 ス
7組	桃太郎 ス	ルパン三世 ス	時間どろぼう ス	ロミオとジュリエット ス	MAHARAJA 横	合唱 ス
8組	緑日バザーいわき組バ	ゲーム ゲ	ペットボトル 野外	VTR 映	・大事 横	中夜祭
9組	三つの物語 映	お化け屋敷	アクションプリケ 横	太陽に吠えろ ス	しんじのおいなり 牛丼亭 横	恋と木皿と観覧車 横
10組	映像ゲーム 映	JUNGLE ゲ	美女と野獣 ス	生女房 お化け屋敷	麵屋節子 横	
11組	じゃりん子チエ ス	ガレージセール	カニむかし ス			
12組	巨大折り鶴 野外展	カレー伊勢屋 横				
13組						
2年1組	お化け屋敷 ジョニーの部屋	中夜祭	カジノと喫茶 まいなあ 横	濱口さん宅の お化け屋敷 横	北斗の拳 横	ザ・お化け お化け屋敷 横
2組	バザー バ	こちら港区88分署 ス	平尾邸 横	合唱TTBB ス	梅屋のお化け屋敷	オカムラ・ダガシ'99 横
3組	お化け屋敷 ドロンバ	だんご屋 アラジン 横	門 野外展	いらっしゃい 横	手作り屋 横	濱焼 横
4組	水戸黄門 ス	ジュエチャー ゲ	土田ササベス劇場 映	もののけ姫 横	休憩所 横	マッ風坊 横
5組	中華屋梅屋 横	体力測定 ゲ	学級閉鎖	写真屋 横	お化け屋敷	お茶処 まぐろ漁船 横
6組	気球 野外展	焼きそば アラジン 横	オリエンテーリング 迷路	リフレッシュストア 横	ウェディングベル 横	筋肉番付 Develop your muscle 横
7組	ピザ餅 横	マカオ 横	ひと夏の思い出 映	昔汁Nガッツ松石 横	Photo revolution 写真屋 横	新撰組 ス
8組	ジャミラの部屋 野外展	人間バドック ゲ	駄菓子屋だがや 横	べていず ぶるう 横	聖闘士星矢 展	灰かぶり ス
9組	写真看板 野外展	お化け屋敷	日本第一号店 横	中夜祭	写真屋ババラッチ 横	喫茶モンゴル相撲 横
10組	だかしや 横	巨大空間壁画 野外展	ゲーム大会 ゲ	レモンティー写真屋 横		屋敷 お化け屋敷
11組	体力測定ゲーム ゲ	中夜祭				
12組	パッチワーク 野外展					
3年1組	焼き鳥 横	一休さん ス	お菓子屋 ふっきす堂 横	THE梅屋& フリーマーケット 横	水入りマリゲト屋 横	Photo Balloom 写真屋 横
2組	プラネタリウム 展	お化け屋敷	ダンクワールド お化け屋敷	ルミイ 横	げ〜むキング 横	ホントの ヤシノバ白崎風 横
3組	トムとロバート ス	門 野外展	甘味処つむらや 横	ヘアペインティング 横	ふうせんマー坊 横	夕涼み会 緑日風船 横
4組	サザエさん ス	たこ焼たこの壺 横	フリフリフリー マーケット バ	ザビギングオブ ラブモギーズ 横	F's mily shop 横	バタアシ金魚 映
5組	喫茶DOGEZA 横	巨大池高バッチ ドラえもん 展	中夜祭	ダークセメタリー お化け屋敷	お化け屋敷 何か妖怪?	Pass Each Other 映
6組	中夜祭	巨大熱気球 野外展	でっかい迷路	うおっつ!! たまらんの館 横	アラジンと 魔法のランプ ス	古いロバのカメラ屋 横
7組	ウエストサイドストーリー ス	巨大池高 バッチ 野外展	自由の大仏 野外展	北の国から ス	大坂城 横	えんにち 横
8組	バザールでゴザール バ	お好焼きひと休み 横	やってみ〜 ゲ	風船屋 横	ふわふわく 風船屋さん 横	探偵! 昼のスクープ 横
9組	せんべいまつりや 横	北斗の拳 ス	吉畑任三郎の 機関車の陰謀	レップ飲みにケーション カジノ 横	誰もいない教室 映	お化け屋敷 インスタントホラー 横
10組	砂絵 野外展	ゲゲゲの鬼太郎 ス	キン肉マン ゲ		ロミオとジュリエット ス	
11組	緑日夜店 ゲ					
12組						



## 池田高校体育祭2000

チームカラー	桃	赤	橙	黄	緑	青	黒
チームネーム	鮫肌男と桃尻女	フラメンコ	オレン人	浅忍	ミドリックス	ブルースリー	クロマティ
クラス	3-4	3-9	3-5	3-1	3-2	3-10	3-6
	2-4	2-2	2-1	3-8	3-7	2-6	3-3
	2-9	2-5	1-2	2-8	2-7	1-1	2-3
	1-7	1-6	1-9	1-4	1-8	1-3	1-5

- |            |              |
|------------|--------------|
| 1. 開会式     | 一昼休み         |
| 2. 100m走   | 11. 応援合戦     |
| 3. 200m走   | 12. クラブ対抗リレー |
| 4. 棒引き     | 13. 台風の日     |
| 5. キャタピラ   | 14. 2人3脚リレー  |
| 6. 800mリレー | 15. 大縄跳び     |
| 7. 400mリレー | 16. 騎馬戦      |
| 8. 棒倒し     | 17. 色別リレー    |
| 9. パン食い競争  | 閉会式          |
| 10. 団旗競争   |              |

初代：アクアマリン  
 二代：黄面組  
 三代：うつみみどりがよりどりみどり

### 2000体育祭運営部メンバー

- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 3-8 糠野美都子 | 3-2 新町 仁美 | 3-3 橋詰めぐみ |
| 3-4 池滝千鶴子 | 3-4 黒井 裕  | 3-4 田中 美穂 |
| 3-4 辻本ゆりね | 3-6 岸田 淳平 | 3-7 上里奈央子 |
| 3-7 木内 翔  | 2-3 尾西 浩明 | 2-3 中西 孝博 |
| 2-4 岡田 友歩 | 2-4 黒田裕美子 | 2-6 藤分 祥子 |
| 2-8 荒木 良唯 | 2-8 斎藤 信行 | 1-1 大西 佑五 |
| 1-2 田中 史弥 | 1-6 片山 優介 | 1-9 高安 一矢 |

製作：体育祭運営部  
表紙製作：美術部

# 2000年文化祭プログラムより(9月16日(土)・17日(日)実施)



## 2000文化祭運営部MEMBAR

2-8 荒木 良唯 2-3 尾西 浩明 2-3 中西 孝博  
 2-4 岡田 友歩 2-4 黒田裕美子 2-6 藤分 祥子  
 2-8 斎藤 信行 1-1 大西 佑五 1-2 田中 史弥  
 1-6 片山 優介 1-9 高安 一矢

## SPECIAL THANKS!

3-3 橋詰めぐみ 3-4 田中 美穂 3-7 木内 翔  
 3-8 穂野美都子

## 企画紹介

団体名	タイトル	場所	種類	PR文
1-1	高校生日誌	中館1F	上映	この映画は100%アクションです!! だまされたと思ってみにきてみる!!
1-2	勢い	体育館	後夜祭	勢いで大変な後夜祭をやることにりましたが、テンション上げ気味に何とか、勢いで…!
1-3	お化け屋敷	北館2F	お化け屋敷	心臓の弱い方はご注意ください。絶対後悔させます。
1-4	お化け屋敷	北館2F	お化け屋敷	とにかく怖い!!! そして面白い!!! のうべきことはこれだけだ。とんとん奇譚で楽しい1-4
1-5	絶し系どん!!	本館2F	ゲーム	遊ばれない大人歓迎!後夜祭でおなじみの輪投げや射撃等、色々あります。一回のぞいて下さい
1-6	肺活量	本館2F	展示	1年6組はバルーンをふくらまして犬やキリンなどの動物を作ります。是非見に来てください!
1-7	IWGP・石塚西公園	中館1F	上映	うわーこれなんやねん!!?これロシジュリ?ああ、現代版か!!?ロンドンボース参上!!?
1-8	サザエさんと夏の2作上映	中館1F	上映	今か何タヨささえさん見なくてとおする学園推理物語Hey いらんかい
1-9	激カラ☆キャンパス・アイ	本館4F	ゲーム	いつも音楽で我愛しているこの君!!おもしろい歌いたいなら激カラ☆キャンパス・アイGO!!
2-1	赤ずきんちゃん	体育館	体育館ステージ	時は、1998年、暴力と恐怖に支配された世界に咲く、一輪の花「赤ずきんちゃん」をよろしく

Yは全券使用企画

## 企画紹介

団体名	タイトル	場所	種類	PR文
2-2	天夜湾屋 てんやわんや	本館3F	ゲーム	楽しいゲームが盛りだくさん!!米場者に特製うちわプレゼント!! ☆図書券やCD券が当たる!!
2-3	ロミオ + ジュリエット	体育館	体育館ステージ	世界中で、もっとも自由のない悲しい恋の話、それが、このロミオ + ジュリエットの話です。
2-4	合唱	体育館	体育館ステージ	全員音楽選択者による感動のハーモニー。3種類の音楽計4曲の合唱。心に響く調べをぜひ!!
2-5	カジノ (casino)	本館3F	ゲーム	カジノならではのゲームのほか、ビンゴもやっちゃいます。景品もゴウカ!!一度遊びなさい。
2-6	ピンポンカフェ	本館2F・3F	喫茶模擬店 Y	上の階で卓球をして、下の階ではジュースやアイスを食べれる楽しい「ピンポンカフェ」!!
2-7	絶壁	北館2F	お化け屋敷	「高い!楽しい!怖い!あゝ怖い!」 あゝ何という絶壁だあゝ!!!
2-8	幹夫ワールド	グラウンド	ゲーム	遊園地をめぐっていたはずが、つづのまにかただの終日に…でも来てね。
2-9	喫茶 シン・tea	本館3F	喫茶模擬店 Y	シン・teaでは冷たい飲み物をいっぱい用意して皆さんをお待ちしています。ぜひお気軽にどうぞ。
3-1	合唱	体育館	体育館ステージ	聞きます。あなたの心に響く歌。これで2000年までのあなたの罪に償悔をしてみよう。
3-2	キムウエイ	中館2F	調理模擬店 Y	ホホドックと定番メニューですが、味はかなわないのでよろしくお願います!!

Yは全券使用企画

## 企画紹介

団体名	タイトル	場所	種類	PR文
3-3	2000年 ソノから 宇宙へ	中館2F	調理模擬店 Y	2000年最後の激ウマ☆キツウマ。フースとそばと具の絶好なハーモニー。♪食べなさい♪頂きましょう
3-4	BLUE SPRING ～青春～ 2000	体育館	体育館ステージ	作詞作曲あり、みなさんご存心ダンス・モデルあり。みなさんの青春応援します
3-5	後夜祭	体育館	後夜祭	今年の後夜祭は体育館で大フューチャー!!おもしろい!!最後には商品券がもらえるから☆☆☆☆
3-6	シャッターチャンス!	本館2F	展示	究極の自己満足企画!!絶し系写真展覧会!!遊ばれないから、見ないけど、見て下さい
3-7	「濱ちゃんの安らぎ」	本館2F	喫茶模擬店 Y	今の人生に疲れているあなた!この喫茶「濱ちゃんの安らぎ」で、時の安らぎを!
3-8	合唱	体育館	体育館ステージ	ビートルズ、ゆず、カンダリ、ロードの英語版の3曲を、見事なハーモニーで、手拍子よろしく!
3-9	うまめんこ	中館1F	調理模擬店 Y	茶はコシセカリ。水はアルプスの天然水使用。うまい、安い、はぐい。
3-10	人生相談室	本館2F	模擬店 Y	悩みをのり人間たちよ、その罪をなださなさい。人生のアドバイス。ササエたちがお相手いたします。
放送部	部長のジュテーム?	中館1F	上映&放送	放送部の部長の一夜の経験や思い出を本人が語ってくれる放送にご注目!
美術部	ART	門&渡り廊下	展示	美術部全員で頑張って作った門を、ぜひ見て下さい。また、高校生の作品を展示しています。

Yは全券使用企画

## 企画紹介

団体名	タイトル	場所	種類	PR文
書道部	書道部展	書道室	展示	少人数にもかかわらず、内容の濃いものに仕上げたので、ぜひ、見に来て下さい。
60周年	60周年記念展示	本館3F	展示	池田高校60年の歩みを写真・新聞・各時代の遺品の展示によって紹介。
PTA	60周年PTAバザー	本館3F	展示&模擬店 ¥	バザー収益金は記念行事の寄付となります。現金のみの取り扱いです。作品も展示しています
文藝部	文藝屋「地球儀」	本館3F	模擬店 ¥	今年も部誌を販売します。テーマは「宝石」。あなたにヒカる宝石を、ちよっと探しに来ませんか?
漫研	あんまん	本館3F	模擬店 ¥	注、食べ物屋ではありません。イラスト・部誌・集書等とりそろえております。まずはご覧あれ。
茶道部	茶道ミレニアム2000	作法室	調理 模擬店 ¥	2000年に一度のお茶会!2000年に一度の味!!今年も損はさせません。今すぐ作法室へ。
合気道部	合気道演武	体育館	体育館ステージ	飛び散る汗!みなぎる闘志!!そして今、翁が覚醒する...どうご期待
女子バレー部	女バレダンス!	体育館	体育館ステージ	今年もやってきたバレー部ダンス!大好評ラインダンス今年もありません!絶対見に来てね♡♡
吹奏学部	AUTUMN CONCERT inミレニアム2000	体育館	体育館ステージ	皆さんが一度は耳にしたことがあるような曲を集めました。楽しんでお聴きください!!
ダンス部	池高☆マジック	体育館	体育館ステージ	JAZZ、HIPHOPなどいろいろなジャンルに挑戦します。

¥は金券使用企画(PTAのバザーは現金のみ)

## 体育館ステージ～スケジュール～

16日(土)			17日(日)		
開始	団体	タイトル	開始	団体	タイトル
9:30	2-4	合唱	9:30	2-1	赤ずきんチャン
9:50	2-3	ロミオ+ジュリエット	10:00	3-8	合唱
10:20	3-4	BLUE SPRING ~青春~	10:20	女子バレー部	女バレダンス!
10:40	ダンス部	池高☆マジック	10:40	3-1	合唱
11:15	3-1	合唱	11:00	合気道部	合気道部一演武一
11:35	2-1	赤ずきんチャン	11:45	3-4	BLUE SPRING ~青春~
12:05	女子バレー部	女バレダンス!	12:05	ダンス部	池高☆マジック
12:30	3-8	合唱	12:35	PTA	どんぐりコーラス
12:50	吹奏学部	AUTUMN CONCERT inミレニアム2000	12:55	2-3	ロミオ+ジュリエット
～終演～			13:25	2-4	合唱
			13:45	吹奏学部	AUTUMN CONCERT inミレニアム2000
			～終演～		

## 企画紹介

団体名	タイトル	場所	種類	PR文
PTA	どんぐりコーラス	体育館	体育館ステージ	お母さんどんぐりコーラスです。今年には体育館舞台2年目、聞いてね!
軽音楽部	軽音ライブ	視聴覚	ライブ	今年もやる軽音ライブ!暇な人はどしどし見に来て欲しいなー。
ユネスコ同好会	ココがヘンだよ日本人 in池高	本館3F	TALK	外国人の方と池高生の熱いトークバトル。あなたもこの迫力にのみこまれることまちがいなし。

## 喫茶・調理模擬店

模擬店	場所	日時
喫茶	本館2F・3F	16日(土) 11:00~15:00 17日(日) 11:00~14:00
調理	中館1F・2F	17日(日) 11:00~14:00

## 軽音楽部 場所一視聴覚室(中館3F)

16日(土)

時間	バンド名
10:00	Love&Peace 3-10 岸 綾子
10:30	Funny Girl Friend 1-1 鈴木
10:50	U-200 XXX @featuring.FH.ne.jp 3-6 川西
12:30	ラルクのKen-chan's 2-2 村上 翼
13:10	電動オレンジ 2-7 小松山美恵
13:55	甲田ジュネレーション 2-3 田中 良和

17日(日)

時間	バンド名
9:15	U-200 XXX @featuring.FH.ne.jp 3-6 川西
10:10	SPS 3-2 貝谷 佑介
10:50	Love&Peace 3-10 岸 綾子
12:05	ザ・牧田 3-10 牧田
12:45	Anne's 3-6 森下 知咲
13:05	Eve 3-8 田中 玲奈
13:40	MOTHERS 3-8 山本 真子

## 上映 場所一化学講義室(中館1F)

16日(土)・17日(日)

時間	クラス・クラブ名	題名
10:00	放送部	
11:00	1-8	「サザエさんと夏の2作上映」
12:00	1-1	「高校生日誌」
13:00	1-7	「IWGP・石橋西口公園」
14:00	放送部	

## 創立60周年記念行事概要

### 1 記念式典

日 時 平成12年11月11日(土) 午前10時開式(9時30分より受付)

場 所 豊中市立市民会館大ホール

#### 第一部

ビデオ上映	●50周年記念式典時のスライド上映より
オープニング	●ファンファーレ吹奏楽部
校歌斉唱	●池高コーラス部OB会・生徒・教職員
開式の辞	●教頭
実行委員長挨拶	●藤井敏男 実行委員長
学校長式辞	●清水秀司 校長
来賓祝辞	●網倉尚武 大阪府教育委員会理事兼教育振興室長
来賓紹介	●教頭
祝電披露	●司会
記念事業披露	●実行委員長・校長
記念品紹介・協力者のことば	●協力施設団体代表：工房風花
先輩からのことば	●国司晴相 承風会副会長
生徒代表のことば	●岡田友歩 生徒自治会執行委員長(後期)
閉式の辞	●木下公夫 PTA会長

#### 第二部

吹奏楽	●池高吹奏楽部
ソプラノ独唱	●氏家美紀(高34期)
ピアノ独奏	●伊藤礼子(高33期)
混声合唱	●池高コーラス部OB会

### 2 祝賀会

日 時 平成12年11月11日(土) 午後1時30分開宴(1時より受付)

場 所 池田市民文化会館



### 3 記念事業

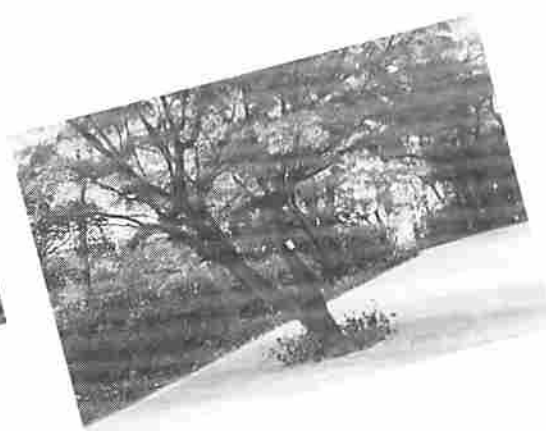
- ・校内緑化とコミュニティ・ゾーンの造成  
食堂横テラス・食堂横への通路「森の小径」・  
正門横グラウンド側緑樹帯整備  
起工式……平成12年7月31日（月）午後3時  
施行：山本定樹園（山本 浩巳氏・高10）  
協力：マツオ・コーポレーション（西分均氏・高29）



「正門横緑樹帯」



「森の小径」



食堂横テラスコミュニティゾーン

- ・池高人材バンク  
本校の教育活動支援のためのボランティア活動にご協力いただける方を募集。  
平成12年9月20日現在 20名登録
- ・記念品 「2001年 ころもふれあい Calendar」の作製  
カレンダー図案： 山本 一馬（高49）  
協力団体：記念品作製趣旨・協力いただいた養護学校・施設・作業所の頁参照
- ・タイムカプセル埋設  
創立60周年を記念し、生徒の自由な発想や夢、池高の歴史を  
未来に託すために正面横の森に埋設する。
- ・教育文化活動基金の設立  
池高人材バンクの運営や生徒の教育文化活動の  
奨励を支援するために基金を設立する。



### 4 記念誌発行

3,000部印刷、A4版 150ページ

## 5 創立60周年行事運営組織委員一覧

実行委員長	藤井 敏男	(承風会代表・高9)
顧問	清水 秀司	(校長)
	井上 博昭	(前校長)
副委員長	磯部 孝彦	(承風会会長・高14)
	佐茂 孝司	(後援会会長・高6)
	柳谷 徳次郎	(PTA OB会会長)
	木下 公夫	(PTA会長)
	中井 弘一	(教頭)
実行委員会		
実行委員長	副委員長	
承風会	中山 正義	(承風会評議員・高9)
	国司 晴相	(承風会副会長・高9)
PTA OB会	坂上 晴一	(平成10年度PTA会長)
	野口 亮	(平成11年度PTA会長)
PTA	中田 光治	(平成11年度PTA副会長)
	中尾 好美	(PTA副会長)
学校	林 吉弘、浜中 由朗、森田 薫、平尾 恵夫、篤本 俊治、氏林 操、 田口 梅屋(雄一)、岡野 良彦、末松 真、芳澤 裕之	

### 専門委員会

総務委員会	委員長：中井 弘 ・ 副委員長：磯部 孝彦	
承風会	国司 晴相	
PTA	坂上 晴一、野口 亮、木下 公夫、中尾 好美、上田 治夫、宇高 幹彦	
学校	林 吉弘、浜中 由朗、福吉 久代、佐藤 節子、前橋 健司、吉岡 宏	
式典委員会	委員長：森田 薫 副委員長：野崎 信義(高14)、板谷 悦子	
承風会	堀川 登美(高6)、丹波 美智子(高8)、田村 節子(高9)	
PTA	石川 広子、板谷 悦子、海邊 登美子、上田 栄子、初田 智江	
学校	平尾 恵夫、岩城 俊雄、尾崎 聡、武本 敬子	
記念誌委員会	委員長：篤本 俊治 副委員長：宮下 登代(高14)	
承風会	梅澤 悦郎(高26)、友國 武(高27)	
PTA	一九 隆壽、猪熊 マサ、岡本 長恵、伊藤 智代、及川 成子	
学校	氏林 操、裏垣 加奈美、奥 登、長橋 務、森尾 俊三、安場 敏、平井 文友	
記念事業委員会	委員長：田口 梅屋 副委員長：中田 光治	
承風会	高橋 正人(高29)、奥野 康俊(高36)、秋田 涼子(高49)	
PTA	奥 乃扶子、子安 ひろみ、寺戸 月美、杉本 彩二郎、一井 真理子	
学校	岡野 良彦、菊池 美奈子、末松 真、仁田尾 達二	
祝賀会委員会	委員長：磯部 孝彦 副委員長：野口 亮	
承風会	丹波 美智代(高8)、田村 節子(高9)、松本 純子(高14)、野崎 信義(高14)	
PTA	島林 かよ子、松原 淑恵、白川 千代子、福田 淳子、西屋敷 敏子、 津田 知子	
学校	林 吉弘、芳澤 裕之、北宮 康史、溝口 博	
行事委員会会計	林 吉弘 会計監査：国司 晴相、中尾好美	

## 「2001年 こころ ふれあい Calendar」作製趣旨と謝辞

創立60周年記念行事実行委員会では、創立60周年記念品として、21世紀となる新しい時代に、在校生、卒業生、教職員や保護者の皆様が、地域の人々と豊かなコミュニケーションをお互いにとりあって、地域に根ざし、社会に貢献するという新しい校風の創造を生み出すものを作製しようと企画いたしました。

私たちは、地域の養護学校、施設、作業所に通われている障害のある方々に、記念品作製趣旨の説明を添え、直筆の書や絵画などの制作をお願いしました。

出来上がりました書画の一つ一つを、創立60周年記念カレンダー台紙に一枚ずつ、制作者（名前を添付することに許可を得た方）のお名前を附して貼り、一点ずつが異なる、「2001年 こころ ふれあい Calendar」を作製しました。それが本記念品です。

制作していただきました、印刷物ではない直筆の書や絵画の真率な表現は、それを受け取られた人に、深い感動を与えるとともに、こころの豊かさとは何なのかを改めて考えさせ、これから始まる新しい世紀に立ち向かっていける「生きる力」をはぐくんでくれることと思います。

私たちはこれを第一歩として、人と人、人と自然とが共生する社会をめざして、真にこころ豊かな新しい時代を切り拓いていきたいと考えます。

ご協力いただきました養護学校、施設、作業所の一覧を右記に掲載させていただきます。ご協力を賜りました方々にこころからお礼申し上げます。

大阪府立池田高等学校創立60周年記念行事実行委員会

## ご協力いただきました養護学校・施設・作業所一覧

○大阪府立豊中養護学校	豊中市北緑丘2-7-1	06-6840-1801
○大阪府立箕面養護学校	箕面市船場東3-15-1	0727-28-1245
○あすか作業所	豊中市蛭池東町3-15-32	06-6845-7771
○ぷくぷくグループ夢工房	豊中市蛭池北町1-6-14	06-6853-1580
○とっばい	豊中市柴原町1-3-16	06-6844-1081
○フィールドワーク作業所	豊中市蛭池南町3-6-12	06-6843-4113
○工房 風花	豊中市箕輪2-2-13	06-6843-1709
○作業所 みどり	豊中市勝部3-3-8勝部ビル2F	06-6846-7610
○セブン アンド チェリー	豊中市宝山町6-4	06-6843-4355
○ブルースカイ	豊中市本町4-9-26	06-6857-6388
○糸をかし作業所	豊中市服部寿町3-18-12	06-6868-2153
○セント・ポプリ	豊中市島江町1-3-1-102	06-6332-4090
○簡易通所授産所 すくらむ	豊中市服部寿町5-126-1	06-6863-0441
○たんぼぼ	豊中市服部寿町5-126-1	06-6862-1192
○第1豊中障害者共同作業所	豊中市服部西町5-17-3	06-6862-2219
○第2豊中障害者共同作業所(工房羅針盤)	豊中市粟ヶ丘町2-6	06-6866-4895
○第3豊中障害者共同作業所	豊中市曾根南町2-13-29 コーポ仙1F	06-6862-3850
○第4豊中障害者共同作業所	豊中市服部西町4-3-28 プリムシヤトレ1F	06-6862-6171
○第5豊中障害者共同作業所<工房モコ>	豊中市中桜塚2-2	06-6848-0007
○あさひ会作業所	豊中市庄内寺町2-19-32	06-6334-7926
○第二あさひ会作業所	豊中市庄内幸町2-26-7	06-6333-3098
○かるがも広場	豊中市旭丘1-107	06-6848-3811
○ハーモニー	豊中市旭丘10-114	06-6855-8688
○あすなろ工房	豊中市上新田2-10-3	06-6872-7336
○ゆうかりの家	豊中市夕日丘3-10-17	06-6852-1859
○サークル曾根 作業所	豊中市南桜塚1-22-7-201	06-6857-3424
○作業所 ゆめ	豊中市長興寺南4-10-45-103	06-6863-0608
○よーいドン	豊中市蛭池中町1-3-15	06-6852-5946
○YSセンター	豊中市岡上の町2-5-28 谷田ビル203	06-6855-3970
○西丘サークル	豊中市原田中1-9-13	06-6845-0681
○ポップコーン	豊中市曾根西町2-11-13	06-6846-4666
○コスモス豊中作業所	豊中市小曾根2-3-44	06-6334-9730
○ドリームハウス作業所	豊中市服部元町1-14-25	06-6865-5955
○はんもっく	豊中市豊南町南2-6-35	06-6333-2252
○AZ	豊中市大黒町3-15-11	06-6334-7021
○クレヨン	豊中市庄内西町2-3-5	06-6335-5121
○レインボー	豊中市稲津町2-11-5	06-6862-6178
○作業所 すばる	豊中市宮山町1-15-4	06-6853-5749
○のぞみ園	豊中市春日町3-1-41	06-6843-6666
○ゆたか	豊中市春日町1-5-3	06-6853-8415
○であいランド	豊中市春日町3-6-8	06-6845-4618
○みとい製作所	豊中市勝部3-1-10	06-6849-5651
○バムスびあ	豊中市北桜塚3-8-26 リブレ北桜塚B102	06-6850-0447
○池田市立くすのき学園	池田市五月丘1-9-12	0727-53-8558
○東山作業所	池田市東山町589	0727-52-0003
○秋山工作所	池田市神田4-27-6	0727-53-0099
○くりのみ園	能勢町下田尻20	0727-35-2212
○ボランティアグループみんなで	能勢町森上233	0727-34-4115
○夢来人の家	能勢町森上138-2	0727-34-2586

20・30・40・50周年記念誌目次執筆者一覧

20周年

目でみる二十年	学 校 長	秋 山 敏 造
二十年をかえりみる	実行委員長	上 島 恒 造
この日を迎えて		
沿 革		
二十年のあゆみ		
	編集責任	大 川・高 木
歴代校長の言葉	初代校長	岩 田・矢 野
	二 代	岡 本 静 雄
	三 代	庄 木 茂 八
	四 代	佐々藤 安 久
思 い 出 草	田 職 員	後 藤 子 睦 夫
		金 尾 上 恒 雄
		奥 村 和 夫
		寺 田 正 一 郎
		宮 田 明 夫
		藤 道 雄 郎
	教 頭	大 川 三 健 郎
	旧 職 員 論	尾 崎 崎 勝 三 次
		山 崎 木 隆 郎
		高 岩 田 久 雄
年 輪	中 1	岩 野 津 田 三 朗
	中 2	野 中 野 本 慶 之 道
	中 4	山 四 方 達 也
	中 5	井 村 英 夫
	高 2	原 谷 和 武 覧
		谷 口 洋 一
	高 3	木 下 正 利
		山 中 英 男
		松 下 七 ッ
		石 沢(内海)小 枝 子
	高 4	長 手 功
		細 見 英
		藤 原 晴 江
		桑 木(上坂) 琢 子
	高 5	阿 閉 成 美

高 6	西 田	進
高 7	中 谷	孝
高 8	垣 内	子
高 9	梶 山	勝
高 10	横 尾	夫
	九津見	明
高 11	海 老	泰
高 12	久保田	讓
3 年 生	木 藤	之
2 年 生	石 田	子
旧 職 員	尾 上	恒 雄
	森 田	武 躬
	宮 上	明 夫
P 現	大 岩	恒 造
T 職	高 岡	三 郎
A 員	加 羽	久 隆
卒 中 1	山 本	毅 一
卒 中 2	安 本	重 啓
卒 中 3	井 居	家 道
卒 中 5	砂 村	英 洋
卒 中 8	川 佳	夫 世

座談会この二十年を想う

統計のページ  
 二十周年記念事業概観  
 編集後記

岩 田・高 木  
 矢 野・岡 本  
 加 藤・山 本

## 30周年

而立今ここに	学 校 長	高 谷 重 夫
	実行委員長	上 島 恒 造
学び舎さまざま		
われらが日々		
青春に悔いなし—クラブ活動		
沿革/校章/校旗/校歌		
消えていった校舎と風景		
池高生の夢を育てた思い出の場所/ その施設の変遷		
歴代校長		
20年以上勤続教職員		
文 書		
その年輪をふり返る		
校史を飾る名選手・名チーム		
池高文化を咲かせた人たち		
異色ある卒業生		
職 員		
歴代P T A会長		
承風会の歩み		
30周年記念事業概観		
30周年記念事業実行委員会		
編集後記		三 善・篠 田

## 40周年

碑文「承風」	実行委員会	
池田40周年を迎えて	実行委員長	有 田 稔
学びの日々		
沿革/校章/校旗/校歌		
思い出の池高史		
第1章秘話		
第2章事件		
第3章人物		
第4章年輪		
第5章環境の変遷		
池高と私	第10代校長	西 田 驍 夫
	P T A会長	岩 中 俊 郎

元PTA会長	高橋義久
後援会会長	柴田匡
在校生	市田美加子
旧職員	大川三郎
旧職員	高木隆
旧職員	高岩田久郎
旧職員	菅千代子
高3	木村敬
高3	益子智夫
高17	二十軒起夫
高25	田中正樹

歴代学校長/PTA会長/承風会会長  
 現職員  
 旧職員  
 卒業生数  
 編集後記  
 旧制池田中学校模型

井村・三善・篠田

## 50周年

ごあいさつ

学校長  
 実行委員長

人位昇  
 岡本直文

池高の四季  
 スクールライフ  
 沿革  
 校旗/校歌/校章  
 心のスナップ  
 全国制覇[運動部]  
 校史を飾る名選手・名チーム  
 池高文化を咲かせた人たち  
 文書  
 歴代校長  
 職員  
 承風  
 編集後記

井村・氏林・一谷



## 編集後記

- この記念誌を編集した分担は、およそ以下のとおり
  - ・森尾、岡本－各期の歩み
  - ・長橋－この十年の年表、自治会この十年
  - ・安場、梅澤－クラブ活動この十年
  - ・裏垣－資料・統計
  - ・平井、友國－座談会
  - ・奥、(北坂)－「池田五十年史」略
  - ・氏林、宮下－「卒業生」本校の思い出
  - ・篤木、猪熊、一丸、伊藤、及川－挨拶・祝辞・元職員の思い出等
  - 表紙題字－田口梅屋(高24期)
  - 表紙絵画－福田恵子(高53期)
  - 60周年ロゴデザイン－山本一馬(高49期)
- 各執筆者名記載の原稿はその方の執筆によるものですが、編集の都合上表記を統一させていただいた箇所があります。できるだけ、元の文章を生かすことを心がけました。
- たくさんの方に原稿をお願いしましたが、折角の原稿も字数削除、書き直し等により、不愉快な思いをさせたのではないかと。また、原稿をお願いできなかった多くの方には、ご不満を抱かせたのではないかと恐れます。「池田五十年史」という立派な作品を前にして、何度もため息をつきました。とにかく後世に「百年史」を作る手掛かりだけなりとも、の思いでありました。編集には充分心を配ったつもりですが、お気付きの点がありましたら、「記念誌委員会」宛何時でも、お知らせ下さい。(と)

### 創立60周年記念誌「承風」

発行日 平成12(2000)年11月11日  
発行 大阪府立池田高等学校  
〒563-0022 大阪府池田市旭丘2丁目2番1号  
TEL 0727-61-1131 FAX 0727-61-7930  
編集 池田高校創立60周年記念誌委員会  
印刷 美光プリンティング

